

学 位 論 文

台湾日本語学習者への日本語語アクセントの指導法の基礎的研究

—中国語の四声と日本語語アクセントの対照研究の観点から—

広島大学大学院教育学研究科

日本語文化教育学専攻

D1025002

王曉青

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 第1章 序論 | 3 |
| 第1節 研究の意義と目的 | 3 |
| 1.1 研究の意義 | 3 |
| 1.2 研究の目的 | 3 |
| 第2節 先行研究 | 4 |
| 2.1 日本語アクセントの高低に関する指導法 | 4 |
| 2.2 日中アクセントの対照 | 6 |
| 第2章 中国語の四声と日本語の東京アクセントとの対照研究 | 12 |
| 第1節 中国語の四声と日本語の東京アクセントとの対照音声実験 | 13 |
| 第2節 音声実験の結果と分析 | 15 |
| 2.1 日中アクセントの音域と短音の語頭低音の高さ | 15 |
| 2.2 日中アクセントの高音と低音のピッチ曲線 | 18 |
| 2.3 日中アクセントの下降調 | 19 |
| 2.4 日中アクセントの上昇調 | 21 |
| 2.4.1 東京アクセントの跨拍上昇音 | 21 |
| 2.4.1.1 東京アクセントの跨拍上昇音に関する先行研究 | 21 |
| 2.4.1.2 語頭の跨拍上昇音についての仮説と音声実験 | 22 |
| 2.4.1.3 調査結果 | 27 |
| 2.4.1.4 結果の分析 | 27 |
| 2.4.1.5 上昇しない上昇音の発生原理 | 29 |
| 2.4.2 日中アクセントの上昇調の比較 | 31 |
| 第3節 まとめ | 35 |
| 第3章 台湾上級日本語学習者の日本語語アクセントの音声・音響的特徴 | 37 |
| 第1節 調査の目的 | 37 |
| 第2節 調査の方法 | 37 |
| 第3節 音声実験の結果と分析 | 37 |
| 3.1 高低差の比較 | 37 |
| 3.1.1 アクセント音域の比較 | 38 |
| 3.1.2 非頭高型語における1・2拍目の高低差の比較 | 39 |
| 3.2 ピッチ曲線の比較 | 42 |
| 3.3 音声・音響的な比較 | 46 |
| 第4節 日本人の評価 | 47 |
| 4.1 調査の目的と方法 | 47 |
| 4.2 調査結果と分析 | 48 |
| 第5節 まとめ | 50 |

| | |
|---|-----|
| 第4章 自然会話における東京アクセントの跨拍上昇音 | 53 |
| 第1節 問題の所在と調査の目的 | 53 |
| 第2節 先行研究と本研究の立場 | 53 |
| 2.1 アクセント句について | 53 |
| 2.2 プロミネンスについて | 53 |
| 2.3 アクセントの弱化と語の融合について | 54 |
| 2.4 文頭のイントネーションについて | 55 |
| 第3節 調査の方法 | 56 |
| 第4節 調査結果と分析 | 59 |
| 4.1 調査結果 | 59 |
| 4.2 会話文における跨拍上昇音のピッチ曲線の形 | 60 |
| 4.3 中国語の第二声のように聞こえる比率と要因 | 61 |
| 4.4 各ピッチ曲線の形の用法と表された感情 | 63 |
| 第5節 まとめ | 66 |
| 第5章 結論 | 68 |
| 第1節 本研究の教育的示唆 | 68 |
| 第2節 日本語語アクセントの高低に関する指導法の試み | 68 |
| 2.1 予備調査 | 68 |
| 2.1.1 予備調査の目的と方法 | 68 |
| 2.1.2 予備調査の結果と検討 | 69 |
| 2.2 本調査 | 69 |
| 2.2.1 本調査の手順、内容と方法 | 69 |
| 2.2.2 結果の分析 | 73 |
| 2.3 本研究の成果を取り入れたアクセント指導法 | 75 |
| 第3節 本研究のまとめ | 80 |
| 第4節 今後の課題 | 81 |
| 引用文献 | 82 |
| 資料編 | 85 |
| 資料1 2.4.1節の各データの表 | 85 |
| 資料2 上級学習者の日本語の音読単語に対する日本人評価 | 92 |
| 資料3 会話文における跨拍上昇音の分析資料とした 『渡る世間は鬼ばかり』のセリフ | 113 |
| 資料4 日本語会話における跨拍上昇音のピッチ曲線の実例 | 141 |
| 資料5 会話文における跨拍上昇音の一覧資料 | 145 |
| 資料6 統制群のアクセント指導に使用したプリント | 155 |
| 資料7 実験群のアクセント指導に使用したプリント | 159 |
| 資料8 アクセント指導法の効果テストの内容 | 164 |
| 資料9 この研究の成果を取り入れたアクセント指導案のプリント（中国語版） | 167 |

第1章 序論

第1節 研究の意義と目的

1.1 研究の意義

音韻と音声の研究は、古くから盛んに行われ、言語研究の他の分野と比べても、その歴史は長い。しかし、豊富な成果をいかに音声教育と結び付けるかについては多くの問題を残しており、理論と実践の間には深い溝が横たわっている。理論研究の成果を、いかに分かりやすく、学習者の理解できる言葉に変換するかということが音声教育研究の目指すべき方向であろう。日本語音声教育の現状を改善するためには、目標言語の研究に止まらず、学習者の音声に対する誤用分析、学習者の母語と目標言語との対照分析などを行い、その研究成果に基づいて母語別の音声指導法を開発することが望まれる。本研究はその一つの基礎的な試みである。

音声指導法を考案する際には、母語別で考えるほうが効果的である。中国語の場合、台湾在住の中国語話者と中国大陸、特に北方在住の中国語話者の発音やイントネーションには異なる部分があるため、学習者の誤用傾向を分析する場合や日本語アクセントの指導法を考案する場合に両者を分けて考える必要がある。しかし、従来の研究は主に中国大陸の中国語話者の日本語アクセントを対象に研究を進めたものが多く、台湾の中国語話者の日本語アクセントに関する学習の困難点・誤用の傾向および指導法など、日本語アクセントに関する総合的な研究は見当たらない。従って、台湾の中国語話者の立場でアクセントの問題について総合的に研究することには大きな意義があると思われる。

1.2 研究の目的

日本人が中国語を学習し始めた時に四声の発音が上手にできないのと同じように、中国人が日本語を学習し始めた時、日本語のアクセントに戸惑うことが多い。東京アクセントは高低の二段階に分かれているが、どの程度の音が「高」で、どの程度の音が「低」なのか、特に音感が優れている学習者以外は、なかなか実感することができない。殆どの学習者は半年か一年経ってからでなければ、東京アクセントが有する高低の音感を理解できない。高低認識の定着にはかなり時間がかかるため、その間はアクセント記号を見ても読めず、自分の聞いた発音が高なのか低なのかも弁別できない。ただひたすら教師の後について発音するだけである。しかし、小河原(1997)の実験では、「モデル発音をいくら与えても正しい発音に結びつくとは限らない(p.92)」ことが明らかにされている。「各音声要素における発音基準を意識してもち、自分自身の発音について、自己再認(筆者注：自分自身が何を発音したかの認識)できている学習者ほど発音もできている(p.92)」と小河原は結論付けている。小河原(1997)の実験は、学習者が目標言語を発音する際に有効な発音基準を持つことこそ大切であるということを示唆している。

この高低知覚の問題解決について、先行研究の中には、楽器或いはコップとテーブルの面を叩く方法について言及されたものがあるが(小森 1987、水谷 1990 を参照)、そのような物

理音はやはり人の声との違いが大きい。更に、普段日本語話者が発する高音と低音のピッチ差があまり大きくないことも、初級学習者の高低の弁別を困難にしている。

しかし、日本語と中国語とは共に高低アクセントの言語という共通点を持つ。そこで、学習者の母語である中国語の四声の音感を利用すれば、東京アクセントが有する高低の感覚を体得、意識化させられるのではないかという予測が成り立つ。但し、その方法を日本語教育に導入する前に、まず中国語の四声と東京アクセントとの異同を比較、分析する必要があるであろう。

本研究は、中国語の四声を利用した台湾の中国語話者への日本語語アクセントの高低に関する指導法を考案するための基礎的研究として、台湾の中国語話者の日本語語アクセントに関する学習の困難点、誤用の傾向および中国語の四声と日本語アクセントの異同を究明することを目的とする。

第2節 先行研究

『日本語教育事典』による語アクセントの定義に「アクセントとは一つ一つの語句について社会的に定まっている相対的な高低又は強弱の配置のことである(土岐 1982,p.26)」とあるように、アクセントとは社会的慣習として恣意的に決まっているものである。従って、方言によってアクセントがまちまちであることも当然である。しかし、日本語教育では東京アクセントを日本共通語のアクセントと見なす。『国語学大辞典』には、東京アクセントの特色について、

「東京式アクセントの特徴は、第一・第二音節の高さが必ず違うこと、離れた二つ以上の音節が高いことはないこと、最後の音節の高い型には、直後に滝のあるものと、ないものと二種があること(金田一 1980, p.6)」

と述べている。ここから分かるように、東京アクセントは決して複雑なものではないが、初心者にとって、高低二段階に分かれている東京アクセントは、どの程度の音が「高」でどの程度の音が「低」なのか、特に音感が優れている学習者以外は、なかなか実感することができない。以下はその問題について言及した先行研究を概観する。

2.1 日本語アクセントの高低に関する指導法

中国語の四声との対照研究を除いて、高低感覚の問題解決について、真剣に取り組んだ先行研究は少ないが、いくつかある。小森(1987)は、東京アクセントの高低を音符の「ミ」と「ド」に譬え、楽譜を使って日本語の高低を説明している。

人間の喋る言葉は生きています。その微妙なアクセントをそっくりそのままプログラミングしてやることは非常に困難です。そこで登場するのが「ドミの理論」です。(略) 難しいことはありません。言葉に高低二種類の高さを与えてやるということです。まず「ドミドド」の調子で「アナタノ」、次は「ミドドドド」で「ウンセイワ」、「ド

「ミミミミド」で「ダイキチデス」と言ってみてください。うまく行かなければ鍵盤を叩いてみましょう。(略) ドミの理論というのは以上のようなごく相対的な高い低いの差を、わかりやすく、ドミドド、ミドドド……などと表現するということですから、これからこの本で、ドミドとか書いてあっても、それは音楽的な絶対的な高さや音程を表しているのではなく、単に低い、高い、低いということを示しているのだと思ってください。(pp.15-16)。

どうしても高い声と低い声を発音し分けられないという人は強制的な方法を取ってください。顔をまっすぐ前に向け、のどぼとけのすぐ上のやわらかい部分を親指と人差指で小さくつまむように軽く挟み、そのまま楽に「アー」と長く発音します。そしてその途中でのどぼとけを指でギュッと押し下げると、声は急に低くなり、指を放すとまた高くなります。(略) もう一つ強制的な方法です。まず、仰向けに寝て、足先を何かで抑えて固定し、両手は組んで頭の下に当ててください。そのまま楽に「アー」と長く発音します。そしてその途中で腹筋運動のように思い切りグッと上体を起こしますと、声の高さもグッと上がります。体を戻して声も低く戻し、また上体をグッと引き上げてください。これをくり返して、高い声、低い声の感じを良くつかみましよう (p.20)。

水谷 (1990)は、茶碗と机を使い、相対的な高低を示す手段の方が有効であると提案している。

楽器や歌の練習の経験があり、音の高低の把握になれている人は別として、どんな音が高く、どんな音が低いかを聞き分けることが不得手な多くの人にとっては、何らかの形で音声を客体化することが望ましい。(略) ピアノのような楽器を利用するのは適切な方法ではあるが、音の高さが細かく分けて表されるために混乱することもないわけではない。アクセント習得の第一歩として音になじむ手段としては、相対的な関係で高いか低いか手がかりになればよいので、むしろ、身近にある道具を使って音の客体化のための手段とすれば良い。茶碗やコップを使い、箸か鉛筆で机かテーブルの面を叩き、茶碗やコップを叩いた時に出る音との差で、高低の違いを知る助けとすることができる。口頭で「サクラ」と唱え、エンピツで「机・茶碗・茶碗」と打つ。口で「サクラ」と言い、エンピツで「茶碗・机・机」と叩く。そんな繰り返しが自分の発音の高低を意識的に把握する力に結びついていく。二段階から三段階、四段階の高さの差を識別できるような訓練では楽器が確かに有効になる。文や息の段落の中の音調を観察するためには二つの音の間の相対的な高さの差を識別する能力だけでは不十分だが、アクセントの学習の前提としては二段階の相対的な関係までで十分にアクセント規則学習の中での混乱を避けることができる (p.103-104)。

小森 (1987) と水谷 (1990)の方法は、ともに高低の認識にある程度有効な方法だと思われる。しかし、楽器、茶碗や机を叩く音のような物理音はやはり人間の声とは違うものである。また、大部分の学習者が弁別できないのは明らかな高低差でなく、日本人が狭い音域で発する微妙な日本語の高低であるという点に注意しなければならない。

楊(1998)は、主にアクセント型の間違いを矯正するための方法に言及しているが、平板型の高音に関しては「ロボットの音まね」という方法を提案している。

台湾人学習者が日本語のアクセントを正しく発音できない原因の一つは平板型の発音ができないからであろう。それは学習者が母語の激しく上下変化する音調に慣れているからである。その影響を和らげるために、「ロボットの音まね」の練習をさせる。

(略) 毎回授業を始める前に、「ロボット・タイム」と呼ばれる授業の時間を作った。その時間で、勉強した日本語の文をロボットの音のまねで読ませる。発音のポイントは①すべての音を同じ高さで発音することである。②音をなるべく短く、そして、音と音の間に区切りを付けた間隔で発音することの二点である。この練習によって、学習者は母語と違って日本語では音を勝手に上げたり下げたりしてはいけないことに慣れました。つまり、日本語の「高低感覚」になじむことができた (p.60)。

「ロボットの音まね」は拍の感覚と平板型の習得には有効であろうが、最近台湾の日本語教育では、東京アクセントのアクセント教育がかなり行われるようになっており、台湾の日本語学習者にとって、平板型は特に難しいものではなくなっている。。楊(同論文)で台湾の日本語学習者を対象に行われた調査でも平板型の正答率では60%を超える語が約7割あり、「平板型アクセントに属さない語の中でも、平板型で代用されることは少ない (p.52)」とされている。逆に「ロボットの音まね」の練習をやりすぎると、日本語の語尾や文尾にある自然下降が習得しにくくなったり、特殊拍を含む長音節が拍ごとで切れて不自然に発音されたり、平板型の過剰般化、話し方が無感情になるなどの恐れがある。しかし、楊(同論文)が提案した音符の位置に仮名を書く「三線譜」と呼ばれる楽譜式のアクセント表記は、日本語のアクセントが文節を単位とすることを理解させる場合に有効な方法だと思われる。

本研究は中国人が東京アクセントを学習する際に発音と聞き取りの基準を与える有効な指導法を提案することを目指している。これは、日本語が中国語と共に高低アクセントの言語であることに注目し、学習者の母語である中国語に対する四声の音感を利用して、東京アクセントが有する高低の感覚を体得させる試みである。実際に、日本では、以前からこの発想に似た方法が既に採られている。以下に、日中アクセントの対照研究とそれを利用した高低感覚の指導法に関する先行研究を紹介する。

2.2 日中アクセントの対照

石條(1989)は、奈良時代には、中国語の四声で日本語のアクセントを注記する方法が既に行われていたと述べている。

奈良時代の資料として、『古事記』(和銅5年、712年)の中に「上」、「去」のような「四声」を示す文字が32個所に見られる。アクセントを付した最古の文献とみれる。(略)平安時代になると、漢字音の四声(平声・上声・去声・入声)を表す符号で

ある声点の記入法を転用して、仮名の四隅に声点（小さな点）を付けてアクセントを示すことが行われるようになった（p.121）。

金田一(1974)も「過去のアクセントを記述した文献の中で、代表的なものは、中国語のアクセントである《四声》、すなわち、《平声》《上声》《去声》《入声》の一つ一つによって日本語の発音を解説した文献である(p.199)」としている。以上のように中国語の四声で日本語のアクセントを注記することができるのは、両言語共に高低アクセントであるからだと考えられる。

更に、現代では中国語の半三声の発音指導に日本語のアクセントの低音を利用しようとする研究もある。半三声とは全三声の前半に見られる、やや下降する部分の音である（第2章図1を参照）。植田(1986)は、半三声について、日本人学習者に共通する最も大きな問題は半三声+第二声の組み合わせであると述べている。その詳細は以下の通りである。

「問題なのは、半三聲+第二聲の組み合わせである。（p.8）」「つまり、低音點が半三聲から第二聲起點まで三つ連なるわけである。この三連続の低音點に多くの学習者は耐えられない(p.10)」「日本語の共通語音系(東京方言系)のアクセントには、語頭に低音が連なることがない(p.11)」「半三聲+第二聲は、多くの場合、第二聲+第二聲に変化するわけである(p.10)」「日本語は口腔の廣がりの狭い音系であるため、一音一音が短く切れやすい性格をもっている。したがって、撥音や促音、長音は音節の構成部分とはならず、獨立した音節に付隨する(p.12)」「このような傾向を克服するにはどうすればよいか。ひとつ考えられる方法は、以上のような日本語の音節構造と高低アクセントの特徴を見極めた上で、これを逆手に取って利用することである。



例えば、很忙 (hěn máng) he ·n ·ma ·ng → hěn máng

(略) つまり、中国語の音節をひとまず日本語の音節構造に合わせて分解し、高低のバランスを確認させた上で、これをひとつにつなげる訓練を施すわけである。この方法は一見、不自然に思えるかもしれないが、音の高低のバランスを学習者に自己確認させるという点では大いに有効であろうかと思う(p.14)。

以上の植田の研究を逆の立場から見れば、日本語の高低のバランスを学習者に認識させるために中国語の半三声を利用することも十分可能であると思われる。

加賀(1986)は「メロディーの表記を完ぺきに行っている中国語の表記法を各国の言語に応用することはできないものかと考えてみた(p. 443)」と述べ、例として主に英語を挙げているが、その他、ドイツ語、フランス語、スペイン語と日本語の例もある。以下はその具体例である (pp.436-443)。

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|---|---|---|---|------|
| V | V | / | - | V | V | V | V | V | V | V | (ママ) | - | V | - | V | (ママ) |
| 「It's almost midnight.」 「otoshidama お年玉」 「girichoko 義理チョコ」 | | | | | | | | | | | | | | | | |

加賀の論文では、四声の表示が(音節と関係なく)かなり恣意的である。そのため、学習者が表記通りに発音するとおかしい読み方となるところがあり、提案自体も例文の提示が中心で規則的な傾向を見出すには至っていない。また、四声と各国語のアクセントとの比較も行われていないが、四声を使って日本語のアクセントを表記しようという試みが為されているという点で重要である。

台湾でも、中国語の四声を使って日本語の高低を説明しようとする研究が見られる。但し、いずれも詳しい分析がなされているわけではなく、互いに論点の一致しない部分もあるので、再検討しておく必要がある。

林錦川(1984)は、日中アクセントに関する詳しい分析を行っていないが、日本語の高音は中国語の第一声、低音は中国語の轻声に相当すると指摘している。

陳(1993)では日中アクセントについて以下のような説明をしている。

日本語の「低」に当たる発音はペキン語では「轻声」に当たるものであり、「轻声」で発音するのであるが、語頭に当たる「低」の発音は実際にノーマルスピードで発音する場合は低と高の間にある「中型」(ペキン語の1声)で発音するのがより現実の発音に近い音である。したがって、従来日本語は高低二段アクセントであるという説はすくなくとも、語頭に当たる「低」の発音には当てはまらない。(略)それは「しま」の「し」と「すし」の「し」との発音は同じ高さではないことでお分かりだと思う。したがって、「高」の発音はペキン語の1声よりやや高い音で発音しなければならない(p.200)。

長音または、撥音あるの単語のアクセントを指導する場合、ペキン語の声調の特徴を生かして指導すれば最も効果的だと思う。

「低高」=ペキン語の2声、「高高」=1声、そして「高低」=4声の要領で説明してから、練習させる。

平板式：こうこう (2声と1声)、ひこうじょう (1声と1声)

起伏式：頭高型(1声の‘く’よりやや高い音階で発音する。4声に近い感覚で発音すればいい。) くうき (4声に近い)

中高型(4声に近い) おにいさん、じゅぎようりよう (語末の‘りょう’は轻声に近い感覚)

尾高型 いもうと¹ (1声) (pp.200-201)

陳(2001)では“じゅぎようりよう”について「語末の‘りょう’は低い1声に近い音(p.37)」と修正された他は、陳(1993)と同様の主張をしている。

林錦川(1984)と陳(1993)は、ともに日本語の低音が轻声に相当すると説明しているが、轻声のほうが短く、第三声と異なり喉奥の共鳴音があまり使われていないことから、音質的に日本語の低音に近いと理解したのであろう(喉奥の共鳴音については第3章の3.3節

を参照)。しかし、軽声の高さは一定していない¹⁾ため、学習者が内省しても高さを把握しにくいと思われる。陳(1993)では日本語語頭の低音は中国語の第一声に相当し、高音は第一声よりやや高い音と説明しているが、今回行なった日中アクセント音域の調査(第2章2.1節を参照)で日本語の語頭の低音は日本語アクセント音域の約半分の高さであることが明らかとなった。つまり、語頭の低音は通常の高音よりは高いが、中国語の高音第一声に相当するとまでは言えないのである。また、陳(2001)では語末の低音は中国語の低い第一声に近い音と修正されており、語頭の低音は第一声で、語中の高音は第一声よりやや高い音或は第一声で、語尾の低音は低い第一声で発音させることになる。第一声は喉奥の共鳴音をあまり使わないために、音質的に日本語に近いと言えるが、日本語の高音と低音を全部第一声で代用するのは学習者にとって理解しがたいことではないだろうか。

林文賢(1993)は日本語の高低について以下のように述べている。

日本語の発音の高低の幅は中国語のそれより小さいから、中国人学習者のために、基準ピッチを設定する必要があると思う。設定する際、中国語の第三声(214:)に基準を設け、最高(4:)、最低(2:)と設定する。(略)“好”をゆっくり発音させ、これを基準ピッチにし、「ほう」を提示し、練習させる。(略)○(低)と●(高)をそれぞれ北京語第三声(214:)の(2:)と(4:)とに合わせて学習者に練習させるのも一つの方法であろう(pp.210-211)。

ここで「日本語の発音の高低の幅は中国語のそれより小さい」とされる根拠²⁾は城生陌太郎がことばの声域について調査したデータによるものである。しかし、城生の実験のインフォーマントは北京出身の中国人なので、アクセント音域は台湾の中国人より大きい可能性が高い。中国の北方出身者が南方出身者より言葉の抑揚が激しいのは周知の事実である。台湾の学習者への日本語のアクセント指導法を考えるためには、台湾のインフォーマントを使ってアクセント音域を調査する必要がある。また、中国語の全三声の始点と終点とを使って、日本語の発音の高低幅を設定するのは少々無理があると思われる。全三声は一定のピッチを保っているものではないので、学習者にその高さを意識させるのは至難な業ではないだろうか。しかし、林文賢(1993)の「中国人学習者が、母語の強勢慣習により、後ろの部分を高くする傾向が観察される。単語アクセント：後にある音を高く、強くする傾向がある(p.206)」との指摘は正しい観察であると思われる。今回台湾上級学習者を対象とした調査でも、同じ現象が観察された(第3章第3~4節を参照)。

戸田・黄(1989)も詳しい分析を行っているわけではないが、趙元任の「五度標調法」を基準にして日本語の高低を説明している。日本語の高音は大体中国語の第一声に相当し、「五度標調法」の尺度で言うと、55の高さであるとされる(第2章の図1を参照)。また、低音は2種

¹⁾五度標調法で表記する場合、軽声の高さは前音節第一声の時→2、前音節第二声の時→3、前音節第三声の時→4、前音節第四声の時→1の高さである(相浦果 1979)。

²⁾林文賢(1993)で挙げられている城生(1992)は、1992年11月13日の読売新聞の『耳よりな言語学』のコラムによるものなので、詳しい実験内容を紹介したものではないが、城生(1990)はその実験材料とインフォーマントについて詳しく述べている。

類あり、アクセント核の前の低音は3 3、アクセント核の後の低音は1 1であるとされる。中国語の第二声と第四声が日本語の「大きい」の前半と後半の発音に似ているとも指摘している。同じ論者による黄（1990）『日語発音入門』は、日本語の高音は中国語の第一声に相当し、低音は中国語の第一声より低ければよいと述べている。その中でアクセント核前の低音がアクセント核後の低音より少し高いと論を修正しているが、初級学習者のために説明を簡略化したものと考えられる。今回行なった日中アクセントについての実験では、戸田・黄(1989)の日本語の高音と低音についての指摘が事実と合致していることが確かめられた（第2章2.1節を参照）。ただ、上昇調の第二声と下降調の第四声については、日中アクセントでかなり異なる部分があり、更に詳しい分析が必要である。

黄招憲（2000）は日中アクセントの高さについて以下のように述べている。

高い音は中国語の第一声とほぼ同じというのは問題がない。低い音は中国語の「軽声」か3 3か1 1かやや検討の必要がある。「軽声」は（略）前の言葉にくっつけて軽く軽く発音されるが、これは中国語の四声のような単語の発音ではなくて、実際の高さも確定できない。それに、「二段観」の「高低」では表示できないので、言及しない方がよいと思われる。実は第三声も214のように確実に発音するわけでもない。もし214のように発音すれば息がきれて、次の言葉が言えなくなってしまう。だから第三声の後に第一声、第二声、第三声、第四声および軽声がつくときは、前三声とって212のように第三声の前半の部分だけを発音する。それで、日本語のアクセントの低い音はむしろ中国語の第三声とほぼ同じ高さであると言えよう（p.7）。

中国語話者の人は「ん」、「長音」、及び二重母音の第二要素として「い」を繋ぐ音節は容易に前の音と一緒に発音してしまう。ちょうど中国語の声母（子音）は韻母（母音）と一緒に一つの単語として発音するのと同じである。長音、引き音（一）、撥音「ん」、「い」が続くような拍のアクセントは中国語の第二声と第四声に近い。しかし、「い」の前に意義の切れ目がある場合には長音とならないので、異なる扱いになる（p.9）。

例：「あなた②」は「あ」と「た」は低なので中国語の3声で読む。「な」は高なので中国語の1声で読む。そして、（313）と表す。助詞「は」が付くときは「あなたは」は（3133）になる。

「ほんや①本屋」は「ほ」と「ん」は一緒に発音し、中国語の4声で読む。「や」は中国語の3声で読む。つまり、（4-3）と表す（筆者注：“-”は黄（2000）では2拍の長さを表す。以下同様）。

「おんな③女」、「お」と「ん」は一緒に発音し、中国語の2声で読む。「な」は中国語の第1声で読む。そして、（2-1）と表す。（pp. 7-10）

黄招憲（2000）の考え方は筆者の主張と最も近いが、日本語のアクセントをただ中国語の四声で置き換えるだけなら、学習者に中国語訛りの日本語を発音させてしまう危険性が極めて高い。日本語のアクセントと中国語の四声との異同を詳しく分析し、異なる点についても学習者に注意を促す必要がある。

以上のまとめからも分かるように、学習者の母語である中国語の四声の音感を利用して東京アクセントが有する高低の感覚を意識化させる試みに関しては、いくつか報告例があるが、いずれにおいても四声と四声を応用した言語のアクセントについての異同が十分に分析されていない。本研究は中国語の四声と日本語の東京アクセントの異同を詳しく比較分析し、中国語母語話者に東京アクセントの高低感覚を体得させる際に、中国語の四声を用いて説明できる範囲を探ることを目的の一つとする。

第2章 中国語の四声と日本語の東京アクセントとの対照研究

日本語と中国語は共に高低アクセントの言語であるが、多くの文献に指摘されているように、その表れ方は異なる。中国語はアクセントの高さが1音節の中で変化するが、東京語^③は拍を単位とする相対的な高低アクセントである。そのため、アクセントの高さが音節内では変わらず、音節と音節の間で、即ち拍と拍の間で変わる(土岐 1990、今田 1989、水谷 1978 を参照)。

中国語の四声について、土岐(1990)は<feng>の例を挙げて説明している。(“→”と四声の注記は筆者)

fēng(高く平)「風」→第一声
féng(中から高へ急上昇)「縫」→第二声
fěng(低をやや降りて低く続いた後に高へ上昇)「諷」→第三声
fèng(高または中から急下降)「鳳」→第四声 (p.222)

東京アクセントが高低二段に分かれているのと同様に、中国語の四声にも高と低の音調が存在する。中国語の第一声は高く、半三声は低い。本研究で提案する指導法で“半”三声を用いるのは、全三声は下降調と上昇調の複合した音で、後半は高く上がるが、前半が少し下降した後平らになる音調であるためである。また、北京語の中では、半三声が全三声よりも多用されている(陳 1994 を参照)。趙元任の「五度標調法」を使って四声の相対ピッチを表すと、以下図1(Chao1948, p.85 を参照)のようになる。

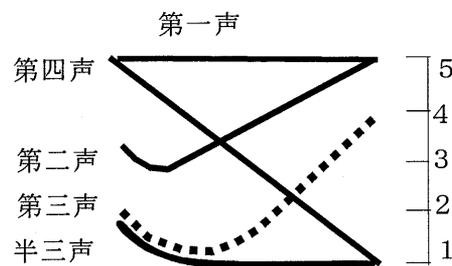


図1 「五度標調法」による中国語四声のピッチ曲線の図

第一声は5-5の高さで、半三声は2-1の高さである(Chao 1968, p.xxiv を参照)。半三声は、東京アクセントの低音のピッチ曲線と完全には同じではないが、低い音感を学習者に与えるには有効な手段だと思われる(学習者に半三声のまま東京アクセントの低音部分を読ませるのではなく、東京アクセントの低音の音階が中国語の半三声の低音部分の音階にほぼ相当することを示すものである)。

中国語の上昇調第二声と下降調第四声も、東京アクセントにある1音節2拍の上昇と下降(例えば、でんわ、クーラーなど)の区別を利用できると考えられる。趙元任の図にある第

③ ここで言う東京語は東京方言の中の標準語的な部分を指す。

二声のピッチ曲線は、現実のピッチ曲線と異なる点があると思われるので（胡・広瀬 1994を参照）、手直したものをあわせて図1に載せた。

本研究では中国語の上昇調第二声及び下降調第四声と区別するため、以下、東京アクセントにある/(C)VV/或いは/(C)VN/という形の2拍で1音節を構成する音のうち、音韻的に上昇音で発音すべき音を「跨拍上昇音」、音韻的に下降音で発音すべき音を「跨拍下降音」と仮称し、研究の対象に含めるものとする。

第1節 中国語の四声と日本語の東京アクセントとの対照音声実験

この実験は、中国語の第一声・半三声と東京アクセントの高音と低音と、及び第二声・第四声と東京アクセントの跨拍上昇音・跨拍下降音との違いを比較するためにデザインされた。

まず日本語の単語 47 語を用い、日本語の録音資料と中国語に音訳した中国語音訳の録音資料とを作成した。そのうち7語が短音綴りの頭高型（例えば、「ふね」。「短音綴り」とは、2拍目に長音か撥音の入っている長音節で構成されている語頭に対して、「いく」、「うし」、「おとこ」のような短い音節で語頭が構成されている単語を指す）、9語が短音綴りの平板・尾高・中高型（例えば、「いく」）、21語が語頭に長音か撥音の入っている跨拍上昇音を持つ語（例えば、「でんわ」）、9語が語頭に長音か撥音の入っている跨拍下降音を持つ語（例えば、「クーラー）である。録音資料を作成する際には、できるだけ5種類の母音全部を含み、中国語に音訳する際に音質が極めて近いものだけを選ぶように心がけた。以下はそのリストである。

音声実験資料(日本語版)⁴

1. あお(青) 2. いく(行く) 3. うし(牛) 4. おとこ(男) 5. にもつ(荷物) 6. けっこん(結婚) 7. シャツ
8. かって(切手) 9. わたしぶね(渡し舟) 10. やまざくら(山桜) 11. おかあさん⁵ 12. カーネーション
13. ちいさい(小さい) 14. チーズ 15. クーラー 16. くうこう(空港) 17. せいじ(政治) 18. せいせい(清々)
19. おおかみ(狼) 20. おうさま(王様) 21. かんじ(感じ) 22. かんしゃ(感謝) 23. しんぼう(辛抱) 24. しんよう(信用)
25. うんめい(運命) 26. うんよう(運用) 27. れんらく(連絡) 28. レンズ 29. そんな 30. そんとく(損得)
31. ママ 32. ままおや(継親) 33. まめまき(豆まき) 34. マーク 35. マーマレード 36. りえき(利益) 37. ふね(船)
38. のむ(飲む) 39. テーブル 40. テーブルクロス 41. テープレコーダー 42. ペンキ 43. ペンフレンド
44. インフレ 45. インフォメーション 46. コーヒー 47. コーディネーター

音声実験資料(中国語の音訳版)

A. ピンイン符号による中国語の音訳版実験資料

(記号説明：“一”→1拍伸ばす、“ㄩ”→1拍休む、第三声の記号“ˇ”はすべて半三声で読む)

1. ā ǒu 2. yǐ kū 3. wǔ xī 4. ǒu dōu kōu 5. nī mǒu zǐ 6. kēi ㄩ kōng一 7. xiā zǐ

⁴この音声実験資料は中国語の音質に極めて近いものを選んだため、濁音の数が少ない。念のため、濁音の単語を多く含む(2.4.1.2節跨拍上昇音を調査するための)音声実験資料2に濁音を含む21語の単語(アクセント型を増やすため)を付け足した資料を4人の東京語話者に音読させ分析したところ、予測通り、濁音はほかの有声音と変わりはなく類似したピッチ曲線をしたので、濁音を有声音の一種と見なし、ここでの詳述を省いた。

⁵跨拍下降音を持つ語のうち、11.おかあさんだけが2拍目からの跨拍下降音を含む語であるため、アクセント音域の統計から除外した。但し、ピッチ曲線の観察には役立つものであり、そのままリストに保留した。

8.kǐ 牀 tēi 9.wǎ tā xī bǔ něi 10.yǎ mā zā kǔ lǎ 11. ǒu kà-sǎng- 12.ká- nài-xiǒng-
 13.qí- sài- 14.qì- zǐ 15.kù- lǎ- 16.kú- kōu- 17.séi- jī 18.séi- sèi-19.òu- kǎ mǐ
 20.óu- sā mā 21.káng- jī 22.kàng- xiǎ 23.xìn- bǒu- 24.xín- yōu- 25.wèn- měi-
 26.wén- yōu- 27.lián-lā kū 28.liàn-zǐ 29.sóng-nā 30.sòng-tǒu kǔ 31.mā mǎ
 32.mǎ mā ōu yā 33.mǎ měi mǎ kǐ 34.mà- kǔ 35.má- mā lèi- dǒu 36.lǐ ěi kǐ
 37.fū ně 38.nō mǔ 39.téi-bū lǔ 40.téi-bū lǔ kū lǒu sǐ 41.téi-pū lēi kòu- dǎ-
 42.pián-kī 43. pián-fū liàn dǒu 44. yíng- fū lēi 45.yíng-fōu mèi-xiǒng-46.kóu- hì-
 47. kóu- dī nài- tǎ-

B. 台湾中国語話者用の中国語の音訳版実験資料

(記号説明：“~”→1拍伸ばす、“牀”→1拍休む、第三声の記号“v”はすべて半三声で読む)

- 1.Y 又v 2.一v ㄅメ 3.メv T一 4.又v ㄉ又 ㄅ又 5.ㄅ一 ㄇ又v Pv 6.ㄅㄨv 牀 ㄅメム~
- 7.T一Y Pv 8.ㄅ一v 牀 ㄉㄨ 9.メYv ㄉY T一 ㄅメ ㄅㄨv 10.一Yv ㄇY ㄉY ㄅメv ㄉYv
- 11.又v ㄅYㄨ~ムㄅv~ 12.ㄅYノ~ ㄅㄨㄨ~ Tㄇムv~ 13.ㄉ一ノ~ ムㄅㄨ~ 14.ㄉ一ㄨ~ Pv
- 15.ㄅメㄨ~ ㄉYv~ 16.ㄅメノ~ ㄅ又~ 17.ムㄨノ~ ㄇ一 18.ムㄨノ~ ムㄨㄨ~
- 19.又ㄨ~ㄅYv ㄇ一v 20.又ノ~ムY ㄇY 21.ㄅㄅノ~ㄇ一 22.ㄅㄅㄨ~T一Yv 23.T一ㄅㄨㄨ~ㄅ又v~
- 24.T一ㄅノ~一又~ 25.ㄉㄅㄨㄨ~ㄇㄨv~ 26.ㄉㄅノ~一又~ 27.ㄉ一ㄅノ~ㄉY ㄅメ 28.ㄉ一ㄅㄨㄨ~Pv
- 29.ムメムノ~ㄅY 30.ムメムㄨ~ㄉ又v ㄅメv 31.ㄇY ㄇYv 32.ㄇYv ㄇY 又 一Y
- 33.ㄇYv ㄇㄨ ㄇYv ㄅ一v 34.ㄇYㄨ~ㄅメv 35.ㄇYノ~ ㄇY ㄉㄨㄨ~ ㄉ又v 36.ㄉ一 ㄨv ㄅ一v
- 37.ㄉメ ㄅㄨv 38.ㄅ又 ㄇメv 39.ㄉㄨノ~ ㄅメ ㄉメ 40.ㄉㄨノ~ㄅメ ㄉメ ㄅメ ㄉ又v ムv
- 41.ㄉㄨノ~ㄉメ ㄉㄨ ㄅ又ㄨ~ㄉYv 42.ㄉ一ㄅノ~ㄅ一 43.ㄉ一ㄅノ~ㄉメ ㄉ一ㄅㄨㄨ~ㄉ又v
- 44.一ムノ~ ㄉメ ㄉㄨ 45.一ムノ~ ㄉ又 ㄇㄨㄨ~ Tㄇムv~ 46.ㄅ又ノ~ ㄉ一ㄨ
- 47.ㄅ又ノㄉ一ㄅㄨㄨ~ㄉYv~

以上の音声実験の単語リストをそれぞれ以下のように発音させた。

- ① 日本語、中国語ともに堪能な日本語母語話者8人(うち地方出身者7人)によって日本語と中国語音訳の両方のリストを発音させた。
- ② 東京語話者14人に日本語のリストを発音させた。
- ③ 日本語ができない台湾在住の中国語話者⁶⁷人には中国語音訳のリストを発音させた。
- ④ 日本語教師を目指して、日本文学・日本語教育を専攻し、日本在住歴3年以上の台湾日本語上級学習者16人(日本語学習歴7年半から12年半)には、日本語のリストを発音させた。

これらを録音したものを音声分析ソフト「音声録聞見(Ver.3)」(今川・桐谷1989)で分析した。日本語学習者には特別な指示を与えなかったが、東京語話者には自然な東京アクセントで発音するように、中国語話者には普段の平静な気持ちで交わされた中国語会話の自然な速さと高さで1拍1拍発音するように指示した。

⁶⁷ 本稿での台湾中国語話者と日本語学習者の被験者は全員20代から30代で、母語は台湾語でも、中国語が台湾語と同じぐらい流暢或いは台湾語より流暢な新世代である。

第2節 音声実験の結果と分析

2.1 日中アクセントの音域と短音の語頭低音の高さ

一般に、音域とは出せる音の高低範囲であるが、ここでは、日本語単語における頭高型1・2拍目の高低差の平均値と、それに対応する中国語音訳アクセントの音節の高低差の平均値とを日中のアクセント音域⁷と見なして比較する（2拍目が促音の時、1・3拍目を比較する）。

ここで頭高型アクセントの1・2拍目だけを使用したのは、日本語の非頭高型の1拍目における低音は普通の低音より高いからである（詳しくは後で述べる）。また、後ろの音節ほど声が低くなるという生理現象があるため（杉藤 1997）、1・2拍目だけを使用することにする。また、頭高型の、短音で綴られた語（例えば「ふね」）と2拍目が長音か撥音の跨拍下降音語（例えば「チーズ」、「うんめい」）に関する1・2拍目の高低差の平均値について、日本語の場合、短音で綴られた語の1・2拍目の高低差は2拍目が長音か撥音の跨拍下降音語のより少々大きいことが多く（詳しくは2.3節を参照）、中国語の場合は、下降調第四声の高低差は第一声と半三声の高低差（第一声の一番高い所と半三声一番低い所の差）より少々大きいことが多い。そこで、2種類の頭高型語を別々に平均値を求め、更に2種類の平均値から総平均値を求めた。その総平均値を個人の音域としてまとめると、下の表1のようになる。

表1 各人のアクセント音域（頭高型語1・2拍目の高低差の平均値）のまとめ

表1-A 同じ人のアクセント音域

| 被験者 | 日本人の日本語 | 日本人の中国語 | 同じ人の中／日アクセント音域の倍率 |
|------|---------|---------|-------------------|
| JY | 59.7 | 97.1 | 1.6倍 |
| JFG | 84 | 106.6 | 1.3倍 |
| JNA | 84.9 | 117.5 | 1.4倍 |
| JHK | 61.1 | 82.5 | 1.4倍 |
| *JYO | 78.5 | 101.4 | 1.3倍 |
| *JSA | 87.5 | 141.7 | 1.6倍 |
| *JIK | 125.7 | 180.6 | 1.4倍 |
| *JKA | 78.4 | 118.1 | 1.5倍 |

⁷本稿での中国語のアクセント音域は言い換えれば中国語の声調音域に当たる。しかし、日本語に合わせるため、日本語の頭高型語の1・2拍目に当たる音節のピッチレンジしか計算しない。つまり、「Y 又v」と「くー\~pv」のような語に「Y」と「又v」（一\）の高低差（括弧内はピッチ曲線）、「くー\~」（\）の1音節内の高低差を別々に平均して、また2種類の語から平均値を求めた。本稿ではその平均値を中国語のアクセント音域と称す。

表 1-B 各人のアクセント音域

| 東京語話者の日本語 | | | | 台湾の中国人の中国語 | | 台湾上級学習者の日本語 | | | | | |
|-----------|------|-------------|-------|------------|------|-------------|------|-----------|-------|-------------|-----|
| JJAJ | 52.8 | JJSJ | 40.6 | CIFC | 42.9 | CKOJ | 44.9 | CLNJ | 59.1 | | |
| JJFJ | 42.3 | JJKOJ | 54.7 | CLC | 48.4 | 男性平均 (SD) | | 52 (10.0) | | | |
| 男性平均 (SD) | | 47.6 (7.2) | | 男性平均 (SD) | | 45.7 (3.9) | | *CRIJ | 64 | *CKYJ | 116 |
| | | | | | | *CRYJ | 64.5 | *CYSJ | 102.6 | | |
| *JJMJ | 71.6 | *JJSRJ | 108.6 | *CSEC | 78.5 | *CWJ | 93.8 | *CCMJ | 95.1 | | |
| *JJKAJ | 78.4 | *JJSKJ | 72.4 | *CPOC | 93.3 | *CYEJ | 70.4 | *CCYJ | 62.3 | | |
| *JJMOJ | 91.7 | *JJMUJ | 86.7 | *CKAC | 96 | *CWYJ | 64.3 | *CYUJ | 89.4 | | |
| *JJYAJ | 82 | | | *CAUC | 85.8 | *CUJ | 69.3 | *CZUJ | 109.8 | | |
| 女性平均 (SD) | | 84.5 (12.9) | | *CJEC | 92.8 | *CCHJ | 60.8 | *CMNJ | 46.1 | | |
| OJSMJ | 34.3 | *OJYMJ | 57.8 | 女性平均 (SD) | | 89.3 (7.1) | | 女性平均 (SD) | | 79.2 (21.4) | |
| | | *OJSFJ | 47.7 | | | | | | | | |

(単位：Hz)

注：“*”は女性を表す。(SD)は標準偏差を表す。

：被験者と発話した言語を表す英文字：最初の英文字は国籍（Jは日本人、Cは中国人）（OJは60代の日本人、OJとJJは東京語話者）、真中の英文字は被験者の名前の略称、最後のJ或はCの英文字は発音した言語（Jは日本語、Cは中国語の音訳）を表す。表1-Aの日本人には日本語と中国語の両方を発音させたので、言語の英文字表記を省略する。

：以上の説明は以下同様。

先行研究でしばしば指摘されるように、中国語の高低差は日本語より大きい。朱（1993）は北京出身の30代男性とNHK男性アナウンサーの発話を比べて、「中国語は日本語の1.6倍ぐらいのレンジを持っています（p.180）」と指摘している。表1-AのJY～JJKAの8人の日中アクセントの音域を比較しても、中国語のアクセント音域が日本語より大きいことが分かる。8人の音域を平均すると、同じ人の中国語の音域は日本語の音域のほぼ1.4倍である。

しかし、日常会話の速さで平静に話された台湾の中国語の場合、アクセントの高低は日本語に近いものと思われる（表1-Bを参照）。中国人の被験者に平静に交わされた中国語会話の速さと高さで読むことを指示したのはそのためである。更に、被験者人数を増やして⁽⁸⁾、中国語の音訳単語を、母音と声調を維持したまま⁽⁹⁾下のリストのような有意な単語と短文に換えて録音したデータ⁽¹⁰⁾を検定にかけても、東京語話者と台湾の中国人とのアクセント音域には有意差が見られなかった。

⁽⁸⁾ 東京語話者は男性5名・女性11名、中国語話者は男性4名・女性12名に増やしたが、女性の人数が多かったので、表2に網掛けした女性のデータのみを使用し、検定にかけた。

⁽⁹⁾ もとの声調をできるだけ残そうと努めたが、第三声を低音の軽声に換えたものがある。

⁽¹⁰⁾ 第三声から第二声に変調したものと軽声になったものはデータから除外した。

有意義な中国語単語と短文リスト

- 1.阿藕 2.蟻哭 3.苦兮 4.狗都偷 5.妻摟(カヌV)子 6.北翁 7.蝦子 8.筆黒 9.瓦他西輪餃
 10.唾媽扎苦馬 11.手怕癢 12.咱妹勇 13.棋賽 14.氣紫 15.酷馬 16.毒粥 17.誰醫 18.誰配
 19.嘔(ヌ\)\假米 20.哦?擦嗎 21.航機 22.抗唾 23.信否 24.民憂 25.更美 26.陳妞 27.連媽哭
 28.鍊子 29.容媽 30.送走苦 31.媽媽(ㄇㄩˇ) 32.馬媽毆鴨 33.馬非螞蟻 34.罵苦 35.麻媽累否
 36.衣得(カ\V)比 37.夫餒 38.毆母 39.陪夫哭 40.陪夫哭姑狗死 41.陪夫勒(カ\)\臭馬
 42.田鷄 43.陪夫見狗 44.吟夫非 45.吟秋妹窘 46.投遞 47.愁妻淚灑

表 2 東京語と有意義の中国語とのアクセント音域

| 東京語話者の日本語 | | 台湾の中国人の中国語 | |
|-----------|-------|------------|-------|
| JJAJ | 52.8 | 3 CBIC | 28.0 |
| JJFJ | 42.3 | 3 CJIC | 58.2 |
| JJSJ | 40.6 | 3 CSBC | 36.2 |
| JJKOJ | 54.7 | 3 CHUC | 51.3 |
| 男性平均 | 47.6 | 男性平均 | 43.4 |
| 標準偏差(SD) | 7.2 | 標準偏差(SD) | 13.8 |
| *JJMJ | 71.6 | *3 CAUC | 121.6 |
| *JJKAJ | 78.4 | *3 CSEC | 67.1 |
| *JJMOJ | 91.7 | *3 CPOC | 94.8 |
| *JJYAJ | 82 | *3 CJEC | 106.9 |
| *JJSRJ | 108.6 | *3 CSQC | 72.5 |
| *JJSKJ | 72.4 | *3 CSUC | 89.1 |
| *JJMUJ | 86.7 | *3 CWXC | 80.9 |
| *JJHIJ | 53.5 | *3 CCXC | 90.3 |
| *JJTMJ | 61.4 | *3 CHZC | 69.0 |
| 女性平均 | 78.5 | *3 CMFC | 69.1 |
| 標準偏差(SD) | 16.4 | *3 CFAC | 77.8 |
| OJSMJ | 34.3 | *3 CYAC | 61.9 |
| *OJSFJ | 47.7 | 女性平均 | 83.4 |
| *OJYMJ | 57.8 | 標準偏差(SD) | 17.9 |

表 3 日中アクセント音域のウェルチの t 検定表 (等分散を仮定しないとき)

| | 平均値の差 | 自由度 | t 値 | P 値 (上側確率) | t (0.95) |
|---------|-------|-------|-------|------------|----------|
| 東京語・中国語 | -4.94 | 18.13 | -0.66 | 0.74 | 1.73 |

以上のようにウェルチの t 検定を用いて、東京語と台湾の中国語との日中アクセント音域の等質性を証明した ($t = -0.66$, $P > 0.7$)。従って、中国語の第一声と半三声を用いて、中国語母国語話者に日本語のアクセントの高音と低音を教える時には、台湾の中国語の自然な速さと平静な気持ちで話された会話と同じ程度の高低であると理解させることが肝要であると言える。

短音の語頭低音の高さについて、戸田・黄 (1989) は日本語の低音は 2 種類あり、「五度標調法」で日本語の高低の基準を示した場合、アクセント核の前の低音は 3 3、アクセント核の後の低音は 1 1 であると述べている。しかし、アクセント核の前の低音というのは恐らく非頭高型短音で綴られた語の 1 拍目低音のことだと思われる。今回の実験で 2 拍目が長音か撥音の跨拍上昇音は 1 拍目のピッチの高さが短音綴りの場合と異なることが明らかになっており、その中に含まれないはずである。戸田・黄 (1989) によると、日本語アクセント核の前の低音は「五度標調法」の 3 3 である。つまり、短音で綴られた語の 1 拍目低音の高さはアクセント音域の半分ということであり、今回の実験から得られた結果もそれと一致している (表 4 を参照)。日本語における短音の語頭低音の高さはアクセント音域全体のほぼ中間に位置し、通常日本語の低音よりもかなり高い。一方、対応する中国語音訳アクセントの 1 拍目低音の高さは通常中国語の低音より若干高い程度である。

表 4 非頭高型 (短音綴り) 1・2 拍目のピッチ差の平均値とアクセント音域の比率

| 言語種類 | 日本人の日本語 | 日本人の中国語音訳 | 東京語話者の日本語 | 中国人の中国語音訳 | 学習者の日本語 |
|-------------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|
| アクセント音域との比率 | 5 1 % | 7 6 % | 5 8 % | 7 3 % | 4 6 % |

これらのことから、日本語短音の語頭低音の高さを学習者に説明する時には、四声の声調音域 (台湾の中国語アクセント音域) の大体半分に相当すると説明すれば学習者に十分理解されるものと思われる。

2.2 日中アクセントの高音と低音のピッチ曲線

中国語の第一声と半三声のピッチ曲線はほぼ一定の形で現れているが (図 2 日本語を知らない中国人 CPO の「ㄨㄚˊ ㄩˇ ㄊㄨㄛˊ ㄩˇ ㄉㄨㄛˊ ㄩˇ (わたしぶね)」を参照、対象となる部分には下線を付す。以下同様)、日本語の高音と低音のピッチ曲線は一定ではない。アクセント核後の低音は、中国語半三声の先端或いは底の平らな形に似ているが (図 2 東京語話者 JJA、JJKO の「山桜(やまざくら)」を参照)、平板・尾高・中高型などアクセント核前(アクセント核も含む)の 1 拍だけの高音或いは低音は様々な形をしている。中国語の第一声は最後まで一定の高度を要求し、半三声の形も必ず最初にやや下降してから平らに続くが、日本語の高音と低音は高度差さえ区別できればよく、形はあまり問われないようである。

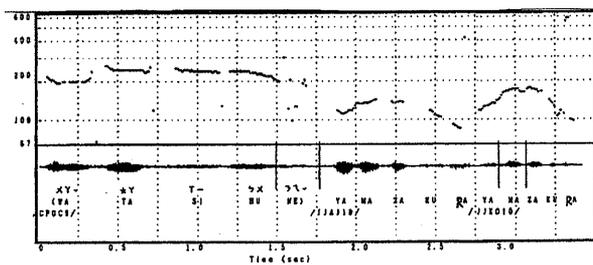


図 2 日本語を知らない中国人 CPO の「メ Y ヲ 去 Y ー ヲ メ ろ へ ヲ」と東京語話者 JJA と JJKO の「山桜」のピッチ曲線

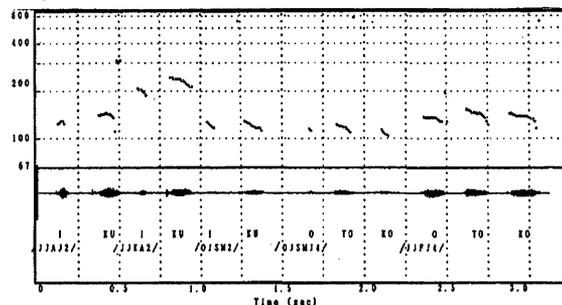


図 3 東京語話者 JJA、JJKA、OJSM の「行く」と OJSM、JJF の「男」のピッチ曲線

(注：図の中の被験者を表す最後の J と C の文字は発音した言語である。J は日本語、C は中国語を表す。以下同様)

日本語の平板・尾高・中高型の語のアクセント核前(アクセント核も含む)にある 1 拍の高音と低音の例を見てみると、同じリストにある同じ語でも話者によって、異なるピッチ曲線の形をしていることが分かる。図 3 の「行く(いく)」の場合、高音と低音ともに虹のような丸い曲線をしたものもあり、虹の右半分のような、右の方だけやや長いものもあり、先端が上向きになりやや下降しているものもある。図 3 「男(おとこ)」では、OJSM が高音・低音ともにやや下降しているのに対し、JJF はともにやや平らな形をしている。更に図 2 の「山桜(やまざくら)」の場合、JJKO では「や」と「ま」ともに拋物線のような上昇の形をしているのに対し、JJA では「や」と「ま」は逆にやや下降して上昇の凹の形をしている。同じアクセント核前の 1 拍の高音と低音であるが、実に様々な形が存在する。また、同じ人の発音のなかにも、異なる形の高音と低音とが見られる(JJA の図 2 「山桜(やまざくら)」と図 3 「行く(いく)」の高音と低音の形に注目)。この点は中国語とかなり異なっている。違う形のピッチ曲線は違う声調を意味する可能性がある一方で、中国語の四声でそのようなゆれが見られないが、日本語ではピッチ曲線の形が意味の区別と関係なく高低の区別ができればいいので、かなり自由なようである。

2.3 日中アクセントの下降調

Chao(1948, p.85)は中国語(北京語)の下降調第四声の相対ピッチを図 4 のように 5-1 の高さで表している。

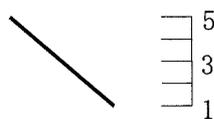


図 4 中国語第四声の相対ピッチ図

又、本実験で中国語の下降調第四声にも、日本語に近い(つまり最初の部分が高音を保つてすぐには下がらない)ピッチ曲線が複数の被験者において観察された(図5 東京語話者 JJKO の「辛抱(しんぼう)」と図6 中国語話者 CAU の「ㄊㄣˋ ㄏㄜˋ ㄒㄩㄢˋ ㄨㄥˋ ㄨㄥˋ ㄨㄥˋ ㄨㄥˋ(しんぼう)」を参照)。これは普通の中国語第四声のピッチ曲線と異なるが、恐らく日本語に近い環境を作るため、中国語の音訳版のリストで日本語の撥音・長音の部分について前の音を1拍伸ばすように表記したこと、録音する前に中国人の被験者に1拍1拍発音するように指示したことが原因ではないかと思われる。それを証明するため、「“~”→1拍伸ばす、“ㄨ”→1拍休む」のような日本語の拍の要素を一切リストから除去し、もう一度8人(うち4人が1回目の被験者と同じ)の台湾の中国語母国語話者に普段通りの中国語で録音させた。1回目の実験と2回目の実験の間は約一年で、事前に再実験の目的を被験者に知らせることはしなかった。その結果、1回目の実験で長音か撥音のため1拍伸ばされたピッチ曲線が全体的に短くなり、大部分の第四声のピッチ曲線も始めから急激に下がるという正常な形になった(図6の2CAUCの「ㄊㄣˋ ㄏㄜˋ ㄒㄩㄢˋ ㄨㄥˋ(しんぼう)」を参照)。しかし、有声音(母音、半母音、有声子音)の発音、特にㄇ/m/、ㄋ/n/とㄌ/l/の発音は調音のために最初の部分は暫く高音を保つが、1拍の長さを取るためのものではないので、日本語の1拍より短かった(図6の2CBICの「ㄇㄩˋ ㄏㄜˋ ㄇㄞˋ ㄨㄥˋ(マーク)」を参照)。

以上の二つの実験から分かるように、第四声を2拍の長さに伸ばす時、日本語ができなくても、多くの中国人が発する第四声下降調のピッチ曲線は自然に日本語の跨拍下降音のピッチ曲線に近づく。この点から、日本語の跨拍下降音は中国人にとって難しくない発音だということが分かる。

2.4 日中アクセントの上昇調

2.4.1 東京アクセントの跨拍上昇音

2.4.1.1 東京アクセントの跨拍上昇音に関する先行研究

東京アクセントの中で本来上昇すべき語頭の跨拍上昇音は、ゆっくり丁寧に発音される時以外は、平らな音調で発音されることがある。服部(1954)は以下のように述べている。

東京方言では

(a) [コマギレ] (細切れ) [コナゴナ] (粉々)

(b) [コーバン] (交番) [コンダン] (懇談)

のように発音する人が少なくない。(a)の音調は、最初の二モーラが/CVVCV/という音節の形の単語に現れ、(b)の音調はそれが/CVV/或いは/CVN/という一音節の形の単語に現れる。故にこの二つの音調は、補い合う分布を示し、而も、(b)の音調は、/CVV……/或いは/CVN……/という形の音節内に昇り音調が現れるのをきらってこの部分が平らな音調をとったものとも説明できるから、(a)の型と(b)の型とは音韻的には同一のものと認められる(p.370)。

猪塚 (1993)も以下のように論じている。

標準的な発音では「コーヒー」は「コーヒー」という読み方になりますが、このように、2拍目が引く音の場合、実際には1、2拍目が同じ高さで「コーヒー」のように発音されることがありますが、発音意識（音韻）の上では、ゆっくり切って発音すると「コ・オ・ヒ・ー」のようになることでも分かるように、1拍目と2拍目は、高さが異なると考えます (p.94)。

この他⁽¹²⁾にも、川上(1956,p.72)(1966,p.24)、日下部(1964,p.258)、金田一(1965,p.373)、早田(1970,p.36)(1989,p.31)、前川(1998,p.42)でこの現象が言及されている。

以上のように、早い時期から日本の研究者は「交番(こうばん)」、「懇談(こんだん)」、「コーヒー」のような/CVV……/或いは/CVN……/という1音節の単語の語頭(1・2拍目)について、東京方言では平らに発音される傾向があることを認めている。しかし、これは音声学の現象で、上昇音(例えば、コーヒー)の方が音韻的に正しい形だと認識しているためか、この問題について深く追及されていないようである。しかし、日本人がこれらの語を普段アクセント辞典の通りに発音していないということは、辞典をよりどころとして学ぶ日本語学習者にとって深刻な問題となり得る。このような語はどのように発音されているのか、どの種類の単語にこのような現象が見られるのか、一般の東京語話者はこのような語を上昇音で発音しているのかしていないのか、詳しく調べる必要があると考えられる。

本研究では、このような語頭に/(C)VV……/或いは/(C)VN……/という形の1音節で構成されている音韻的に上昇音で発音すべきものを「跨拍上昇音」と称している。

2.4.1.2 跨拍上昇音についての仮説と音声実験

地方出身の日本人被験者にアクセント記号通りに発音するように指示した予備調査の音声実験でも、2拍目に長音か撥音の入っている語について、やはり平らに近い音調で語頭を発音している人が多かった(例えば、「政治(せいじ)»)。また、比較的拍が多い外来語の場合、非東京出身の日本人被験者から、語頭の音は上昇音調で発音せず、また、あまり耳慣れないという意見が聞かれた(例えば、カーネーション)。

これらの現象を整理し、日本語母語話者と討論した結果、以下のような仮説を立てた。

- ① 2拍目に長音か撥音の入っている語の語頭について、気軽に交わされる日常会話では、常に1拍目から平らな音調で発音される傾向がある。
- ② 長い外来語の場合、どんな状況でも語頭を平らに発音する傾向がある(例えば、カーネーション)。
- ③ 語頭が撥音、或いは濁音である場合、語頭が直音或いは清音の場合より1拍目が少し上昇しやすい傾向がある。

⁽¹²⁾ 脱稿後に、関係論文佐藤(1992)と崔・佐藤(1994)の2本に気付いた。両者とも本論文と同様、機械で音読資料のピッチを測定するものだが、いずれも単語の音読資料にしか言及していない。また、インフォーマントも男性1名だけであり、個人的な言語習慣である可能性も否定できないが、語頭が有声か無声かが跨拍上昇音が上昇するかどうかの決め手であると指摘している(筆者注:この現象は音読資料に限る。詳しくは第4章を参照)。

④感情を込めて強調したい時、文頭、或いは前に低音の音節が来る時、語頭を上昇の音調で発音する傾向がある。

以上の4点はまだ仮説の段階であり、検証していく必要がある。そこで、まず音声分析ソフト「音声録聞見」を用いて、今田（1989）付録の発音練習項目のテープの中にある発音のピッチを測定した。結論から述べると、その男女1名ずつの東京語話者の場合、

- (i) 2拍目に長音か撥音の入っている語が一文の文頭或いは句の先端に来る時、軽い上昇音調で読まれることが多い。例えば、図7のように単語として発音された場合は、「数学」の1・2拍目の高低差は18 Hzで、「通学」の1・2拍目はほぼ平らになっているが、図8「通学のバスで、数学の勉強をする」のように文中で発音された場合は、文頭の「通学」の1・2拍目の高低差は26 Hzであり、句の切れ目の先端に来ている「数学」の1・2拍目の高低差は25 Hzである。
- (ii) (語頭が有声音の場合を除き)清音の拗音は清音の直音と同じく平らに読まれる傾向がある。例えば、図9の「急行」と「空港」の1・2拍目の高低差はともに8 Hzである。図10の「中心」は12 Hz、「通信」も16 Hzで、ほぼ同じである。また半母音の「や」、「ゆ」、「よ」の時、上昇の音調で読まれる。例えば、図8の「優勝」の1・2拍目の高低差は73 Hzもある。濁音の時も、上昇音調で読まれる傾向が強い。例えば、図11の「強制」の1・2拍目の高低差は13 Hzで、「行政」は38 Hzもある。以上のことから考察すると、漢語の場合、1拍目が無声音（無声子音）か、有声音（母音、半母音、有声音）かによって、平らに読まれるかどうか決まっていることが分かる。

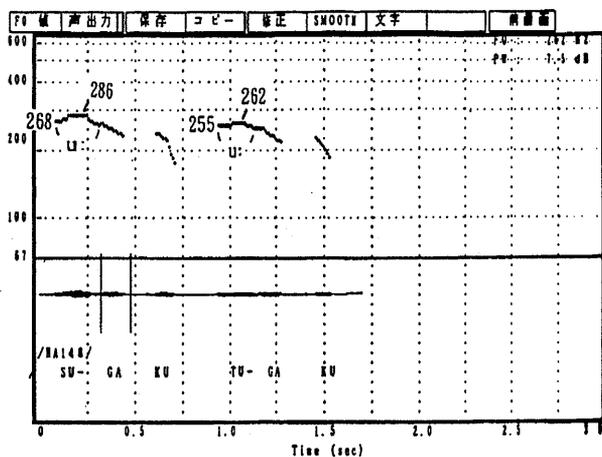


図7「数学」、「通学」のピッチ曲線、『発音』のp.148録音テープより

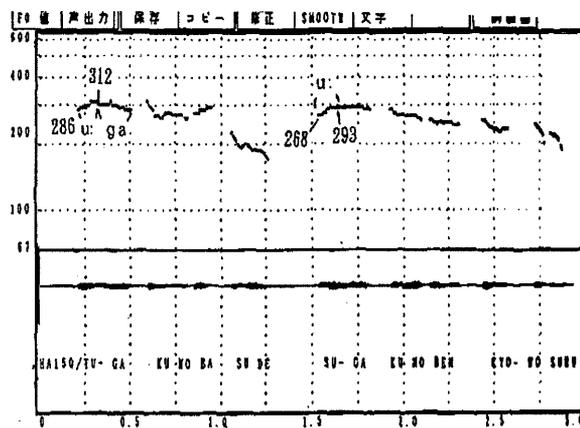


図8「通学のバスで数学の勉強をする」のピッチ曲線、『発音』のp.150録音テープより

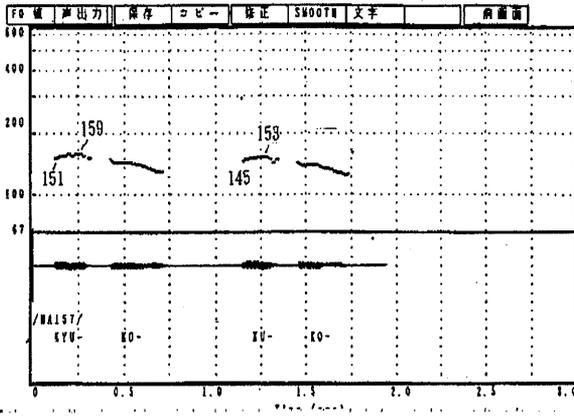


図 9 「急行」、「空港」のピッチ曲線、
『発音』の p.157 録音テープより

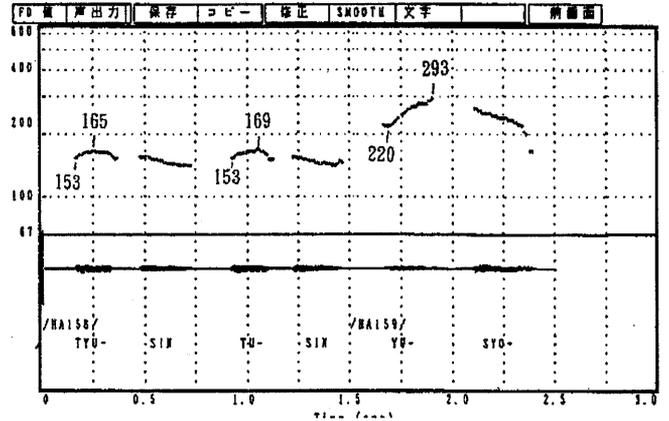


図 10 「中心」、「通信」、「優勝」のピッチ曲線、
『発音』の p.158 と p.159 録音テープより

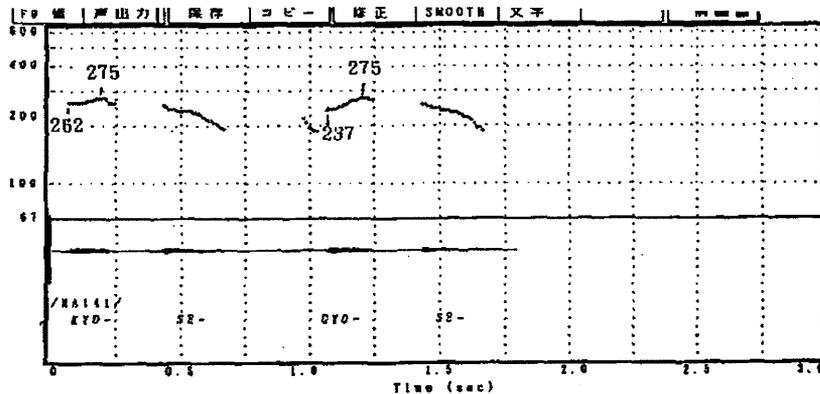


図 11 「強制」「行政」のピッチ曲線、『発音』の p.141 録音テープより

以上の二点は上述の2人の東京語話者の場合であるが、一般の東京語話者が皆そのように発音するかどうかについては、人数を増やして観察する必要がある。また、仮説の②と④と和語については、上記の今田（1989）には適当な語例と文例がないので、以下のような録音用の資料を作成し、8名の東京語話者に録音してもらい、同じ「音声録聞見」を用いてピッチを測定した。

音声実験資料 1

1. あお(青) 2. いく(行く) 3. うし(牛) 4. おとこ(男) 5. にもつ(荷物) 6. けっこん(結婚)
7. シャツ 8. きって(切手) 9. わたしぶね(渡し舟) 10. やまざくら(山桜) 11. おかあさん
12. カーネーション 13. ちいさい(小さい) 14. チーズ 15. クーラー 16. こうこう(空港)
17. せいじ(政治) 18. せいせい(清々) 19. おおかみ(狼) 20. おうさま(王様) 21. かんじ(感じ)
22. かんしゃ(感謝) 23. しんぼう(辛抱) 24. しんよう(信用) 25. うんめい(運命)
26. うんよう(運用) 27. れんらく(連絡) 28. レンズ 29. そんな 30. そんとく(損得) 31. ママ
32. ままおや(継親) 33. まめまき(豆まき) 34. マーク 35. マーマレード 36. りえき(利益)

- 37.ふね(船) 38.のむ(飲む) 39.テーブル 40.テーブルクロス 41.テープレコーダー
 42.ペンキ 43.ペンフレンド 44.インフレ 45.インフォメーション 46.コーヒー
 47.コーディネーター
- 48.きれいなカーネーションですね。 49.カーネーションをください。
 50.(文句を言う口調) ちょっと小さすぎるよ。
 51.(店員がお客様に) このサイズはちょっと小さいですね。
 52.大きい空港ですね。 53.空港に行きます。
 54.彼はいい王様です。 55.王様になりたいですね。
 56.かなりいい感じです。 57.感じが悪い人だと思う。
 58.今回のことで、彼の信用がすっかり落ちてしまいました。
 59.信用がないと商売できない。
 60.できるだけ早く連絡したほうがいい。 61.連絡をくださいね。
 62.(冷静な口調で) そんなはずはない。
 63.(信じられない口調で) そんなはずはないよ。
 64.(冷静な口調で) そんなこと、とっくに忘れたよ。
 65.(驚いた口調で) そんなこと、とっくに忘れたよ。
 66.a. 手作りのマーマレードはおいしいですね。 b. おいしいマーマレードですね。
 67.マーマレードをください。
 68.新しいテーブルがほしいね。 69.テーブルの下にあるよ。
 70.これは結構いいテーブルクロスですね。
 71.テーブルクロスを掛けたほうがいいよ。
 72.これは結構古いテープレコーダーですね。 73.テープレコーダーが要るよ。
 74.黒いペンキをください。 75.ペンキを塗るのを手伝います。
 76.いいペンフレンドですね。 77.ペンフレンドがほしい。
 78.どんなインフォメーションを探しているのですか。
 79.インフォメーション・サービスの所で聞いてみよう。
 80.その後は恐ろしいインフレが来る可能性があります。
 81.インフレはこの国の一番深刻な問題です。
 82.a. やっぱ新しいコーヒーは香りが違うね。 b. おいしいコーヒーですね。
 83.コーヒーをください。
 84.いいコーディネーターは少ないです。 85.コーディネーターの仕事は大変ですよ。

音声実験資料2

- らんぼう(乱暴)、だんぼう(暖房)、たんぼ(田圃)、ピンぼけ、びんぼうぐらし(貧乏暮らし)
- らいこう(来校)、だいこう(代講)、たいこう(対抗)、なんこう(難航)、あいこう(愛好)
- ろうがん(老眼)、どうがん(童顔)、とうがん(冬瓜)
- ちゅうしん(中心)、しゅうしん(就寝)、じゅうしん(重心)、つうしん(通信)、めいしん(迷信)、ようし(用紙)、はいしん(背信)、ばいしん(陪審)
- しょうがく(少額)、ぞうがく(増額)、そうがく(総額)、にゅうがく(入学)
- きょうせい(強制)、ぎょうせい(行政)、きんせい(金製)、ぎんせい(銀製)、

- まんせい（慢性）、えいせい（衛生）
7. かいかん（会館）、がいかん（外観）、みんかん（民間）
 8. ポール、ボール、ほうる（放る）
 9. けいだい（慶大）、げいだい（芸大）、けんきゅう（研究）、げんきゅう（言及）
 10. とうそう（逃走）、どうそう（同窓）、ゆうそう（郵送）、ワイシャツ
 11. ふんまつ（粉末）、ぶんまつ（文末）、ぶんぷんに怒る
 12. せんばい（先輩）、ぜんばい（全敗）、せんばい（千倍）
 13. 双方が対抗意識を持っているので、会議は難航した。
 14. 老眼の老人は冬瓜が好きだった。
 15. 少額の奨学金のお陰で入学した。
 16. 行政政策は強制的に行われた。
 17. 会館の外観はすばらしい。
 18. ポールにボールが当たった。
 19. 慶大、芸大の学生の外食の回数の統計を取った。
 20. 彼の研究は言及されていない。
 21. 郵送されてきた郵便物はワイシャツだった。
 22. 親分は粉末がなくなったので、ぶんぷんに怒った。
 23. 先輩は千倍も働いたが、全敗した。

音声実験資料1には、短音綴りの頭高型が7語、短音綴りの平板・中高型・尾高型が9語、語頭に跨拍上昇音を持つ単語が21語、語頭に跨拍下降音を持つ単語が9語、跨拍上昇音語を使用した文が35文含まれている。頭高型のピッチ差は他の型より大きいため、その平均値を被験者が平静に発話する時のアクセントの音域限とする。また、仮説①②④を検証するために、長短4組の外来語と35の文を入れた。小林（1963）にも「音頭の負核（筆者注：次の音節がより高い場合、アクセント核を持つ正核に対立する概念）はすべて平らになる性質をもつ（p.6）」とあるように、音頭の負核は文中の環境に影響され、前の語が高い音で終わる場合に平らに読まれることが多いことから、上昇音調が現れやすい環境を意識して文を作成した。例えば、前の修飾語が低く終わるもの、感情を込めて強調する場面、観察したい語を文頭の位置に置いたものなどを含むようにした。音声実験資料2は、有声音の2拍目に長音、撥音、連母音¹³が来た時の語頭が無声子音の場合より上昇しやすいかどうか、更に文頭、文中に現れる時の上昇の幅が無声子音の場合より大きいかどうかを観察するためのものである。日本語の子音、半母音が音声実験資料に入るようにし、できるだけ同じ環境で有声音と無声音と拗音が比較できるように工夫した。主に今田（1989）の練習項目で使われた単語を参考にして作成した。

¹³川上（1977）『日本語音声概説』は、二重母音について、以下のように定義している。

「言葉の中に母音が並んで現れた場合、その間に声のとぎれや声の強さの谷などはなく、先の母音から後の母音へ滑らかに移って行くのが普通である。つまり、それら二つの母音は普通の自然な発音では同じ音節に属するということである。例えば、かいた（書いた、欠いた）[kaita]、すいた（好いた、空いた）[s u ita]、といた（解いた、溶いた、説いた）[toita]の [kai][s u i][toi]は一音節に発音されるのが普通である。これらの [ai][u i][oi]を「二重母音」という（p.91）」。

本研究では日本語の拍の単位を重視し、上記のようなものを連母音と称する。

2.4.1.3 実験の結果

音声実験資料1と2を8名の東京生まれ東京育ちの東京語話者に録音してもらい、「音声録聞見」を用いて各語の語頭の1拍目と2拍目（の一番高いところと一番低いところ）のピッチ差を測定した。被験者は、OJSMが60代の男性、OJSFが60代の女性、JJA、JJF、JJS、JJKOが30代の男性、JJMとJJKA（中国語が堪能）が30代の女性である。その結果を以下の表にまとめる。

表5 単語・文頭・文中の跨拍上昇音の1・2拍目の高低差

| 被験者 | | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 平均 |
|-----------------------|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|----------|
| 項目 | | | | | | | | | | |
| | アクセント音域 | 34.3 | 47.7 | 52.8 | 71.6 | 42.3 | 40.6 | 54.7 | 78.4 | 53 |
| | 短音平板・中高型 | 15.6 | 22 | 26.3 | 38.3 | 26.1 | 24.6 | 41.9 | 51.7 | 31 |
| | アクセント音域の～% | 45% | 46% | 50% | 53% | 62% | 61% | 77% | 66% | 58%(3/5) |
| 跨 拍 上 昇 音 | 単語無声 | 5 | 2 | 8 | 8 | 9 | 8 | 10 | 17 | 8 |
| | アクセント音域の～% | 15% | 4% | 15% | 11% | 21% | 20% | 18% | 22% | 15%(1/6) |
| | 単語有声 | 11 | 17 | 16 | 21 | 22 | 13 | 27 | 28 | 19 |
| | アクセント音域の～% | 32% | 36% | 30% | 29% | 52% | 32% | 49% | 36% | 36%(1/3) |
| | 文頭無声 | 10 | 4 | 8 | 10 | 9 | 17 | 19 | 22 | 12 |
| | 文頭有声 | 23 | 8 | 23 | 56 | 22 | 26 | 36 | 37 | 29 |
| | 前音低・文中無声 | 5 | 5 | 4 | 7 | 5 | 7 | 10 | 8 | 6 |
| | 前音低・文中有声 | 19 | 17 | 13 | 22 | 9 | 11 | 20 | 20 | 16 |
| | 前音高・文中無声 | 4 | 4 | 4 | 11 | 3 | 14 | 11 | 20 | 9 |
| 前音高・文中有声 | 10 | 11 | 4 | 17 | 9 | 6 | 22 | 11 | 11 | |

(単位：Hz)

2.4.1.4 結果の分析

まず、一般の東京語話者が話す東京語では上昇すべき語頭についてどう発音しているのかという疑問についてだが、中国語の第二声のような上昇幅が大きい上昇音はないが、語頭に無声音が来る時は1拍目を平板に近い発音で発音し、有声音が来る時は1拍目を軽い上昇音で発音する人が多かった(例えば、ちゅうしん、じゅうしん)。ちなみに、東京語話者以外に、北海道、金沢、名古屋、広島、山口、愛媛、福岡、大分、鹿児島出身の被験者の共通語も調査したが、結果は類似しており、一般的な傾向だと言える（地方出身者では有声音の語頭も平板化することがある。）被験者は（東京語話者も含め）20代と30代の人が多かったが、60代¹⁴⁾の日本語母語話者4名にも同じ現象が見られた。

次は語頭が/(C)VV……/或いは/(C)VN……/という同じ形の音節で構成されている単語のうち、

¹⁴⁾40代（特に女性）のほうが若い人より無声音の語頭の平板化現象が著しい（被験者の中でOJSMが60代の男性で、OJSFが60代の女性である）。川上（1956）によると、これは一種の老化現象であるという。一方、中国人の老人にそのような現象が見られないのは、中国語の第二声は意味の違いを担う音韻体系の一部であるためと考えられる。

どの種類の単語（より詳しい下位分類）に語頭の上昇すべき所が上昇していないという現象が見られるか、その程度差について生粋の東京語話者8名に調査した結果、以下の結論を得た。/(C)VV……/或いは/(C)VN……/という形の音節内において、昇り音調の上昇程度は、和語・漢語・外来語の長さや、語頭が母音か子音かとは無関係に、1拍目が無声音（無声子音で始まる語）か、有声音（母音、半母音、有声子音で始まる語）かによって二分される（上の表5を参照）。単語の場合、有声音で始まる語は普段のアクセント音域（頭高型の1・2拍目の高低差）の約3分の1（36%）、短音綴りの1・2拍目の高低差の約5分の3（61%）ほど上昇する。8名の東京語話者の平均アクセント音域は53 Hzであり、約19 Hz上昇することになる。無声音で始まる語の上昇程度は約8 Hzで、平均アクセント音域の6分の1（15%）、短音綴りの1・2拍目の高低差の4分の1（26%）ほどしか上昇しないので、音感的にはほぼ平ら¹⁵に発音されていると見做して差し支えない。また、外来語については、資料編の資料1表3を参照していただきたい。全体的に見れば、予想と異なり、長い外来語の方が短い外来語より上昇幅が少し大きい。

尚、跨拍上昇音は、無声音で始まる語が平静に述べられる文の文中に来た場合、前の語の音調が高く終わっても（上昇程度9 Hz）、低く終わっても（6 Hz）、ほぼ平らに発音される。文頭に来た場合でも、平均12 Hz程度の上昇が見られるのみである。一見、文中で前の音が高く終わっている方が低く終わっている場合より、上昇幅が大きいと見えるが、実際は前者で負の値の個数がより多い（13対3）。負の値を入れて計算すると、前者上昇幅が約1.5 Hz、後者上昇幅が約5 Hzである。有声音で始まる語の場合、文中に現れる時には、前の語の音調が低く終わったものの方が高く終わったものよりも、上昇の幅が大きい（16 Hz > 11 Hz）。文頭に現れる時には、上昇の程度は平均29 Hzであり、単語の短音綴り非頭高型の1・2拍目の高低差31 Hzとほぼ同じになる。また、感情を込め、驚きや文句を言う時の表現方法（話すスピードを速くしたり、促音を長くしたり、声や語尾の音調を高くしたりなど）は人によって異なるが、文頭の「そんな」の1拍目から2拍目にかけて高く上昇させる人が多く見られた（平均30 Hzと41 Hz）。しかし、文中の「小さい」では上昇幅はそれほど大きくない（13 Hzぐらい）。詳しくは資料編の資料1表4を参照していただきたい。

以上の結論をまとめると次のようになるであろう。語頭が/(C)VV……/或いは/(C)VN……/という形の1音節で構成されている単語について、無声音で始まる語が一つの単語だけで発音される時（8 Hz）と文頭に来る時（12 Hz）、文中の前の音が高く終わる時（9 Hz）と低く終わる時（6 Hz）のいずれの場合も1・2拍目はほぼ平らに発音される。また有声音で始まる語の語頭の上昇程度は

文頭に来る時（29 Hz） > 単語だけで発音される時（19 Hz） > 文中に低く接続される時（16 Hz） > 文中に高く接続される時（11 Hz）

という式で表すことができる。（有声音で始まる語の語頭に見られる上昇はほぼ1拍目の中で完結するが、文頭に来る時には1拍目から2拍目にかけて上昇する例も多く見られた。）

以上の結果に基づき、前述の仮説を修正すると、以下のようになる。

- ① 2拍目に長音か撥音の入っている語の語頭について、平静に発話された時には常に上昇幅の小さい音調で発音される。

¹⁵経験的には、10 Hz以上の差がないと上昇音調に聞こえない。

②有声音（母音、半母音、有声音）の語頭は無声音（無声子音）の語頭より1拍目が少し上昇しやすい傾向がある。

③感情を込めて強調したい時、文頭或いは前に低音の音節が来る時、有声音の語頭（1拍目、或いは1・2拍目）は上昇の音調で発音される。無声音の語頭は、強調される時以外は、1拍目が常に平らに近い音調で発音される。

尚、このデータは録音テープ中の音声を「音声録聞見」を用いてピッチ曲線に変換してから、1・2拍目の最も高いところと低いところの高低差を測定したものである。その結果、日本語の語頭にある跨拍上昇音について、有声音で始まる語と無声音で始まる語の上昇程度には大きな差があるという結論に達した。しかし、無声音（k、s、t、h、pなどの無声子音）はピッチ曲線に現れることがなく（現れるのはその後の母音である）、無声子音の部分の高低を知ることができない。但し、これは上の結論を無効にするものではない。無声子音は声がないため相手の耳に届きにくく、その高低感は後の母音によってもたらされたものと考えられる。この問題については、杉藤（1982）の見解が参考になる。杉藤（1982）は無声拍とアクセントの問題について、以下のような実験を試みている。

同一話者の発話による「ハシト」（端と）、「ハシト」（橋と）がある（両方の「シ」は母音の無声化が起こっている）。両者の相違点は、「ト」の音調によるものである（前者の「ト」の母音はほぼ平坦な音調で、後者の「ト」の母音は「ハ」の母音より高く始まり、その後は急な下降音調を示している）。

その「端」と「橋」のそれぞれに後続する「ト」を交換して接続すると、以下の矢印の後のように聞こえる。括弧の部分は切り取られた部分である。

端（ト）＋（橋）ト→ハシト……「橋ト」

橋（ト）＋（端）ト→ハシト……「端ト」（p. 100より）

更に、「ハシト」の「シ」の部分完全に切除して、「シ」の代りに同一の持続時間の未録音テープを「ハ」と「ト」との間に挿入すれば「ハット」と、音価ゼロの部分にアクセントがあるように聞こえる（p. 105より）。

以上の実験から分かるように、無声化している部分の高低は後の有声音の部分に左右されるのである。

2.4.1.5 上昇しない上昇音の発生原理

非頭高型の短音綴りの場合に被験者たちの1・2拍目の高低差が平均31 Hzあるのに対して、2拍目に長音か撥音の入っている語になると、上昇度が減り、特に無声音で始まる語は上昇せずにほぼ平らに発音されるのはなぜだろうか。

服部（1954）は、日本人が「CVV……」「CVN……」という形の1音節内に昇り音調が現れるのをきらった結果、平ら音調をとったものと説明している。これは、日本人が1音節内で音を同じ高さに維持しようという考え方を前提としている。しかし、頭高型「CVV」或いは「CVN」で始まる語と「CVCV」で始まる語の1・2拍目の高低差はあまり変わらず、語頭の有声音と無声音の差も見られない（資料編の資料1の表1を参照）。

この問題は日本語の発音の仕方に関連があるように思われる。普段日本人が日本語を発話する時には、口を大きく開けず舌をあまり動かさなくとも、自然な日本語の発音を発することができる。一方、中国人は舌と口を大きく動かさないと、はっきりした中国語を発するこ

とができない。日本人のように口をあまり開かず舌に力を入れないで平らにしたまま、「コーヒー」「小さい」の語頭を中国語の第二声のような上昇音で発音することは困難である。舌先を下げて舌に窪みを作らないと第二声のような上昇音は発音できない。力を入れないで舌が平らな状態のまま上昇音を発音しようとする、中国語の第一声に近い発音になる（末尾の音調が口の閉まる動きによってなだらかに下降している点では中国語の第一声と異なる。これは中国語の第一声より楽に発音できる音である。図 12「空港」を参照）

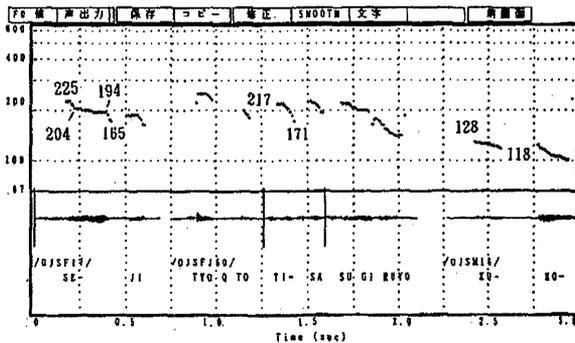


図 12 女性東京語話者 OJSF の「政治」、
「ちょっと小さすぎるよ」と男性東京語
話者 OJSM の「空港」のピッチ曲線

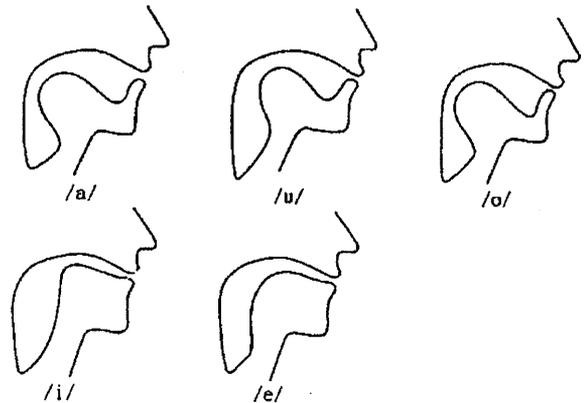


図 13 日本語 5 母音の声道形状図
(白井 1998, p.142 より)

また、2.4.1.4 節で、語頭の子音の上昇程度は語頭の母音や子音の種類と関係しないと述べたが、実はわずかであるが、母音の種類によって上昇の程度がやや異なる傾向がある。図 13 にある日本語の 5 母音の声道形状図（白井 1998, p.142 より）と資料編の資料 1 の表 5 を参照されたい。声道形状図から分かるように、/i/と/e/の母音では舌が平らになっているが、/a//u//o/では少し窪みがある。上昇音を発音する時に窪みがないと発音が難しいため、語頭の子音が無声子音で且つ母音が/i/と/e/である単語の方が他の単語より上昇の幅が小さくなっているのである。語頭が有聲子音の場合にも同じ傾向が見られる。但し、これはあくまで傾向であり、そうでない人もいる。

一方、下降音は、口をあまり開かず舌を平らにした状態でも、特に問題なく発音できる。また、語頭の上昇音の部分は、上昇か非上昇の違いでは意味的・音韻的な違いをもたらさないため、日本人はできるだけ楽な発音を選ぶのである。もし、上昇音が下降音と同じようにアクセントの核と関わって意味の違いをもたらすのであれば、日本人もこのような語頭の上昇すべきところをきちんと上昇して発音するように努力するであろう。実際に、東京語話者の音韻意識では上昇して発音する意志があると思われる。その証拠に有聲音の語頭には上昇音調が現れている。それでは、なぜ無聲音の場合は違うのであろうか。この問題は日本人の発音の仕組み、生理的要因に求めるべきである。

跨拍上昇音は、意味的・音韻的な問題ではないため、見逃されやすい。長い間、日本に滞在していた留学生でも、普段から日本人の発音に注意していなければ、自然な日本語の音質とはかなり異なる中国語の第二声に近い上昇音を発音してしまう。中国語の第二声はまず舌先を下げて発音するので、第二声の音調は、最初に少し下がって低く続いた後で上昇する形、

つまり凹の形になっている。日本語の跨拍上昇音は舌が平らな状態のまま、上昇音を発するので、語頭が有声音の場合、最初は低いがすぐ上昇してしまう。つまり、凸の形、拋物線の形になっている。無声音の語頭でも、この要領で発音すれば、文頭に見られる少し上昇度のある上昇音でも、日本語として自然な発音ができるであろう（下の図 14、15 の「運用」、「連絡」、「信用」を参照）。実はこのような発音はかなり一般的なもので、日本語のテレビ、ラジオ放送や教科書のテープなど耳を澄ましてこの部分を注意深く聞いてみれば、すぐ模倣できると思われる。

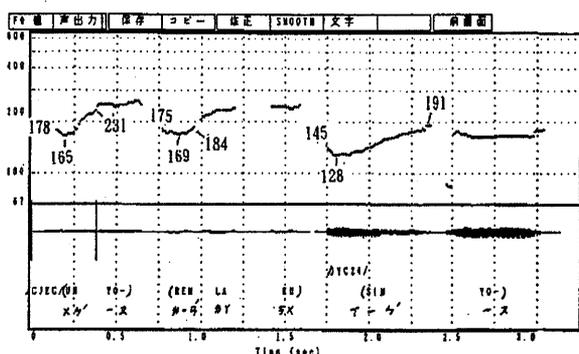


図 14 日本語を知らない中国人女性 CJE の「メーノ」、「カーノカヤ マ」と日本人中国語の先生 JY の中国語の発音「ターノノヌ」のピッチ曲線

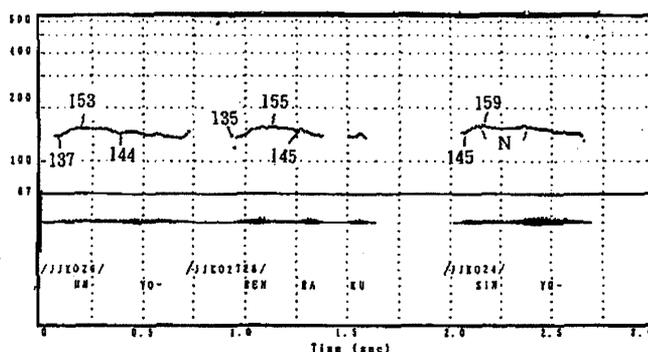


図 15 東京語話者 JJKO の「運用」、「連絡」、「信用」のピッチ曲線

2.4.2 日中アクセントの上昇調の比較

東京アクセントで本来上昇すべき語頭の跨拍上昇音について、単語と短文の資料を東京語話者 8 人に発音させ録音したものを「音声録聞見」で詳しく分析した結果、以下のことが明らかになった。

- ① 2 拍目に長音か撥音の入っている語の語頭について、平静に発話された時には常に上昇幅の小さい音調で発音される。
- ② 有声音(母音、半母音、有声音)の語頭は無声音(無声音)の語頭より 1 拍目が少し上昇しやすい傾向がある。
- ③ 感情を込めて強調したい時、文頭あるいは前に低音の音節が来る時、有声音の語頭(1 拍目、或いは 1・2 拍目)は上昇の音調で発音される。無声音の語頭は、強調される時以外は、1 拍目が常に平らに近い音調で発音される。

語頭が/(C)VV……/或いは/(C)VN……/という形の 1 音節で構成されている単語について、無声音で始まる語が一つの単語だけで発音される時(8Hz)と文頭に来る時(12 Hz)、文中の前の音が高く終わる時(9 Hz)と低く終わる時(6 Hz)のいずれの場合も 1・2 拍目はほぼ平らに発音される。有声音で始まる語の語頭の上昇程度は

文頭に来る時(29 Hz) > 単語だけで発音される時(19 Hz) > 文中に低く接続される時(16 Hz) > 文中に高く接続される時(11 Hz)

という式で表すことができる(8人の平均音域は52.8Hz)。

さて、NHKニュース(H 10.11.8のAM7:00~8:00)を録音し、よく注意して聞いてみると、訓練されたアナウンサーは比較的このような特殊拍の場合でも軽い上昇音調を使っていることが分かる。ただし、語頭が平らな音調で発音された語もいくつかある。例えば、「抱負」、「今後」、「検討」、「連携」、「緊急援助」などである。このように平らに発音されるという事実はあるが、猪塚(1993)も述べているように、日本の学者は音韻的な観点から見て、1拍目と2拍目の高さはやはり異なると考えている。しかし、日本語教育の立場から見ると、このような普遍的な現象が存在する事実のもとで、より自然な日本語に近づこうという学習者の意欲を満たすためには、少なくとも日本語教師が学習者にこの事実を知らせ、アクセント辞典に各語について平らな音調を記載する必要があると思われる。

以上のことを念頭に置き、日中アクセントの単語レベルの上昇調を比較する。

1拍目が低く、2拍目が高い「短音で綴られた語」と「跨拍上昇音語」の1・2拍の高低差の平均値と、アクセント音域を比較した場合のパーセンテージを表6に挙げる。

表6 非頭高型の1・2拍の高低差の平均値とアクセント音域の比較

| 項目 被験者 | 母語 | 発話した 言語 | アクセント 音域 | 平板・尾高・中高型 | | | | | |
|-----------|-------|------------|-------------|-----------|------|--------|-----|------|-----|
| | | | | 短音で綴られた語 | | 跨拍上昇音語 | | | |
| | | | | | | 語頭無声 | | 語頭有声 | |
| JY | 日本語 | 日本語 | 59.7 | 25.8 | 43% | 1 | 2% | 5 | 8% |
| JFG | | | 84 | 45 | 54% | 19.8 | 24% | 31.8 | 38% |
| JNA | | | 84.9 | 32.4 | 38% | 7.4 | 9% | 17.2 | 20% |
| JHK | | | 61.1 | 28.4 | 47% | 8.5 | 14% | 15.3 | 25% |
| *JYO | | | 78.5 | 41.4 | 53% | 15.9 | 20% | 22.3 | 28% |
| *JSA | | | 87.5 | 48 | 55% | 9.4 | 11% | 42 | 48% |
| *JIK | | | 125.7 | 62.4 | 50% | 4.6 | 4% | 47.3 | 38% |
| *JKA | | | 78.4 | 51.7 | 66% | 12.5 | 16% | 21.5 | 27% |
| JY | | | 日本語 | 中国語の音訳 | 97.1 | 73.3 | 75% | 59.4 | 61% |
| JFG | 106.6 | 68.4 | | | 64% | 59.8 | 56% | 77.5 | 73% |
| JNA | 117.5 | 99.2 | | | 84% | 69.1 | 59% | 53.8 | 46% |
| JHK | 82.5 | 48.1 | | | 58% | 77.3 | 94% | 53.7 | 65% |
| *JYO | 101.4 | 87 | | | 86% | 43.5 | 43% | 48.3 | 48% |
| *JSA | 141.7 | 124 | | | 88% | 63.1 | 45% | 75.5 | 53% |
| *JIK | 180.6 | 152.7 | | | 85% | 92.1 | 51% | 106 | 59% |
| *JKA | 118.1 | 80.9 | | | 69% | 39.1 | 33% | 57 | 48% |
| *JJMO | | | | | 91.7 | 59.3 | 65% | 10.5 | 11% |
| *JJYA | | | 82.0 | 48.7 | 59% | 6.7 | 8% | 28 | 34% |
| *JJSR | | | 108.6 | 52.9 | 49% | 21.7 | 20% | 57.8 | 53% |
| *JJSK | | | 72.4 | 57.6 | 80% | 4.9 | 7% | 18.5 | 26% |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-------|-----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|------|-------------|
| | *JJMU | 東京語 | 東京語 | 86.7 | 36.8 | 42% | 6 | 7% | 37.3 | 43% |
| | *JKA | | | 78.4 | 51.7 | 66% | 13.7 | 18% | 21.5 | 27% |
| | *JJM | | | 71.6 | 38.3 | 53% | 6.3 | 9% | 23.2 | 32% |
| | 女性平均 | | | 84.5 | 49.3 | 59% | 10.0 | 11% | 35.0 | 40% |
| | *OJYM | | | 57.8 | 33.6 | 58% | 6.1 | 11% | 13 | 22% |
| | *OJSF | | | 47.7 | 22 | 46% | 2 | 4% | 17 | 36% |
| | JJA | | | 52.8 | 26.3 | 50% | 8 | 15% | 16 | 30% |
| | JJF | | | 42.3 | 26.1 | 62% | 9 | 21% | 22 | 52% |
| | JJS | | | 40.6 | 24.6 | 61% | 8 | 20% | 13 | 32% |
| | JJKO | | | 54.7 | 41.9 | 77% | 10 | 18% | 27 | 49% |
| | 男性平均 | | | 47.6 | 29.7 | 63% | 8.8 | 19% | 19.5 | 41% |
| | OJSM | | | 34.3 | 16.6 | 48% | 5 | 15% | 11 | 32% |
| | 全員平均率(SD) | | | | | 58% (10.9%) | | 13% (5.5%) | | 38% (11.8%) |
| 中国語寄り | CKO | | | 中国語 | 日本語(学習者) | 44.9 | 22.6 | 50% | 14.3 | 32% |
| | *CRY | 69.8 | 34.1 | | | 53% | 24.5 | 35% | 34.3 | 49% |
| | *CW | 93.8 | 55.9 | | | 60% | 33 | 35% | 46 | 49% |
| | *CYE | 70.4 | 33.9 | | | 48% | 24.2 | 34% | 34.3 | 49% |
| | CLN | 59.1 | 16.7 | | | 28% | 15.3 | 26% | 21.3 | 36% |
| | 平均率(SD) | | | | | 48% (10.7%) | | 32.4 (3.4%) | | 44% (5.7%) |
| 東京語寄り | *CZU | 109.8 | 50.4 | | | 46% | 21.4 | 19% | 32 | 29% |
| | *CWY | 64.3 | 44.1 | | | 69% | 9.2 | 14% | 19.5 | 30% |
| | *CU | 69.3 | 31.3 | | | 45% | 7.6 | 11% | 17.7 | 25% |
| | *CYS | 102.6 | 52.2 | | | 51% | 8.4 | 8% | 28.7 | 28% |
| | *CCM | 95.1 | 48.7 | | | 51% | 14.7 | 15% | 24.7 | 26% |
| | 平均率(SD) | | | | | 52% (8.7%) | | 13% (3.7%) | | 28% (1.9%) |
| 高低差不足 | *CKY | 116 | 38.2 | | | 33% | 10.7 | 9% | 30.8 | 27% |
| | *CYU | 89.4 | 34.8 | | | 39% | 13.1 | 15% | 32.7 | 37% |
| | *CCH | 60.8 | 23.2 | 38% | 3.1 | 5% | 9.3 | 15% | | |
| | *CRI | 64 | 25.1 | 39% | 10.6 | 17% | 13 | 20% | | |
| | *CCY | 62.3 | 24.9 | 40% | 6.9 | 11% | 12.2 | 20% | | |
| | *CMN | 46.1 | 22 | 48% | 0.9 | 2% | 6.6 | 14% | | |
| | 平均率(SD) | | | 40% (4.4%) | | 9.8%(5.2%) | | 22% (7.9%) | | |
| 全員平均率(SD) | | | 46%(9.8%) | | 18%(10.7%) | | 31%(11.1%) | | | |
| | *CSE | 中国 | 中国 | 78.5 | 59.6 | 76% | 29.1 | 37% | 35.5 | 45% |
| | *CPO | | | 93.3 | 65.2 | 70% | 37.5 | 40% | 45.2 | 48% |
| | *CKA | | | 96 | 56.6 | 59% | 51.1 | 53% | 45.2 | 47% |
| | *CAU | | | 85.8 | 76.1 | 89% | 32.8 | 38% | 37.3 | 43% |

| | | | | | | | | |
|-----------|------------------|------|------------|-----|-----------|-----|-----------|-----|
| *CJE | 語 の 音 訳 | 92.8 | 84.1 | 91% | 37.8 | 41% | 59 | 64% |
| CIF | | 42.9 | 27.1 | 63% | 21.6 | 50% | 15.3 | 36% |
| CL | | 48.4 | 31.8 | 66% | 17.1 | 35% | 18.8 | 39% |
| 全員平均率(SD) | | | 73%(11.6%) | | 42%(6.3%) | | 46%(8.3%) | |

(単位：Hz)

表6から分かるように、跨拍上昇音を含む語の語頭無声と語頭有声の1・2拍目の高低差について、中国語の音訳アクセント(JY~JKA、CSE~CL)にはそれほど差はない。一方、日本語アクセントの場合(JY~JKA、JJMO~JJKO)、語頭無声ではほぼ10Hz前後のピッチ差で非常に平らな音調で発音されていること、また語頭有声ではすべて非頭高型の短音で綴られた語より1・2拍目の高低差が小さい(ほぼ3分の2しかない)ことが分かる。

また、日中の上昇調のピッチ曲線を比較すると、中国語音訳アクセントの母音は低音の音階での持続時間が日本語より長いことが分かる(例えば、「カーネーション」、「小さい(ちいさい)」、「運用(うんよう)」、「連絡(れんらく)」。図16と図17を参照)。日本語では語頭無声の場合、1拍目の母音のピッチ曲線は平らな形をしており、語頭有声の場合に母音のピッチ曲線がすぐ上がるのに対し、中国語では語頭の有声・無声と関係なく、母音は低音のまましばらく続く。中国語の第二声はまず舌先を下げて発音するので、第二声の音調は、最初に少し下がって低く続いた後で上昇する形、つまり凹の形になっている。日本語の跨拍上昇音は舌が平らな状態のまま上昇音を発音するので、語頭が有声音の場合、最初は低いですがすぐ上昇してしまう。つまり、凸の形、拋物線の形になっている。長い間日本に滞在している留学生でも、普段から日本人の発音に注意していなければ、自然な日本語の音声とはかなり異なる中国語の第二声に近い上昇音を発音してしまう。表6の日本語学習者CKO~CLNの跨拍上昇音の語頭無声と語頭有声のピッチ差を比較すると分かるように、東京語話者には比率上ほぼ倍の差が見られるが、学習者の場合、両者の間にはそれ程大きな違いは見られない。またピッチ曲線も中国語の第二声に似ている(図18の中国人日本語学習者CKOJの「カーネーション」、「小さい(ちいさい)」と図16を参照)。

以上の理由から、中国語の第二声を用いて東京アクセントの跨拍上昇音を指導する場合には慎重にしなければならないと思われる。

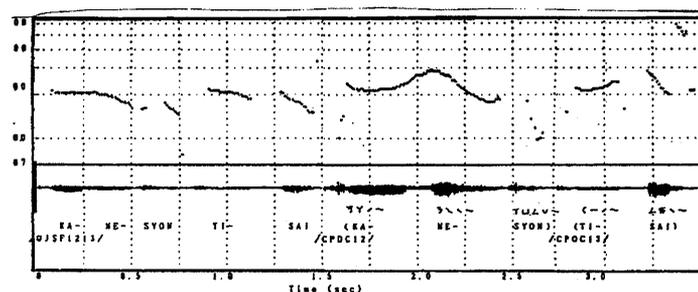


図16 東京語話者 OJSF の「カーネーション」、「小さい」と日本語を知らない中国人女性 CPO の中国語の発音「ㄎㄚˊㄋㄟㄣˊㄣˊㄣˊㄣˊㄣˊ」、「ㄎㄨㄞˊㄣˊㄣˊㄣˊㄣˊ」のピッチ曲線

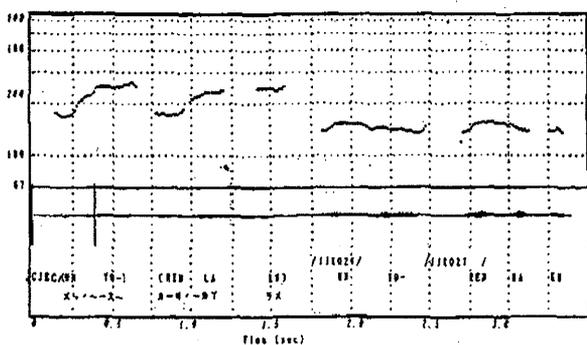


図 17 日本語を知らない中国人女性 CJE の中国語の発音「メラノ〜ヌ〜」、「カーヲノ〜カヤ ㄅㄨ」と東京話者 JJKO の日本語の発音「運用」「連絡」のピッチ曲線

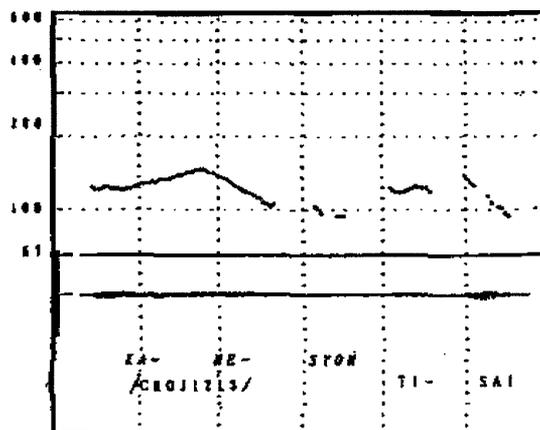


図 18 台湾日本語学習者 CKO の「カーネーション」、「小さい」のピッチ曲線

第3節 まとめ

東京アクセント 1 拍 1 音節の高音と低音のピッチ差と台湾の中国語(の普通の速さで平静な気持ちで交わされた会話)の高音と低音のピッチ差はほぼ同じであるが、ピッチ曲線は少し異なる。中国語の第一声と半三声のピッチ曲線は一定の形を維持しているが、日本語ではアクセント核の後の低音以外は形がかなり自由である。

従って、中国人教師が中国語の第一声と半三声を利用して東京アクセントの高音と低音を指導する時は、大体の音階を示すことにとどめ、学習者に第一声と半三声のピッチ曲線まで完全にコピーさせること(時間をかけて音を伸ばしながらゆっくり発音すると、中国語のピッチ曲線になりやすい)は避けるべきである。教師がアクセントのモデルを示す時には、自然な日本語の速さと高低で発音することが肝要である。

中国語(の普通の速さと平静な気持ちで交わされた会話)における下降調第四声のピッチ差は、東京アクセントの跨拍下降音のピッチ差と大差はないが、ピッチ曲線のパターンに違いがある。

中国語の上昇調第二声は上昇の高さが東京アクセントの跨拍上昇音より高く、しかも上昇のさせ方、ピッチ曲線のパターンも異なり、そのまま用いると、誤用を生じさせる可能性が大きい。第二声と第四声の利用は慎重にしなければならないと思われる。もし、学習者がどうしても東京アクセントの中の上昇と下降の音感が分からないのであれば、第二声と第四声を提示しても良いが、東京アクセントの上昇・下降との違いを注意深く説明しながら教えなければ、特に上昇で誤用を生じさせる可能性が高い。

また、中国語では上昇と下降の音調が 1 音節内で行われるので、日本語の上昇と下降の 2 拍の音節が同じ高さだと誤解する学習者もいる。以下の例のように同じ高さの組み合わせ(高音 2 拍と低音 2 拍)も併せて練習することが必要である。

例： $\left\{ \begin{array}{l} \overline{\text{カー}}、 \\ \underline{\text{カー}}、 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \overline{\text{カー}}、 \\ \underline{\text{カー}} \end{array} \right.$

本研究では、日本語教育の立場から中国語の四声と日本語の東京アクセントを比較対照した。その結果、東京アクセントの跨拍上昇音が中国人にとって一番難しいものであることが窺えた。東京アクセントの跨拍上昇音は、上昇の幅があっても、音を下げた後上昇するパターンではないため、そのピッチ曲線のパターン(拋物線のようなピッチパターン)は中国語では高く平らな第一声の範疇に入る。それゆえ、中国人には上昇音とは感じられないのである。また、舌の使い方も異なるため、ひとつひとつ真似することは非常に困難だと考えられる。

第3章 台湾上級日本語学習者の日本語語アクセントの音声・音響的特徴

第1節 調査の目的

外国人学習者が日本語（日本の共通語、以下同様）を東京語話者らしい東京アクセントで発音できるようになるためには、学習者の母語と目標言語の対照分析、学習者の音声・音響的特徴の分析を行う必要がある。中国語の四声と日本語の東京アクセントとの異同については第2章で検討した。本章では、日本語語アクセントの高低に関する指導法を考案するために、東京語話者の日本語音読資料と台湾の中国語話者の中国語音読資料、及び台湾上級日本語学習者の日本語音読資料の音声を比較し、語アクセントの高低について上級日本語学習者と東京語話者との音声・音響的な違いを究明する。

日本語語アクセントの高低に関する音声・音響的な学習上の困難点を把握するため、日本語教師を目指して日本文学・日本語教育を専攻し、更に日本に三年以上の在住歴がある台湾出身の中国人上級学習者を対象に、日本語語アクセントの高低に関する特徴を調査した。調査対象を以上のように限定したのは、長期間日本に在住経験のある上級学習者で東京アクセントと異なる箇所があれば、そこが特別に学習者に注意を払わせなければ習得が困難なところだと考えられるからである。また、現職の日本語教師や日本語教師を志す外国人学習者は東京語話者らしい東京アクセントで発音できるようになりたいという強い希望を持っている。その点においても本章の研究は必須であると思われる。

第2節 調査の方法

本研究では、実験方法として音読法を採用した。あらかじめ作成した録音資料を被験者に音読させ、音声を録音して機械で分析するものである。本章の目的は、日本語語アクセントの高低のどのような点が習得しにくいのかを調査することであるため、学習者にあらかじめ単語のアクセント型（数字方式）を知らせることによって単純なアクセント型の誤りを除外した。台湾日本語学習者のアクセント型の傾向については、野沢（1973）、蔡（1977）、河路（1988）、重松（1995）などで報告があるように、大半が“-2型（アクセント核が後からの2拍目）”になってしまうということである。

本実験は、本来、中国語の第一声・半三声と東京アクセントの高音・低音の異同、第二声・第四声と東京アクセントの跨拍上昇音・跨拍下降音の違いを比較するためにデザインされたものである。更に、学習者の音声資料を加え、学習者の語アクセントの高低の特徴を考察することも有効であると考えられる。詳しい実験方法は第2章第1節を参照されたい。

第3節 音声実験の結果と分析

3.1 高低差の比較

台湾上級学習者の日本語語アクセントと東京語話者の語アクセントに関する高低差を、頭高型語の1・2拍目の高低差(1拍目の最も高い所と2拍目の最も低い所の差)の平均値と非頭高型語（平板・尾高・中高型語）の1・2拍目の高低差の平均値から比較する。日本語

の場合には、後ろの音節ほど声が低くなるという生理現象があるため(杉藤 1997)、1・2拍目の高低差だけを比較する(2拍目が促音の時、1・3拍目を比較する)。

3.1.1 アクセント音域(頭高型語1・2拍目の高低差の平均値)の比較

本研究では、日本語単語における頭高型1・2拍目の高低差の平均値と、それに対応する中国語音訳アクセントの日本語1・2拍目に当たる音節の高低差の平均値を日中アクセントの音域と見なして比較する。2種類の頭高型語、短音で綴られた語(例えば「ふね」)と2拍目が長音か撥音の跨拍下降音語(例えば「チーズ」「うんめい」)の1・2拍目の高低差の平均値から総平均値を求めた。総平均値を個人のアクセント音域とし、下記の表1-B(16頁分再掲)にまとめた。

表1-B 各人のアクセント音域(頭高型語1・2拍目の高低差の平均値)のまとめ

| 東京語話者の日本語 | | | | 台湾の中国人の中国語 | | 台湾上級学習者の日本語 | | | |
|-----------|------|------------|-------|------------|------|-------------|------|------------|-------|
| JJA | 52.8 | JJS | 40.6 | CIF | 42.9 | CKO | 44.9 | CLN | 59.1 |
| JJF | 42.3 | JJKO | 54.7 | CL | 48.4 | 男性平均(SD) | | 52(10.0) | |
| 男性平均(SD) | | 47.6(7.2) | | 男性平均(SD) | | *CRI 64 | | *CKY 116 | |
| | | | | | | *CRY 64.5 | | *CYS 102.6 | |
| *JJM | 71.6 | *JJSR | 108.6 | *CSE | 78.5 | *CW | 93.8 | *CCM | 95.1 |
| *JJKA | 78.4 | *JJSK | 72.4 | *CPO | 93.3 | *CYE | 70.4 | *CCY | 62.3 |
| *JJMO | 91.7 | *JJMU | 86.7 | *CKA | 96 | *CWY | 64.3 | *CYU | 89.4 |
| *JJYA | 82 | | | *CAU | 85.8 | *CU | 69.3 | *CZU | 109.8 |
| 女性平均(SD) | | 84.5(12.9) | | *CJE | 92.8 | *CCH | 60.8 | *CMN | 46.1 |
| OJSM | 34.3 | *OJYM | 57.8 | 女性平均(SD) | | 女性平均(SD) | | 79.2(21.4) | |
| | | *OJSF | 47.7 | (7.1) | | (SD) | | | |

(単位: Hz)

注: “*”は女性を表す。被験者の大半は20~40代である。

: 各被験者を表す記号のうち、最初の文字は国籍を示す。Jは日本人、Cは中国人、OJは60~70代の日本人を示す。後の英文字は被験者の名前の略称である。

: SDは標準偏差を示す。

: 高齢者ではアクセント音域が小さいため、平均値の計算に入れないことにする。

表1-Bのデータから、音読単語の場合、女性の上級日本語学習者の数名にアクセント音域を少々抑え気味にする現象が見られる。それは恐らく中国語の音域が日本語の音域より広いという印象から、意識的に自分の日本語音域を抑えたためだと思われる。その結果、網かけ部分の学習者は同性同年代の東京語話者より音域が狭く、60、70代の女性東京語話者に近くなっていることが分かる。

3.1.2 非頭高型語における1・2拍目の高低差の比較

非頭高型語（平板・尾高・中高型語）における1・2拍目の高低差について比較する時、1・2拍目が短音で綴られた語と、2拍目に長音か撥音が入る跨拍上昇音を持つ語との2種類の単語に分けて考えられる。跨拍上昇音を持つ語は更に無声音（無声子音）で始まるものと有声音（母音、半母音、有聲子音）で始まるものとに分けられる。東京語話者が発する東京アクセントの場合、以上のような語の1・2拍目の高低差は以下のように示すことができる（括弧内の数値は、今回の調査での1・2拍目の高低差のアクセント音域に対する平均比率を示す。平均比率では年齢差の影響が少ないので、全員を集計した）。

短音で綴られた語 > 語頭有聲の跨拍上昇音を持つ語 > 語頭無聲の跨拍上昇音を持つ語
 (58%) (38%) (13%)

台湾上級学習者と日本語のできない台湾在住の中国人の平均比率は以下の通りである。

短音で綴られた語：語頭有聲の跨拍上昇音を持つ語：語頭無聲の跨拍上昇音を持つ語
 46% : 31% : 18%（上級学習者）
 73% : 46% : 42%（台湾在住の中国人）

平均比率から見ると、上級学習者の非頭高型短音で綴られた語の1・2拍目の高低差は、東京語話者と普通の中国人と比べて少々抑え気味の傾向が見られる（表6の個人データにもこの傾向が見られる）。一方、日本語のできない台湾在住の中国人の場合、語頭有聲・無聲にかかわらず、跨拍上昇音の1・2拍目に対応する中国語の音訳アクセントの音節はほぼ同じ高低差である。詳しい個人データは、下の表6（32～34頁分再掲）を参照されたい。

表6 非頭高型語1・2拍目の高低差の平均値とアクセント音域の比較

| 項目 被験者 | 母語 | 発話した 言語 | アクセント音域 | 非頭高型語（平板・尾高・中高型） | | | | | |
|-----------|-----|------------|---------|------------------|-----|-----------|-----|------|-----|
| | | | | 短音で綴られた語 | | 跨拍上昇音を持つ語 | | | |
| | | | | | | 語頭無聲 | | 語頭有聲 | |
| *JJMO | 東京語 | 東京語 | 91.7 | 59.3 | 65% | 10.5 | 11% | 58.8 | 64% |
| *JJYA | | | 82.0 | 48.7 | 59% | 6.7 | 8% | 28 | 34% |
| *JJSR | | | 108.6 | 52.9 | 49% | 21.7 | 20% | 57.8 | 53% |
| *JJSK | | | 72.4 | 57.6 | 80% | 4.9 | 7% | 18.5 | 26% |
| *JJMU | | | 86.7 | 36.8 | 42% | 6 | 7% | 37.3 | 43% |
| *JKA | | | 78.4 | 51.7 | 66% | 13.7 | 18% | 21.5 | 27% |
| *JJM | | | 71.6 | 38.3 | 53% | 6.3 | 9% | 23.2 | 32% |
| 女性平均 | | | 84.5 | 49.3 | 59% | 10.0 | 11% | 35.0 | 40% |
| *OJYM | | | 57.8 | 33.6 | 58% | 6.1 | 11% | 13 | 22% |
| *OJSF | | | 47.7 | 22 | 46% | 2 | 4% | 17 | 36% |
| JJA | | | 52.8 | 26.3 | 50% | 8 | 15% | 16 | 30% |
| JJF | | | 42.3 | 26.1 | 62% | 9 | 21% | 22 | 52% |
| JJS | | | 40.6 | 24.6 | 61% | 8 | 20% | 13 | 32% |

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---------|------------|----------|-------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|
| JJKO | | | | 54.7 | 41.9 | 77% | 10 | 18% | 27 | 49% |
| 男性平均 | | | | 47.6 | 29.7 | 63% | 8.8 | 19% | 19.5 | 41% |
| OJSM | | | | 34.3 | 16.6 | 48% | 5 | 15% | 11 | 32% |
| 全員平均 率(SD) | | | | | 58% (10.9%) | | 13% (5.5%) | | 38% (11.8%) | |
| 中国語 寄り | CKO | 中国語 | 日本語(学習者) | 44.9 | 22.6 | 50% | 14.3 | 32% | 17.3 | 39% |
| | *CRY | | | 69.8 | 34.1 | 53% | 24.5 | 35% | 34.3 | 49% |
| | *CW | | | 93.8 | 55.9 | 60% | 33 | 35% | 46 | 49% |
| | *CYE | | | 70.4 | 33.9 | 48% | 24.2 | 34% | 34.3 | 49% |
| | CLN | | | 59.1 | 16.7 | 28% | 15.3 | 26% | 21.3 | 36% |
| | 平均率(SD) | | | | | 48% (10.7%) | | 32.4 (3.4%) | | 44% (5.7%) |
| 東京語 寄り | *CZU | 中国語 | 日本語(学習者) | 109.8 | 50.4 | 46% | 21.4 | 19% | 32 | 29% |
| | *CWY | | | 64.3 | 44.1 | 69% | 9.2 | 14% | 19.5 | 30% |
| | *CU | | | 69.3 | 31.3 | 45% | 7.6 | 11% | 17.7 | 25% |
| | *CYS | | | 102.6 | 52.2 | 51% | 8.4 | 8% | 28.7 | 28% |
| | *CCM | | | 95.1 | 48.7 | 51% | 14.7 | 15% | 24.7 | 26% |
| | 平均率(SD) | | | | | 52% (8.7%) | | 13% (3.7%) | | 28% (1.9%) |
| 高低 差 不足 | *CKY | 中国語 | 日本語(学習者) | 116 | 38.2 | 33% | 10.7 | 9% | 30.8 | 27% |
| | *CYU | | | 89.4 | 34.8 | 39% | 13.1 | 15% | 32.7 | 37% |
| | *CCH | | | 60.8 | 23.2 | 38% | 3.1 | 5% | 9.3 | 15% |
| | *CRI | | | 64 | 25.1 | 39% | 10.6 | 17% | 13 | 20% |
| | *CCY | | | 62.3 | 24.9 | 40% | 6.9 | 11% | 12.2 | 20% |
| | *CMN | | | 46.1 | 22 | 48% | 0.9 | 2% | 6.6 | 14% |
| | 平均率(SD) | | | | | 40% (4.4%) | | 9.8% (5.2%) | | 22% (7.9%) |
| 全員平均 率(SD) | | | | | 46%(9.8%) | | 18%(10.7%) | | 31%(11.1%) | |
| *CSE | 中国語 | 中国語の 音訳 | 78.5 | 59.6 | 76% | 29.1 | 37% | 35.5 | 45% | |
| *CPO | | | 93.3 | 65.2 | 70% | 37.5 | 40% | 45.2 | 48% | |
| *CKA | | | 96 | 56.6 | 59% | 51.1 | 53% | 45.2 | 47% | |
| *CAU | | | 85.8 | 76.1 | 89% | 32.8 | 38% | 37.3 | 43% | |
| *CJE | | | 92.8 | 84.1 | 91% | 37.8 | 41% | 59 | 64% | |
| CIF | | | 42.9 | 27.1 | 63% | 21.6 | 50% | 15.3 | 36% | |
| CL | | | 48.4 | 31.8 | 66% | 17.1 | 35% | 18.8 | 39% | |
| 全員平均 率(SD) | | | | | | 73%(11.6%) | | 42%(6.3%) | | 46%(8.3%) |

(単位：Hz)

各々のデータから分かるように、東京語話者の場合、語頭無声跨拍上昇音と語頭有声跨拍上昇音の1・2拍目の高低差にはかなりの違いが見られる。無声跨拍上昇音の1・2拍目の

高低差は、JJSR 以外では 10Hz 前後或いはそれ以下である。また、東京語話者のうち、網掛けした 2 名以外は、短音で綴られた語の 1・2 拍目の高低差が語頭有声跨拍上昇音の 1・2 拍目の高低差より大きい。一方、台湾の上級日本語学習者 16 名の場合、東京語話者の平均比率に近い 5 人（東京語寄りのタイプ）を除くと、大体 2 つのグループ（中国語寄りのタイプと高低差不足のタイプ）に分けられる。アクセント音域との比率を見ると、短音で綴られた語と語頭有声の 1・2 拍目の高低差が東京語話者より小さいグループ（表の下側、高低差不足のタイプ）と、語頭無声の 1・2 拍目の高低差が東京語話者より大きいグループ（表の上側、中国語寄りのタイプ）がある。語頭無声の 1・2 拍目の高低差が大きいグループ（中国語寄りのタイプ）は短音で綴られた語と語頭有声の語における 1・2 拍目の高低差がほぼ同じで、語頭無声の高低差も語頭有声の高低差よりやや小さいだけである。

更に、表 2 の平均比率のデータを検定にかけた。発話した言語は東京語と中国語の音訳（以下中国語と略称）に、学習者の日本語を中国語寄り、東京語寄り、高低差不足の 3 タイプに分けたものを合わせて 5 水準にして計算した。非頭高型語の 1・2 拍目の高低差については、短音綴り、語頭無声跨拍上昇音、語頭有声跨拍上昇音の 3 水準に分けた。5（発話した言語）×3（非頭高型語）の 2 要因分散分析を行った結果、発話した言語の主効果は、 $F(4,32) = 24, p < .05, MSe = 0.010$ で有意であった。非頭高型語の主効果も $F(2,64) = 121.8, p < .05, MSe = 0.007$ で有意であった。二つの主効果が有意であったので、Ryan 法による多重比較の検定を行った結果、言語要因において、中国語と他の 4 水準の間、高低差不足のタイプと中国語寄りの間、高低差不足のタイプと東京語の間、中国語寄りと東京語寄りのタイプの間、5%水準で有意な差が見られた。また、非頭高型語要因において、各水準の間に 5%水準で有意な差が見られた。交互作用が有意であったので、単純主効果の検定（Ryan 法）を行った。その結果を表 7 に示す。

表 7 各単純主効果における多重比較の結果

| | |
|-------|---|
| | |
| 短音綴り： | 中国語 > 東京語 ≒ 東京語寄り ≒ 中国語寄り ≒ 高低差不足 (5-1, 5-3, 5-2, 5-4, 1-4) |
| 語頭無声： | 中国語 ≒ 中国語寄り > 東京語寄り ≒ 東京語 ≒ 高低差不足 (5-3, 5-1, 5-4, 2-3, 2-1, 2-4) |
| 語頭有声： | 中国語 ≒ 中国語寄り ≒ 東京語 ≒ 東京語寄り ≒ 高低差不足 |
| | |
| | (5-3, 5-4, 2-3, 2-4, 1-4) |
| 東京語 | ：短音綴り > 語頭有声 > 語頭無声 (1-3, 1-2, 3-2) |
| 中国語寄り | ：短音綴り ≒ 語頭有声 > 語頭無声 (1-2, 3-2) |
| 東京語寄り | ：短音綴り > 語頭有声 > 語頭無声 (1-3, 1-2, 3-2) |
| 高低差不足 | ：短音綴り > 語頭有声 > 語頭無声 (1-3, 1-2, 3-2) |
| 中国語 | ：短音綴り > 語頭有声 ≒ 語頭無声 (1-3, 1-2) |

注：“>”はより大きいことと5%水準で有意差が見られたことを示す。

“=”は5%水準で有意差が見られないことを示す。

() 括弧内は5%水準で有意差が見られたペアを表す。

言語の要因の中での各水準の番号：1-東京語、2-中国語寄り、3-東京語寄り、
4-高低差不足、5-中国語

非頭高型語の要因の中での各水準の番号：1-短音綴り、2-語頭無声、3-語頭有声

表7の各単純主効果における多重比較の結果より、以下の3点が証明されたと見える。

- ① 高低差不足タイプの学習者の短音綴りと語頭有声跨拍上昇音を持つ語の1・2拍目の高低差は中国語と東京語に比べてより小さい。
- ② 中国語と中国語寄りタイプの語頭無声跨拍上昇音を持つ語の1・2拍目高低差は東京語より大きい。
- ③ 東京語の非頭高型語1・2拍目の高低差については短音綴りと語頭有声と語頭無声の間には差がある。

以上のことから次のことが考えられる。東京語話者の平均比率と離れている台湾の上級学習者は大体2タイプに分けられる。中国語寄りのタイプでは、短音綴りの語と跨拍上昇音の語頭無声と語頭有声の語において1・2拍目の高低差に違いがあることに気付かずに、大体同じような高低差で発音している。高低差不足のタイプは、入門期に教わったのか(学習者CKYは日本語の1拍目の低音は普通の高音の半分の高さだと指導されたという)、日本人の発話から気付いたのか、非頭高型語の1拍目は普通の語の低音より高いということを知っている。また中国語の音域が日本語より広いという印象からだろうか、1・2拍目について意識的に全て高低差の小さい発音をしている。今回の調査では短音、語頭無声、語頭有声を区別して発音できる学習者は全体の3分の1ほどに限られている。

3.2 ピッチ曲線の比較

台湾上級学習者と東京語話者の語アクセントのピッチ曲線を比較すると、両者には以下のような特徴が見られた。

まず、東京語話者については

- ① 殆どの場合、頭高型語頭有声の単語には始めの部分に丸みのある曲線が観察された(図19 東京語話者 JJMO の「荷物」を参照)。
- ② 殆どの場合、高音が続く語尾に自然下降の傾向が見られた(図20 東京語話者 JJMO の「連絡」と「そんな」を参照)。
- ③ 跨拍上昇音のピッチ曲線は、まれに中国語の第二声に似たピッチ曲線“∨(先端下降後上昇)”も見られたが、主に“—(平坦)”、“∩(拋物線上昇)”の2種類が観察された(図20 東京語話者 JJMO の「そんな」と「連絡」を参照)。それぞれの比率は語頭有声の跨拍上昇音で“—”平坦型が23%、“∩”拋物線上昇型が76%、“∨”先端下降後上昇型が1%、語頭無声の跨拍上昇音で“—”平坦型が85%、“∩”拋物線上昇型が12%、“∨”先端下降後上昇型が3%であった。以上の比率から、語頭有声跨拍上昇音のピッチ曲線の形は主に“∩”拋物線上昇型、語頭無声では“—”平坦型だと言える。詳しい個人データは表8を参照されたい。

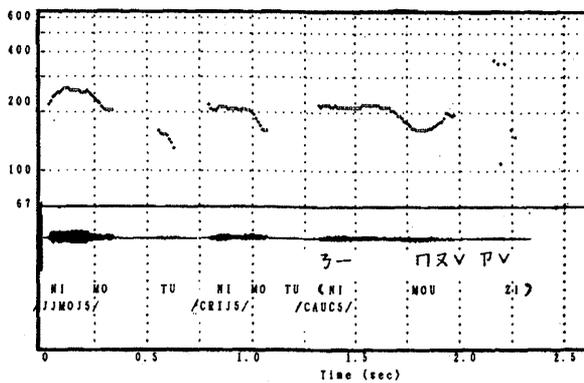


図 19 東京語話者 JJMO と学習者 CRI の「荷物」と 中国人 CAU の「ろー ㄇㄨㄨ ㄆㄨ」のピッチ曲線。(注：図の中の被験者を表す最後の文字は発音した言語である。J は日本語、C は中国語を表す。以下同様)

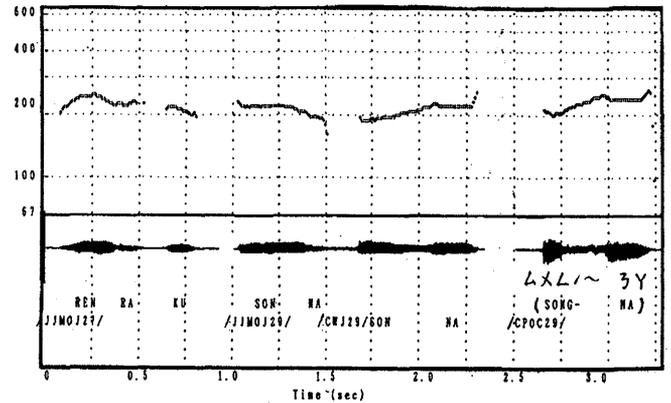


図 20 東京語話者 JJMO の「連絡」「そんな」、学習者 CW の「そんな」と中国人 CPO の「ムムム〜 ㄗㄩ」のピッチ曲線

表 8 東京語話者の語頭跨拍上昇音のピッチ曲線の形

| 被験者 | 平坦型 “—” | | 拋物線上昇型 “∩” | | 先端下降後上昇型 “∪” | |
|-------|------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|----------------|
| | 無声 | 有声 | 無声 | 有声 | 無声 | 有声 |
| *JJMO | ◎ | × | × | ◎ | × | × |
| *JJYA | ◎ | × | △ | ◎ | × | × |
| *JJSR | ○ | × | △ | ◎ | △ | × |
| *JJSK | ◎ | ○ | × | ○ | × | × |
| *JJMU | ◎ | × | × ₂ | ◎ | × | × |
| *JKA | ○ | × ₁ | △ | ◎ | × | × |
| *JJM | ◎ | △ | × | ○ | × ₁ | × ₁ |
| *OJYM | ◎ | ◎ | × ₁ | × ₁ | × | × |
| *OJSF | ◎ | △ | × | ○ | × | × |
| JJA | ○ | × ₁ | △ | ◎ | × | × |
| JJF | ◎ | × | × | ◎ | × ₂ | × |
| JJS | ◎ | × ₁ | △ | ◎ | × | × |
| JJKO | ◎ | × | △ | ◎ | × | × |
| OJSM | ◎ | ○ | × | △ | × | × |

注：◎→殆どの場合見られる (100~80%) ○→多く見られる (79~40%)

△→若干見られる (39~20%)

×→殆ど見られない (19~0%)

必要に応じて下付きの数字で実数を示す。語頭無声の跨拍上昇音の総数は 15、語頭有声の跨拍上昇音の総数は 6 である。

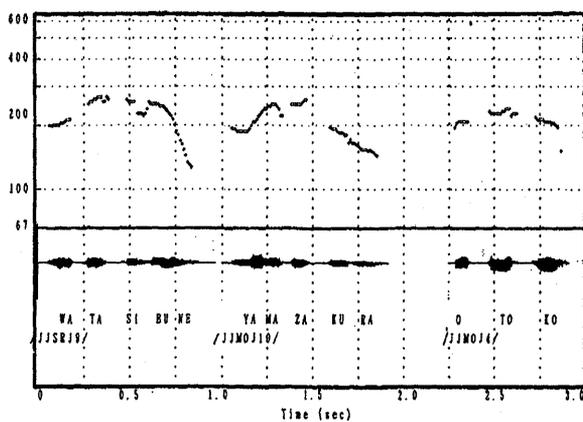


図 21 東京語話者 JJSR の「渡し舟」と JJMO の「山桜」と「男」のピッチ曲線

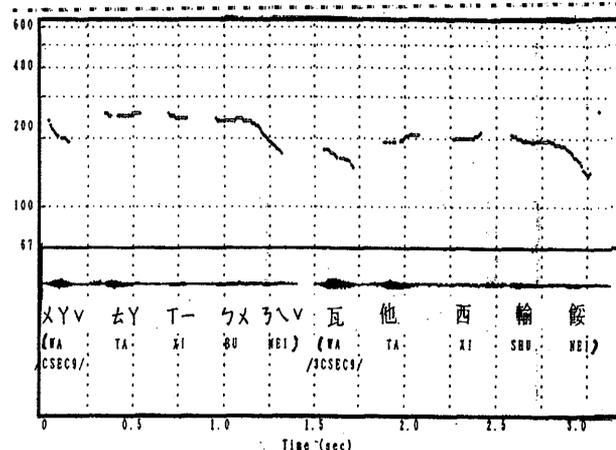


図 22 中国人 CSE の「メ Y ヴ 去 Y T- クメ ろへ V」と「瓦他西輪餃」のピッチ曲線

- ④ 日本語の基本的な文音調は“へ”の字の形をしていると言われているが、それは語レベルにも当てはまると考えられる⁽¹⁶⁾。上記①②の特徴だけではなく、語中にも拋物線のような上昇が見られる(図 21 を参照)。これは中国語には見られないピッチ曲線の動きである⁽¹⁷⁾。川上(1956、1995 再録 p. 66)は日本語の単語における第 1 拍直後の上昇は文音調の一つの型で、「単語に本来備わった音調ではなく、その語が文の最初の成分としての資格に於いて与えられた音調である」と指摘している。実は語頭だけでなく、語中、語尾も文と同じ基本音調をしている。佐藤(1993)は「単語のピッチパターンは、1 音節から 2 音節目にかけて上昇し、アクセント核のある音節の次の音節にかけて大きく下降する(p. 14)」と述べているが、拋物線のような語のピッチ曲線の中で最も高いところがどこなのかが問題になろう。今回の実験で得られたピッチ曲線を観察する限り、非頭高型で平板型の場合は 2 拍目が、非頭高型の他の型では 2、3 拍目が最も高いようである(図 20、図 21 を参照)。

次に、参考までに、具体例を 4 例挙げ、学習者の日本語におけるピッチ曲線の特徴について述べる。学習者の全体については、第 5 節の表 10 に示す。

I. 学習者 CYE: 日本語学習歴 8 年半、日本在住 3 年 4 ヶ月

- ① 頭高型語頭有声音の単語では曲線に出だしの丸みが見られなかった。
- ② 高音が続く語尾に自然下降の傾向が見られず、語尾高音は中国語語尾の第一声のピッチ曲線“一”平坦尻尾上昇型に似ている。

⁽¹⁶⁾ 語頭無声の頭高型語には先端部分の上昇があまり見られないが、それは無声子音の影響で“へ”の形はやはり日本語の基礎的な音調パターンだと考えても差し支えなからう。

⁽¹⁷⁾ この点について、中国語音訳アクセントによる単語音読だけでは不十分であるため、音訳アクセントの母音と声調を残し、子音だけを変えて、47 語の音訳アクセントを意味の通じる中国語の単語と短文にした(例えば、阿藕、蟻哭、苦兮、狗都偷)。日本語のできない台湾在住の中国人 5 名に読ませたところ、有声音と無声子音の変更、第二声と第三声の変調による違い以外、意味の有無による単語と文のピッチ曲線の違いは見られなかった(図 22 「メ Y ヴ 去 Y T- クメ ろへ V」と「瓦他西輪餃」を参照)。

- ③ 跨拍上昇音のピッチ曲線は語頭有声・無声を問わず、中国語の第二声のピッチ曲線“∨”先端下降後上昇型に似ている（図 23 CYE の「清々」と「感じ」を参照）。
- ④ 跨拍下降音のピッチ曲線は高音部分が不足していて、中国語の第四声のピッチ曲線“\”垂直下降型に似ている（図 23 CYE の「感謝」を参照、東京語の場合は“ㄣ”丸い下降型の形をしている）。

II. 学習者 CWY：日本語学習歴 7 年半、日本在住 3 年半

- ① 語頭無声の跨拍上昇音のピッチ曲線は平坦型、“∨”先端下降後上昇型の 2 種類が見られた。語頭有声では平坦型、“∨”先端下降後上昇型、“∩”拋物線上昇型の 3 種類が見られた。いずれの場合にも、殆ど中国語の第二声のように聞こえる（図 23 CWY の「空港」「政治」を参照）。この問題については、3.3 節で詳しく論じる。
- ② ほかの特徴は I の①②と同様である。

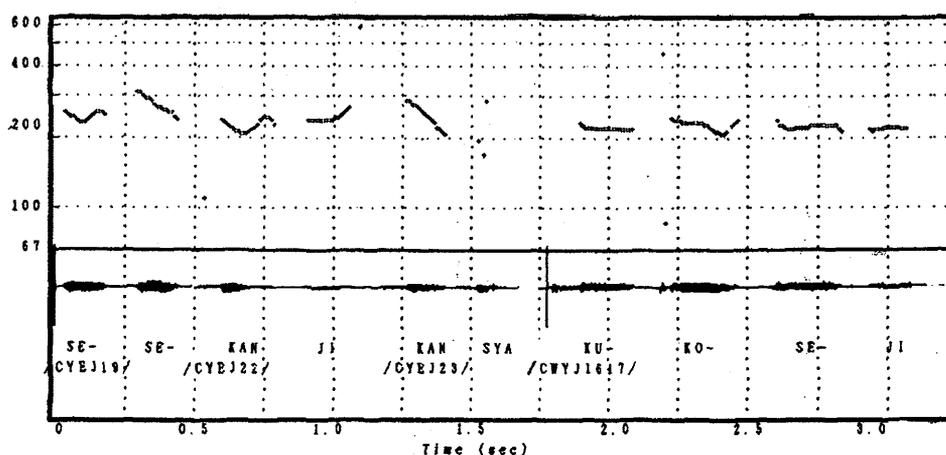


図 23 学習者 CYE の「清々」「感じ」「感謝」と CWY の「空港」「政治」のピッチ曲線

III. 学習者 CKY：日本語学習歴 8 年、日本在住 4 年

- ① 頭高型語頭有声音の単語のうち 4 単語（レンズ、マーク、飲む、利益）の語頭に少し丸い曲線が見られた。
- ② 高音の続く語の一部（運用、そんな、インフレ）の語尾に自然下降の傾向が見られた。
- ③ 語頭無声の跨拍上昇音のピッチ曲線は主に平らになっているが、“∩”階段性上昇型と“∩”拋物線上昇型の 2 種類も見られた。語頭有声では平坦型と“∩”拋物線上昇型になっている。
- ④ 短音綴り非頭高型語の 1・2 拍目の高低差が不足しており、一部では 1 拍目の低音を高音と同じ高さで発音している。一方、跨拍下降音の低音は響きが低く、結果として、音域が著しく大きく、下降音の音節が長すぎる傾向がある。この問題については、3.3 節で詳しく論じる。

IV. 学習者 CU：日本語学習歴 9 年、日本在住 4 年

- ① 多くの頭高型語頭有声音の単語で語頭に丸みの曲線が見られた。
- ② 一部の高音が続く語尾に少し自然下降の傾向が見られた。
- ③ 語頭無声の跨拍上昇音のピッチ曲線は殆ど平坦型であるが、“∩”階段性上昇型と“∨”先端下降後上昇型も観察された。語頭有声では、主に平坦型と“∩”拋物線上昇型

の2種類が見られたが、“ㄣ”階段性上昇型と“ノ”先端下降後上昇型も観察された。

④ 非頭高型語の1、2拍目の高低差が小さく、60、70代の女性東京語話者に似ている。

上の4名を含め、上級日本語学習者16人全体のピッチ曲線の特徴をまとめると、以下のようになる(表10を参照)。

①多くは、頭高型語頭有声音語の語頭に丸みが見られなかった。

②多くは、高音が続く語の語尾に自然下降の傾向が見られなかった。

③多くの跨拍上昇音のピッチ曲線は、語頭有声・無声を問わず、中国語の第二声のピッチ曲線“ノ”先端下降後上昇型に似ている。

④7人の学習者では短音の非頭高型語の1・2拍目の高低差が不足する傾向がある。この問題については、3.3節で詳しく論じる。

上の①から③は中国語の影響によるものと言えよう。

3.3 音声・音響的な比較

1・2拍目の高低差とピッチ曲線の違いをもたらす最大の要因は、発音の仕方に由来すると考えられる。日本語の場合、頭高型語頭有声音語の語頭に丸みが見られること、高音が続く語の語尾に自然下降の傾向があること、語中の2・3拍目に拋物線上昇の頂点が見られることは、全て発音の仕方と関係している。日本人は単語を発音する時、口を開いた瞬間から力をいれて発声するため、声が上昇し、呼気の減少と連動して声が低くなる。単語の途中で、ポーズを入れることはなく、息継ぎもしない。そのため、ピッチ曲線も高音・低音を問わず、拋物線のような動きをする。このような動きは文と文節にも当てはまる。一方、中国人はピッチ曲線の形を厳しく要求されているので、口を開いて一定の位置に着いてから発声し、最後まで緊張を持続させてピッチ曲線の高さを保つ。長い単語の場合、調音するため途中で息継ぎしたり、途切れたりする可能性がある。また、語中のピッチ曲線にも拋物線のような上昇と下降の力がないので、高音と低音では平行線のまま、一定の高さとピッチ曲線の形を保っている(図22を参照)。従って、学習者CKYやCCHのように非頭高語の高音と低音の差を狭めると、語中での上昇がないため、1・2拍目の高低差が同年代の日本人女性と比べて不足する傾向が生じる(図24学習者CCHの「渡し舟」を参照)。

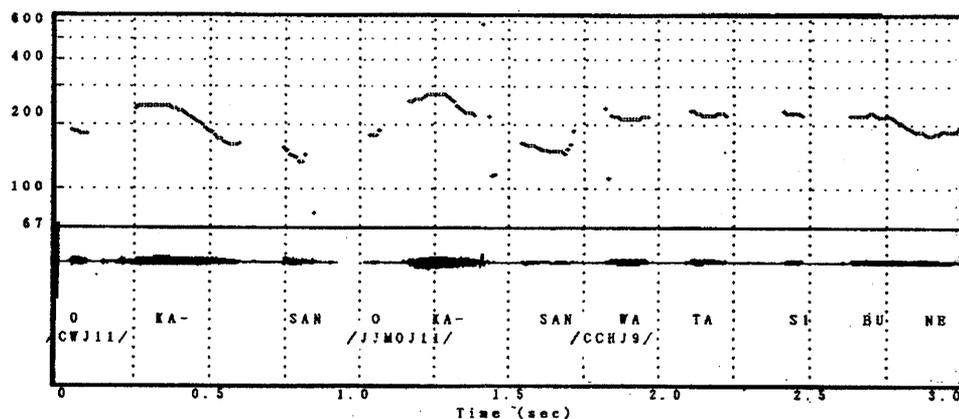


図24 学習者CWと東京語話者JJMOの「お母さん」と学習者CCHの「渡し舟」のピッチ曲線

学習者 CWY の跨拍上昇音は上昇幅が小さく、明らかに中国語の第二声の“ㄣ”先端下降後上昇型のピッチ曲線と異なるにもかかわらず、中国語の第二声のように聞こえる。2.4.2 節では「中国語の第二声はまず舌先を下げて発音するので、第二声の音調は最初は少し下がって低く続いた後、上昇する形、つまり凹の形になっている。日本語の跨拍上昇音は舌が平らな状態のまま、上昇音を発するので、語頭が有声音の場合、最初は低いですがすぐ上昇してしまう。つまり、凸の形、拋物線の形になっている。」と述べたが、日本語の跨拍上昇音と異なる中国語第二声には、もう一つ重要な特徴があると思われる。CWY の跨拍上昇音が中国語の第二声に聞こえる原因は、喉奥（鎖骨の上あたり）の共鳴音¹⁸を使っているからである。手を喉に当ててみると、日本語の音節は主に喉仏（下側の周辺も含む）或いは喉の上半分**に強い振動を感じるが、中国語の第二声と第三声は喉奥の共鳴音を使っているため、喉仏の下（特に鎖骨の上あたり）に強い振動を感じる（因みに、中国語の第一声は喉奥の共鳴音を使わなくてもいい）。**植田（1986）は日本語は一音一音が短く切れやすい性格を持っていると述べているが、それは植田が指摘した日本語の口腔の広がりが狭いという原因以外に、喉奥の共鳴音を使わないことも関係していると思われる。喉奥の共鳴を使わない場合は、幅の大きい上昇音を発することは難しい。日本語の跨拍上昇音は舌を下げると同時に発音され、舌が元の位置に戻るまでに終わるが、中国語の第二声は主に舌が元の位置に戻る時に喉奥の共鳴を使って上昇音が発音される（日本語は中国語と比べて、舌の下げ幅はわずかである）。従って、CWY の跨拍上昇音は上昇幅が小さくても、喉奥の共鳴音を使っているため、日本語の跨拍上昇音とは違う音質を持つことになる。また、中国語の第四声は喉奥の共鳴を使っても使わなくても発音することができるのだが、学習者 CKY と CW などは日本語の跨拍下降音に喉奥の共鳴を強く利かせているので、音域が著しく大きくなり、跨拍下降音の長さも 2 拍より長くなる（図 24 学習者 CW「お母さん」を参照）。従って、発音の仕方を変えれば、音域が大きすぎる問題と、跨拍下降音の拍の問題は同時に解決できるのである。学習者 16 名中、11 名は清音の低音或いは跨拍上昇音を発音する時、多かれ少なかれ喉奥の共鳴音を使っている。

第 4 節 日本人の評価

4.1 調査の目的と方法

以上、台湾上級学習者と東京語話者の語アクセントについてアクセント音域とピッチ曲線、音声・音響的な特徴などを比較したが、それらの違いについて、日本人がどのように評価するのかを調べるために、11 名の日本人（地方出身者 4 名、東京都出身者 7 名）を対象にアンケート調査を行った。台湾上級学習者 9 名が発音した日本語の単語 47 語のテープを聞き、外国人訛りだと感じたところとその理由、外国人訛りの程度評価（「日本人と全然違う」＝

¹⁸本論では、共鳴音を「空気のかたまりを喉の気管と声道の間に移動させ、いずれかの部位に押し当てることによって、その大きさを増幅させる音」とする。共鳴に使われ、空気のかたまりに押し当てられた喉の気管或いは声道の一部に、音や空気の振動によるびりびり感が感じられる。

4点、「日本人とかなり違う」=3点、「日本人と違う」=2点、「日本人と少し違う」=1点、東京語話者には「日本人」のところを「東京語話者」に置き換える)を回答させた。本論文の論点と関係する3種類について、日本人の意見と評価の一部を下記の表9に載せ、分析を加える(日本人の意見と評価の全資料について資料編の資料2を参照)。

4.2 調査結果と分析

表9 学習者CRYの発音に対する日本人のアンケート回答の一部:

| あお (青) | | いく (行く) | | うし (牛) | |
|------------------------------------|---|------------------|---|---------------------------|---|
| M オウ | 4 | M クウ | 4 | M ウが低すぎ (筆者注: 喉の奥で言っている)。 | 1 |
| S オを喉の奥で言っている。 | 4 | S イとクを喉の奥で言っている。 | 4 | S ウは喉の奥が響いている。 | 2 |
| K 少しオウになっている。 | 2 | I クはグに近い。 | 2 | | |
| I オがウに近い。 | 2 | H クウになっている。 | 2 | | |
| B オウになっている。 | 4 | C クの響きが違う。 | 1 | | |
| C オが妙な響き。 | 2 | | | | |
| おとこ (男) | | にもつ (荷物) | | けっこん (結婚) | |
| M ムオ (筆者注: 喉の奥で言っている) | 4 | C モは妙な響き。 | 2 | M コンの語尾が高すぎ。 | 1 |
| | | | | S 語尾が高すぎ。 | 1 |
| カーネーション | | やまざくら (山桜) | | マーメイド | |
| N カーが少し長い。 | 1 | K ザに力が入り気味。 | 1 | T マーは平板にするほうがいい。 | 1 |
| S ネイアのネイアは最後に尻尾が上がっている) | 4 | A もう少しマを強く発音すべき。 | 2 | S レイアを伸ばしすぎ。 | 4 |
| K ネの長音が低い。 | 2 | | | I 2拍目の長音が高すぎる。 | 2 |
| I 長音が長すぎ、長音の音程が変化している。 | 3 | | | | |
| B カーが伸ばしすぎ。 | 1 | | | | |
| コーヒー | | コーディネーター | | | |
| S ヒが少し高い (筆者注: コーの声調の影響で、ヒが高く聞こえる) | 1 | K コが低すぎ。 | | I コーが長すぎる。 [o] が目立ちすぎ。 | 2 |
| I コーが長すぎる。 [o] が目立ちすぎ。 | 1 | | | | 1 |

注: 各回答者を最初の英文字で表す。M、N、T以外は東京語話者。

アンケートの回答を参照しながら、台湾上級学習者の語アクセントの高低に関して日本人に外国人訛りだと判断された点について、学習者の母語中国語と関連付けながらその原因と理由を探ってみる。

① 中国語声調の影響に関するもの

第一声の影響：日本語の場合、高音が続く語の後部は下がる傾向が強く、中国語語尾の第一声のように平坦尻尾上がり“一”の語尾高音は存在しないので、単語語尾の平坦尻尾上がり高音は外国人訛りと見られる原因になる。例：「結婚」

第二声の影響：日本語の跨拍上昇音の上昇パターンは、中国語の第二声と異なるため、日本人には違和感がある。アンケートの回答から、平板に発音すべきだという指摘も見られたが、多くの人はそれが上昇の仕方の違いによるものだと気付かず、2拍目の長音が長すぎる、長音の母音が強すぎる、跨拍上昇音の音節を強調しすぎるなどとしている。例：「カーネーション」、「マーマレード」、「コーヒー」、「コーディネーター」

第四声の影響：中国語の第四声は高いところから斜めにまっすぐ下降する声調で、先端は第一声の高さより若干高い。その影響を受け、学習者は時々語中の跨拍下降音の先端を前の高音より高く発音する傾向がある。例：「コーヒー」、「マーマレード」

また第四声は伸ばした時に、末尾が少し上がる現象があり、学習者の跨拍下降音にも同じ現象がいくつか指摘された。例：「カーネーション」

② 単語全体の高低

日本語は単語、文節、文の音調がすべて“へ”の形をしている。従って、学習者の語中語末の音が前の音より高かったり、強かったりする場合、外国人訛りと見られる原因になる（中国語の第一声と第四声の影響で生じた外国人訛りも、この問題と関係する）。しかし、中国語では声調を維持する関係で音の衰減現象が非常に弱く、また日本語のアクセント核にはっきり高低を付けようとする学習者の心理によって、最初から声を強く高く発音する日本人の言語習慣に反して、声の高さがアクセント核まで徐々に上昇しアクセント核の後で一気に下がるという例もいくつかある。また、中国語の影響で無声子音の息が強すぎたり、発音の難しい濁音を強く発音することから単語の途中で音が高くなることもある。例：「渡し舟」、「山桜」

③ 中国語式共鳴音の影響

3.3 節で言及した中国語式の共鳴音は、日本人に外国人訛りだと思われる大きな原因になっている。中国人は四声(第一声を除く)を調音する時、音を上げ下げするのに、喉仏の下(特に鎖骨の上辺り)を使って音を共鳴させる。そのため、上昇音と下降音のピッチ差が大きくなる。日本人の場合は、日本語の有声音の高音と無声音については主に口腔(撥音では主に鼻腔)を、有声音の低音については主に喉仏と喉仏の下を共鳴に使用しているようである。日本語話者のアンケートの回答から、喉奥の共鳴音を強く利かせた学習者の発音について、それが濁音に聞こえたり、[u]を挿入した音に聞こえたり、低すぎたり、おかしい響きと感じたりするようであった。跨拍上昇音と下降音のピッチ差も大きく、2拍より長くなる現象もしばしば見られる。従来音声学では、喉の共鳴部位は重視されていないが、東京語話者らしい発音を習得しようとする中国人学習者にとって、大きな問題になりうると言えよう。

第5節 まとめ

以上の考察から、台湾の学習者は上級レベルであっても、母語の発音の仕方が強く根付いており、自然な日本語の音質とかなり異なる音を発音していることが分かった。長期間日本に住んでいるとは言え、日本語の韻律要素は簡単に身に付くものではないと言えよう。発音を教え始める時には、日本語の発音の仕方から教えたいためである。そこで、本章で判明した日本語単語の発音の特徴を、以下のようにまとめる。

- ① 一つの単語を発音する時、口を開いた瞬間から力を入れて発音し、「へ」の形にすばやく音を上昇させてから、呼気の減少と連動して音を下降させる。途中でポーズを入れることはなく、息継ぎもしない。この基本的な韻律パターンは文と文節の韻律パターンにも繋がる。
- ② 日本語は有声音の低音以外、特に清音の無声音から始まる音節（例：／k a／）では喉下部の共鳴音を使わないので、跨拍上昇音・下降音、低音を発音するいずれの場合にも喉奥の共鳴音は使わない。日本語の有声音音節（例：／o／、／r a／）では、低音を発音する時に限り喉仏の下側の周辺の共鳴音が使われる場合がある。従って、喉奥の共鳴音を使わないことによって、跨拍上昇音・下降音、低音の自然な日本語の音質に近づき、音域が大きすぎる点や、拍の長さの改善にもつながるであろう。

最後に、第3節から第4節までの上級学習者の日本語語アクセントの高低に関する特徴について論じたものを以下の表10にまとめる。

表10 上級学習者の日本語語アクセントの高低に関する特徴

| 特徴 | 学習者 | CYE | CRY | CW | CKO | CRI | CWY | CKY | CCH |
|-------------------------------|-----|----------------|----------------|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 日本語の学習歴（年） | | 8.5 | 8 | 9 | 12 | 10 | 7.5 | 8 | 12.5 |
| 日本在住歴（年） | | 3.3 | 3 | 5 | 8 | 6 | 3.5 | 4 | 7.5 |
| 1・2拍目の高低差が不足 ⁹ | | △ | △ | × | × | ○ ₄ | △ | ○ ₅ | ◎ |
| 頭高型有声音単語の語頭の丸み ⁹ | | × | × | × | ○ | × | × | ○ | × |
| 高音連続での自然下降 ¹⁴ | | × | × | × | △ | △ | × | △ | × |
| 無声跨拍上昇音のピッチ曲線の形 ¹⁵ | — | × ₁ | × ₁ | × | × | △ | ○ | ◎ | ◎ |
| | ✓ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | △ | × | × |
| | ∩ | × | × | × | × | × | × | × ₁ | × |
| 有聲跨拍上昇音のピッチ曲線の形 ⁹ | — | × | × | × | × | △ | × ₁ | ○ | ◎ |
| | ✓ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | △ | × | × |
| | ∩ | × | × | × | × | × | ○ | ○ | × ₁ |
| 急下降の跨拍下降音 ⁹ | ∩ | ○ | × | × | × | △ | × | △ | × |
| 高音語尾 ¹⁷ | — | ○ | ○ | ○ | × ₁ | × | ○ | △ ₂ | △ |
| 後続下降音の先端が高すぎる ⁹ | | △ | △ | ○ | ○ | × ₁ | × ₁ | × | × |
| 喉奥の共鳴音 | | 2 | 5 | 25 | 9 | 11 | 6 | 0 | 4 |

| 特徴 | 学習者 | CU | CLN | CYS | CCM | CCY | CYU | CZU | CMN |
|-----------------------------------|-----|----------------|----------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 日本語の学習歴 (年) | | 9 | 10 | 8 | 10 | 9 | 8 | 9.5 | 10 |
| 日本在住歴 (年) | | 4 | 6 | 3 | 3.2 | 3 | 5.5 | 5.3 | 7 |
| 1・2 拍目の高低差が不足 ⁹ | | ○ ₆ | ○ ₆ | × | × | ○ ₄ | × | × | ○ ₅ |
| 頭高型有声音単語の語頭の丸み ⁹ | | ○ | × | △ | △ | ○ | △ | ○ | × |
| 高音連続での自然下降 ¹⁴ | | △ | △ | × | × | △ | × | △ | × |
| 無声跨拍上昇音のピッチ 曲線の形 ¹⁵ | — | ◎ | ○ | ◎ | △ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | ✓ | × ₁ | △ | × | ○ | △ | △ | × ₂ | × |
| | ∩ | × | × ₂ | × ₁ | × | × | × | × ₂ | × |
| 有聲跨拍上昇音のピッチ 曲線の形 ⁶ | — | △ ₂ | × ₁ | × | × | △ | △ | × ₁ | ◎ |
| | ✓ | × ₁ | ○ | × | ○ | ○ | × ₁ | △ | × |
| | ∩ | △ | × ₁ | ◎ | △ | × ₁ | △ | ◎ | × |
| 急下降の跨拍下降音 ⁹ | ∖ | × | ○ ₇ | × | × | × | × | × | × |
| 高音語尾 ¹⁷ | — | × | × ₂ | × ₁ | ○ ₁₁ | × ₂ | × | × ₁ | × |
| 後続下降音の先端が高すぎる ⁹ | | × | △ | ○ | △ | △ | ○ ₆ | △ | × ₁ |
| 喉奥の共鳴音 | | 0 | 11 | 0 | 4 | 17 | 0 | 0 | 10 |

注：◎→殆どの場合見られる（100～80%） ○→多く見られる（79～40%）

△→若干見られる（39～20%）

×→殆ど見られない（19～0%）

網掛けは東京アクセントの特徴であることを示す。

必要に応じて下付きの数字で実数を示す。喉奥の共鳴音は日本人が気になったと答えた箇所の拍数を示す¹⁹。

表 10 を見て分かるように学習者の学習歴と在日年数は差異をもたらす原因ではない。個人的な資質すなわち音感が良いかどうかによって左右される部分が多いと思われるが、母語の影響以外にもどのようなアクセント教育を入門初期で受けたかも大きな原因となる。アクセント教育を重んじる多くの中国人教師は日本語のアクセント記号通りの発音を学生に教える。しかし、実際の日本語の音声には音韻的なアクセント記号と食い違う部分があることに外国人である我々は殆ど気付かないのである。語頭の跨拍上昇音をアクセント記号通りに発音すれば、中国語の第二声のようなピッチ曲線“∩”が正しいはずだが、実際に東京語話者は違う発音をしている。典型的な中国語型の発音をする CRY から CRI の 4 人の上級学習者は、入門期にアクセント記号を重視した中国人の先生に教わっていた。また、急下降の跨拍下降音“∖”を発音している CYE と CLN の 2 人の学習者は 2 年から日本語学科に入った転入生で、入門期にアクセントに関する基礎訓練を受けていなかった。大部分の学習者は特に音感に優れているわけではなく、1・2 拍目の短音と跨拍上昇音の幅は母語に近いのか、或いは抑えすぎかのどちらかになることが多い。従って、アクセント記号を教える時に、詳しく違いを説明し注意させなければ、東京語らしい発音ができる学習者は少ないだろう。

¹⁹ 学習者 CLN～CMN の 7 名のデータは後に追加した部分であるため、評価のアンケート調査に含まれていない。喉奥の共鳴音の項目について東京語話者 1 名に聞いてもらった結果を合わせて表 10 に載せた。

第2章では学習者の母語である中国語に対する四声の音感を利用して、東京アクセントが有する高低の感覚を体得させることを提案したが、日中アクセントを単に置き換えるだけでは学生に外国人訛りの発音をさせてしまう可能性が高い。中国語の四声で日本語のアクセントを教える指導法を考案しようとする時、日中アクセントの対照研究と学習者の学習上の困難点について詳しく調査し、これらの誤用を避けるためにどのような説明と練習を行う必要があるかを考えなければならない。その点について、本章で明らかにされたことは、母語としての中国語の四声に基づいて日本語を聞く場合に中国人学習者にとって跨拍上昇音と語尾高音の場合が難しいと考えられること、日本語を話す場合に、低音、跨拍上昇音、語中の跨拍下降音（先端が高すぎる）と語尾の高音が難しいということである。指導法を考案する時には、それらについて工夫する必要がある。

第4章 自然会話における東京アクセントの跨拍上昇音

第1節 問題の所在と調査の目的

第3章での東京語話者14人の単語音読実験による分析では、語頭無声（無声子音で始まる単語の語頭、例：コーヒー）の跨拍上昇音の上昇幅が語頭有声（母音、半母音、有声子音で始まる単語の語頭、例：うんよう（運用））の場合の半分に満たないことが明らかになった（アクセント音域に対する平均比率は13%：38%）。東京語話者の語アクセントにおけるピッチ曲線の形は、語頭有声の跨拍上昇音で“—”平坦型が23%、“∩”抛物線上昇型が76%、“∨”先端下降後上昇型が1%、語頭無声の跨拍上昇音で“—”平坦型が85%、“∩”抛物線上昇型が12%、“∨”先端下降後上昇型が3%であった。このことから、語頭有声の跨拍上昇音のピッチ曲線の形は、主に“∩”抛物線上昇型、語頭無声は主に“—”平坦型だと言える。しかし、“∩”抛物線上昇型と“—”平坦型は、大体中国語の第一声のように聞こえると言えるが、実際にテレビやラジオの放送を注意深く聞いてみると、中国語の第二声のように聞こえる跨拍上昇音もしばしば観察される。このことは意図的に統制された実験文だけでなく、実際の発話や会話を観察する必要があることを示している。

本章では跨拍上昇音が実際の日本語会話でどのようなピッチ曲線をしているのか、何故そのようなピッチ曲線をしているのか、一部の跨拍上昇音が中国語の第二声のように聞こえる原因は何か、テレビやラジオで話される日本語で第二声のように聞こえる比率はどのぐらいかという問題について考察する。また、以上の考察に基づいて、跨拍上昇音をどう発音すべきか、日本語教育で跨拍上昇音をどう教えるべきかについても考えることにしたい。

第2節 先行研究と本研究の立場

研究方法と研究資料を説明する前に、本研究で用いる術語に関して先行研究と本研究の立場を説明しておく。

2.1 アクセント句について

川上（1957a）によると、句とは「強調や上昇イントネーションによるお飾りのつかぬ限り、その音調曲線が一つの山の形をなすような部分であり（再録 p.112）」、「全体が一続きに云われて切れ目が無いという感じを与える（再録 p.93）」一つの音調的単位である。しかし、本研究は会話文中の跨拍上昇音を対象にするため、アクセントの強調や弱화를伴うので、アクセント句を「全体が一続きに云われて切れ目が無く、一つの山の形をなすような音調曲線である」と定義する。山の大小に関わらず、句頭の上昇或は前音との間にピッチの落差があれば、一つのアクセント句と認めるものとする。

2.2 プロミネンスについて

川上（1957b）はプロミネンスを「その部分が特にはっきりと間違いなく聞き取れることを目的とする発音法の型である（再録 p.80）」と定義している。郡（1994）は、プロミネ

ンスとは「フォーカスの一つの音声表現」で、「フォーカスはそのような発音法を要求する原因である」と説明している。中立の発話ではアクセント句の山は規律正しく大きい山から小さい山へと並ぶのが普通であるが、「フォーカスがある語ではアクセントによる音調の山が高まり、以後の語群はアクセントの山が抑えられる」とされる(郡 1994, pp.319-325)。しかし、中立の発話の文頭におけるアクセントの山は元々高いので、プロミネンスの有無を判定するのが難しい。また前川(1998)は「重音節ではじまるアクセント句では、第1モーラのピッチが高く、上昇は観察されないか微弱である(p.42)」と指摘しており、本研究の第2、3章からも音読単語の語頭無声の跨拍上昇音が平らなピッチ曲線をしていることが明らかになったため、本研究ではアクセントの強調を以下のように判断する。跨拍上昇音のピッチ曲線が文音域の上限附近に入り、下限の近くにある前音との高低差が激しい場合、或は弱化すべきところで弱化せずに前音と一定の高低差が見られる場合に、アクセントが強調されたと判断する。文頭の場合は、一般の文頭のアクセントの山より更に高い場合、或いは後に弱化された音調の山が確認できた場合に、アクセント型の強調だと認定する。また、これ以外に音の長さや声の大きさも判定の手がかりにしている。

2.3 アクセントの弱化と語の融合について

郡(1997)は、アクセントの弱化の大原則について以下のように述べている。「ある語が文の中で持つ意味が直前の語から限定される時、その語のアクセントは弱まる(もちろん、その語にフォーカスがある時は弱まらない)」。更に、以下のような四つの場合があると説明している。

- ① 名詞が、その直前の形容詞や「名詞+の」で意味を限定されている時
例：「隣の^P奥さんに^P駅で^P会ったんだ」(“P”は次の語のアクセントを弱める記号)
- ② 述語が、その直前の副詞的成分や格成分によって意味を限定されている時
例：外国にひとりで^P出かけるのは大変でしょう。
- ③ 並列されていて、直前の語と意味的に一体化している語
例：「新郎と新婦」、「兄と弟」
- ④ フォーカスがある語の後の語群 (郡 1997, pp.184-189, 下線は筆者)

前川(1998)は、語の融合について、「アクセント句はしばしば複数の語から形成される。機能的なまとまりを有する言語単位(主語、補語、述語など)を領域として形成されることも多いが、発話の統語的構造だけでアクセント句の構造が決定されるわけではない(p.43)」、「東京語では「無核語+無核語」や「無核語+有核語」の連鎖が統語構造とは無関係にひとつのアクセント句にまとまる傾向がある(p.43)」と指摘している。

語の融合について小林(1963)も以下のように指摘している。

「東京アクセントでは、音頭の負核(筆者注：次の音節がより高い場合、アクセント核を持つ正核に対立する概念)はすべて「消えて平らになる」性質をもち、とくに0型(筆者注：平板型)では、負核は「消えて平らになる」ばかりでなく、高さのレベル(Pitch level)が語全体として上下に動揺する。(p.6)」

本研究は以上の先行研究を手がかりにして、会話文中のアクセントの弱化を以下のように

判定する。

①ほかの部分が強調されているためにアクセント句の山が低く抑えられた場合、②語の文中での意味が直前の語に限定されたために前音と一続きに発音されて高低差が小さい場合、③前音の末尾と殆ど高低差がなく、完全に一つのアクセント句になっている場合（融合）、にアクセントの弱化と判定するものとする。

2.4 文頭のイントネーションについて

文中の跨拍上昇音は文頭と句頭のイントネーションと深いかわりがある。ここでは川上(1956)を参考にすることにする。川上(1956)は以下のように文頭（或いは句頭）のイントネーションを3種類に分類している。（“「”は上昇箇所を意味する。“’”は音調の下降を意味する）

早上がり型 「トンデモナ’イ

並上がり型 ト「ンデモナ’イ

遅上がり型 トン「デモナ’イ

早上がり型の「無意識的用法」：びっくりした、仰天した、そして、これは何とか手を打たねば！とあわてふためく、といった感じである。

「無意識的用法」の早上がりの原因：「感情の高まり」、「興奮のため」（声域の上限附近にまで達する）

早上がり型の「意識的用法」：少々とりすました、もっともらしい、余所行きの話し振り。その発話が用意周到であることを表す。

「意識的用法」の早上がりの原因：「云うべき言葉が心にきまってから声が発せられるまでに若干の時間があるならば、その間に声帯の整備・緊張が完了する。そこで始めて発声するから、その発話の最初、即ち第一モーラの発端部に於いてすでに十分上昇している（「無意識的用法」の時ほどは高くならないで、並上がり型の第二モーラと同程度まで上る）」。

並上がり型：その発話が平静な感情のもとに行われたものだと意味する。

尚、発話の第一モーラと第二モーラとが一つの音節として発音される場合には、「並上がり型」の代わりに「早上がり型」の姿が現れることが屢日、「交通巡査」が特に「早上がり型」としての意味を負わされていないにも関わらず

「オーミ’ソカ、 「コーツージュ’ンサ

という姿で発音されることがある。これは、一音節内で上昇調を実現するという若干の困難を避けて発音を出来るだけ楽にするための手段に過ぎない。（略）所謂音声学的現象であると解せられる。

遅上がり型の盛り込まれた感情：

①驚きの気持ち、納得のいきかねる気持ち、あきれた気持ち、当惑した気持ち、遠慮がちにものを云う気持ち

②話題に上っている人又は話の相手に対し軽蔑の念を抱いていることを表す。

遅上がりの原因：「茫然自失、不審、当惑、遠慮、驚異、驚嘆のあまり気力が失せ、声を上昇させるという努力を早いうちに済ませてしまうことが困難である」ためによる（川上 1956 再録 pp.63-72）。

第3節 調査の方法

実際の発話を観察する場合、どのような発話を選ぶべきかが問題となる。例えばニュースを読むアナウンサーの声では、一般の音読資料との違いがあまりないと思われる。日本語学習者にとっても、会話の方が音読よりコミュニケーションの面で役に立つだろう。また対談番組も出現する発話のパターンに限られるであろう。そこで、ドラマを分析の資料とすることにし、東京出身の出演者の多い『渡る世間は鬼ばかり』を選んだ。2000年10月5日からTBSテレビで放送された第5部の第2回～11回と2002年5月2日から放送された第6部の第5回～7回の放送で主に東京出身者²⁰が出演し、セリフの中に跨拍上昇音の多いシーンを中心に、テープに録音したセリフを文字化するとともに、録音音声を「音声録聞見」（音声分析ソフト）で分析した。

生き生きした会話文の中では同じ跨拍上昇音にも、様々なピッチパターンがあるので、注目された特徴が一致すれば、多少の異なりに関わらず、同じパターンに分類する。今回の資料で現れたピッチパターンを以下の6種類に分類した。

- ①斜め上昇“/”（以下「斜昇」と略称）
- ②低音がしばらく持続した後上昇“∟”（以下「低昇」と略称）
- ③先端下降後上昇“∨”（以下「降昇」と略称）
- ④平坦、平らな形“—”（以下「平ら」と略称）
- ⑤拋物線上昇“∩”（以下「拋昇」と略称）
- ⑥下降の形“∪”（以下「下降」と略称）

形の分類について説明する。音読単語の場合は、比較的ゆっくり読まれるので、語頭の上昇もきれいな拋物線“∩”になることが多い。しかし、会話の場合は、話のスピードが速く、プロミネンスも付けられるため、拋物線の上昇部分だけが伸ばされ、平らな高部がなくなる場合が多くなる。そのため、別に「斜め上昇」つまり「斜昇」“/”の分類を立てた。「拋昇“∩”」と「斜昇“/”」とは、上昇部分の長さ、角度と平ら部分の長さによって区別する。また音がしばらく低く続いた後、上昇するパターンも見られたので、「低昇“∟”」の分類を立てて区別した。平らな跨拍上昇音の後部はもともと下降する傾向があるが、下降の度合いが大きい場合は「下降」に分類した。ピッチ曲線の大部分が平坦な場合は微細な変動は無視して「平ら」の分類に入れた。今回の調査では、明らかに強調と弱化と判定できるも

²⁰録音資料の東京話者は全部で13名、女性10名、男性3名で、登場回数にはばらつきがある。録音資料に採用された出演者の役名と芸名は以下の通り。本間長子—藤田朋子、高橋文子—中田喜子、小島五月—泉ピン子、小島愛—吉村涼、小島真—えなりかずき、小島勇—角野卓造、野々下邦子—東てる美、本間由紀—小林綾子、松田聖子—中島唱子、秋葉満枝—木の実ナナ、秋葉和夫—倉田てつを、小島加奈—上戸彩、山下光子—奥貫薫。

のだけ印を付け、それ以外はすべて中間として分類したが、実はその中には様々な程度の強調と弱化とが存在している。例えば、表 11 の 8 番と 18 番は相当の上昇と高低差とがあるが、文全体のアクセント句の山と比べて中程度の上昇なので、強調の分類に入れなかった（資料編の資料 4 図 5 NAGA6「英作」、図 12 NAGA 12「電話」を参照）。

また今回採集した跨拍上昇音の例で聴覚実験を行う必要があるため、背景音や音楽、他人の声が混入している部分及び単音レベルでの発音がはっきりしない部分を除いて、すべて拾い上げた。その上で前から 500 例の跨拍上昇音を単音レベルで切って、それらの跨拍上昇音が母語の中国語では何声に聞こえるかという聴覚実験を台湾の留学生 3 名に行った（意見の相違があるところは他の複数の留学生にも判断させた。曖昧なところは単音と全文節を聞かせ、判断できるまで何回も聞かせることにした）。

資料と他のデータとともに、Microsoft Excel で分析した。以下に例として、そのセリフ（太字は採用された跨拍上昇音）とデータの一部を提示しておく（ピッチ曲線については資料編の資料 4 図 1～12 を参照、セリフの全文と跨拍上昇音全部のデータは資料編の資料 3 と 5 を参照されたい）。

渡る世間は鬼ばかり（第 5 部第 2 回より）

長子：日向、幼稚園に連れて行ってきます。

タキ：あたくしお連れします。長子さんタベも徹夜でしたでしょう。

長子：英作が帰ってこない夜はつい頑張っちゃってね。

タキ：おばちゃんで行きましょう。

長子：はい、日向。どうもすいません。

タキ：はい、行ってまいります。

長子：行ってらっしゃい。

大吉：英作くんはタベも泊りかね。

長子：遊んで外泊してるんじゃないかって言いたいんだろうけど、まじめに当直してるの、ほかの医局員に代わってね。本間のお母さんが英作を無視して、由紀ちゃん夫婦の言いなりになって、本間医院を建て直していることにショックを受けてんのよ。だから仕事に逃げてるの。黙って見ててあげるのが愛情ってもんなの。

文子：おはようございます。

長子：あら。ずいぶん早いじゃない。何かあったの。

文子：ご無沙汰して申し訳ありません。

長子：そうよ。お父さん心配してたんだから。

大吉：いい加減なこと言うんじゃないよ。立派に独立してね。好き勝手なことしてる娘の心配なんか誰がするもんかい。

長子：ほら、怒ってるでしょう。連絡もないと心配してるから、腹も立つの。

文子：四月から受験勉強に追われてて、ここへ来る暇もなかったの。

長子：電話くらいできるでしょう。

文子：旅行業務取り扱い主任者の資格を取る試験勉強してるなんて言ったら、またお父さんに余計な心配させるじゃない。だから、わざと黙ってたの。けど、望が、お父さんのお料理持って帰ってくれて、すごく慰められたの。お父さんのお料理、おいしくいた

だけました。感謝しています。
 長子：だったら、お礼の電話くらいしなさい。

表 11 跨拍上昇音のデータの例

| 通し 番号 | 発話者 番号 | 語頭音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前 音 | 強調 弱 化 |
|----------|-----------|-----|-----|-------|----|-----|---------|------|------|---|---|---|---|----------|--------|--------------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 1 | NAGA1 | 有声 | YO- | 幼稚園 | 名 | 斜昇／ | 36 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 2 | NAGA2 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 平らー | 20 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 3 | NAGA2 | 有声 | GAN | 頑張 | 動名 | 平らー | -55 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 化 |
| 4 | NAGA3 | 無声 | SUI | すいません | 副 | 斜昇／ | 83 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 5 | NAGA4 | 有声 | GAI | 外泊 | 動名 | 平らー | 0 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 化 |
| 6 | NAGA5 | 無声 | TO- | 当直 | 動名 | 斜昇／ | 49 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 句中 | 高 | 強調 |
| 7 | NAGA6 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 平らー | -31 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 弱 化 |
| 8 | NAGA6 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 斜昇／ | 57 | 2 | 2 | 1 | 2 | | 2 | 句頭 | 低 | |
| 9 | NAGA6 | 有声 | I- | 言いなり | 名 | 抛昇／ | 109 | 単1全2 | 単1全2 | 1 | | 1 | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 10 | NAGA7 | 無声 | HON | 本間医院 | 名 | 抛昇／ | 126 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 11 | NAGA8 | 有声 | AI | 愛情 | 名 | 平らー | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱 化 |
| 12 | FUMI1 | 有声 | MO- | 申し訳 | 動名 | 抛昇／ | 57 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 13 | NAGA9 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 抛昇／ | 36 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 14 | NAGA10 | 有声 | REN | 連絡 | 名 | 抛昇／ | 45 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 15 | NAGA10 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 抛昇／ | 25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 16 | NAGA11 | 有声 | DEN | 電話 | 名 | 降昇／ | 191 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 17 | FUMI2 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 平らー | -19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 化 |
| 18 | NAGA12 | 有声 | DEN | 電話 | 名 | 抛昇／ | 69 | 単1全2 | 単1全2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 句中 | 高 | |

注・品詞の欄について 名：名詞、動名：動作名詞。副：副詞、動：動詞。

- ・形の欄について 斜昇：斜め上昇、抛昇：抛物線上昇、降昇：先端下降後に上昇、低昇：低音がしばらく持続した後上昇。
- ・高低差の欄について 高低差の単位はヘルツ（Hz）、上昇する部分がないときには、値がゼロかマイナスになる。
- ・声の欄について 英字は学習者の別を示す。数字は学習者の答え（跨拍上昇音を中国語の音感で何声と判断したのか）を示す。1→第一声。2→第二声。3→第三声。4→第四声。1・2→第一声と第二声の中間の音に聞こえる。単1全2→単音だけ聞いた時には第一声に聞こえるが、全文節の時は第二声に聞こえる。
- ・文中位置の欄について 句頭：アクセント句の先端にある跨拍上昇音、句中：アクセント句の中にある跨拍上昇音、文頭：一文の始めにある跨拍上昇音。
- ・前音の欄について 文頭の場合、文音調はリセットされたと考えられるので、前音を省略する。高と低の字は、前の語の最後の音がアクセント型で高音か低音かを意味する。

- ・強調弱化の欄について 強調：アクセント型がはっきりと強調されていると判断できた場合。ピッチ曲線が文音域の上限付近に入り、前音との高低差が激しい。弱化：前音と一続きに発音され、前音と殆ど高低差がない場合、或いは前音と高低差が小さく、ピッチ曲線が低く抑えられた場合。空白セル：強調と弱化に判断された以外のもの。

第4節 調査結果と分析

4.1 調査結果

表 11 のデータを含む全資料を以下の表 12 にまとめた。

表 12 跨拍上昇音のデータのまとめ

| | | 斜昇 | 低昇 | 降昇 | 平ら | 抛昇 | 下降 | |
|--------|------|------|----|----|----|----|----|---|
| 句 中 | 前音高 | 語強調 | 3 | | | | | |
| | | 語頭中間 | | 1 | | 7 | 4 | 3 |
| | | 無弱化 | | | | 24 | | 4 |
| | | 声合計 | 3 | 1 | 0 | 31 | 4 | 7 |
| | 有聲 | 語強調 | 1 | | | | 1 | |
| | | 語頭中間 | 2 | 1 | | 3 | 4 | |
| | | 無弱化 | | | | 30 | 3 | |
| | | 声合計 | 3 | 1 | 0 | 33 | 8 | 0 |
| | 前音低 | 語強調 | | | | | | |
| | | 語頭中間 | | | | 2 | 1 | |
| | | 無弱化 | | | | 13 | | 1 |
| | | 声合計 | 0 | 0 | 0 | 15 | 1 | 1 |
| 有聲 | 語強調 | | | | | | | |
| | 語頭中間 | | 1 | | 1 | 2 | | |
| | 無弱化 | | | | 8 | 1 | | |
| | 声合計 | 0 | 1 | 0 | 9 | 3 | 0 | |
| 句 頭 | 前音高 | 語強調 | 4 | | | | | |
| | | 語頭中間 | | 2 | 1 | 10 | 2 | 1 |
| | | 無弱化 | | | | 1 | | |
| | | 声合計 | 4 | 2 | 1 | 11 | 2 | 1 |
| | 有聲 | 語強調 | | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 語頭中間 | 3 | 2 | 1 | 3 | 5 | |
| | | 無弱化 | | | | 1 | | |
| | | 声合計 | 3 | 3 | 2 | 5 | 6 | 0 |

| | | 斜昇 | 低昇 | 降昇 | 平ら | 抛昇 | 下降 | |
|-----------|-----|------|------|------|-----|-----|-----|---|
| 句頭 | 前音低 | 語頭強調 | 15 | 3 | 1 | | 7 | 2 |
| | | 語頭中間 | 6 | 6 | | 35 | 24 | 3 |
| | | 語頭無声 | | | | 8 | 2 | |
| | | 語頭合計 | 21 | 9 | 1 | 43 | 33 | 5 |
| | 有聲 | 語頭強調 | 32 | 3 | | 1 | 9 | |
| | | 語頭中間 | 19 | 5 | 1 | 21 | 34 | |
| | | 語頭無声 | | | | 6 | 2 | |
| | | 語頭合計 | 51 | 8 | 1 | 28 | 45 | 0 |
| 文頭 | 前音低 | 語頭強調 | 11 | 2 | | | 3 | |
| | | 語頭中間 | 2 | 2 | | 18 | 6 | 2 |
| | | 語頭無声 | | | | 2 | | |
| | | 語頭合計 | 13 | 4 | 0 | 20 | 9 | 2 |
| | 有聲 | 語頭強調 | 3 | 3 | 4 | 1 | 2 | |
| | | 語頭中間 | 1 | 1 | 1 | 17 | 11 | |
| | | 語頭無声 | | | | 2 | | |
| | | 語頭合計 | 4 | 4 | 5 | 20 | 13 | 0 |
| 総計 | | 102 | 33 | 10 | 215 | 124 | 16 | |
| 第2声に聞える例数 | | 93 | 33 | 10 | 7 | 36 | 2 | |
| 第2声に聞える比率 | | 91% | 100% | 100% | 3% | 29% | 13% | |
| 強調 | 合計 | 69 | 12 | 6 | 3 | 23 | 2 | |
| 弱化 | 合計 | 0 | 0 | 0 | 95 | 8 | 5 | |

注：空白セルの値は0である。中間は強調と弱화에判定できなかったもの。

表を簡潔にするため、斜昇の中に微斜昇、平らの中に微昇、下降の中に微降の例数を含む。

4.2 会話文における跨拍上昇音のピッチ曲線の形

音読単語の場合、確かに語頭有聲の跨拍上昇音のピッチ曲線は拋物線上昇型、語頭無声では平坦型が主流であるが（佐藤 1993、崔・佐藤 1995 と本研究の第2、3章を参照）、実際の生き生きとした会話文では異なるピッチ曲線の傾向が見られた。形に関して表 12 から分かることは以下のようにまとめられる。

- ① 語頭無声と有聲はピッチ曲線の形を決める要因ではなく、アクセントの強調と弱화가ピッチ曲線にもたらす影響が最も大きい。
- ② 強調する時は、斜昇が一番多く使われ、次は拋昇である。
- ③ 弱化する時は主に平らが使われ、斜昇、低昇、降昇は使われない。拋昇もあまり使われ

ない。

- ④ 下降は語頭無声の跨拍上昇音にしか現れない。
- ⑤ 降昇はアクセント句の「句中」には現れない。

4.3 中国語の第二声のように聞こえる比率と要因

今回の調査ではサンプルになった跨拍上昇音を意図的に操作、選出していないので、500例のデータは単純無作為抽出によると見なされ、テレビドラマの中のどれぐらいの跨拍上昇音が中国語の第二声のように聞こえるかが推測できる。計算を簡単にするため、被験者6人中1人でも2（第二声）、1・2（第一声と第二声の間）、単1全2（単音だけ聞いた時には第一声に聞こえるが、全文節の時は第二声に聞こえる）と答えれば、すべて第二声に聞こえる可能性があると思なし、「第二声に聞こえる例数」の計算に入れた。その結果、500例の跨拍上昇音のうち、第二声に聞こえる可能性があるのは全部で181例、比率は36%である（6人の中で1人でも違う答えがある場合を不一致と見なすと、一致率は87%であった）。ドラマの場合、対談番組よりも感情の現れが激しいので、3分の1程度の跨拍上昇音が中国語の第二声に聞こえることになるが、冷静な対話やニュース放送はそれ以下だと予測される。

日本語の典型的な跨拍上昇音のピッチ曲線のパターンは、“一”平坦型と“∩”拋物線上昇型であるにもかかわらず、何故中国語の第二声に近いと聞こえるものがあるのか。それは中国語の第二声だと判断する時の要素とかかわりがあると思われる。中国語の典型的な第二声のピッチパターンは“∩”先端下降後上昇型（降昇）で、しかも、低音の部分が大事である。そのため、次の音節の先端部分のピッチと少々落差があり、上昇せずに平らな低音の部分があるだけで、第二声に聞こえるのである。第3章台湾在住の中国語話者の中国語音訳単語資料にはそのような第二声の例が見られる（図25 CSEC40 téi - bū lū kū lǒu sǐ を参照）。

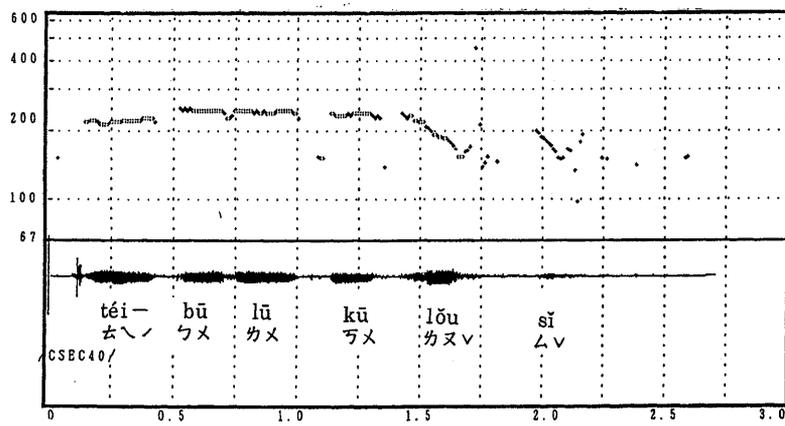


図 25 台湾在住の中国語話者 CSE の中国語音訳単語「téi - bū lū kū lǒu sǐ (てい / ぶ る く ろ す)」のピッチ曲線

中国語の第二声は上昇すると同時に声が段々弱くなる。従って、上昇の部分がなくても、次音節とのピッチの落差があれば、我々の耳が自動的にその間のピッチ曲線を補ってくれる。このようなことは速いスピードで交わされた日常会話ではよく現れる現象ではないかと思わ

れる。この原因によって、ピッチ曲線が平らであるにもかかわらず第二声に聞こえるものが、今回のデータでも 3%ある。また拋物線上昇も上昇の部分が大きければ、低いところから上昇する可能性が高くなる。今回のデータの中にも拋物線上昇で第二声に聞こえるものが 29%ある（表 11 の 18 番と表 12 を参照）。斜昇はもともと拋昇から変化したもので、拋昇との区別は上昇と平ら部分の長短の違いによる。斜昇は拋昇より上昇部分が長く、平らな部分が短いので、91%の比率で学習者に第二声のように聞こえた（第二声に聞こえなかった 9%の斜昇は高い所から更に上昇するものなので、学習者には第一声のように聞こえた）。降昇“∨”と低昇“∟”はもともと中国語の第二声のピッチ曲線「先端下降後上昇型（降昇）“∨”」と最も似ているのですべてが学習者に第二声のように聞こえた。下降到分類された一部の跨拍上昇音（もとの分類は微降）は下降程度が大きくなり、しかも次音節の先端とピッチの落差があるので、約 13%が第二声のように聞こえた。

以上の分析から分かるように、日本語の跨拍上昇音が中国語の第二声のように聞こえる原因は低音部分の有無と上昇する幅の大きさによるものである。

音読単語の場合、語頭無声と有声は跨拍上昇音が上昇するかどうかの決め手となっている。しかも、同じ音読の方法で日本語の単語全般について調べた佐藤（1992）にも、「日本語の有声子音は低いトーン素性を有する（p.63）」、「無声子音の場合には、（略）後続する母音のピッチを高める傾向がある（p.63）」という指摘がある。筆者は音読単語²¹（語頭有声は 38 語、語頭無声は 38 語）の聞こえについても 4 人の東京語話者（A～D）の発音を対象に予備的な調査をしたが、語頭有声の跨拍上昇音のほうが中国語の第二声に聞こえやすいと言える（表 13 を参照、聞き手は筆者自身）。

²¹予備調査の音読単語は以下の通りである。

カーネーション、ちいさい(小さい)、くうこう(空港)、せいじ(政治)、せいせい(清々)、
おうさま(王様)、かんじ(感じ)、しんよう(信用)、うんよう(運用)、れんらく(連絡)、そんな、
マーマレード、テーブル、テーブルクロス、テープレコーダー、ペンキ、ペンフレンド、インフレ、
インフォメーション、コーヒー、コーディネーター、
らんぼう(乱暴)、だんぼう(暖房)、たんぼ(田圃)、ピンぼけ、びんぼうぐらし(貧乏暮らし)、
らいこう(来校)、だいこう(代講)、たいこう(対抗)、なんこう(難航)、
あいこう(愛好)、ろうがん(老眼)、どうがん(童顔)、とうがん(冬瓜)、
ちゅうしん(中心)、しゅうしん(就寝)、じゅうしん(重心)、つうしん(通信)、めいしん(迷信)、
ようし(用紙)、はいしん(背信)、ばいしん(陪審)、
しょうがく(少額)、ぞうがく(増額)、そうがく(総額)、にゅうがく(入学)、きょうせい(強制)、
ぎょうせい(行政)、きんせい(金製)、ぎんせい(銀製)、まんせい(慢性)、えいせい(衛生)、
かいかん(会館)、がいかん(外観)、みんかん(民間)、
ボール、ボール、ほうる(放る)、
けいだい(慶大)、げいだい(芸大)、けんきゅう(研究)、げんきゅう(言及)、
とうそう(逃走)、どうそう(同窓)、ゆうそう(郵送)、ワイシャツ、
ふんまつ(粉末)、ぶんまつ(文末)、ぶんぷんに怒る、
せんぱい(先輩)、ぜんぱい(全敗)、せんぱい(千倍)、
せんでん(宣伝)、どうじょう(同情)、いんぜい(印税)、だんねつざい(断熱材)

表 13 音読単語の跨拍上昇音の聞え

| 東京語話者番号 | | | | A | | B | | C | | D | |
|------------------|-----------------------|------------------|--------|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| | | | | 有声 | 無声 | 有声 | 無声 | 有声 | 無声 | 有声 | 無声 |
| 拍 上 昇 音 | 聞 え る 跨 拍 | 第 二 声 に | 例 数 | 12 | 0 | 8 | 0 | 27 | 13 | 21 | 1 |
| | | | 比 率 | 32% | 0% | 21% | 0% | 71% | 34% | 55% | 3% |

しかし、会話文になると、語頭の無声有声より強調する意思の強さによって跨拍上昇音の形と上昇する幅が決まる。今回、会話文中の 500 例の跨拍上昇音で、語頭無声は 244 例、うち第二声に聞こえるのは 71 例（29%）、語頭有声は 256 例、うち第二声に聞こえるのは 111 例（43%）になっており、違いはあまりなかった。各ピッチ曲線の形も語頭無声か有声の要素による例数の差は殆ど見られなかった（表 12 を参照）。

4.4 各ピッチ曲線の形の用法と表された感情

4.2 と 4.3 節の分析から分かるように、会話文になると、語頭の無声有声より強調する意思の強さによって、跨拍上昇音の形と上昇する幅が決まる。各ピッチ曲線の形がどのように用いられ、どのような感情が含まれているのか、川上（1956）の論点を参照しながら、ピッチ曲線の形ごとに会話文例を分析してみた。今回のデータを分析した結果、跨拍上昇音に関しては、川上の論点と一致しない点がある。以下具体例を提示しながら、詳しく説明する。

- ① 低昇と降昇：主に強調する時に使われる。各会話例の文脈から見れば、低昇と降昇に現れた感情は、川上（1956）の言う遅上がり型に含まれるものに近いと思われる。今回低昇のデータでは、あきれた気持ち、当惑した気持ち、低昇を使った語の表す内容及び人やものに軽蔑の念を抱いていることを示す例が観察された（以下該当字を太字で表す）。

【あきれた気持ちの例】

聖子：店を継がないから、店のことは関係ないって、愛ちゃんも真ちゃんも知らん顔でしょう。そんなのおかしいですよ。

【当惑した気持ちの例】

五月：急に決まった仕事を断って、大丈夫なの？

【その語の表す内容に軽蔑の念を抱いている例】（この種の例が多い）

由紀：お兄ちゃんは高いお給料をもらってるのよ。マンションぐらい借りられるでしょう。

また、低昇が低音から始まることから分かるように、この単語を発語した際、あまり元気がなく、相手に説明するのも面倒くさいと思いながら我慢して説明しているような気持ちも会話例の中にたくさん見られた。

【元気なさそうに説明している例】

大吉：何だよ。今起きたのか。

長子：夕べも英作帰ってこないんだもの。どうしても夜遅くまで仕事をしちゃうよね。

降昇も主に強調する時に使われる。低昇と同じく、その単語の表す内容について軽蔑を抱いている例が 10 例の中の 4 例に見られる。その他の例では「そんなことも分からないの」という気持ちをこらえながら、元気なさそうに説明している感じがある。しかし、500 例中、降昇が使われたのは 10 例しかなく、中国語の第二声と最も近いピッチ曲線ではあるが、日本語ではあまり使われていない音調だと言える。

【その語の表す内容に軽蔑の念を抱いている例】

長子：事情もへチマもないわよ。無断外泊なら許せる。けど当直だって理由つけて、外泊するなんて明らかに意図的にあたしを騙しているんじゃない。やましいことがあるに決まっているわよ。

大吉：やましいことかどうか、もっとほかに言えない理由があって、嘘つかなきゃならなかったかもしれなかつたろうが。

長子：ほかにどんな理由があるって言うのよ。女に決まっているわよ。

【元気なさそうに説明している例】

亨：そんなことをしていると、体壊してしまうぞ。

文子：大丈夫よ。自分でやりたいことをやっているんだもの。ひさしぶりに毎日が充実しているのが楽しいんだよ。病気なんてなるわけないでしょう。

②斜昇：主に強調に使われる。単にその単語がはっきり相手に聞き取れるようにするために使われる。また、強調の度合いによって上昇の幅が異なる。強調と判定されなかったものでも、程度差はあれ、斜昇は強調を表す主要手段だと言える。川上（1956）の分類から言うと、早上がり型の「無意識的用法」：「感情の高まり」、「興奮のため」（声域の上限附近にまで達する）に近いと考えられるが、「びっくりした」含意はない。

【強調の例】

長子：そんな理由にならないわよ。本間医院を捨てたのは英作なのよ。

③平ら：川上（1956）の「その発話が平静な感情のもとに行われた（再録 p.67）」ことを含意する並上がり型に相当すると思われる。程度副詞、形容動詞などを強調したくない時（強調すると、かえって大げさな感じがする）、敢えて平らの跨拍上昇音を使う傾向がある（図 26 MITUK4「十分」、「丈夫」を参照）。

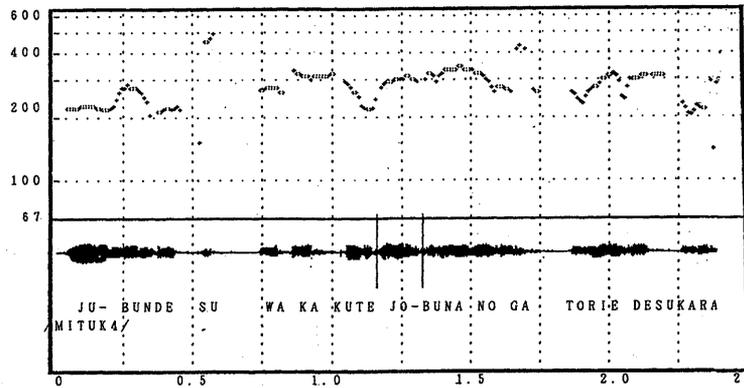


図 26 光子：「十分です。若くて丈夫なのが取り柄ですから」のピッチ曲線

文中に含まれる固有名詞に「平ら」の音調が使われる例が多数見られた。全文が抑揚の大きな音調で発話されるにもかかわらず、文頭や句頭の人名だけ平らな音調、全音域のほぼ中位の高さで発話される例が目立つ（資料編の資料 4 図 5 NAGA6 を参照）。もちろん、人名が強調されないわけではないが、ほかの形より例が多い。

弱化の時も平らな音調がよく使われる（付録図 11 FUMI2「心配」を参照）。

ほかに前音と一続きに発話される場合も平ら（或は下降）音調が使われる。

【故意に強調したくない例】（図 26 MITUK4「十分」、「丈夫」を参照）

五月：無理よ。夜お店手伝って、朝 4 時に起きて、お弁当の包装に出てるでしょう。寝る時間ないじゃない。

光子：お店が終わって、10 時に帰ったら、5 時間寝られます。十分です。若くて丈夫なのが取り柄ですから。

【人名の例】

長子：本間のお母さんが英作を無視して、由紀ちゃん夫婦の言いなりになって、本間医院を建て直ししていることにショックを受けているのよ。

【弱化の例】

文子：旅行業務取り扱い主任者の資格を取る試験勉強しているなんて言ったら、またお父さんに余計な心配をさせるじゃない。だから、わざと黙ってたの。

【前音と一続きに発話される例】

由紀：よく言うわ。お兄ちゃんが本間の家を継ぐ気がないから、私に本間医院を頼むって頭を下げるのは母さんなのよ。

④抛昇：川上（1956）の分類には該当するものがなさそうだが、強いて言えば、並上がり型に近いと思われる。平ら音調とともに、跨拍上昇音によく使われる典型的な音調である。平ら音調と違うところは、抛昇の音調を使う場合、話者のある程度の元気或は気持ちの明るさが伝わってくることである。従って、「こんにちは」のような挨拶文には抛昇のほう

が適している。抛昇の上昇程度が大きければ、強調音調になる可能性もある。

【気持ちの明るさの例】

勇：うちの弁当はどこへ行っても、評判いいよ。

- ⑤下降：下降音調は語頭無声の跨拍上昇音にしか現れないが、244例の語頭無声跨拍上昇音のうち、下降音調は16例しかない。前音と融合して、下降するものを除くと、残りの例はどうやらその言葉の表している意味に対する沈んだ気持ちを反映しているようである。例えば、「心配」、「深刻」、「急に」などである。「心配」の例はほかの形の音調もあるが、13例中の9例が下降か平らな音調である。これは恐らく語意の反映ではないかと思われる。因みに、川上（1956）の分類には該当するものがないようである。

【前音と融合している例（前者）と沈んでいる気持ちの反映の例（後者）】

五月：真、この間まで一流の大学入りたいて、高校も一流の進学校行っって、塾もそういう高校を目指しているところ自分で決めて、けっこう真面目に通ってたでしょ。それを急にやめると言い出して、

以上の分析で分かるように跨拍上昇音の強調程度は「斜昇>抛昇>平ら」のようになっている。しかも、各ピッチ曲線の形は、話者が跨拍上昇音が含まれた語を言う時、その語意に対する気持ちの反映だということが明らかになった。

第5節 まとめ

第4節の分析から分かるように、跨拍上昇音は実際の日本語会話では主に「平ら」、「抛昇」、「斜昇」、「低昇」、「下降」、「降昇」の6種類のピッチパターンとして現れている。生き生きした会話文の場合、語頭が無声か有声かよりも、強調する意思の強さによって跨拍上昇音の形と上昇する幅が決まる。跨拍上昇音の強調の程度は、大体「斜昇>抛昇>平ら」のようになっていると言える。また日本語の跨拍上昇音が中国語の第二声のように聞こえる原因は、低音部分の有無と上昇する幅の大きさによるものである。低音部分のある発音と上昇幅が大きい発音は中国語の第二声のように聞こえやすい。500例の跨拍上昇音のうち、第二声に聞こえる可能性があるのは全部で181例、比率は36%である。

以上の分析を通して、中国人学習者に対して跨拍上昇音をどのように教えたらいいかを考える。

李（1997）によると、香港の日本語学習者が広東語にある「上がり調」の発音法を極端に応用することを避けるために、香港中文大学では跨拍上昇音のアクセントについて1拍目から高音の線（例：「電話」）を引いて教えるという。しかし、今回の調査結果の通り、実際の会話では中国語第二声に聞こえる可能性のある跨拍上昇音は36%と多く存在しているので、跨拍上昇音をすべて平らな音調で学習者に教えることは、また行き過ぎたことになる。

第2、3章の調査結果から、日本語教育で跨拍上昇音を教える際に、授業で跨拍上昇音の単語を音読する場合には、語頭無声を平らで、語頭有声を拋物線上昇で読めば、東京語話者に最も近い読み方になると思われる。普通に文を音読する時にも、同じ原則が適用されるが、

自然な文音調—大きい“へ”の字型のアクセント句の山から小さい山へと気を配りながら読むことが重要である。また、プロミネンスが必要となる時は、会話文中の跨拍上昇音の原則を適用する。生き生きした会話文の場合、語頭の無声・有声よりも、強調する意思の強さによって跨拍上昇音の形と上昇幅が決まる。跨拍上昇音の強調の程度は大体「斜昇>拋昇>平ら」のようになっている。その語の表す内容に軽蔑の念や当惑の気持ちなどの言外の意味がなければ、降昇と低昇を使うべきではない。つまり、中国語の第二声のように低音の部分を下降後しばらく持続させてから上昇するのではなく、低音からすぐ上昇してしまうか、或は中音から上昇するか、或は1拍目から平らなままでその語を言うかの3通りの発音法が東京語話者に近いのである。

以上の会話文の調査によって、自然な日本語の音調を習得するために、日本語の跨拍上昇音を単に中国語の第一声或は第二声で代用するのは無理があることが明らかになった。

第5章 結論

第1節 本研究の教育的示唆

以上の本研究の成果を台湾日本語学習者への教育的示唆としてまとめると以下のようなになる。

1. 日本語のアクセントの高音は、日常会話の速さで平静に話された台湾の中国語における第一声の音階に相当する。低音はほぼ第三声の音階に相当する。但し、喉奥の共鳴音を使わないように注意する必要がある。
2. 日本語の単語、文節、文の音調はいずれも“へ”の形をしている。声の大きさは最初が大きく、後になるほど小さくなる。いくら長い単語でも、中休みせずに一気に読むことが肝心である。
3. 東京アクセントの音韻規則では、高音と低音の転換は拍と拍の間に起こり、一拍の中では生じない。そのため、中国語の第二声と第四声のような上昇と下降の音調が聞こえた時には、それは跨拍の上昇音或は下降音であることに注意する必要がある。
4. 日本語の跨拍上昇音の音節には、主に以下の3種類のピッチ曲線が見られる。

平坦型 “—”

拋物線上昇型 “∩”

斜め上昇型 “/”

単語を音読する時には、無声子音（p、s、h、t、k）で始まる跨拍上昇音は平坦型“—”、有声音（母音、n、m、y、r、w）で始まる跨拍上昇音は拋物線上昇型“∩”が多く使われている。文を音読する時には、“へ”の形の句音調、文音調に従う。

日常会話において、特に強調しない場合は主に平坦型“—”、中程度の強調では主に拋物線上昇型“∩”、高程度の強調の場合には主に斜め上昇型“/”が用いられる。但し、ピッチ曲線の違いは絶対的な要素でなく、声の高さこそが強調の有無の決め手であることに注意する必要がある。

5. 日本語の跨拍下降音では主に拋物線下降型“∪”のピッチ曲線が使われていることに注意する必要がある。

第2節 日本語語アクセントの高低に関する指導法の試み

この研究の成果を本格的に指導法に導入することは今後の課題となるが、一つの試みとして、中国語の第一声と半三声を用いて、東京アクセントの高音と低音を教授する指導法の効果を検討してみたい。既に述べたように、日本語の跨拍上昇音は中国人学習者にとってかなり複雑なので、初心者には難しすぎる可能性がある。そこで、一番簡単な中国語の第一声と半三声を用いて、日本語の高音と低音の大体の音階を示し、学習者の学習効果を観察してみる。調査は、予備調査と本調査を行った。

2.1 予備調査

2.1.1 予備調査の目的と方法

調査の目的：中国語の第一声・半三声だけを導入する指導法の効果を確認する。

調査の方法：難易度がほぼ同じ程度の聞き取りテストを二つ（10問/20問）⁽²²⁾作成し、アクセントだけを書かせる。聞き取りテストの問題に使われる文字は平仮名、またはローマ字で表記した。教授前に10問のテストをし、教授後20問を聞き取らせる。

2.1.2 予備調査の結果と検討

調査の結果：200時間程度日本語を勉強した6名（1～6番）と5時間日本語を勉強した2名（7～8番）の学習者を対象にテストを行った。学習者の得点とt検定の結果は以下の通りである。教授前と教授後に有意差が見られた。

表 14 予備調査の結果

| 学習者 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | Mean | SD |
|-----|---|----|----|----|----|----|----|---|-------|------|
| 教授前 | 6 | 20 | 10 | 16 | 16 | 14 | 4 | 2 | 11 | 6.50 |
| 教授後 | 8 | 20 | 17 | 17 | 16 | 16 | 17 | 7 | 14.75 | 4.65 |

$$t = -2.38, df=7 \quad P < .05 (P = .049)$$

- 検討：①学習者の得点から分かるように、200時間程度学習した学習者の教授前と教授後の得点にはあまり差はなかった。これには、主に二つの原因が考えられる。一つは、200時間程度勉強した学習者には、既に高低の感覚が身につけているのではないかということである。仮にそうであるなら、この教授法は入門の学習者により役立つものと言えよう。もう一つは、作成した聞き取りの単語が簡単過ぎた、或いは学習者が既に習得した単語であったために、簡単に高低を判別できたという可能性である。
- ②アクセントの高低を弁別することは、それを実際に発音することよりも難しいと考えられる。教授後に日本語のアクセントは中国語の四声を思い出しながら読めるかもしれないが、聞き分けられるようになるまでにはさらに時間が必要なのではないかと考えられる。従って、読むテストでは聞き取りのテストより成績がよくなる可能性があるため、両方のテストを行う必要がある。
- ③被験者の人数が少なすぎたため、もう一度調査する必要がある。本調査では、初級の学習者を約15名ずつに分け、従来のアクセントの指導法とこの指導法の教授後の結果を調査し、比較する。

2.2 本調査

2.2.1 本調査の手順、内容と方法

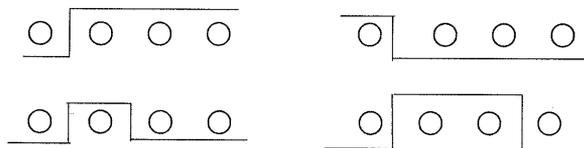
⁽²²⁾テストの単語は以下の通りである。1回目：おとこ、にもつ、やまざくら、おかあさん、ちいさい、チーズ、クーラー、くうこう、せいじ、せいせい。2回目：けっこん、シャツ、きって、わたしぶね、おおかみ、おうさま、かんじ、かんしゃ、しんぼう、しんよう、うんめい、うんよう、れんらく、レンズ、そんな、そんとく、ままおや、まめまき、マーク、マーマレード。

巻末資料編の資料6は、従来のアクセント教授に関する一モデルを示すプリントで、アクセントに関する重要な規則をまとめたものと、模倣練習に使うアクセントの発音練習とから構成される。ここに含まれる大部分の単語は、以前筆者が台湾で勤めていたL T T Cの教師（王曉雲氏）が作成し使用していたプリントから抜粋したものである。資料7は、資料6の教案に新しいアクセントの指導法を加えたものであるが、「日本語のアクセントの高音はほぼ中国語（の普通の速さと平静な気持ちで交わされた会話）の四声の第一声の音階に当たる。低音はほぼ四声の第三声（実際半三声で教授）の音階に相当する」という説明と、二と八の練習以外は、資料6と同様である。資料6と資料7の中国語版（説明部分は中国語）のプリントを用い、L T T Cの同じ教師に日本語未習の二つの初級クラス（学生は普通の社会人か18歳以上の在学学生）を指導し、調査してもらうように依頼した。

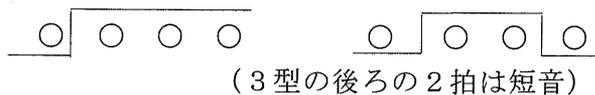
1. 調査の手順：二つのクラスはともに五十音図から勉強し始めたクラスで、五十音図を教え終わった段階で、まず一回目のアクセントのヒアリングテストを行う。次に、中国語版の資料6または資料7のプリントを用い、アクセントの指導を行う。それが終わった段階で二回目のアクセントのヒアリングテストを行う。次に、アクセント記号を付けてある単語表を学生に渡し、家に帰って、各自リーディングテストを行い、録音させる。
2. テストの内容（資料編の資料8を参照）：三回のテストはともに18問ずつ、4拍の単語で構成されている。難易度を同じにするため、短音、跨拍上昇音、跨拍下降音、またその上昇音と下降音に含まれている撥音、長音、連母音の各要素が同数入れている。

短音8問： 全部4拍、各型2問ずつ（“**T**”で2問と示す）。

0**T**、1**T**、2**T**、3**T**



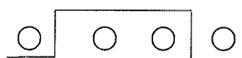
跨拍上昇音：0**T**、3+短音**T**



跨拍下降音：1**T**、2**T**



跨拍上昇音+跨拍下降音：3**T**



跨拍上昇音に含まれる撥音**T**、長音**T**、連母音**T**

跨拍下降音に含まれる撥音**T**、長音**T**、連母音**T**

- 1、短音で綴られた語の場合、各アクセント型を各2問。
- 2、1・2拍が跨拍上昇音になる語は平板型の0型と起伏型の3型とを各2問。
- 3、跨拍下降音になる頭高型の1型と、2・3拍目に跨拍下降音が現れる2型を各2問。
- 4、跨拍上昇音と跨拍下降音が一語に現れる起伏型の3型を各2問。

以上で跨拍上昇音と跨拍下降音が各6カ所ある。

- 5、跨拍上昇音、跨拍下降音を構成する2拍目の長音、撥音、連母音を上昇下降ともに二つずつ。
- 6、テストに用いられる拗音は三テストとも4カ所である。
- 7、長音、撥音、連母音を構成する要素（例えば、「ん」、「う」、「い」のようなもの）以外は、同じ仮名を三回以上用いず、できるだけ異なる仮名を入れる。
- 8、主に国立国語研究所（1984）『日本語教育のための基本語彙調査』における重要度20から10までの、初級学習者が未習であり、且つ日本人の日常生活で常用される単語を採用した。
- 9、尚、三つのテストの難易度を調査するため、三つのテストを一つにまとめ、初級クラスの学生（日本語の学習時間約100時間）8名を対象にしたヒアリングテストを実施した。平均得点と標準偏差（括弧内に示す）はテスト1：53.25点(9.98)、テスト2：52.25点(12.87)、テスト3：50.63点(11.80)である。平均点から見るとテスト3はヒアリングテストとしてテスト2、1より少し難易度が高いが、テストの間にはt検定による有意差は見られなかった。

3. 成績を比較する方法：

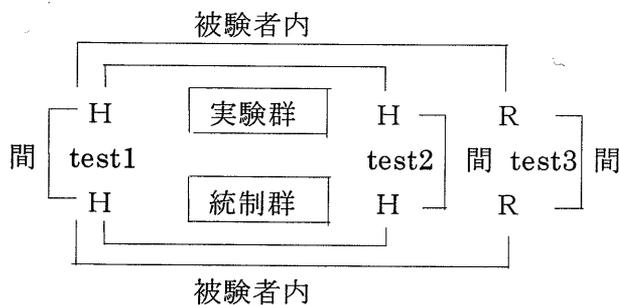


図 27 両指導法の効果を比較する方法の略図

手順は以下の通りである。まず、一回目のヒアリングテスト（日本語の学習時間3時間目の時）で実験群（新しい指導法を使うクラス）と統制群（従来の指導法を使うクラス）との間の音の高低を弁別する能力の差を測定する。二回目のヒアリングテスト（日本語の学習時間5～6時間後）で各指導法を行った直後の成績を測る。同じ被験者の一回目と二回目のテストの成績の比較により、アクセントの弁別に対してどの程度の学習効果があったのか見ることができる。一回目のヒアリングテストの成績を参考にして、実験群と統制群の三回目のリーディングテスト（日本語の学習時間約10時間後）の成績を比較することで、両群における学習効果（アクセント記号通りに読めるかどうか）の差を見ることができる。

試験の採点方法は1拍の音の高低が合えば1点と計算する。4拍の単語18問であり、全部で72拍なので、72点を満点とする。テスト3はリーディングテストであり、筆者が録音テープを聞いて採点することになるが、音の高低が判断しにくい場合は音声分析ソフト「音声録聞見」によって学習者のピッチ曲線、前後の音の相対的な高さを分析してから、得点を決める。

4. 統計的分析

被験者内の各データの比較について全てt検定を行った。統制群における学習結果の向上の度合いについて、テスト1と3の間に5%水準の危険率で有意差が見られたが、テスト1と2の間には10%水準の危険率で傾向差しか見られなかった。実験群ではテスト1と2の間、テスト1と3の間にそれぞれ5%水準の危険率で有意差が見られた。

表 15 被験者内の t 検定

| | | 平均値 | 人数 | 標準偏差 | 対応サンプル | t 値 | 自由度 | 有意確率 |
|---------------|------|-------|----|-------|--------|--------|-----|-------|
| 従来の指導法 統制群 | テスト1 | 48.82 | 17 | 6.64 | テスト1-2 | -1.95 | 16 | 0.069 |
| | テスト2 | 51.82 | 17 | 10.78 | テスト1-3 | -2.64* | 12 | 0.022 |
| | テスト3 | 58.77 | 13 | 13.97 | テスト2-3 | -2.01 | 12 | 0.067 |
| 新しい指導法 実験群 | テスト1 | 48.00 | 13 | 9.44 | テスト1-2 | -4.66* | 11 | 0.001 |
| | テスト2 | 57.50 | 12 | 8.13 | テスト1-3 | -8.31* | 12 | 0.000 |
| | テスト3 | 65.46 | 13 | 5.67 | テスト2-3 | -5.16* | 11 | 0.000 |

*P<0.05

被験者間のデータの比較について二要因一変量の共分散分析を行った。テスト1の値を共変量とし、指導法とテスト法の効果を比較した。その結果、指導法とテスト法ともに5%水準の危険率で被験者間に有意差が見られた。

表 16 回帰分析の同質性テスト

| Source | SS | DF | MS | F 値 |
|-----------|---------|----|--------|-----------|
| 被験者間の回帰係数 | 405.55 | 3 | 135.18 | 2.01 n.s. |
| 被験者内誤差 | 2818.18 | 42 | 67.10 | |

表 17 二要因一変量の共分散分析表

| Source | SS | DF | MS | F 値 | 有意確率 |
|----------|---------|----|--------|--------|--------|
| A (指導法) | 660.05 | 1 | 660.05 | 9.21* | 0.0040 |
| C (テスト法) | 718.90 | 1 | 718.90 | 10.04* | 0.0028 |
| A*C | 6.90 | 1 | 6.90 | 0.10 | 0.7577 |
| Error | 3223.73 | 45 | 71.64 | | |

*P<0.05

統計的分析によって、同じ教師に指導された場合にも、新しい指導法が従来の指導法よりも良い成績をもたらすことが分かった。以上の結果から、この新しい指導法は台湾の中国語を母語とする学習者であれば、有効な指導法だと言えよう²³。

2.2.2 結果の分析

実験結果から、新しい指導法を用いたクラスは、従来の指導法を用いたクラスよりも成績が良いが、どの部分が違うのか、下の<グループ別各項目誤答率の表>と<個人別の各項目誤答数の表>で更に詳しく考察することにする。

表 18 グループ別各項目誤答率の表

| | | 短音 高 | 短音 低 | 跨拍 上昇音 | 跨拍 下降音 | 跨拍 高平音 | 跨拍 低平音 | |
|----------|---------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| テスト 1 | 構成総数 | 16 | 20 | 6 | 6 | 2 | 4 | |
| | 統制 群 | 平均値 | 6.1 | 4.1 | 3.6 | 4.4 | 1.5 | 0.9 |
| | | % | 38% | 21% | 60% | 73% | 75% | 23% |
| | 実験 群 | 平均値 | 5.3 | 6.3 | 3.5 | 4.4 | 0.9 | 0.9 |
| % | | 33% | 32% | 58% | 73% | 45% | 23% | |
| テスト 2 | 構成総数 | 14 | 20 | 6 | 6 | 3 | 4 | |
| | 統制 群 | 平均値 | 3.7 | 3.1 | 2.8 | 3.4 | 1.4 | 1.2 |
| | | % | 26% | 16% | 47% | 57% | 47% | 30% |
| | 実験 群 | 平均値 | 2.6 | 1.8 | 2.3 | 2.8 | 0.9 | 1.1 |
| % | | 19% | 9% | 38% | 47% | 30% | 28% | |
| テスト 3 | 構成総数 | 14 | 18 | 6 | 6 | 3 | 5 | |
| | 統制 群 | 平均値 | 1.4 | 2.5 | 0.9 | 2.6 | 1 | 1.4 |
| | | % | 10% | 14% | 15% | 43% | 33% | 28% |
| | 実験 群 | 平均値 | 1.3 | 0.8 | 0.3 | 1.3 | 0.8 | 1 |
| % | | 9% | 4% | 5% | 22% | 27% | 20% | |

注：跨拍上昇音：/(C)VV/或いは/(C)VN/という形の2拍で1音節を構成する音のうち、音韻的に上昇音で発音すべき音を「跨拍上昇音」と称す。例：“ないめん”（内面）の「ない」。

跨拍下降音：/(C)VV/或いは/(C)VN/という形の2拍で1音節を構成する音のうち、音韻的に下降音で発音すべき音を「跨拍下降音」と称す。例：“ないめん”

²³ 本研究とほぼ同時期に行なわれた黄（2000）では、日本語学習歴1年の学習者を対象に日本語のアクセントを単純に中国語の四声で置き換えるようアクセント指導をし、1週間の自己練習をさせた後、リーディングの効果テストを行った。事前テストの正答率は56.65%、事後テストの正答率は81.86%で、t検定で有意差が見られた。このことから、中国語の四声を利用した日本語アクセントの指導法が台湾の学習者に有効であることが証明されたと考えられる。

(内面)の「めん」。

跨拍高平音：/(C)VV/或いは/(C)VN/という形の2拍で1音節を構成する音のうち、音韻的に高く平坦に発音すべき音を「跨拍高平音」と称す。例：“へんけん”（偏見）の「けん」。

跨拍低平音：/(C)VV/或いは/(C)VN/という形の2拍で1音節を構成する音のうち、音韻的に低く平坦に発音すべき音を「跨拍低平音」と称す。例：“アイデア”の「デア」。

表 19 個人別の各項目の誤答数

A. 統制群のテスト1 (T1) とテスト2 (T2) の誤答数

| 構成問題数 学生番号 | T | T | T | T | T | T | T | T | T | T | T | T |
|---------------|-----|----|-----|----|------|---|------|---|------|---|------|---|
| | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| | 短音高 | | 短音低 | | 跨拍上昇 | | 跨拍下降 | | 跨拍高平 | | 跨拍低平 | |
| | 16 | 14 | 20 | 20 | 6 | 6 | 6 | 6 | 2 | 3 | 4 | 4 |
| A 1 | 5 | 4 | 2 | 0 | 3 | 4 | 5 | 4 | 2 | 1 | 0 | 2 |
| A 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 5 | 5 | 5 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| A 3 | 6 | 1 | 0 | 1 | 4 | 5 | 5 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| A 4 | 4 | 0 | 2 | 1 | 4 | 2 | 3 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 |
| A 5 | 10 | 11 | 9 | 9 | 2 | 1 | 5 | 5 | 1 | 3 | 3 | 1 |
| A 6 | 4 | 2 | 1 | 0 | 3 | 2 | 4 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| A 7 | 11 | 2 | 2 | 5 | 4 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| A 8 | 7 | 6 | 6 | 12 | 2 | 4 | 6 | 5 | 1 | 2 | 2 | 3 |
| A 9 | 6 | 1 | 2 | 0 | 3 | 2 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| A 10 | 10 | 5 | 2 | 4 | 4 | 2 | 3 | 4 | 2 | 1 | 1 | 4 |
| A 11 | 11 | 8 | 7 | 5 | 2 | 3 | 2 | 4 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| A 12 | 2 | 1 | 4 | 0 | 4 | 2 | 4 | 4 | 2 | 3 | 0 | 1 |
| A 13 | 4 | 3 | 7 | 0 | 3 | 3 | 3 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 |
| A 14 | 3 | 1 | 5 | 0 | 5 | 1 | 5 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| A 15 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 5 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| A 16 | 6 | 6 | 5 | 7 | 5 | 5 | 5 | 6 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| A 17 | 10 | 8 | 10 | 7 | 5 | 5 | 5 | 5 | 1 | 3 | 4 | 1 |

B. 実験群のテスト1 (T1) とテスト2 (T2) の誤答数

| 構成問題数 学生番号 | T | T | T | T | T | T | T | T | T | T | T | T |
|---------------|-----|----|-----|----|------|---|------|---|------|---|------|---|
| | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| | 短音高 | | 短音低 | | 跨拍上昇 | | 跨拍下降 | | 跨拍高平 | | 跨拍低平 | |
| | 16 | 14 | 20 | 20 | 6 | 6 | 6 | 6 | 2 | 3 | 4 | 4 |
| B 1 | 8 | 1 | 2 | 0 | 3 | 1 | 5 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| B 2 | 2 | 2 | 8 | 0 | 4 | 4 | 4 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| B 3 | 6 | 4 | 6 | 2 | 3 | 2 | 6 | 5 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| B 4 | 3 | 5 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 2 | 1 | 2 | 3 | 2 |
| B 5 | 8 | 2 | 8 | 2 | 5 | 0 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| B 6 | 8 | 4 | 11 | 3 | 3 | 2 | 5 | 3 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| B 7 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B 8 | 10 | 2 | 10 | 2 | 3 | 2 | 6 | 4 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| B 9 | 3 | 3 | 10 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| B 10 | 3 | 1 | 4 | 0 | 5 | 1 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| B 11 | 10 | 5 | 9 | 4 | 4 | 3 | 5 | 4 | 2 | 0 | 2 | 2 |
| B 12 | 3 | 1 | 3 | 0 | 4 | 2 | 5 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| B 13 | 4 | | 8 | | 4 | | 5 | | 1 | | 0 | |

テスト1とテスト2 (ヒアリングテスト) の成績を比較した表18と表19からも分かるように、短音レベルの場合、実験群は統制群よりも全体の成績が上がっている。しかし、2拍で1音節の跨拍音の場合、実験群でも特に大きな成果は見られなかった。また、リーディングテストのテスト3も跨拍下降音、跨拍高平音、跨拍低平音の部分に問題のある学生が実験群の中に数名見られる。もともとこのテストがデザインされた段階で跨拍高平音と跨拍低平音の2拍を別々の短音と見做し、特別に考慮していなかったため、この種の問題数は少ない。跨拍の高平音と低平音は学習者にとって難しいと予測していなかったが、実験群でも誤答率が高い。実験は初級者を対象に行ったので、高低の音階を提示すれば、跨拍音でも自然に身に付くと考え、取り立てて説明を行わなかったが、各項目の誤答率の分析から見ると、やはり特別に取り出して教える必要があると考えられる。

以上、初級学習者を対象に中国語の第一声と半三声だけを導入した指導法の効果を検討する実験を行った。その結果、実験群の学習者は短音の高低感覚においてはかなり進歩したが、跨拍音についてはやはり問題があることが分かった。

2.3 本研究の成果を取り入れたアクセント指導法

最後にこの研究全体の成果を取り入れ、跨拍音のことも考慮した教案の一例を提示する(中国語版は巻末資料編の資料9を参照)。これはゼロからスタートする初心者を対象にするもので、指導時間は五十音図の指導も含めて約6時間である。教師は学習者のニーズと学習負担を考慮しながら、日本語の授業に活用する必要がある。項目一と項目八に説明や練習

を付け加えた以外、他の部分は以前に提示した教案（実験群に使用したプリント）と同じである。

新しい教案を実施する際の注意事項は次のようである。

- ① 項目一に日本語の「低音はほぼ四声の第三声の音階に相当する」とあるが、実際に指導する時には半三声で教える。学習者の負担を考えて、敢えて半三声という専門用語を用いずに日常会話の速度で四声のモデルを発音し、第三声のところを半三声で発音する。実際に中国語では第三声は語尾や文尾にしか現れていないので、学習者に不自然さを感じさせることはない。
- ② 単語を音読する時、自然な速さで“へ”の形の文音調に従って読むことが重要である。普段から日本語のピッチの自然衰減現象に慣れさせる必要がある。特に語尾高音の場合、ピッチが段々下がることを学習者に注意させる。そうすることで、学習者の語尾高音のアクセント型弁別に役立ち、将来文節や文を学習する際の自然な文音調の導入にも繋がる。
- ③ 日本語非頭高型第1拍の低音は普通の低音より少々高く、ほぼアクセント音域の中間ぐらいの高さであるが、このことは学習者に提示する必要はないと思われる。対応している中国語音訳アクセントの1拍目の高さは普通の低音より高く、アクセント音域の約7割で、中国語寄りの上級学習者は、この事実を知らなくても1拍目の高さについては東京語話者に近い。現にこの事実を知っている学習者 CKY は却って1・2拍目に高低差の不足する現象が生じている。よって、このことは学習者に提示しないほうが良いと思われる。
- ④ 喉奥の共鳴音について説明する時、学習者に実際に手を喉に当てさせ、中国語と日本語を発音する時の共鳴振動の違いを体感じさせる。日本語を発音する時に、共鳴部位は鎖骨の上辺りの気管まで下がらないように注意させる。

次に新しい教案で工夫されたところを説明する。前回の教案では、跨拍音について実験群でも良い成績を得られなかったので、跨拍音の説明と練習を補強した。中国語の四声の順序に沿って日本語の単語を配列し、日本語と中国語のピッチ曲線におけるパターンの違いを感じさせるのが狙いである。例えば、項目八の跨拍音の練習の中で、

| | |
|---------------|----|
| 3つああきやく（ツアー客） | ああ |
| 3ああもんど（アーモンド） | ああ |
| 1つああ（ツアー） | ああ |
| 1ああと（アート） | ああ |

のように教師が先に単語を発音した後で、もう一度その単語の跨拍音の部分だけを発音する。そうすることで、跨拍音のピッチ変化に注意を向けさせることができる。尚、中国語の四声の順序に沿って最初に提示した無声子音跨拍音には

ちい ちい（一、一） ちい ちい（ㄟ）

のように、跨拍上昇音の部分に、単語を音読する時よく使われる、もう一種類の平坦型のピッチ曲線のパターン“一”を合わせて示した。これは学習者に語頭無声の跨拍上昇音が中国語の第一声と完全に同じだと誤解させないためである。

アクセント指導法の例

日本語のアクセント

一、東京アクセントの規則：

1. 仮名1字の発音時間は1拍である。
2. 東京アクセントの音階は高音と低音の2種類に分かれている。
3. 同じ単語の中で、音の上昇は1回だけである。頭高型以外、単語の1拍目は低音である。
4. 日本語のアクセントの高音はほぼ中国語（の普通の速さと平静な気持ちで交わされた会話）の四声の第一声の音階に当たる。低音はほぼ四声の第三声の音階に相当する。但し、喉奥の共鳴音を使わないように注意。
5. 日本語の単語、文節、文の音調はいずれも“へ”の形をしている。声の大きさは最初が大きくて、後ろになると小さくなる。いくら長い単語でも、中休みすることはできず、一気に読むことが肝心である。

以下のような五つの仮名の単語があると仮定し、この単語に助詞の“が”を付けて東京アクセントの規則を説明する例として示す。

※数字の意味：頭高型以外、単語の1拍目は低音であるという前提で、音調は何個目の仮名まで高いかを表す。“0”は音調が助詞まで高いことを表す。

- 0 かきくけこが
- 1 かきくけこが
- 2 かきくけこが
- 3 かきくけこが
- 4 かきくけこが
- 5 かきくけこが

※仮名5つの単語の場合、“0”と“5”で表記されたアクセントの違いは、“5”で表記されたアクセントは単語の終わりに下降するので助詞が低音、“0”で表記されたアクセントは単語の終わりに音調が下降せず、助詞まで高い。

二、アクセント規則練習（一）

- | | | | | |
|----------|----------|---------|---------|---------|
| 0 あかきたなが | 0 はまやらわが | 0 あいかいが | 0 いいきいが | 0 えんけんが |
| 1 あかきたなが | 1 はまやらわが | 1 あいかいが | 1 いいきいが | 1 えんけんが |
| 2 あかきたなが | 2 はまやらわが | 2 あきかが | 2 いしきいが | 2 えせけんが |
| 3 あかきたなが | 3 はまやらわが | 3 あいかいが | 3 いいきいが | 3 えんけんが |
| 4 あかきたなが | 4 はまやらわが | | | |
| 5 あかきたなが | 5 はまやらわが | | | |

三、清音

- | | | | | |
|---------|---------|----------|---------|----------|
| 1 あお（青） | 2 いえ（家） | 0 うえ（上） | 1 え（絵） | 0 おか（丘） |
| 0 かき（柿） | 1 あき（秋） | 0 きく（菊） | 0 け（毛） | 1 こえ（声） |
| 0 さけ（酒） | 2 あし（足） | 0 いす（椅子） | 1 あせ（汗） | 1 きそ（基礎） |
| 0 たけ（竹） | 0 ぐち（口） | 0 つくえ（机） | 1 て（手） | 2 おと（音） |

| | | | | |
|----------|-----------|----------|----------|----------|
| 2 なつ (夏) | 2 にく (肉) | 2 いぬ (犬) | 1 ねこ (猫) | 2 つの (角) |
| 2 はな (花) | 1 ひふ (皮膚) | 1 ふね (船) | 0 へそ (臍) | 1 ほほ (頬) |
| 2 まめ (豆) | 2 みみ (耳) | 2 むね (胸) | 1 め (目) | 0 もも (桃) |
| 2 やま (山) | | 2 ふゆ (冬) | | 0 よこ (横) |
| 2 はら (腹) | 0 とり (鳥) | 1 はる (春) | 2 きれ (布) | 2 いろ (色) |
| 2 かわ (川) | | | | |

四、濁音、半濁音

0 がくれき (学歴) 1 ぎん (銀) 1 ぐんたい (軍隊) 1 げんかん (玄関) 1 ごえん (五円)
 1 ざいさん (財産) 0 じかん (時間) 1 ちず (地図) 0 かぜ (風) 1 かぞく (家族)
 0 だいがく (大学) 0 はなぢ (鼻血) 2 こづつみ (小包) 0 でんわ (電話) 1 まど (窓)
 0 ばあい (場合) 1 びん (瓶) 1 ぶんか (文化) 0 とくべつ (特別) 2 おぼん (お盆)
 0 ぱちんこ 0 ぴかぴか 1 ぷりぷり 0 ぺこぺこ 1 ぼかぼか

五、長音：もとの音を2拍の長さまで伸ばす。

あ段+あ 2 おかあさん (お母さん) 2 おばあさん
 い段+い 0 きいろ (黄色) 2 おじいさん 2 おにいさん (お兄さん)
 3 ちいさい (小さい)
 う段+う 0 ゆうびん (郵便) 1 ふうふ (夫婦) 0 すうじ (数字)
 0 くらこう (空港) 1 くらぎ (空気) 1 つうか (通貨)
 え段+い/え 0 とけい (時計) 3 せんせい (先生) 0 がくせい (学生)
 0 へいわ (平和) 2 おねえさん (お姉さん)
 お段+う/お 0 こうえん (公園) 2 おとうさん (お父さん) 0 ぎんこう (銀行)
 0 こおり (氷) 3 おおきい (大きい) 0 とおい (遠い)

六、拗音：い段音+やゆよの場合、2つの仮名は1拍の長さで発音する。

| | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| 0 きやくま (客間) | 0 ぎゅうにく (牛肉) | 1 きょう (今日) |
| 0 しゃしん (写真) | 1 じゅぎょう (授業) | 0 しょうめいしょ (証明書) |
| 0 ちゃわん (茶碗) | 0 ちゅうしゃ (注射) | 0 ちょきん (貯金) |
| 1 にやあにやあ | 0 にゅうがく (入学) | 1 にようぼう (女房) |
| 0 ひやくえん (百円) | 1 ひゅうひゅう | 0 びょういん (病院) |
| 2 みやく (脈) | 0 りゅうこう (流行) | 0 りょこう (旅行) |

七、促音：1拍発音しない。小さい“っ”で表す。

| | |
|--------------------------|----------------------------|
| 0 あさり → 3 あっさり | 0 いつう (胃痛) → 0 いったう (一通) |
| 2 おと (音) → 0 おっと (夫) | 1 かこ (過去) → 1 かつこ (括弧) |
| 2 さか (坂) → 0 さっか (作家) | 0 じしゅう (自習) → 0 じっしゅう (実習) |
| 1 せけん (世間) → 0 せっけん (石鹸) | 1 そと (外) → 3 そっと |
| 0 はけん (派遣) → 0 はっけん (発見) | 0 もと (元) → 1 もっと |
| 0 きっさてん (喫茶店) | 0 きって (切手) |
| | 0 けっせき (欠席) 0 ざっし (雑誌) |

0につき (日記) 0ばっきん (罰金) 0ぶっか (物価) 3ゆっくり
 0いっぱい (一杯) 1いっぶん (一分) 1いっぼん (一本)

八、アクセント規則の練習 (二)

※注意事項：東京アクセントの音韻規則では高音と低音の転換は拍と拍の間に起こり、1拍の中では起こらない。従って、中国語の第二声と第四声のような上昇と下降の音調が聞えた時、それは跨拍の上昇音或は下降音であることに注意。

補足説明：

1. 日本語の跨拍上昇音の音節には主に以下のような3種類のピッチ曲線がある。

- “—” 平坦型
- “∩” 拋物線上昇型
- “/” 斜め上昇型

単語を音読する時、無声子音 (p、s、h、t、k) から始まる跨拍上昇音は“—” “∩” 平坦型、有声音 (母音、n、m、y、r、w) から始まる跨拍上昇音は“∩” 拋物線上昇型が多く使われている。文を音読する時には、“へ”の形の句音調、文音調に従う。日常会話において、特に強調しない場合は主に平坦型“—”、中程度の強調では主に拋物線上昇型“∩”、高程度の強調の場合には主に斜め上昇型“/”が用いられる。但し、ピッチ曲線の違いは絶対的な要素ではなく、声の高さこそが強調の有無の決め手である。

2. 日本語の跨拍下降音は主に“∪” 拋物線下降型のピッチ曲線が使われている。

みゃん みゃん (∩) みゃん みゃん (∪) ちい ちい (—, ∩) ちい ちい (∪)
 りゅう りゅう (∩) りゅう りゅう (∪) かん かん (—, ∩) かん かん (∪)

| | | |
|--------|--------|----------|
| 0ばであんは | 0やじいらが | 0にゆいきょうを |
| 1ばであんは | 1やじいらが | 1にゆいきょうを |
| 2ばであんは | 2やじいらが | 3にゆいきょうを |
| 3ばであんは | 4やじいらが | 5にゆいきょうを |

| | | | | |
|-------------------|------------|--------------|------------|--------------|
| 3つああきやく (ツアー客) ああ | 0ふあん (不安) | あん | 0ばあい (場合) | あい |
| 3ああもんど (アーモンド) ああ | 0あんぜん (安全) | あん | 3あいそう (愛想) | あい |
| 1つああ (ツアー) | ああ | 1どりあん (ドリアン) | あん | 2ぼせいあい (母性愛) |
| 1ああと (アート) | ああ | 1あんこ | あん | 1あい (愛) |

| | | | |
|-------------|----|-------------|----|
| 0こうすい (香水) | すい | 0よきん (預金) | きん |
| 0すいせい (彗星) | すい | 0きんきゅう (緊急) | きん |
| 2ちかすい (地下水) | すい | 1ききん (基金) | きん |
| 2やすい (安い) | すい | 1きんか (金貨) | きん |

| | | | |
|--------------|-----|----------------|-----|
| 0らんおう (卵黄) | おう | 0えんげい (園芸) | げい |
| 0おうさま (王様) | おう | 0げいじゅつ (芸術) | げい |
| 2ふそうおう (不相応) | おう | 3しょくにんげい (職人芸) | げい |
| 2じょおう (女王) | おう | 1げい (芸) | げい |
| 0いちりゅう (一流) | りゅう | 5どんちゃんさわぎ (騒ぎ) | ちゃん |
| 0りゅうこう (流行) | りゅう | 0ちゃんと | ちゃん |
| 1ふうりゅう (風流) | りゅう | 1あかちゃん (赤ちゃん) | ちゃん |
| 1りゅうざん (流産) | りゅう | 1ちゃんす (チャンス) | ちゃん |

| | | |
|---------|----------|-----------|
| 0ためりっくが | 0あっちゃあるを | 0きゅんぱるていは |
| 1ためりっくが | 1あっちゃあるを | 1きゅんぱるていは |
| 2ためりっくが | 3あっちゃあるを | 3きゅんぱるていは |
| 3ためりっくが | 5あっちゃあるを | 4きゅんぱるていは |
| 5ためりっくが | | 5きゅんぱるていは |

第3節 本研究のまとめ

第2章では学習者の母語である中国語に対する四声の音感を利用して、東京アクセントが有する高低の感覚を体得させることを提案したが、日中アクセントを単に置き換えるだけでは学生に外国人訛りの発音をさせてしまう可能性が高い。

アクセント音域について見た場合、日常会話の速さで平静に話された台湾の中国語は日本語と殆ど差がない。しかし、1拍分の長さを持つ高音と低音について見た場合、日本語のピッチ曲線と対応する中国語のピッチ曲線（第一声と半三声）には違いが見られる。中国語の第一声と半三声のピッチ曲線は一定の形を維持しているが、日本語はアクセント核の後の低音以外は形がかなり自由である。

従って、中国人教師が中国語の第一声と半三声を利用して東京アクセントの高音と低音を指導する時には、大体の音階を示すにとどめ、学習者に第一声と半三声のピッチ曲線まで完全にコピーさせることは避けるべきである。教師がアクセントのモデルを示す時、自然な日本語の速さと高低でアクセントを発音することが肝要である。

日常会話の速さで平静に話された台湾の中国語における下降調“\”第四声のピッチ差は、東京アクセントの跨拍下降音“ㄣ”のピッチ差と大差がないが、ピッチ曲線のパターンには違いが見られる。

中国語の上昇調第二声“ㄨ”は上昇の高さが東京アクセントの跨拍上昇音より高く、しかも上昇のさせ方、ピッチ曲線のパターンも異なり、そのまま用いると誤用を生じさせる可能性が大きい。跨拍上昇音の単語を音読する場合、語頭無声を「平ら」で、語頭有声を「拋物線上昇」で読めば、東京語話者に最も近い読み方になる。

東京アクセントの上昇・下降との違いを注意深く説明しながら教えなければ、特に跨拍上昇音では誤用を生じさせる可能性が高い。

第3章で明らかにされたことは、中国人学習者が母語としての中国語の四声に基づいて日本語を聞く場合に、跨拍上昇音と語尾高音とで困難を生ずると考えられること、また、話す

時には、低音、跨拍上昇音、語中の跨拍下降音（先端が高すぎる）と語尾の高音が難しいと考えられることである。

第4章の分析を通して分かったことは、会話文中の跨拍上昇音が上昇するかしないか、及び上昇する場合の幅が、共に強調する意思の強さによって決まるということ、更にその語を強調する意思の強さに応じて、斜昇、抛昇、平らの順に多く使われる傾向があるということである。

日本語の跨拍上昇音を詳しく説明すると、初心者にとって難しすぎる可能性があるので、第5章第2節では初級学習者を対象に、まず中国語の第一声と半三声だけを導入した指導法の効果を検討する実験を行った。その結果、実験群の学習者は短音の高低感覚においてはかなり進歩したが、跨拍音についてはやはり問題があることが分かった。従って、跨拍音については、やはり特別に取り出して教える必要があると考えられる。第5章第2節の実験結果と本研究全体の成果を踏まえ、跨拍音のことも考慮した教案の一例を第5章2.3節に提示した。

従来アクセントの指導法では、学習者は日本語の高低音感が分からずに、ただ教師の発音を真似するしかなかったが、この指導法は学習者に日本語の高低に関する簡単な基準を与えることになるであろう。

第4節 今後の課題

従来、日中アクセントの研究は経験的な議論にとどまっておき、機械を使用するなど、客観的にピッチを測定する詳しい対照研究はなされていなかった。本研究を通して、日中両語のアクセント音域と上昇・下降音調の高低差の異同、ピッチパターンの違い、共鳴部位の違い、台湾上級学習者の日本語語アクセントに関する学習上の困難点や誤用の傾向などが解明されたと言える。しかし、尚以下のような課題が残されていると言えよう。

第4章で会話文中の跨拍上昇音の実態について言及したが、文中での短音綴りの非頭高型における1拍目の低音については触れなかった。先行研究では、アクセント句の句中に入っている非頭高型の1拍目の低音は、前の音の高低に影響され、前後の音とほぼ同じ高低で発音されていると述べられているが、それは中国人の耳で聞いた場合、本当に中国語の高音第一声に聞こえるのであろうか。ピッチの高低が同じであっても、共鳴の位置によって、違う音色の音に聞こえることは、この研究で明らかにされたところである。文アクセントの表記で、前後の音に同じ高低の線を引いてしまったら、学習者は中国語の第一声で読んでしまう危険性がある。中国人の耳で聞いた場合、アクセント句の句中に入っている非頭高型の1拍目の低音が何声に聞こえるのかを究明しなければならない。

第5章2.3節で跨拍音の説明と練習を補強し、語アクセントの新しい教案を提示したが、実際にそれを使用し、学習者を指導した後、跨拍音について成績がよくなるかどうか新しい教案の効果について今後観察する必要がある。

またこの研究では語アクセントについて論じたが、日中の文アクセントつまり文音調については殆ど触れていない。より自然な日本語の音声で日本語を話せるようになりたいと考える台湾の中国人学習者のためには日中の文アクセントの対照研究も必要であろう。それらを今後の研究課題にしたいと考える。

引用文献

- 相浦泉 (1979) 『NHK 中国語入門』 日本放送出版協会
- 石條修 (1989) 『日本語の音韻とアクセント』 勁草書房
- 猪塚元・猪塚恵美子 (1993) 『日本語の音声入門』 バベル・プレス
- 今川博・桐谷滋 (1989) 「DSP を用いたピッチ、フォルマント実時間抽出とその発音訓練への応用」 『電子情報通信学会技術研究報告』 SP89-36, pp.17-24
- 今田滋子 (1989) 『教師用日本語教育ハンドブック 6 発音』 凡人社
- 植田渥雄 (1986) 「半三聲の発音指導に関する考察と提言—日本語アクセントとの対比から」 『桜美林大学中国文学論叢』 12 号, pp.1-17
- 王曉青 (1999) 「日本語語頭の拍に跨る上昇音について」 『台湾日本語文學報』 14, pp.213-241
- 王曉青 (2000) 「中国語の四声と日本語の東京アクセントの対照研究—日本語アクセントの高低感覚に関する指導のために—」 『台湾日本語文學報』 15, pp.11-35
- 王曉青 (2001) 「台湾上級日本語学習者における日本語語アクセントの音声・音響の特徴について—日中両語のアクセントの高低との比較から—」 『台湾日本語文學報』 16, pp.75-103
- 小河原義朗 (1997) 「発音矯正場面における学習者の発音と聞き取りの関係について」 『日本語教育』 92 号, pp.83-94
- 加賀万章 (1986) 「中国語四声の他外国語における活用」 『大正大学研究紀要』 72 輯, pp.435-444
- 川上葵 (1956) 「文頭のイントネーション」 『国語学』 25 『日本語アクセント論集』 1995 年汲古書院再録, pp.61-75
- 川上葵 (1957a) 「準アクセントについて」 『国語研究』 7 国学院大学 『日本語アクセント論集』 1995 年汲古書院再録, pp.92-113
- 川上葵 (1957b) 「東京語の卓立強調の音調」 『国語研究』 6 『日本語アクセント論集』 1995 年汲古書院再録, pp.77-91
- 川上葵 (1966) 「アクセント現象とアクセント観念」 『音声学会会報』 121 『日本語アクセント論集』 1995 年汲古書院再録, pp.23-29
- 川上葵 (1977) 『日本語音声概説』 桜楓社
- 河路由佳 (1988) 「台湾語を母語とする日本語学習者の音声教育について—音節、アクセントを中心に—」 『紀要』 13, 日本国際学友会日本語学校, pp.56-69
- 金田一春彦 (1974) 『国語アクセントの史的研究—原理と方法—』 塙書房
- 金田一春彦 (1965) 「丁寧な発音の弁」 『国語国文』 34 卷 2 号 『日本語音韻の研究』 1967 年東京堂再録, pp.367-391
- 金田一春彦 (1980) 「アクセント」 『国語学大辞典』 東京堂, pp.6-7
- 日下部文夫 (1964) 「拍から音節へ」 『岡山大学法文学部学術紀要』 21, 『論集日本語研究 2 アクセント』 1980 年有精堂再録, pp.240-261
- 黄國彦 (1999) 『日語発音入門』 旺文社
- 黄招憲 (2000) 『日本語アクセントと中国語声調の対照研究』 致良出版社

- 郡史郎 (1992) 「プロソディーの自律性—フレーズを定める規則について」月刊『言語』21-9, pp.31-3
- 郡史郎 (1994) 「強調とイントネーション」『講座日本語と日本語教育』2 杉藤美代子編, 明治書院, pp.316-342
- 郡史郎 (1997) 「日本語のイントネーション—型と機能—」『日本語音声2 アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』国広哲弥他編, 三省堂, pp.169-202
- 胡新輝 (1994) 「HMM による中国語単語声調の認識」『電子情報通信学会技術研究報告』sp93-118~127[音声] pp.39-45
- 小林隆治 (1963) 「音調分析に基づくアクセントの新表記法」『音声学会会報』113, pp.4-6
- 小森法孝 (1987) 『日本語アクセント教室』新水社
- 崔絢喆・佐藤滋 (1994) 「特殊拍を含む語頭音節のピッチ制御に対するアクセント核と分節音の影響」『平成6年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.105-108
- 蔡茂豊 (1977) 「中国人の日本語における音声教育」『東呉日本語教育』2, pp.4-125
- 重松淳 (1995) 「台湾語話者の日本語アクセント考」『日本語と日本語教育』24号, 日本慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター, pp.39-55
- 朱春躍 (1993) 「中国語話者の日本語アクセントの習得—その特徴と指導上の問題点をめぐって—」『第7回大学と科学公開シンポジウム国際化する日本語—話し言葉の科学と音声教育』クバプロ, pp.179-184
- 城生佰太郎 (1990) 「言葉の構造と声域」月刊『言語』19-7 大修館, pp.70-74
- 白井克彦 (1998) 「音声の分析と合成」『岩波講座言語の科学2 音声』岩波書店, pp.128-176
- 杉藤美代子 (1982) 「無声拍とアクセントの問題」『日本語アクセントの研究』三省堂, pp.77-106
- 杉藤美代子 (1985) 「日本語と英語における「新情報」の発話の音響的特徴」『音声の研究』21, 『日本人の英語』1996年和泉書院再録, pp.221-234
- 杉藤美代子 (1997) 『音声波形は語る』日本和泉書院
- 佐藤大和 (1992) 「プロソディーの生成—音声からみたプロソディー—」月刊『言語』21-9, pp.58-65
- 佐藤大和 (1993) 「機械の音声」『日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究』D1 班研究発表論集文部省重点領域研究平成4年度研究成果報告書 水谷修ほか編, pp.11-14
- 陳永基 (1993) 「台湾式日本語アクセントの矯正について」『日語教学研究国際研究会論文集』東呉大学, pp.192-204
- 陳永基 (2001) 「台湾式アクセントの矯正とアクセントの指導法について」『台湾日本語教育論集』5号台湾日語教育学会, pp.25-41
- 沈炯 (1985) 「北京話声調的音域和語調」『北京語音実験録』王理嘉ほか著, 北京大学, pp.73-130
- 陳通生 (1994) 『中国語教授法—理論と実践—』中国書店
- 土岐哲 (1982) 「アクセント」『日本語教育事典』日本語教育学会編, 大修館, pp.26-43
- 土岐哲 (1990) 「日本語のアクセントと教育上の留意点」『日本語教育ハンドブック』大修館,

pp.220-227

- 戸田昌幸・黄國彦 (1989) 『日語語音學入門』台湾鴻儒堂
- 野沢素子 (1973) 「台湾人留學生の日本語に於けるアクセントの傾向について」『日本研究』3号日本慶応義塾大学, pp.33-69
- 服部四郎 (1954) 「音韻論から見た国語のアクセント」『国語研究』2号『日本語の言語学第2巻音韻』1980 徳川宗賢編, 大修館再録, pp.37-65
- 早田輝洋 (1970) 「東京アクセントのピッチ曲線」『文研月報』二十卷8号NHK, pp.35-39
- 早田輝洋 (1989) 「アクセント」『講座日本語と日本語教育1 日本語学要説』明治書院, pp.28-48
- 前川喜久雄 (1998) 「音声学」『岩波講座言語の科学2 音声』岩波書店, pp.1-52
- 水谷修 (1978) 『日本語音声学』くろしお
- 水谷修 (1990) 「アクセントとイントネーションの習得法」『講座日本語と日本語教育3 日本語の音声・音韻(下)』杉藤美代子編, 明治書院, pp.93-112
- 望月八十吉 (1974) 『中国語と日本語』光生館
- 楊焜雯 (1998) 「台湾人学習者の日本語における高低感覚についての考察」『銘傳日本語教育』1, 銘傳大学応用語文学院応用日語系, pp.36-78
- 李活雄 (1997) 「香港における日本語の音声教育」『21世紀の日本語音声教育に向けて』研究代表者水谷修新プロ「日本語」研究班3 平成8年度研究報告書, pp.121-126
- 林錦川 (1984) 『標準東京日語語調規則』文笙書局
- 林文賢 (1993) 「台湾式日本語アクセントの矯正について」『日語教学研究国際研究会論文集』東呉大学, pp.205-214
- 和田実 (1975) 「アクセント・イントネーション・プロミネンス」『日本語と日本語教育(発音・表現編)』文化庁国立国語研究所, pp.53-86
- Chao, Yuen-Ren (1948) *Mandarin Primer*, Harvard College Press.
- Chao, Yuen-Ren (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*, University of California Press.

資料編

資料編

資料1 2.4.1節の各データの表

表1：頭高型 八人の平均アクセント音域: 52.8Hz

| | | | | | | | | | |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 短音で綴られた語 | 単語 | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA |
| | あお | 29 | 47 | 58 | 56 | 48 | × | 85 | 106 |
| | にもつ | 36 | 35 | 41 | 74 | 50 | 34 | 31 | 43 |
| | シャツ | 19 | × | 63 | × | 36 | 50 | 73 | 92 |
| | ママ | 32 | 73 | 50 | 26 | 28 | × | 47 | 117 |
| | りえき | 38 | 46 | 45 | 63 | 48 | 34 | 74 | 56 |
| | ふね | 49 | × | 65 | 116 | 57 | 47 | 56 | 124 |
| | のむ | 38 | 29 | 51 | 63 | 53 | 33 | 42 | 111 |
| | 平均 | 34.4 | 46 | 53.3 | 66.3 | 45.7 | 39.6 | 58.3 | 92.7 |
| 跨拍上昇音 | 単語 | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA |
| | チーズ | 38 | 51 | 55 | 111 | 49 | 34 | 75 | 88 |
| | クーラー | 33 | 40 | 61 | 86 | 45 | 66 | 49 | 76 |
| | おおかみ | 35 | × | 38 | 79 | 26 | 16 | 27 | 37 |
| | かんしゃ | 39 | 54 | 51 | 51 | 25 | 58 | 45 | 25 |
| | しんぼう | 37 | 73 | 66 | 98 | 49 | 57 | 53 | 114 |
| | うんめい | 33 | 33 | 66 | 113 | 51 | 46 | 59 | 68 |
| | レンズ | × | 51 | 55 | 68 | 45 | 40 | 73 | 75 |
| | そんとく | 39 | 66 | 58 | 32 | 30 | 26 | 33 | 44 |
| | マーク | 19 | 26 | 20 | 53 | 29 | 31 | 45 | 49 |
| | 平均 | 34.1 | 49.3 | 52.2 | 76.8 | 38.8 | 41.6 | 51 | 64 |
| 総平均(アクセント音域) | 34.3 | 47.7 | 52.8 | 71.6 | 42.3 | 40.6 | 54.7 | 78.4 | |

注1：×→音声波形がきれいに出ていない部分か、録音されていない部分を表す

表2：平板・中高型（短音で綴られた語） 八人の総平均:30.8Hz

| | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 単語 | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA |
| いく | 10 | 24 | 25 | 37 | 26 | 24 | 44 | 56 |
| うし | 14 | 34 | 19 | 26 | 25 | 26 | 41 | 49 |
| おとこ | 10 | 20 | 21 | 17 | 27 | × | 34 | 50 |
| けっこん | 32 | 19 | 25 | 29 | 26 | 15 | 27 | 53 |
| きって | × | × | 36 | × | 26 | × | 29 | 40 |
| わたしぶね | 13 | 20 | 34 | 59 | 26 | 20 | 53 | 69 |
| やまざくら | 15 | 12 | 32 | 49 | 20 | 21 | 55 | 37 |
| ママおや | 12 | 21 | 24 | 26 | 27 | 26 | 40 | 31 |
| まめまき | 19 | 26 | 21 | 63 | 32 | 40 | 54 | 80 |
| 平均 | 15.6 | 22 | 26.3 | 38.3 | 26.1 | 24.6 | 41.9 | 51.7 |

表 3 : 跨拍上昇音の語頭を持つ外来語が単語だけで発音される時と文中（前の語の音が低く終わる時）、文頭に来る時の 1・2 拍目の高低差

| | | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の 平均値 | 平均 |
|-----------|---|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|--------------------|----|
| コーヒー | 語 | -11 | 0 | 7 | 19 | 10 | 20 | 8 | 19 | -11 ₍₁₎ | 10 |
| | 中 | 5 | 0 | -19 | × | × | × | 2 | -16 | -18 ₍₂₎ | 1 |
| | 頭 | 12 | 6 | 6 | 5 | 16 | 24 | 14 | 26 | | 14 |
| コーディネーター | 語 | 11 | 0 | 17 | -23 | 5 | 10 | 12 | 20 | -23 ₍₁₎ | 9 |
| | 中 | 16 | 11 | -10 | 8 | 1 | 2 | 20 | 18 | -10 ₍₁₎ | 10 |
| | 頭 | 17 | -3 | 4 | 13 | 6 | 16 | 30 | 18 | -3 ₍₁₎ | 13 |
| ペンキ | 語 | -21 | -5 | 15 | 6 | 7 | -16 | 11 | 29 | -14 ₍₃₎ | 9 |
| | 中 | -8 | 2 | -20 | 5 | 6 | 2 | 9 | -19 | -16 ₍₃₎ | 3 |
| | 頭 | 11 | -16 | 8 | 7 | 10 | 35 | 11 | 31 | -16 ₍₁₎ | 14 |
| ペンフレンド | 語 | 11 | 6 | 7 | 6 | 9 | 19 | 10 | 13 | | 10 |
| | 中 | 6 | 31 | -10 | -5 | 12 | 10 | 4 | 3 | -8 ₍₂₎ | 8 |
| | 頭 | 19 | 12 | 10 | 13 | 9 | 26 | 24 | 25 | | 17 |
| テーブル | 語 | -7 | -2 | 11 | -13 | 7 | -6 | 6 | 6 | -7 ₍₄₎ | 4 |
| | 中 | 3 | -40 | -18 | 6 | -6 | 4 | 16 | -18 | -21 ₍₄₎ | 4 |
| | 頭 | 4 | 0 | 4 | 12 | 11 | 12 | 18 | 25 | | 11 |
| テーブルクロス | 語 | 5 | -16 | 7 | -12 | 4 | 12 | 16 | 13 | -14 ₍₂₎ | 7 |
| | 中 | 3 | -21 | 3 | -16 | 2 | -19 | 10 | -23 | -20 ₍₄₎ | 2 |
| | 頭 | 7 | -13 | 6 | 13 | 2 | 19 | 25 | 31 | -13 ₍₁₎ | 13 |
| テーブルコーダー | 語 | 3 | -13 | 6 | -18 | 12 | 16 | 6 | 6 | -16 ₍₂₎ | 6 |
| | 中 | 5 | -8 | 2 | 5 | 4 | × | 6 | -18 | -13 ₍₂₎ | 3 |
| | 頭 | 5 | 5 | 6 | 13 | -5 | 15 | 30 | 19 | -5 ₍₁₎ | 12 |
| インフレ | 語 | -5 | 0 | 16 | 5 | 8 | 13 | 23 | 23 | -5 ₍₁₎ | 11 |
| | 中 | -3 | 25 | 37 | 25 | 15 | 11 | 18 | 25 | -3 ₍₁₎ | 20 |
| | 頭 | 26 | 8 | 44 | 26 | 14 | 20 | 35 | 31 | | 26 |
| インフォメーション | 語 | 9 | 13 | 23 | 31 | 10 | 9 | 25 | 20 | | 18 |
| | 中 | 34 | 46 | 15 | 6 | 11 | 4 | 13 | 14 | | 18 |
| | 頭 | 31 | 14 | 28 | 44 | 16 | 39 | 31 | 49 | | 32 |

注 2 : マイナス（「-」）の数値は 1 拍目から 2 拍目にかけて上昇すべきところが上昇せず
に下降していることを意味する。音声波形の先端と最後の曲がっている部分（イメージ図
“ \ ” 本文図 12 の「政治」を参照）を計算に入れず、主に真ん中の傾斜している
部分（イメージ図 “ \ ” 本文図 12 の「小さ」を参照）だけ数値で表示する。もし、
波形の大部分が水平になっていて、先端と最後の部分だけ少し曲がっていたら “ 0 ”
の数値で表示する。正の数値と相殺しないように、平均値は負の平均値と個数（下付
きの括弧で示す）とを区別して示す。また、負の値が出て、主観上平板に聞こえる
し、10 Hz 以上の差がないと下降の音調に聞こえないので、全体の代表平均値を計算
するとき、負の部分全部 0 Hz で計算する。他表も同様である。

注 3 : 単語→語、文中→中、文頭→頭で表示する

表4 感情(冷静、感情的)の影響による1・2拍目の高低差

| | | | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の平均値 | 平均 |
|-----|----|------------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|--------------------|----|
| 小さい | 語 | | -5 | -13 | 4 | 12 | 3 | 6 | 10 | 0 | -9 ₍₂₎ | 4 |
| | 文中 | 冷静 51番 | 5 | -22 | -18 | 6 | -5 | 2 | 2 | 16 | -15 ₍₃₎ | 4 |
| | | 感情的 50番 | -2 | -46 | 12 | 19 | 5 | 12 | 16 | 43 | -24 ₍₂₎ | 13 |
| そんな | 語 | | 4 | -10 | 18 | 18 | 16 | 5 | 14 | 30 | -10 ₍₁₎ | 13 |
| | 文頭 | 冷静 62番 | 9 | -13 | 26 | 6 | 23 | 22 | 16 | 29 | -13 ₍₁₎ | 16 |
| | | 64番 | 11 | 5 | 6 | 26 | 20 | 11 | 27 | 21 | | 16 |
| | | 感情的 63番 | 14 | 10 | 41 | 22 | -10 | 52 | 33 | 71 | -10 ₍₁₎ | 30 |
| | | 65番 | 43 | -16 | 40 | 23 | 14 | 93 | 38 | 78 | -16 ₍₁₎ | 41 |

表5：子音と母音別による跨拍上昇音の1・2拍目の高低差

A. 母音別による無声音の1・2拍目の高低差

| | | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の 平均値 | 平均 |
|---|----------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|--------------------|----|
| k | かいかん | 9 | 20 | 6 | 11 | 25 | 11 | 12 | 19 | | 14 |
| | カーネーション | -3 | 2 | 9 | 6 | 9 | 14 | 16 | 12 | -3 ₍₁₎ | 9 |
| | かんじ | × | 3 | 14 | 3 | 17 | 13 | 11 | 26 | | 12 |
| t | たんぼ | -6 | 8 | 8 | -11 | 5 | 7 | 12 | 16 | -9 ₍₂₎ | 7 |
| | たいこう | 3 | 0 | 5 | 8 | 12 | 4 | 8 | 21 | | 8 |
| h | はいしん | 15 | 10 | 7 | 14 | 21 | 21 | 21 | 23 | | 17 |
| A | 平均 | | | | | | | | | | 11 |
| k | きんせい | 4 | -14 | -6 | 17 | 5 | 3 | 6 | 23 | -10 ₍₂₎ | 7 |
| s | しんよう | -11 | -25 | 16 | 5 | 9 | 5 | 14 | -12 | -16 ₍₃₎ | 6 |
| t | ちいさい | -5 | -13 | 4 | 12 | 3 | 6 | 10 | 0 | -9 ₍₂₎ | 4 |
| p | ピンぼけ | -11 | 4 | 9 | -28 | 7 | 13 | -11 | 6 | -17 ₍₃₎ | 5 |
| I | 平均 | | | | | | | | | | 6 |
| k | くうこう | -10 | -27 | 4 | 6 | 8 | 3 | 6 | 0 | -19 ₍₂₎ | 3 |
| s | しゅうしん | 3 | 3 | -14 | -7 | 6 | 2 | 8 | 23 | -11 ₍₂₎ | 6 |
| t | ちゅうしん | 2 | 8 | -10 | -12 | 21 | 5 | 8 | 24 | -11 ₍₂₎ | 9 |
| | つうしん | -15 | 2 | 12 | 10 | 19 | 6 | 6 | 19 | -15 ₍₁₎ | 9 |
| h | ふんまつ | 7 | -6 | 14 | -6 | 12 | 3 | 12 | 12 | -6 ₍₂₎ | 8 |
| p | ぶんぶん | 26 | × | 5 | -12 | 14 | 11 | 4 | 35 | -12 ₍₁₎ | 14 |
| U | 平均 | | | | | | | | | | 8 |
| k | けいだい | 1 | -13 | 6 | -24 | 8 | 3 | 10 | 6 | -19 ₍₂₎ | 4 |
| | けんきゅう | 2 | 8 | 10 | 12 | 11 | 4 | 10 | 26 | | 10 |
| s | せんばい | 2 | 8 | 14 | 6 | 10 | 9 | 10 | 18 | | 10 |
| | せんばい | 5 | -7 | 13 | 4 | 11 | 13 | 11 | 13 | -7 ₍₁₎ | 9 |
| | せいじ | -5 | -10 | 5 | 7 | 11 | -11 | 4 | 25 | -9 ₍₃₎ | 7 |
| | せいせい | 3 | -5 | 6 | 6 | 4 | -8 | 15 | 7 | -7 ₍₂₎ | 5 |
| t | テーブル | -7 | -2 | 11 | -13 | 7 | -6 | 6 | 6 | -7 ₍₄₎ | 4 |
| | テーブルクロス | 5 | -16 | 7 | -12 | 4 | 12 | 16 | 13 | -14 ₍₂₎ | 7 |
| | テープレコーダー | 3 | -13 | 6 | -18 | 12 | 16 | 6 | 6 | -16 ₍₂₎ | 6 |
| p | ペンキ | -21 | -5 | 15 | 6 | 7 | -16 | 11 | 29 | -14 ₍₃₎ | 9 |
| | パンフレット | 11 | 6 | 7 | 6 | 9 | 19 | 10 | 13 | | 10 |

| E | 平均 | | | | | | | | | | 7 |
|----------|----------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------------|----|
| k | コーヒー | -11 | 0 | 7 | 19 | 10 | 20 | 8 | 19 | -11 ₍₁₎ | 10 |
| | コーディネーター | 11 | 0 | 17 | -23 | 5 | 10 | 12 | 20 | -23 ₍₁₎ | 9 |
| | きょうせい | 10 | -8 | -8 | 24 | 6 | 17 | 10 | 24 | -8 ₍₂₎ | 11 |
| s | そんな | 4 | -10 | 18 | 18 | 16 | 5 | 14 | 30 | -10 ₍₁₎ | 13 |
| | そうがく | 3 | -2 | 3 | 28 | 6 | -12 | 12 | 20 | -7 ₍₂₎ | 9 |
| | しょうがく | -7 | -16 | 10 | 18 | 6 | 9 | 8 | 12 | -12 ₍₂₎ | 8 |
| t | とうそう | 7 | -13 | 7 | 18 | 8 | 5 | 8 | 25 | -13 ₍₁₎ | 10 |
| | とうがん | -9 | -2 | 3 | -14 | -6 | 1 | 9 | 21 | -8 ₍₄₎ | 4 |
| h | ほうる | 2 | -24 | 5 | 18 | 4 | 3 | 10 | 14 | -24 ₍₁₎ | 7 |
| p | ポール | 5 | 5 | 8 | × | 2 | 6 | 12 | 12 | | 7 |
| O | 平均 | | | | | | | | | | 9 |
| 負の値の平均値 | | -9 | -12 | -10 | -15 | -6 | -11 | -11 | -12 | -12 ₍₂₉₎ | |
| (負の値の個数) | | ₍₁₃₎ | ₍₂₀₎ | ₍₄₎ | ₍₁₂₎ | ₍₁₎ | ₍₅₎ | ₍₁₎ | ₍₁₎ | | |
| 総平均 | | 5 | 2 | 8 | 8 | 9 | 8 | 10 | 17 | | 8 |

B. 母音別による有声音の1・2拍目の高低差

| | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の 平均値 | 平均 |
|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|-------------------|----|
| g がいかん | 15 | 13 | 15 | 21 | 24 | 15 | 24 | 25 | | 19 |
| d だんぼう | 8 | 15 | 5 | 12 | 21 | 22 | 14 | 16 | | 14 |
| だいこう | 9 | 22 | 24 | 22 | 25 | × | 26 | 27 | | 22 |
| b ばいしん | 7 | 19 | 17 | 16 | 25 | 7 | 21 | 32 | | 18 |
| n なんこう | 8 | 20 | 18 | 11 | 23 | 19 | 26 | 38 | | 20 |
| m まんせい | 13 | 7 | 16 | 41 | 29 | 11 | 24 | 31 | | 22 |
| ママルト | 13 | 17 | 16 | 34 | 11 | 21 | 26 | 30 | | 21 |
| r らんぼう | 11 | 21 | 23 | 50 | 39 | 23 | 43 | 38 | | 31 |
| らいこう | 13 | 33 | 10 | 32 | 39 | × | 30 | 27 | | 26 |
| w ワイシャツ | 10 | 19 | 15 | 34 | 24 | × | 37 | 38 | | 25 |
| a あいこう | 17 | 26 | 24 | 17 | 13 | × | 12 | 30 | | 17 |
| A 平均 | | | | | | | | | | 22 |
| g ぎんせい | 18 | 10 | 29 | 20 | 19 | 11 | 34 | 37 | | 22 |
| b びんぼうぐらし | 32 | 13 | 25 | 16 | 15 | 16 | 26 | 25 | | 21 |
| m みんかん | 13 | 13 | 7 | 9 | 25 | 3 | 22 | 25 | | 15 |
| i インフレ | -5 | 0 | 16 | 5 | 8 | 13 | 23 | 23 | -5 ₍₁₎ | 11 |
| インフォメーション | 9 | 13 | 23 | 31 | 10 | 9 | 25 | 20 | | 18 |
| I 平均 | | | | | | | | | | 17 |
| z じゅうしん | 17 | 26 | 21 | 42 | 34 | 25 | 34 | 21 | | 28 |
| b ぶんまつ | 15 | 13 | 14 | 13 | 21 | 9 | 37 | 23 | | 18 |
| n にゅうがく | 9 | 11 | 13 | 16 | 21 | 2 | 27 | 26 | | 16 |
| y ゆうそう | 12 | 38 | 11 | 26 | 27 | 24 | 39 | 37 | | 27 |
| u うんよう | -4 | 20 | 27 | 5 | 12 | 5 | 18 | 11 | -4 ₍₁₎ | 12 |
| U 平均 | | | | | | | | | | 20 |
| g げいだい | 7 | 13 | 1 | 7 | 20 | 5 | 32 | 14 | | 12 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|----------|-----|----|----|----|----|----|----|----|--|-------|
| | げんきゅう | 12 | 26 | 6 | 3 | 19 | 10 | 24 | 33 | | 17 |
| z | ぜんぱい | 8 | 13 | 10 | 3 | 16 | 15 | 21 | 25 | | 14 |
| m | めいしん | 11 | 21 | 21 | 38 | 48 | 19 | 50 | 33 | | 30 |
| r | れんらく | 13 | 5 | 23 | 38 | 25 | 4 | 18 | 20 | | 18 |
| e | えいせい | 3 | 3 | 10 | 6 | 23 | 13 | 7 | 31 | | 12 |
| E | 平均 | | | | | | | | | | 17 |
| g | ぎょうせい | 9 | 7 | 20 | 7 | 3 | 2 | 28 | 17 | | 12 |
| z | ぞうがく | 10 | 7 | 1 | 12 | 14 | 8 | 26 | 26 | | 13 |
| d | どうがん | 8 | 12 | 13 | 10 | 12 | 12 | 25 | 27 | | 15 |
| | どうそう | 7 | 23 | 15 | 24 | 18 | 13 | 26 | 32 | | 20 |
| b | ボール | 13 | 34 | 28 | 12 | 5 | 8 | × | 33 | | 19 |
| r | ろうがん | 14 | 14 | 13 | 46 | 44 | 9 | 40 | 43 | | 28 |
| y | ようし | 7 | 12 | 9 | 31 | 27 | 16 | 38 | 32 | | 22 |
| o | おうさま | 8 | 19 | 12 | 26 | 15 | 17 | 20 | 25 | | 18 |
| O | 平均 | | | | | | | | | | 18 |
| | 負の値の平均値 | -5 | | | | | | | | | -5(2) |
| | (負の値の個数) | (2) | | | | | | | | | |
| | 総平均 | 11 | 17 | 16 | 21 | 22 | 13 | 27 | 28 | | 19 |

表6 文頭に来る無声音と有声音による1・2拍目の高低差

A. 文頭に来る無声音

| | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJK | JJKA | 負の値の 平均値 | 平均 |
|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------------|----|
| カーネーション | 3 | -3 | 15 | 18 | 5 | 35 | 27 | 31 | -3(1) | 17 |
| かんじ(感じ) | 7 | -13 | 5 | 6 | 17 | 14 | 35 | 39 | -13(1) | 15 |
| かいかん(会館) | 10 | 19 | 14 | 18 | 4 | 2 | 27 | 31 | | 16 |
| しんよう(信用) | 18 | -26 | 15 | 6 | 12 | 22 | 9 | 7 | -26(1) | 11 |
| くうこう(空港) | -9 | -8 | 6 | 6 | 5 | 14 | 10 | 0 | -9(2) | 5 |
| けいだい(慶大) | 7 | -23 | 10 | 13 | 8 | 5 | 7 | 13 | -23(1) | 8 |
| せんぱい(先輩) | 22 | 18 | 10 | -25 | 12 | 4 | 5 | 13 | -25(1) | 11 |
| テーブル | 4 | 0 | 4 | 12 | 11 | 12 | 18 | 25 | | 11 |
| テーブルクロス | 7 | -13 | 6 | 13 | 2 | 19 | 25 | 31 | -13(1) | 13 |
| テープレコーダー | 5 | 5 | 6 | 13 | -5 | 15 | 30 | 19 | -5(1) | 12 |
| ペンキ | 11 | -16 | 8 | 7 | 10 | 35 | 11 | 31 | -16(1) | 14 |
| ペンフレンド | 19 | 12 | 10 | 13 | 9 | 26 | 24 | 25 | | 17 |
| コーヒー | 12 | 6 | 6 | 5 | 16 | 24 | 14 | 26 | | 14 |
| コーディネーター | 17 | -3 | 4 | 13 | 6 | 16 | 30 | 18 | -3(1) | 13 |
| しょうがく(少額) | 8 | -21 | 6 | 6 | 10 | 16 | 13 | 24 | -21(1) | 10 |
| ポール | 12 | 3 | 3 | × | 10 | 12 | 21 | 13 | | 11 |
| 負の値の平均値 | -9 | -14 | | -25 | | | | | -14(11) | |
| (負の値の個数) | (1) | (9) | | (1) | | | | | | |
| 総平均 | 10 | 4 | 8 | 10 | 9 | 17 | 19 | 22 | | 12 |

B. 文頭に来る有声音

| | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の 平均値 | 平均 |
|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|-------------|----|
| マーマレード | 22 | 2 | 19 | 64 | 28 | 37 | 28 | 31 | | 29 |
| インフォメーション | 31 | 14 | 28 | 44 | 16 | 39 | 31 | 49 | | 32 |
| インフレ | 26 | 8 | 44 | 26 | 14 | 20 | 35 | 31 | | 26 |
| ゆうそう(郵送) | 31 | 21 | 33 | 71 | 42 | 26 | 46 | 44 | | 39 |
| れんらく(連絡) | 18 | -3 | 9 | 32 | 1 | 14 | 26 | 19 | -3(1) | 15 |
| おうさま(王様) | 14 | 7 | 10 | 56 | 22 | 44 | 35 | 31 | | 27 |
| ぎょうせい(行政) | 14 | 5 | 22 | 91 | 20 | 10 | 33 | 38 | | 29 |
| ろうがん(老眼) | 26 | 5 | 20 | 61 | 33 | 21 | 56 | 50 | | 34 |
| 負の値の平均値 | | -3 | | | | | | | -3(1) | |
| (負の値の個数) | | (1) | | | | | | | | |
| 平均 | 23 | 8 | 23 | 56 | 22 | 26 | 36 | 37 | | 29 |

表7 文中にある無声音と有声音の1・2拍目の高低差

A. 前の語の音が低く終わり、文中にある無声音

| | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の 平均値 | 平均 |
|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|-------------|----|
| カーネーション | 8 | -2 | 8 | 10 | -5 | 10 | 25 | 5 | -4(2) | 8 |
| かんじ(感じ) | -6 | 3 | 4 | × | -6 | 10 | 8 | -36 | -16(3) | 4 |
| たいこう(対抗) | 12 | 19 | 15 | 18 | 12 | 15 | 12 | 42 | | 18 |
| しんよう(信用) | 6 | -15 | -12 | -2 | -8 | -9 | 7 | -15 | -10(6) | 2 |
| くうこう(空港) | -9 | -26 | -13 | 13 | -8 | -10 | 11 | -46 | -19(6) | 3 |
| ふんまつ(粉末) | 16 | 10 | 8 | 6 | 12 | 19 | 14 | 25 | | 14 |
| ふんぶん | -5 | -28 | 9 | -29 | 19 | 16 | 12 | 32 | -21(3) | 11 |
| テーブル | 3 | -40 | -18 | 6 | -6 | 4 | 16 | -18 | -21(4) | 4 |
| テーブルクロス | 3 | -21 | 3 | -16 | 2 | -19 | 10 | -23 | -20(4) | 2 |
| テープレコーダー | 5 | -8 | 2 | 5 | 4 | × | 6 | -18 | -13(2) | 3 |
| けんきゅう(研究) | -12 | 12 | 5 | 3 | -7 | -9 | 4 | 7 | -9(3) | 4 |
| ペンキ | -8 | 2 | -20 | 5 | 6 | 2 | 9 | -19 | -16(3) | 3 |
| ペンフレンド | 6 | 31 | -10 | -5 | 12 | 10 | 4 | 3 | -8(2) | 8 |
| コーヒー | 5 | 0 | -19 | × | × | × | 2 | -16 | -18(2) | 1 |
| コーティネーター | 16 | 11 | -10 | 8 | 1 | 2 | 20 | 18 | -10(1) | 10 |
| きょうせい(強制) | 5 | 5 | 9 | 26 | 11 | 15 | 8 | 6 | | 11 |
| とうけい(統計) | 1 | -31 | 3 | 3 | 6 | 6 | 2 | 3 | -31(1) | 3 |
| 負の値の平均値 | -8 | -21 | -15 | -13 | -7 | -12 | | -24 | -15(14) | |
| (負の値の個数) | (5) | (8) | (7) | (4) | (6) | (4) | | (8) | | |
| 総平均 | 5 | 5 | 4 | 7 | 5 | 7 | 10 | 8 | | 6 |

B. 前の語の音が低く終わり、文中にある有声音

| | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の 平均値 | 平均 |
|-------------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|-------------|----|
| マーマレード | 25 | 13 | 23 | × | × | × | 23 | 0 | | 17 |
| なんこう(難航) | 24 | 5 | 14 | 33 | 4 | 14 | 13 | 54 | | 20 |
| ワイシャツ | 37 | 4 | 6 | 47 | 9 | 19 | 37 | 33 | | 24 |
| インフォメーション | 34 | 46 | 15 | 6 | 11 | 4 | 13 | 14 | | 18 |
| インフレ | -3 | 25 | 37 | 25 | 15 | 11 | 18 | 25 | -3(1) | 20 |
| ゆうびんぶつ(郵便物) | 30 | 12 | 10 | 31 | 17 | 4 | 25 | 18 | | 18 |
| げいだい(芸大) | 18 | 10 | 4 | 11 | 10 | 14 | 31 | 25 | | 15 |
| ぜんぱい(全敗) | 11 | 3 | 6 | 7 | 6 | 6 | 10 | 0 | | 6 |
| れんらく(連絡) | 13 | 14 | 11 | 29 | -7 | 12 | 11 | 23 | -7(1) | 14 |
| おうさま(王様) | -9 | 40 | 3 | 12 | 13 | × | 18 | 6 | -9(1) | 13 |
| 負の値の平均値 | -6 | | | | -7 | | | | -6(3) | |
| (負の値の個数) | (2) | | | | (1) | | | | | |
| 総平均 | 19 | 17 | 13 | 22 | 9 | 11 | 20 | 20 | | 16 |

C. 前の語の音が高く終わり、文中にある無声音

| | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の平均値 | 平均 |
|--------------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|----|
| たいへん(大変) | -2 | 7 | 2 | 18 | 5 | 16 | 17 | 29 | -2(1) | 12 |
| かいすう(回数) | 1 | 7 | -14 | 11 | 5 | 15 | 8 | 6 | -14(1) | 7 |
| しんこく(深刻) | 15 | -29 | -9 | 19 | 7 | 10 | 0 | -13 | -17(3) | 6 |
| せんぱい(千倍) | -4 | 7 | 17 | 6 | -3 | 23 | 26 | 31 | -4(2) | 14 |
| とうがん(冬瓜) | 5 | -23 | 4 | 6 | 4 | 18 | 10 | 32 | -23(1) | 10 |
| コーヒー | × | × | × | 6 | -7 | 9 | × | × | -7(1) | 5 |
| しょうがくきん(奨学金) | -14 | -18 | -18 | 8 | -8 | 8 | 6 | 20 | -15(4) | 5 |
| 負の値の平均値 | -7 | -23 | -14 | | -6 | | | -13 | -12(7) | |
| (負の値の個数) | (3) | (3) | (3) | | (3) | | | (1) | | |
| 総平均 | 4 | 4 | 4 | 11 | 3 | 14 | 11 | 20 | | 9 |

D. 前の語の音が高く終わり、文中にある有声音

| | OJSM | OJSF | JJA | JJM | JJF | JJS | JJKO | JJKA | 負の値の平均値 | 平均 |
|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|---------|----|
| マーマレード | × | × | × | 32 | 6 | -7 | × | × | -7(1) | 13 |
| がいかん(外観) | 6 | 13 | 3 | 12 | 9 | 9 | 29 | 5 | | 11 |
| がいしょく(外食) | 30 | 10 | × | 25 | 18 | 9 | 22 | 29 | | 20 |
| にゅうがく(入学) | 4 | 15 | -9 | 11 | 6 | 3 | 14 | 0 | -9(1) | 7 |
| げんきゅう(言及) | 12 | 15 | 7 | 13 | 16 | 8 | 14 | 18 | | 13 |
| もんだい(問題) | 4 | -15 | -15 | 4 | 2 | 2 | 8 | -22 | -17(3) | 3 |
| ろうじん(老人) | -22 | 20 | 5 | 20 | 6 | 12 | 34 | -18 | -20(2) | 12 |
| ボール | 14 | 5 | 7 | 16 | 8 | 6 | 36 | 26 | | 15 |
| 負の値の平均値 | -22 | -15 | -12 | | | -7 | | -20 | -13(4) | |
| (負の値の個数) | (1) | (1) | (2) | | | (1) | | (2) | | |
| 総平均 | 10 | 11 | 4 | 17 | 9 | 6 | 22 | 11 | | 11 |

資料2 上級学習者の日本語の音読単語に対する日本人の評価（アクセントの高低・強弱・長さに関する問題を中心に）

| | | | | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|---|
| あ お (青) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M オウ | 4 | M オウ | 4 | H 少しだらしなく感じ。日本人は | 3 |
| | N オが少し高い。 | 1 | S オを喉の奥で言っている。 | 3 | もっとはっきり発音するかも。 | |
| | S オを喉の奥で言っている。 | 4 | S オの口でアを発音しているよう | 4 | T アはもう少し高く。 | 1 |
| | K 少しオウになっている。 | 2 | に聞こえる。 | | S オを喉の奥で言っている。 | 4 |
| | I オはウに近い。 | 2 | | | K オウになっている。 | 2 |
| | B オウになっている。 | 4 | | | I アウに近い。オが不鮮明、アが長 | 2 |
| | C オは妙な響き。 | 2 | | | い。 | |
| | | | | | C オはもっと下がるべき、強すぎ。 | 2 |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | K 少しオウになっている。 | 3 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| M オウ | 4 | M オウ | 4 | M オの口でアと言っている（筆者 | 4 | |
| T オはもう少し低く。 | 1 | H アウに聞こえる。 | 2 | 注：喉の奥で言っているため）。 | | |
| S アの口でオウと発音している（筆 | 4 | S オがウに聞こえる（筆者注：低音 | 4 | M オウ | 4 | |
| 者注：のどの音が全体的に響くた | | の時、喉の音が強い）。 | | S オの口でアと発音している。 | 4 | |
| め）。 | | I アウに近い。 | 3 | S オはオウになっている（筆者注： | 4 | |
| I オが不明瞭、ウに近い。 | 4 | A アウと発音されている。 | 4 | 喉の音が響くから）。 | | |
| C アは高くオは低く発音すべき（筆 | 2 | B アウに聞こえる。 | 2 | K オウに近い。 | 2 | |
| 者注：共鳴の所が違う）。 | | C アウに聞こえる（筆者注：共鳴の | 2 | I オが不明瞭、ウに近い。 | 4 | |
| | | 所が違う）。 | | A アウときこえる。 | 2 | |
| | | | | C アとオは共鳴の所が違う。 | 1 | |
| い く (行 く) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M クウ | 4 | M クウ | 4 | H クウと聞こえる。 | 2 |
| | S イとクを喉の奥で言っている（筆 | 4 | S クを喉の奥で言っている。 | 2 | S クを喉の奥で言っている。 | 4 |
| | 者注：喉仏の下の共鳴音を響かせ | | I k が強すぎ。 | 1 | C クは強すぎ、長すぎ。 | 2 |
| | ている）。 | | | | | |
| | K イが少し伸びている。 | 2 | | | | |
| | I クはグに近い。 | 2 | | | | |
| | I クウになっている。 | 2 | | | | |
| | Y 語尾が下がっている。 | 2 | | | | |
| | C クの響きが違う。 | 1 | | | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| I クが低すぎ。 | 1 | I イが高すぎる。 | 1 | I y u に聞こえる。 | 1 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| M クウ | 4 | | | H クの音はもう少し低く。 | | |
| S クウになっている。喉の方が少し | 4 | | | I クの[u]が強すぎる。 | 1 | |
| 響いている。 | | | | | | |
| I クのウが目立つ、長い。 | 3 | | | | | |

注：日本人 M、S、B の 3 人には筆者が直接面談し、記入された答の意味を確かめた。M、S、B の回答については筆者の理解による要約が含まれる。

| | | | | | | |
|-------------|-----------------------------|-------------|--------------------------|--------------------------|------------------|---|
| うし (牛) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ウが低すぎ (筆者注: 喉の奥で言っているのだ)。 | 1 | | | S ウを喉の奥で言っている。 | 4 |
| | S ウは喉の奥が響いている。 | 2 | | | K ウにwの音が少し入っている。 | 1 |
| | K ウが少し伸びている。 | 2 | | | C シは強すぎ、長すぎ。 | 2 |
| | I [u]が口を丸めすぎ。 | 2 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | I ウが高すぎる。 | 1 | I ウが強いかも。 | 2 |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| I じという音が強い。 | 2 | I シが長すぎる。 | 1 | I ウは口を丸めていて、強すぎる。 | 1 | |
| | | | | C ウの共鳴の所が違う。 | 1 | |
| おとこ (男) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ムオ (筆者注: 喉の奥で言っているのだ)。 | 4 | M ムオ (筆者注: 喉の奥で言っているのだ)。 | 4 | C コは強すぎ、長すぎ。 | 2 |
| | | | N オは妙な響き。 | 1 | | |
| | | | T オの低音を高音で読んだ。 | 1 | | |
| | | | S オの低音を高音で読んだ。 | 1 | | |
| | | | I オは弱すぎる。 | 1 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | I オは高すぎる。 | 1 | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| I トの「o」が強い。 | 2 | M コウ | 1 | M ド | 4 | |
| | | M 語尾が高すぎ。 | 1 | I トは強すぎる。[t]が目立つ。 | 2 | |
| | | S コが上がっている。 | 1 | C オとオの共鳴の所が違う。コは強すぎ、長すぎ。 | 2 | |
| | | Kwの音が入りすぎ。 | 2 | | | |
| | | I コが高すぎる。 | 1 | | | |
| にもつ (荷物) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | C モは妙な響き。 | 2 | H モは少し上がった方が良い。 | 2 | C ツは強すぎ、長すぎ。 | 1 |
| | ツは強すぎ。 | 1 | N モの口の開きが小さい。 | 1 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| I ツが長すぎる。 | 2 | | | M ツ | 4 | |
| | | | | I ツが目立つ。 | 1 | |
| | | | | C ツは強すぎ、長すぎ。 | 2 | |

| | | | | | | |
|--------------|-------------------------|-------|-------------------------|----------------------------|------------------|---|
| けっこん (結婚) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M 語尾が高すぎ。 | 1 | C 語尾が上がっている。 | 2 | | |
| | S 語尾が高すぎ。 | 1 | ンは㊦に聞こえる。 | 2 | | |
| | C 語尾が上がっている。 | 1 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | M 語尾が高すぎ。 | 1 |
| | | | | N コンは妙な響きがある。 | 1 | |
| | | | | S ンが少し上がっている。 | 1 | |
| | | | | K ケッコが早すぎ。 | 2 | |
| | | | | Y 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | C 促音は短すぎ。 | 2 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | | | M 語尾が高すぎ。 | 1 | |
| | | | | S 語尾が少し上がっている。 | 1 | |
| | | | | C 語尾は上がっている。 | 2 | |
| シャツ | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | N ツに近い響き。 | 2 | M ツウ | 4 | | |
| | S ツを喉の奥で言っているから、ツに聞こえる。 | 4 | N ツに近い響きを感じる。 | 2 | | |
| | | | S ツを喉の奥で言っているからツウに聞こえる。 | 2 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | | | M ツ | 4 | |
| | | | | S ツ (筆者注: 喉の奥で言っているの で) | 4 | |
| | | | | K シャが低い。 | 1 | |
| | | | | C ツは強すぎ、長すぎ。 | 2 | |
| きって (切手) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | C 促音の響きが違う。音圧が強すぎ。 | 2 | | | H テェと聞こえる。 | 3 |
| | 語尾は強すぎ、上がっている。 | 2 | | | N テはちょっと長い。 | 1 |
| | | | | | S テェー | 4 |
| | | | | | I テは強すぎる。[e]が長い。 | 2 |
| | | | | | C テが長い。 | 2 |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| | | | | M 促音が短すぎ。 | 4 | |
| | | | | S キテ | 4 | |
| | | | | I 促音が短すぎる。 | 1 | |
| | | | | C 促音は短すぎ。 | 2 | |

| | | | | | | |
|--|-------------------------|----------------------|--------------------|-----------------------|------------------|---|
| き っ て (切 手) | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | I 全体的にゆっくり過ぎる。 | 1 | | | M テェ | 4 |
| | C テは強すぎ、長すぎ。 | 2 | | | M 語尾が高すぎ。 | |
| | | | | | S テェに聞こえる。もっと軽く。 | 4 |
| | | | | | K キが低い。 | 1 |
| | | | | | I ティに聞こえる。 | 2 |
| | | | | | C テは強すぎ、長すぎ。 | 2 |
| わ た し ぶ ね (渡 し 舟) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ネィッが一番長く、ピッチが下に曲がる感じ。 | 1 | M ネェ Mダ | 1 | S プの高を低に読んだ。 | 4 |
| | M ダ | 4 | K シが高い。 | 4 | K ウワに聞こえる。 | 1 |
| | H ネの発音が少し違う。 | 2 | C タの響きが違う。 | 2 | I シが強すぎる。 | 2 |
| | N タが少し長い。 | 1 | ブが下がっている。アクセントが違う。 | 3 | C プネのアクセントが違う。 | 3 |
| | S ワが短すぎる。 | 1 | | 2 | | |
| | K シが少し高い。 | 2 | | | | |
| | I タとシの間が少しあく。 | 3 | | | | |
| | C タは濁音に近い。 | 2 | | | | |
| | 全体の長さが違う。 | 3 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | M ネの低を高に読んだ。 | 2 | M プ | 4 |
| | | | H ネの音はもう少し低く。 | 2 | H ダと聞こえる。 | 2 |
| | | | S ネの低を高に読んだ。 | 2 | I ダに近い、強い。 | 2 |
| | | | K ワが低い。 | | | |
| | | | K プが高い。 | 2 | | |
| | | I ネが高い。 | | | | |
| | | Y 語尾が上がっている。 | 1 | | | |
| | | A プを強く発音しすぎ。 | 3 | | | |
| | | B アクセントがおかしい。 | 1 | | | |
| | | C アクセントが違う。ネはもっと下がる。 | 2 | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| M プ | 4 | M ネェ | 1 | K ワが低い。 | 1 | |
| N ワに妙な響きがある。 | 1 | I ネが長い。 | 1 | I ワが目立つ、1つ1つははっきりしすぎ。 | 2 | |
| K ワが低い。 | 1 | | | | | |
| K プが高い。 | 2 | | | | | |
| I 1つ1つの音がゆっくり過ぎる。 | 4 | | | | | |
| C プが一番高くなっている。プの響きが少し変。 | 2 | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---------------------|---------------------------------------|------------------|-----------------|---------------------|---|
| やまざくら(山桜) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ラァ | 1 | M クウラ | 1 | M ラァ | 1 |
| | 語尾がちょっと上がる。 | | がっている。 | | き舌。 | |
| | Nザが少し長い。 | 1 | Cザは長め、クは短めに聞こえる。 | 2 | 語尾がちょっと上がる。 | 1 |
| | Sクラのテンポが早すぎ、クが短すぎる。 | 2 | クとラがつながって聞こえる。 | 2 | Nザが少し長い。 | 1 |
| | S喉の奥で言っている。 | 2 | | | Sクラのテンポが早すぎ、クが短すぎる。 | 2 |
| | Kザに力が入り気味。 | 1 | | | S喉の奥で言っている。 | 2 |
| | Aもう少しマを強く発音すべき。 | 2 | | | Kザに力が入り気味。 | 1 |
| | Cヤとザの響きが違う。 | 2 | | | Aもう少しマを強く発音すべき。 | 2 |
| | クラが短い。 | 2 | | | Cヤとザの響きが違う。クラが短い。 | 2 |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| | | Iクのuが強い。 | | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| Iクの[u]が目立つ。 | 2 | M ラァ | 1 | Iクの[u]が目立つ。 | 2 | |
| Iラが長い。 | 2 | Sラァ巻き舌(筆者注:クが喉の音を使っているため、ラは巻き舌に聞こえる)。 | 1 | Iラが長い。 | 2 | |
| | | | | Cクは無声化していない。 | 2 | |
| おかあさん | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | | | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | Iカーが長すぎる。 | 1 | | | Sオが短すぎ。 | 1 |
| | | | | M ャオカア | 4 | |
| | | | | Iカーが長い。 | 1 | |
| | | | | Iンが弱い。 | 1 | |
| | | | | Cカーの終わりが上がっている。 | 2 | |

| | | | | | | |
|-----------------------------------|---|---------|----------------|------------------|---------------------|---|
| カー ネー シ ョ ン | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Mネイー | 4 | Mネイー | 4 | Sカーの音調↗。 | 1 |
| | Hネエシヨが強い。 | 2 | S少しネイになっている。 | 4 | Kネが高い。 | 2 |
| | Nカーが少し長い。 | 1 | | | Iカアの[a]が強すぎる。 | 2 |
| | Nネーの長音は[ei]になっている。 | 2 | | | | |
| | Sネイ | 4 | | | | |
| | S(ネイ)↗ は最後に尻尾が上がっている) | 2 | | | | |
| | Sシヨンは伸ばしすぎ。 | 4 | | | | |
| | Kネの長音が低い。 | 2 | | | | |
| | I長音が長すぎ、長音の音程が変化し ている。カアネエ。カーは平板に読 むべき。 | 3 | | | | |
| Yネイ↗ | 1 | | | | | |
| Bカーが伸ばしすぎ。 | 1 | | | | | |
| C全体の響きが違う。 | 2 | | | | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| I少し「a」が強い、カアに聞こえる。 | 1 | | | Mカーネイション | 4 | |
| | | | | Sネーはネイになっている。 | 4 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | Iンは不明瞭。 | 1 | Mカーネイション | 4 | |
| | | | | Sカアとネイになっている。 | 4 | |
| | | | | Sカーの音調↗。 | 3 | |
| | | | | Kカーになっている。 | 2 | |
| | | | | Iネの長音は[ei]になってる。 | 2 | |
| | | | | Iんは弱い。 | 2 | |
| | | | | Cカーの音調↗。 | 2 | |
| ち い さ い (小 さ い) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Mチイの音調↗。 | 4 | Kチが濁音になっている。 | | Iチイのイが強い、高い。 | 1 |
| | S文字通りチイの発音になっている。 チーと伸ばすべき。 | 1 | Iチイの音調↗、イが目立つ。 | 1 | | |
| | Kイをもう少し短く。 | 2 | | | | |
| | Iチイの音調↗、イが長くなってい る。 | 2 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | Iチが少し強すぎる。 | 1 | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | Mチイサァイ | 4 | | | Iチの長音は高すぎ、サは長 い。 | 2 |
| | Sサァイ、サが少し伸びている。 | 4 | | | Cチーの音調↗。 | 2 |
| Iチは強い。サイのイは[e]に近い。 | 3 | | | | | |
| Cサイの共鳴の所が違う。 サイのイが強すぎ。 | 1 2 | | | | | |

| | | | | | | |
|------------|------------------------------|-------------------|--|------------------|----------------|---|
| チーズ | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Iチーが長い。 | 1 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | Iチが少し強すぎる。 | 1 | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| Iチが強すぎる。 | 2 | | | Mチーがシーに聞こえる。 | 4 | |
| | | | | Sチの息を弱めに。シに聞こえる。 | 4 | |
| | | | | I長音の[i]が強い。 | 1 | |
| クーラー | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Mクウー | 4 | Mクウー、喉の奥も使っている。 | 4 | Hクウラと聞こえる。 | 2 |
| | Hクウラと聞こえる。 | 2 | Hクウラと聞こえる。 | 2 | Nラーが短い。 | 1 |
| | Nクの口を丸めすぎている。 | 2 | Nラーが短い。 | 1 | Iラーが短すぎる。 | 1 |
| | Nラーが短い。 | 2 | Sクを喉の奥で言っている。 | 2 | Cラーをもっと伸ばす。 | 3 |
| | Tクの長音は口をすぼめすぎ。 | 1 | Kラーをもう少し伸ばす | 1 | | |
| | Sクウを喉の奥で言っている。ウが強い。声がこもっている。 | 2 | Iクーの[u]が強すぎ。 | 2 | | |
| | Kクウになっている。 | | Iラーが短すぎ。 | 2 | | |
| | Iクーが長すぎる。 | 1 | C英語のように聞こえる。 | 2 | | |
| | Iラーが短すぎる。 | 1 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | Iラーが少し短い。 | 1 | Mイの口でクを言っている(筆者注:クは平唇で、舌の最高点が前より、喉の奥を使っている)。 | 2 | Mクウー伸ばしすぎ(3拍)。 | 4 |
| | | | Kクが高い。 | 2 | Hクウラと聞こえる。 | 2 |
| | | | Iクが強すぎる。 | 1 | S長音を同じリズムで伸ばして | 4 |
| | | | | | いない。ラーが短すぎ。 | |
| | | | | Kクが低すぎ。 | 2 | |
| | | | | Iクが強すぎる。 | 2 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| Kラーの音質が違う。 | 1 | Mクが強すぎ(筆者注:喉の奥を使っ | 1 | Kクウになっている。 | 1 | |
| Iクの音が違う。 | 3 | ている)。 | | Iラーが短い。 | 1 | |
| | | Hクウラと聞こえる。 | 2 | | | |
| | | Sクが少し強い。 | 1 | | | |
| | | Iクが強い、ラーが短い。 | 2 | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---------------------------------|------------------------|-------------------------|---------------------------|----------------|---|
| くうこう (空港) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M クウコウ | 1 | M クウコウ | 1 | Hウの発音がはっきりしすぎて | 2 |
| | Hウをはっきり言い過ぎる。 | 2 | Hウの発音が強い。 | 2 | いるようだ。 | |
| | Tクの長音は口をすぼめすぎ。 | 1 | N口を丸めて、ウを言っている。 | 1 | C 共鳴の所が違う。 | 1 |
| | S 語尾が高すぎ。 | 1 | Tコウ | 1 | | |
| | S クーコーと発音するべき、ウを強調しないように。 | 4 | S 語尾が高すぎ。 | 1 | | |
| | K 東京ではクーコーという感じで、ウをあまりはっきり言わない。 | 1 | S クーの音調ス。 | 4 | | |
| | I クーが長すぎる。 | 2 | Sウは発音しないように。 | 4 | | |
| | Yクウコウで語尾が上がっている。 | 1 | Kウをはっきり言いすぎ。 | 2 | | |
| | C クーの音調ス。共鳴の所が違う。 | 2 | I クーの「u」とコーの「o」が目立ちすぎる。 | 3 | | |
| | | I クーはもっと平板に発音すべき。 | 3 | | | |
| | | Yクウコウになっている。 | 1 | | | |
| | | Aクウコウ | 3 | | | |
| | | Bクウコオと軽く言った方が良いのでは。 | 1 | | | |
| | | C全体の響きが違う。 | 3 | | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| | | M クウ | 1 | M 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | M 語尾が上がっている。 | 1 | Tクの長音の口をすぼめすぎ。 | 1 | |
| | | Iクが強すぎる。 | 1 | S 語尾が上がってしまっている。 | 1 | |
| | | | | K コウが高すぎ。 | 1 | |
| | | | | I クーが強すぎる。 | 2 | |
| | | | | Y 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | C クーの音調ス。 | 2 | |
| | | | | 語尾が上がっている。 | 2 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| Iクの音が違う。 | 2 | Mクが強すぎ(筆者注:喉の奥を使っている)。 | 1 | M 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | Sクが少し強い。 | 1 | Tクーは平板に読むべき。 | 1 | |
| | | K もう少しクーコーという感じの方がいい。 | 2 | S 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | Iクが強すぎる。 | 1 | Kコが高い。 | 1 | |
| | | Cクーの共鳴の所が違う。 | 2 | I クーが変な音、長音が高すぎる。[u]が目立つ。 | 1 | |
| | | | | Y 語尾が上がっている。 | 1 | |

| | | | | | | |
|----------------|--|------------------|-----------------------------|----------------------------|---------------------------------------|--------|
| せいじ (政治) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Mセイ | 1 | Mセイジイ | 1 | I長音が高すぎる。 | 2 |
| | Sセージと発音するべき。セイー ジイになっている。 | 4 | Sセージと発音するべき。イは発音し ないように。 | 4 | Cセーがセイになっている。 ジは強すぎ、長すぎ。 | 2 1 |
| | Kイをはっきり言いすぎ。 | 1 | I長音の「i」が強すぎる。 | 1 | | |
| | Iセーは長すぎる。 | 2 | Cジの「i」が強すぎる。 | 2 | | |
| | Iジは高すぎ。 | 2 | | | | |
| | Aセイジイと聞こえる。 Bセイジイになっている。 Cセーの音調↘。 ジが長い。 | 1 1 2 2 | | | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| | | | | M語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | Tイントネーションが違う感じ がする。 | 1 | |
| | | | | S語尾が上がってしまってい る。 | 1 | |
| | | | | Kジが高い。 | 1 | |
| | | | | I長音が強すぎる。 | 2 | |
| | | | | Cセイの音調↘。 語尾が上がっている。 | 2 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| Cジは強すぎ、長すぎ。 | 2 | Cセーの共鳴の所が違う。 | 2 | Mセイ、音調↘。 | 4 | |
| | | | | M語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | S語尾が高すぎ。 | 1 | |
| | | | | Sイとは言わず、セージと伸ば す。 | 4 | |
| | | | | Kイをはっきり言いすぎ、セー ジという感じに。 | 1 | |
| | | | | Iジはシーに近い。 | 2 | |
| | | | | Cセイの音調↘。 ジは強すぎ、長すぎ。 | 2 | |
| せいせい (清々)する | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Sセイーの音調↘。 | 4 | Mセイセイ | 1 | Sイをはっきりとは言わない。 | 4 |
| | Sイが入っている。 | 4 | H少しセを強く発音した方が良いか も。 | 2 | K東京ではセーセーという感じ なので、イをはっきり読みす ぎ。 | 1 |
| | I長音は長すぎ。 | 2 | Sイが入っている。 | 2 | I長音が[i]になっている。強す ぎる。 | 2 |
| | Cセーの音調↘。 | 2 | Kセが低い。 I長音の「e」が強すぎる。 | 2 4 | C2拍目の発音が変。[i]になっ ている。 | 2 |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| | | Sルが強すぎ。 | | | | |

| | | | | | | |
|------------|-------------------|-------------------|---------------------|-----------------|------------------|---|
| せいせい(清々)する | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | M 語尾が上がっている。 | 1 | C 1・2 拍のせーの共鳴の所が違う。 | 2 | M セイの上昇声調。 | 4 |
| | S 語尾が上がっている。 | 1 | | | M セイの下降声調。 | 4 |
| | K ルが上がっている。 | 2 | | | セが高過ぎ。 | |
| | I 全体的にゆっくりすぎる。 | 2 | | | H 少し違う。 | 1 |
| | | | | | T 1 拍目のセは低すぎ。 | 1 |
| | | | | | T 3 拍目のセは上がりすぎ。 | 4 |
| | | | | | S セイの上昇声調。 | 4 |
| | | | | | S セイの下降声調。 | 4 |
| | | | | | S イとはっきり発音しない。 | 4 |
| | | | | K 2 番目のセが高い。 | 2 | |
| | | | | I 長音が[i]になっている。 | 4 | |
| | | | | C セイの音調↘。 | 2 | |
| おおかみ(狼) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | C カは濁音に近い。 | 2 | M オウー | 4 | N ミはちょっと高い。 | 1 |
| | | | K オが高い。 | 2 | S カをもっと軽く、強すぎ。 | 1 |
| | | | I ミの[i]が強すぎる。 | 1 | K オが高すぎ。 | 2 |
| | | | | | I 二つ目のオが弱すぎる。 | 2 |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| I ミが高すぎる。 | 1 | | | M カが強い。 | 1 | |
| | | | | S カをもっと軽く。 | 1 | |
| | | | | C オーの終りが上がっている。 | 1 | |
| おうさま(王様) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M オウ | 4 | M オウ | 4 | I 長音が強すぎる。[o]になっ | 3 |
| | H ウをはっきり言いすぎる。 | 2 | | | ている。不自然。 | |
| | S ウを言わず、オーと伸ばすべき。 | 4 | | | C マは強すぎ、長すぎ。 | 1 |
| | K ウをはっきり言いすぎ。 | 1 | | | | |
| | I オウの上昇声調。 | 3 | | | | |
| | Y オオオになっている。 | 1 | | | | |
| | A オウ | 3 | | | | |
| | C オの長音の音が違う。 | 2 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | M オウ | 4 | S オーの音調↘。 | 1 | |
| | | S ウを言わず、オーと伸ばすべき。 | 4 | K ウをはっきり言いすぎ。 | | |
| | | I マが高すぎる。 | 1 | C オーの音調↘。 | 2 | |

| | | | | | | |
|--------------------|------------------|-----------------------|----------------------|---------------------|--------------|---|
| かんじ (感じ) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | I カンの上昇音調ンが高すぎる。 | 3 | M 語尾が上がっている。 | 1 | | |
| | Cンが㊦になっている。 | 2 | Cジは強すぎ、上がっている。 | 2 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | M カエン | 3 | M 語尾が上がっている。 | 1 |
| | | | Nカがちよっと長い。 | 1 | S 語尾が上がっている。 | 1 |
| | | S カエンに聞こえる。カのアが伸ばしすぎ。 | 3 | K ジが高い。 | 1 | |
| | | | | C ンは中国語の“ㄋ”になっている。 | 1 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | C ンの共鳴の所が下になっている。 | 2 | M カエンの音調ス。 | 3 | |
| | | | | M 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | S カンの音調ス、カエンジに聞こえる。 | 3 | |
| | | | | I ジが高い、シに近い。 | 2 | |
| | | | | C ジが強すぎ、長すぎ。 | 2 | |
| かんしや (感謝) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | K シャが低すぎ。 | 2 | M シャー | 3 | | |
| | Cンが㊦になっている。 | 3 | S シャを伸ばしすぎ、シャアに聞こえる。 | 2 | | |
| | | | Cンが㊦になっている。 | 1 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | M カエン | 3 | M キャン | 4 |
| | | S カエンに聞こえる。カのアが伸ばしすぎ。 | 3 | K 少しキャンシャになっている。 | 1 | |
| | | | | C ンの響きが違う。 | 1 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| N シャがちよっと高い。 | 1 | | | M カエン | 3 | |
| Cカンの共鳴の所が違う。もっと高く。 | 1 | | | S カのアが伸ばしすぎ。 | 3 | |
| | | | | K カンを伸ばしすぎ。 | 1 | |
| | | | | I カンは高くで強い。 | 2 | |
| | | | | C カンは終りで上がっている。 | 1 | |
| | | | | シャは強すぎ、長すぎ。 | 2 | |
| しんぼう (辛抱) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | | | Cンが㊦になっている。 | 1 | I ボーが短い。 | 3 |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | N ボーが短い。 | 1 | M シイン | 3 | N ボーがちよっと短い。 | 1 |
| | C ボーをもっと伸ばす。 | 1 | S シンをシインに、ィが長すぎ。 | 3 | I ボーが短い。 | 1 |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| I シンの[i]が強い。 | 2 | C ボーが短い。 | 1 | | | |

| | | | | | | |
|--------------|--------------------------------|-----------------------------|------------------|--------------------|------------------|---|
| しんよう (信用) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ヨウ | 1 | M ヨウ | 1 | I ンが高すぎる。 | 2 |
| | M 語尾が上がっている。 | 1 | H ウの発音が強い。 | 2 | C シンの音調の問題。 | 2 |
| | H ウをはっきり言っている。 | 2 | N ウの口を丸めすぎ。 | 1 | | |
| | S 語尾が上がっている。 | 1 | T ヨウ | 1 | | |
| | K 語尾を伸ばしすぎ。 | 2 | S ウではない。ヨーと伸ばす。 | 2 | | |
| | Y 語尾が上がっている。 | 1 | Y ヨウ | 1 | | |
| | A シウヨオウにきこえる。 | 1 | C ンヨはリエゾンが感じられる。 | 2 | | |
| | C シンニョウのように聞こえる。 ンは㊦になっている。 | 3 2 | ンは㊦になっている。 | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| C ヨーをもっと伸ばす。 | 1 | C ンが㊦になっている。 | 1 | M 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | S 語尾が上がっている。 | 1 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| C ンの共鳴の所が違う。 | 2 | M シンの音調㊦。 | 3 | M シンの音調㊦。 | 3 | |
| | | S 声調の関係で、シンヨが繋がっているように聞こえる。 | 3 | M 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | S シンの音調㊦。 | 3 | |
| | | | | S 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | K シンが低い。 | 1 | |
| | | | | I ンが高すぎる。 | 1 | |
| | | | | Y 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | C ンヨが少しリエゾンしている。 | 2 | |
| | | | | シンの音調㊦。 | 2 | |
| うんめい (運命) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M 語尾が上がっている。 | 1 | C メーがメイになっている。 | 2 | | |
| | K ウが高い。 | 2 | | | | |
| | C ンの響きが違う。ンは㊦になっている。 | 2 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | I メーは少し短い。 | 1 | N メは妙な響きがある。 | 1 | K ウに少しwの音が入っている。 | 1 |
| | N メーが短い。 | 1 | | | I ンが強い。 | 1 |
| C メーをもっと伸ばす。 | 2 | | | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| I ンが長すぎる。 | 1 | | | K ウンにwの音が入っている。 | | |
| | | | | I メーの長音は[i]になっている。 | 1 | |

| | | | | | | |
|----------------------|--------------------------------------|---------------------|-------------|-------------------|------------------|---|
| うんよう (運用) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M 語尾が上がっている。 | 1 | Cンヨが少しリエゾン。 | 2 | C ウンの音調の問題。共鳴 | 3 |
| | Hウンを強調しすぎる。 | 3 | 語尾が上がっている。 | 2 | の所が違う。ンも口先でやるべき。 | |
| | T 語尾をもう少し低い音で。 | 1 | | | | |
| | S ウンニョウになっている。ウンと ヨーは分けて発音した方がいい。 | 1 | | | | |
| | 語尾が上がっている。 | 1 | | | | |
| | Kウにwの音が入っているように感じる。 | 2 | | | | |
| | Y 語尾が上がっている。 | 1 | | | | |
| | Cンヨの響きが変。ンは㊦になっている。 | 2 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| Nヨーが短い。 | 1 | Cンが㊦になっている。共鳴の所が違う。 | 1 | Kヨーが高い。 | 1 | |
| | | | | C少しリエゾンしている感じがする。 | 2 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| Cンに変な音が聞こえる。共鳴の所が違う。 | 2 | Cンの共鳴の所が下になっている。 | 1 | Mウンの音調。 | 3 | |
| | | | | M 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | Sウンの音調。 | 3 | |
| | | | | S 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | K ウンにwの音が入っている。 | | |
| | | | | Iンが高すぎる。ウンニョウに近い。 | 1 | |
| | | | | Yウンヨウ、語尾が上がっている。 | 1 | |
| れんらく (連絡) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Kレの音質が違う。 | | Mクウ | 1 | Sクが強すぎ。 | 1 |
| | Cンは㊦になっている。 | 2 | Sクウ | 4 | Cンが強すぎる。 | 1 |
| | | | Sクを伸ばしすぎ。 | 3 | クは長すぎ、強すぎ。 | 2 |
| | | | Cクが長い。 | 2 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | | Mクが強すぎ。 | 1 | Mレンの音調。 | 3 |
| | | | Sクが少し強すぎ。 | 1 | M 語尾が上がっている。 | 1 |
| | | Kレが濁音になっている。 | 1 | Iンが高い。 | 1 | |

| | | | | | | |
|-------------|---------------|------------------------|-----------------------|--------------|------------------|---|
| レンズ | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | | | Cレンが長すぎ。 | 2 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | Mレンズ、レが長すぎ。 | 3 | | |
| | | | Sレンズになっている。レエが伸ばしすぎ。 | 3 | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | Iゆっくりすぎる。 | | | | |
| そんな | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | S語尾が少し上がっている。 | 1 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | Mソオンナ、ソが長すぎ。 | 3 | M語尾が上がっている。 | 1 |
| | | | Nソンがちょっと長い。 | 1 | S語尾が上がっている。 | 1 |
| | | | Sソオンナになっている。ソオを伸ばしすぎ。 | 3 | Sソンの音調↘。 | 2 |
| | | | | Kナが高い。 | 1 | |
| | | | | Iソが強すぎる。 | 1 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | Cンの響きが少し変。奥のほうで共鳴している。 | 1 | Mソンの音調↘。 | 3 | |
| | | | | M語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | Iンが高い。 | 1 | |
| | | | | Cソンの音調↘。 | 2 | |
| | | | | ナは長すぎ、上がりすぎ。 | 3 | |
| そんな (損得) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Mクウ、長すぎ | 1 | Mクが低すぎ。 | 1 | Hなんとなく違うような気がする。 | 4 |
| | Cンの響きが違う。 | 2 | Sクを喉の奥で言っている。 | 2 | する。 | |
| | | | Cンが㊦になっている。 | 2 | Sトクが強すぎ。 | 1 |
| | | | クは長い。 | 2 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | Nソンはちょっと長い。 | 1 | Iソが強すぎる。 | 1 | |
| | | Cンが㊦になっている。共鳴の所が違う。 | 1 | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| Iソンが長すぎる。 | 1 | Mクが強すぎ。 | 1 | Iソンが強い。 | 2 | |
| | | Sクを喉の奥で言っている。クウに聞こえる。 | 1 | Cンの響きが少し変。 | | |
| | | Kソが高い。 | 1 | クは無声化していない。 | 2 | |

| | | | | | | |
|---------------|-----------------|---|--|------------------|---|-------------|
| ママ | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | | | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | | | | | |
| ママおや (継親) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | | | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | M 二つのマが同じ高さ。 S 一番目のマの低を高で読んだ。 I 一番目のマが高すぎる。 | 1 1 1 | M 語尾が上がっている。 S 語尾が上がっている。 I ヤが高すぎる。 | 1 1 2 |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | | M 語尾が上がっている。 S 語尾が上がっている。 | 1 1 | | |
| まめまき (豆まき) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | T 語尾をもう少し低い音で。 | 1 | C キが長い。 | 2 | C キが強すぎ、長すぎ。 | 1 |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | H 一本調子の音になっている。 | 2 | | | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | I ゆっくりすぎる。 | 3 | M キが強すぎ。 S 語尾のキが強すぎ | 1 1 | C キが強すぎ、長すぎ、高過ぎ。 | 2 |
| マーク | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | C [u]は強すぎ。 | 2 | C [u]が強すぎ、長い。 | 2 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | I 長音が強い。 | 1 | | |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | | M クが強すぎ。 S 語尾のクが強い。 K 語尾のクが強い。 C クは強すぎ、長すぎ。 | 1 1 2 1 | | |

| | | | | | | |
|--------------------------------|-----------------|--------------------------------|-----------------------|----------------------------|------------------------|---|
| マー マ レ ード | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Mレーをレイと読んだ。 | 4 | Mレーをレイに読んだ。 | 4 | Hドの音が強い。もう少し軽く読んだ方が良い。 | 1 |
| | N3拍目のマが短すぎる。 | 2 | Nレの長音は[ei]になって、やや不自然。 | 2 | Sドが少し強い。 | 3 |
| | Tマーは平板にするほうがいい。 | 1 | Sレイになっている。 | 4 | Cレーが強すぎ、長過ぎ。 | |
| | Sレイを伸ばしすぎ。 | 4 | Iレーは[i]が入っている。 | 1 | | |
| | Kレイドになっている。 | 2 | Yレイになっている。 | 2 | | |
| | I2拍目の長音が高すぎる。 | 2 | Cレが強すぎ、先端が高過ぎ。 | 2 | | |
| | Iレーは「i」が入っている。 | 1 | | | | |
| | Yレイになっている。 | 2 | | | | |
| | Cレは強すぎ、先端が高過ぎ。 | 2 | | | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| Sマーマーレードになっている。3拍目のマをマーと伸ばさない。 | 4 | M3拍目のマが長過ぎ。 | 4 | Mレーをレイに読んだ。 | 4 | |
| | | N3拍目のマが長すぎる。 | 2 | Sレイになっている。 | 4 | |
| | | Sマーマーレードになっている。3拍目のマをマーと伸ばさない。 | 4 | K3拍目のマは伸ばしすぎ。 | 2 | |
| | | K3拍目のマを伸ばしすぎ。 | 2 | I3拍目のマがマーになっている。 | 1 | |
| | | I3拍目のマがマーになっている。 | 2 | Cマーの音調。 | 2 | |
| | | Yマーマーレイドになっている。 | 1 | レードは強すぎ。 | 2 | |
| | | C3拍目のマが長すぎる。 | 2 | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| Iマーが長すぎる。 | 1 | Mドが強すぎ。 | 1 | M3拍目のマが短く、レイになっている。 | 4 | |
| Cマーの音調。 | 1 | Sドが少し強い。 | 1 | N3拍目のマがちょっと長い。 | 1 | |
| | | Kレが高い。 | 1 | S3拍目のマが短くテンポが速すぎ。レイになっている。 | 4 | |
| | | Iドが強すぎる。 | 1 | Kレイになっている。 | | |
| | | | | I2拍目の長音が高すぎる。 | 2 | |
| | | | | レーは[rei]になっている。 | | |
| | | | | Yレイになっている。 | 1 | |
| | | | | Cマーの音調。 | 2 | |
| | | | | レードは強すぎ、長すぎ。 | 2 | |
| り え き (利 益) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Cキの[i]は強すぎ。 | 1 | Cキの[i]が強すぎ。 | 2 | | 1 |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | Mリエッキ | 2 | Mリエッキ | 2 |
| | | | Sリエッキに聞こえる。 | 2 | Sリエのテンポが速い。リが短すぎ。 | 2 |
| | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | Iキが強すぎる。 | 1 | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---------------------------------------|-----------|-------------------|--------------------|---------------|---|
| ふね (船) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ネィ | 1 | M フー | 4 | C ネはもっと下げるべき。 | 2 |
| | H ネィと聞こえる。 | 2 | S フが少し長い。 | 1 | | |
| | C ネの響きが違う。強すぎ。 | 2 | I [f]が目立つ。 | 1 | | |
| | | | | C ネの[e] が強すぎ、長すぎ。 | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | I フが強い感じ。 | 1 | | | |
| のむ (飲む) | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ムウ | 4 | M ムウ | 4 | C ムはもっと下げるべき。 | 2 |
| | N ムが鼻にかかった感じが強い。 | 1 | S ムを喉の奥で言っているの、ムウ | 2 | | |
| | T もう少しノとムの高低をつける。 | 1 | に聞こえる。 | | | |
| | S ナムウに聞こえる。(筆者注：喉の音のせいで、全体的に響いているため。) | 4 | K ノが高い。 | | | |
| | | | I ムの[m]が目立つ。 | 2 | | |
| I 「m」が目立ちすぎ。 | 2 | | | | | |
| C ノムの響きが違う。 | 3 | | | | | |
| ムは強すぎ。 | 2 | | | | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| | | | | M ナアムウ | 4 | |
| | | | | T ムウに聞こえる。 | 1 | |
| | | | | S 喉の音のせいでナムウに聞こえる。 | 4 | |
| | | | | I [m]が強すぎる。 | 3 | |
| | | | | C ノは高くムは低く発音すべきだ。 | 2 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| I ムの[m]が目立つ。 | 1 | | | | | |
| テーブル | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ブルッが早く短すぎ。 | 4 | I テーの[e]が強い。 | 2 | | |
| | I テーの「e」が強すぎる。 | 1 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | | M 語尾が上がっている。 | 1 |
| | | | | H ルの音がもう少し下がる方が良い。 | 2 | |
| | | | | N 語尾がちょっと高い。 | 1 | |
| | | | | S 語尾が上がっている。 | 1 | |
| | | | | K ルが高い。 | 2 | |
| | | | | I ルが高すぎる。 | 2 | |

| | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|------------------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------|---|
| テーブル | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | I テュー、テの音が舌足らずな感じ。 | 2 | I キが強すぎる。 | 1 | M 語尾が上がっている。 | 1 |
| | | | | | S 語尾が上がっている。 | 1 |
| | | | | | K ルが高い。 | 1 |
| | | | | I ルが高すぎる。 | 2 | |
| テーブルクロス | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M ブルッが早く短すぎ。 | 4 | M ブが短すぎ。 | 2 | | |
| | N ルとロが長すぎる。 | 3 | S ブが短すぎ、プとルが詰まって聞こえる。 | 1 | | |
| | S ルとクの間があいている。 | 1 | | | | |
| | K ルとクの間で一回切れている感じがする。 | 2 | K ルとクの間で一回切れている感じがする。 | 1 | | |
| | I テーの「e」が強すぎる。ルとクの間が切れている。 | 1 | I ルとクの間が切れている。 | 2 | | |
| | C ルの音の長さが違う。 | 2 | | | | |
| | ルは強すぎる。 | 2 | | | | |
| | S ルとクの間が切れている。 | 2 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | M ルとクの間が開いている。 | 1 | M ルが高すぎ。 | 1 |
| | | | S ルとクの間が開いている。 | 1 | M ルとクの間が開いている。 | 1 |
| | | | I ルとクの間が開いている。 | 1 | S ルが高すぎ。 | 1 |
| | | | | | S ルとクの間があいている。 | 1 |
| | | | | | K ブルが高すぎ。 | 2 |
| | | | | | I ルが高い。ルとクの間があいている。 | 3 |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| M クロウス | 4 | M ブルが早く短すぎ。 | 2 | M クロース | 2 | |
| N ロがちょっと長い。 | 1 | N ロがちょっと長い。 | 1 | N ロがちょっと長い。 | 1 | |
| S クロウス。低音のロを下降音のロウと読んでいる。 | 4 | T ルとクは一気に読んだ方がよい。 | 1 | S クロウス。低音のロを下降音のロウと読んでいる。 | 4 | |
| K ロは伸ばしすぎ。 | 1 | S ブルクロスを同じリズムで言っていない。ブルが長すぎ。 | 2 | S 同じリズムで言っていない。ロを下降調のローに。 | 2 | |
| I ローになっている。 | 3 | K ルとクをもう少しなめらかに。 | 2 | I ローに聞こえる。 | 1 | |
| C ルとロは強すぎ。 | 2 | I ルが高い。ルとクの間が切れている。ロー。 | 2 | C ロが長音になっている。 | 1 | |
| | | C ロが強すぎ。 | 2 | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|------------------------|----------------------------|---------------|------------------------|---|
| テ ー プ レ コ ー ダ ー | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M プレが早く短すぎ。 | 2 | M プレが早く短すぎ。 | 2 | H ダーをもう少し伸ばして | 2 |
| | H プとレが短すぎる。 | 2 | N コーの長音がちょっと長い。 | 1 | 発音する。 | |
| | S プレが短すぎ。 | 1 | S プレが短すぎ。 | 2 | N ダーが短い。 | 1 |
| | K プレが早口すぎ。 | 3 | K コウになっている。 | 1 | S プレが短すぎ。 | 1 |
| | I テーが長すぎる。 | 2 | I コーとダーの間が切れている。 | 1 | C 全体がゆっくりしすぎ。 | 2 |
| | I コーとダーの間が切れている。 | 2 | C 全体がゆっくりしすぎ。 | 2 | | |
| | Y プとレがくっつきすぎる。レコー にアクセントが強すぎる。 | 1 | | | | |
| | C コーダーの音の長さが違う。 | 2 | | | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| I ダーが少し短い。 | 1 | N レが長すぎる。 | 2 | M プレックが早く短すぎ。 | 2 | |
| N レがちょっと長い。 | 1 | K プレが早口すぎ。 | 1 | N ダーがちょっと短い。 | 1 | |
| | | I ダーが少し短い。 | 1 | S プが短すぎ。 | 2 | |
| | | | | S ダを伸ばしていない。 | 4 | |
| | | | | I ダーが短い。 | 1 | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| C コーの終りが上がっている。 | 2 | M プレが早く短すぎ。 | 2 | M プレが早く短すぎ。 | 2 | |
| | | S プレが短すぎ。 | 2 | S プレが短すぎ。 | 2 | |
| | | K プレが早すぎ。 | 2 | I ダーが短い。 | 1 | |
| | | Y プとレがくっつきすぎる。 | 1 | | | |
| ペ ン キ | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | I ンが長すぎる。 | 1 | K キを伸ばしすぎ。 | 1 | S キをもっと軽く。 | 1 |
| | C ンは妙な響き。㊦になっている。 | 3 | C ンが㊦になっている。 キは強すぎ、長すぎ。 | 2 | K ンに力が入り気味。 | 1 |
| | | | | 1 | C ンは㊦になっている。 | 2 |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | S ペが長すぎ、ペンキに聞こえ る。 | 4 | | | H ペンキと聞こえる。 K キが高い。 | 2 |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | M ペンの音調ス。 | 4 | C キが強すぎ、長すぎ。 | 1 | |
| | | K キが高い。 | 1 | | | |
| | | S ペエが長すぎ、ペンキに聞こえ る。 | 4 | | | |
| | | C キは強すぎ、長すぎ。 | 1 | | | |

| | | | | | | |
|---------------|----------------------|--------------------|--------------------------------------|-------------------|-----------------------------|---|
| ペンフレンド | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | Cンが㊦になっている。 | 2 | S フレンのテンポが速く、フが短すぎ。 | 2 | Cンが㊦になっている。 | 2 |
| | | | I ペンとフの間が切れている。ペンの 上昇音調は英語の発音に近い。 | 2 | | |
| | | | C ドが強すぎ、長すぎ。 | 2 | | |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | K レが高い。 | 2 | | |
| インフレ | ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | | M フレのテンポが早くフが短すぎ。 | 2 | | |
| | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | I ンが強すぎる。 | 1 | I [i]よりレの [e] が強く聞こえる。 | 1 | | |
| | Cインの響きが違う。ンは㊦になっている。 | 2 | [n] が弱い。 | | | |
| | | | C 英語的、拍の長さが違う。 | 2 | | |
| | | レは強すぎ、長すぎ。 | 2 | | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | | |
| | | | | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| | | | | C レが強すぎ。 | 1 | |
| インフォメーション | ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
| | M メをメイと読んだ。 | 4 | M メをメイと読んだ。 | 4 | H メの音をもう少しなめらかに。もう少し下げると良い。 | 3 |
| | H ションの部分ヨの音が強い。 | 2 | H ションのヨの発音が強い。 | 2 | N メーが長い。 | 1 |
| | S メがメイになっている。 | 4 | S メがメイになっている。 | 4 | S メが強すぎる。 | 2 |
| | K メーを伸ばしすぎ。 | 2 | K メイになっている。 | | K メーが高い。 | 2 |
| | I フォとメーの間が切れている。 | 3 | I フォとメーの間が切れている。メーに[i]が入っている。 | 2 | I メーが高すぎる。 | 4 |
| | Y メイ | 1 | C 全体がゆっくりしすぎ。 ンが㊦になっている。 | 2 | Y メー間延びがしている。 | 1 |
| | | | | 2 | A メにアクセントがつきすぎている。 | 2 |
| | | | | | C メーの音程が変。アクセントが違う。 | 2 |
| | ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | H フォと強く、オの音を言いすぎる。 | 2 | I メーがメイになっている。 | 1 | |
| | | S メがメイになっている。 | 4 | | | |
| | | I メーが[mei]になっている。 | 1 | | | |
| | | Y メイ | 1 | | | |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | | |
| M メーをメイに読んだ。 | 4 | S メがメイになっている。 | 4 | S メがメイになっている。 | 4 | |
| S メがメイになっている。 | 4 | I メがやや高い。 | 1 | I メーが[mei]になっている。 | 2 | |
| | | C メーの先端が高過ぎ。 | 2 | ンが弱い。 | | |

| ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
|------------------------------------|---|----------------------------------|---|---------------|---|
| Sヒが少し高い (筆者注: コーの声調の影響で、ヒが高く聞こえた)。 | 1 | Sヒが少し高い (筆者注: 前の声調の影響でヒが高く聞こえた)。 | 1 | Nヒーが短い。 | 1 |
| I コーが長すぎる。[o] が目立ちすぎ。 | 1 | | | K コォヒーになっている。 | 2 |
| | | | | C コーの音調が変。 | 1 |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| | | | | T コーを平板に読むべき。 | 1 |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| | | S コーの音調↘。 | 1 | I ヒーが短い。 | 1 |

| ①CRYJ | | ②CRIJ | | ③CKOJ | |
|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|---|
| M ネイ | 4 | M コウーとネイー。 | 4 | Hターをもう少し伸ばして発音する。 | 2 |
| N デイが短い。 | 1 | N ネーの長音は [ei] になっている。 | 2 | Nターが短い。 | 1 |
| S ネがネイになっている。 | 4 | S ネがネイになっている。 | 4 | Kターが低い。 | 2 |
| K コが低すぎ。 | 2 | K ネイになっている。 | | Iターが短すぎる。 | 2 |
| I コーが長すぎる。[o] が目立ちすぎ。 | 1 | I ネーの[i]が強すぎる。 | 1 | C コーの音調が変。 | 2 |
| Y ネイター↘ | 1 | Y ネイ | 1 | ターは短すぎ。 | 1 |
| C ネーがネイになっている。 | 2 | C ネーがネイになっている。 | 2 | | |
| ④CUJ | | ⑤CKYJ | | ⑥CYEJ | |
| Hターをもう少し伸ばすと良いと思う。 | 2 | K デイを伸ばしすぎ。 | 2 | M ネーをネイに読んだ。 | 4 |
| S タを伸ばしていない。 | 1 | I ネーの e が強い。 | 2 | H ネイターと聞こえる。 | 2 |
| I ターが少し短い。 | 1 | C ネーの終りが上がっている。 | 1 | N ネーの長音は [ei] になっている。 | 2 |
| | | | | S ネーがネイになっている。 | 4 |
| | | | | 短すぎ。 | |
| | | | | K ネーがネイになっている。 | 4 |
| | | | | I ネーがネイになっている。 | 1 |
| | | | | C コーの音調。 | 2 |
| ⑦CCHJ | | ⑧CWYJ | | ⑨CWJ | |
| C デイは長すぎ。 | 2 | | | M ネイー | 4 |
| | | | | S ネがネイになっている。 | 4 |
| | | | | I ネーが [nei] になっている。 | 1 |
| | | | | C デイは高過ぎ。 | 1 |
| | | | | ネーがネイになっている。 | 2 |

資料3 会話文における跨拍上昇音の分析資料とした『渡る世間は鬼ばかり』のセリフ
『渡る世間は鬼ばかり』

長子：日向、幼稚園に連れて行ってきます。

タキ：あたくしお連れします。長子さん夕べも徹夜でしたでしょう。

長子：英作が帰ってこない夜はつい頑張っちゃってね。

タキ：おばちゃんと行きましょう。

長子：はい、日向。どうもすみません。

タキ：はい、行ってまいります。

長子：行ってらっしゃい。

大吉：英作くんは夕べも泊りかね。

長子：遊んで外泊してるんじゃないかって言いたいんだろうけど、まじめに当直してるの、ほかの医局員に代わってね。本間のお母さんが英作を無視して、由紀ちゃん夫婦の言いなりになって、本間医院を建て直ししていることにショックを受けてんのよ。だから仕事に逃げてるの。黙って見てあげるのが愛情ってもんなの。

文子：おはようございます。

長子：あら。ずいぶん早いじゃない。何かあったの。

文子：ご無沙汰して申し訳ありません。

長子：そうよ。お父さん心配してたんだから。

大吉：いい加減なこと言うんじゃないよ。立派に独立してね。好き勝手なことしてる娘の心配なんか誰がするもんかい。

長子：ほら、怒ってるでしょう。連絡もないと心配してるから、腹も立つの。

文子：四月から受験勉強に追われてて、ここへ来る暇もなかったの。

長子：電話くらいできるでしょう。

文子：旅行業務取り扱い主任者の資格を取る試験勉強してるなんて言ったら、またお父さんに余計な心配させるじゃない。だから、わざと黙ってたの。けど、望が、お父さんのお料理持って帰ってくれて、すごく慰められたの。お父さんのお料理、おいしくいただきました。感謝しています。

長子：だったら、お礼の電話くらいしなさい。

文子：まだそんな気持ちの余裕もなかった。やっと今日、まな板の上の鯉って心境なれて、母さんのお墓参りに行ってきたの。望も一緒について来てくれて。

望：ママ一人じゃ心配でさ。

大吉：母さんのお墓参りに行って来たのかい。

文子：お父さんも行ったんじゃないの。

大吉：わたしが？どこへ？

文子：母さんのお墓参りよ。

大吉：いやあ、命日でもないのに、行くわけないだろう。

文子：お父さんだと思ったから、お礼に寄ったの。母さんのお墓に新しいお花が供えてあったのよ、今朝。あたしたちが行くすぐ前に生けた新しいお花、それも母さんの好きだった桔梗、お父さんよりほかないでしょう。

長子：お父さんじゃないわよね。だって、お父さん、あたしが、昨日、文子姉ちゃん大丈夫かなって言ったから、あんな難しい試験を受けるなんて、文子も馬鹿じゃないだろうって全然本気にしなかった。

文子：失礼ね。

大吉：当たり前だろう。父親のわたしにも何も言って来ないんだから。

文子：じゃ、誰だろう、あのお花？絶対今朝お参りしているの。

長子：ほかのお姉ちゃんの誰かかなあ？でも、そんな殊勝な人いないもんね。

タキ：日向ちゃん、さっちゃんのママにお願いして。

長子：あ、すいません。

試験場に向かう準備している。

文子：この洋服ちょっと派手すぎたんじゃないかな？やっぱり黒いスーツのほうがよかったかな。あ、お昼ご飯、食べるよあるのかな？お弁当こしらえてる暇もなかったんだけど、ママ食べる気になんてならないと思うけど。

望：お昼のお弁当は僕がママの試験待ってる間にどこかで買ってきとくって言っただろう。

文子：そんなまずいもの。

望：ママがこしらえるのよりましだよ。結構美味しいんだから。

大吉：もう出掛けるのかい。

文子：望がうるさいのよ。試験場には1時間前に着いといたほうが落ち着くとか、電車で事故にあったら大変だから、行くのに1時間半は見といた方がいいとか。

望：ママはのん気なんだから。僕はとっくに支度出来ているのに、まだうろうろしてて。

大吉：望も行くのか。

望：ママ一人じゃ心配なもの。うちで心配してるよりついて行ったほうが安心だよ。

文子：一日付き添ってくれてるんだって。

大吉：子供が母親の試験についてるなんて、聞いたことないね。

望：僕一度試験場になるとこ行ってきて、コースと所要時間、確かめてきたから。

大吉：へえー、大したもんだ。けど、よかったよ。弁当を多めにこしらえたから、これ二人でも間に合うだろう。

文子：お父さん、お弁当、持ってきてくれたの？

大吉：わたしもそばについてると思ってほしいね。ほい、おじいちゃんの応援が詰まってるんだ。

長子：おはようございます。

大吉：何だよ。今起きたのか。

長子：夕べも英作帰ってこないんだもの。どうしても夜遅くまで仕事をしちゃうよね。まあ、朝寝坊しても、日向はタキさんが面倒見てくれるから、安心だし。タキさん、日向は？

タキ：さっちゃんのところへ遊びに。

大吉：母親に放ったらかされてよ。そういういい加減な暮らししてたらさ、日向のためにもよくないって言ってるだろう。

長子：あたし怠けて朝寝してんじゃないのよ。日向だってあたしが仕事してんのを知ってるし。

タキさんに懐いてるんだから。

大吉：タキさんだって、いい迷惑だ。

タキ：いいえ。あたくしは日向ちゃんのお世話ささせていただいて、かえって、あたくしが慰められてんです。孫みたいな気がして。

長子：助かってます。あたしだってね、実家で同居してるには色々犠牲を払ってるの。それくらいのメリットがなきゃやってらんないわよ。あーあー、お腹、空いた。

タキ：はい、すぐですから。

大吉：ほっといてくださいよ。文子なんてな、誰の力も借りずにね、半年受験準備して、今日ちゃんと試験受けに行ってるんだよ。少しは見習いなさいよ。

長子：文子ねえちゃん試験今日だったんだ。やるもんだね、彼女も。亨さんのハワイのホテルだって、なんとかうまく行ってるみたいだし、望ちゃんだって、手がかからなくなったんだから、少しはのんびりできるようになったんじゃない。趣味でも持って、少しは優雅に暮らしたらいいのに、わざわざ苦勞するようなことして。若い頃、キャリアウーマンやってたから、やっぱりそういう時代の夢が捨てらんないのかな。貧乏性だよな。

タキ：長子さんだって、お医者様の奥様なら、お仕事なさらなくて、十分食べていらっしやるでしょうに。一々締め切りに追われてらっしゃるじゃありませんか。文子さんのことはおっしゃれませんよ。

長子：あたし仕事持ってなかったら、英作の女房なんてやってられませんよ。年中本間のお母さんとごたごたして振り回されてるような亭主持ってたら、仕事でもしてないと切り抜けられないもの。でも、やんなきゃいけない仕事があるから、亭主が帰ってこないと、原稿がはかどって、ありがたいなんてのん気なことも言われるの。仕事っていう自分の世界を持ってるから、英作みたいな勝手な男も許せるの。

タキ：ここでいいですか。

長子：ありがとうございます。ここにいたら、上げ膳据え膳って、あたしにとっては最高の暮らしです。いただきます。目の前にお父さんもいるし、こんなに幸せな暮らしはありません。感謝しています。

常子：おはようございます。

長子：あ、本間のお母さんだ。おはようございます。どうぞお上がりください。

常子：今お店の準備中でっしゃろ。いや、あのな、英作に用があって、寄りましたんや。で、英作におうたら、すぐ失礼しますさかいな。

長子：あ、英作さんなら、病院ですけど。夕べも当直で、今日も一日病院だとか。

常子：そんなあほなこと。いや、今日は日曜日やけど、もしかして病院やないかと一応病院へ電話したら、今日はお休みやて言われて。それはまあな、今自分がお邪魔したら、迷惑っちゅうこと承知の上でこちらへ来たんですがな。

長子：英作のやつ、許せない。

大吉：どんな事情があったか、まだよく分からないじゃないか。

長子：事情もへチマもないわよ。無断外泊なら許せる。けど当直だって理由つけて、外泊するなんて明らかに意図的にあたしを騙してるんじゃない。やましいことがあるに決まってるわよ。

大吉：やましいことかどうか、もっとほかに言えない理由があって、嘘つかなきゃならなかったかもしれないからだろうが。

長子：ほかにどんな理由があるって言うのよ。女に決まってるわよ。今までだって、当直だって

言って、何してたんだか。

タキ：浮気なら大したことありませんよ。男は浮気しないほうがおかしいんです。～女房が騒ぐほど深刻なことじゃないんです、いつだって大事なのは女房のほうなんですから。女房信頼してるから、浮気もできるんです。で一んとしてらっしゃればいいですよ。

長子：そんないい加減な。はっきり裏切られたって分かってなのに、冗談じゃないわよ。

大吉：英作くんを責める前にね、英作くんの立場もすこしは考えるんだな。英作くんはわたしたちと同居したばかりにさ。本間医院を妹さん夫婦に譲らなきゃならなくなった。やっぱり辛いんじゃないかな。

長子：そんな理由にならないわよ。本間医院を捨てたのは英作なのよ。脳外科の専門医を続けたい。それには大学病院にいるしかないって自分で決めたの。今更本間医院を由紀ちゃん夫婦が継ぐからって、後悔したって遅いの。ましてやその理由をあたしたちと同居してるからだなんて、あたしたちを恨むなんて冗談じゃないわよ。

大吉：しかし、長男の英作くんにしてみりゃね、理由はどうあれ、辛いことには変わらないんだよ。

長子：だからって、浮気していいってほうはないでしょう。

大吉：浮気かどうかまだはっきり分かったわけじゃないじゃないか。だが、もし浮気だとしても、やりきれない気持ちの時に、ふと、魔が差すことだってあるんだよ。英作くんを責める前に英作くんの立場になってみろっていうのはそういうことなんだよ。

長子：それくらいあたしだって分かってるわよ。当直だ、当直だって、家に帰ってこないのもわざとときつい仕事して、辛い気持ちを紛らわそうとしてるんだなって同情してたの。信じてたのに、なのに、悔しいよ、あたし。

タキ：いらっしゃいませ。

文子：お父さん、終わった！終わった！

大吉：もう終わったのか？試験。

文子：午前中 10 時半から 11 時 50 分までの 80 分と、午後は 1 時から 3 時までの 120 分、たったそれだけの時間で半年夜もろくに寝ないで詰め込んだものが試されるんだもの。運がいいか悪いかで決まるようなものよ。

大吉：望もご苦労さんだったな。

文子：この半年望にも随分迷惑かけちゃった。ねえ、けどよくがんまんしてくれて、逆に助けてもらっちゃった。今日もずっと待っていてくれて、望がついててくれると思ったから、なんだか安心して答案用紙にも向かえたの。問題も一応クリアしたものが出たし、望はあたしのお守りだった。男の子って本当に頼りになる。いい子に恵まれて、ママ、本当に幸せだ。

望：僕のせいじゃないよ。ママが頑張ったから、偉かったよ、ママ。

大吉：じゃ、うまく行ったの、試験。

文子：お父さんのお弁当も縁起が良かったの。けど、もし落ちててもあたし後悔しない。半年間久しぶり、充実した毎日だったし、望にもたくさんいい思い出もらえたし、この試験の準備でいろんな経験ができた。それだけで十分。

大吉：発表はいつなんだい。

文子：12 月の始めだって。

大吉：また随分先の話だね。

文子：それまで思い切り良妻賢母に徹します。亨にも望にも今までの借り返さないよ。

望：止してよ、そんなうっとうしいこと。

文子：だって、試験の発表があったら、落ちたって合格したって、また忙しくなるのよ。だめだったら、来年の試験に向けてまた勉強しなきゃならないし、合格したら、今度は仕事を始めるのに走り回らなきゃいけないし。

大吉：おい、仕事って、旅行代理店でも始めるつもりなのか。

文子：そう、やっとあたしにもあたらしい生きがいが見付かったの。一生楽しみながら、できる仕事だもん。

大吉：おい、冗談じゃないよ。主婦が片手間にできるような仕事じゃないだろう。また亨君とごたごたしたって知らないからな、もう。

～とにかくお疲れ様の乾杯だ。勉ちゃん、ビールを頼む。

英作：弁解するつもりはない。ただ、君には正直に話しておきたいだけだ。ここんところ、当直が続いた。確かに本間医院が俺の帰れるとこじゃなくなっただってことはショックだった。気持ちの整理をするには病院で仕事に追われてるのが一番いいと思った。だから、わざと同僚の当直を代わってやったり、担当の重病の患者に付き添うって名目で病院へ泊り込んだりしてた。それは嘘じゃない。夕べもそのつもりだった。ただ昨日人事の内示を聞いたんだ。同じ脳外科で俺より2年後輩の男が大学の助教授になったんだ。正直言って次は俺だと思ってただけにこたえた。病院でそいつの顔を見るのは辛かった。けど家へ帰るのはもっと辛かったんだ。行き当たりばつりにバーへ入って飲んだんだ。だから、あのバーのママ、俺がどこの誰なのか知らないまま、荒れてほかの客にからんで喧嘩になって怪我をした俺の面倒を見てくれたんだ。それだけは信じてほしい。

長子：呆れた。浮気でもしたっていうんだったら、甲斐性もある。あたしだって英作と喧嘩のし甲斐もある。けどそんな情けないことで、話にも何にもなりゃしないじゃない。

英作：ああ、俺本当にだめな男だ。おふくろには見放されて、後輩には先を越されて。それで飲んだくれて怪我してりゃ世話ないよな。君に愛想つかされたって仕方がない。出て行く覚悟はできてる。

長子：甘えたこと言わないでよ。出てって済む問題じゃないでしょう。

英作：君に俺の悔しさが分かってたまるか。分かってもらおうと思わないがな。

長子：英作、そんなに助教授になりたいの。

愛：まだみんな上がってこないの。もう少し待ちなさい。

真：俺、高校へ行くのやめようかなあ。

愛：何言っているの、今頃。また勉強するのがいやになったんだ。意志弱いんだから。

真：去年卒業して、俺が狙ってる高校へ入った先輩がいるんだ。すごくいい男で、俺尊敬してて、彼がいるから、その高校へ行くつもりにもなったんだ。それが昨日警察に逮捕されたっていうんだ。クラスの連中をかつあげして金巻き上げていたんだそうだ。

加津：そういうの今、流行りみたいなものじゃない。別にびっくりすることじゃないよ。

真：そんなことできる男じゃないんだよ。噂だと、その仲間に入らないと自分がやられる方

になるんで、それが怖くて仕方なく仲間に入ったんだろうって。

加津：そんなのただの意気地なしの馬鹿じゃない。そいつらにやられそうになったら、先生に言うとか、警察へ訴えるとかすればいいのに。ちくるとまたいじめられるってびびって仲間へ入っちゃうなんてさ。

真：加津が言うような単純なものじゃないんだよ。俺だってそういう立場になったら、同じことしてるかもしれない。俺、気が弱いからさ。

加津：そんなもの怖がってたら、今の学校へなんか行けやしないよ。

真：俺そういうことが平気で通る高校ってやっぱりいやだよ。そんな思いするのなら、インターネットで勉強して、高校卒業の資格取った方がいい。

愛：一流の私立の受験校なら、そんなことないんじゃないの。

真：学費高いんだ。まったくそばばあになんて言われるか。お姉ちゃんで懲りたよ。

愛：何よ。合格する自信なくせに。

真：とにかくどうするか早く決めないとさあ、塾へ行くのだから無駄だもんなあ。

加津：案外だらしないんだ、真兄ちゃん。

真：小学校のいじめと違うんだよ、高校は。大学まで行くのも楽じゃないよな。

加津：幸楽、継げばいいの、真兄ちゃんは。

真：店継ぐのだけはごめんだ。嫁さんの来手がないの。俺が迷ってるなんて誰にも言うんじゃないぞ。また騒ぎになるからなあ。

渡る世間は鬼ばかり第6回

加津：おはようございます。

五月：あ、おはよう。今日はいよいよ学芸会の本番ね。伯母ちゃん見に行ってあげられなくて残念なんだけど。頑張ってるね。

加津：愛姉ちゃんが来てくれるって。

五月：えっ、今日は文化の日は大安で、日がいいからってコンパニオンのバイト、忙しいって、愛、張り切ってたのに。

加津：父さんも忙しくて来てくれそうもないし、誰も見に行けないんだったら、かわいそうだからって、わたし平気だって言ってるのに、お昼の結婚披露宴の仕事断ってきてくれるって。

愛：おはようございます。

加津：悪いなあ。愛姉ちゃん、学校休みの日は、朝寝坊できるのに、早く起こしちゃって。

愛：加津ちゃんの学芸会に行くのなら、加津ちゃんのお芝居だけじゃなくて、最初からいろんなものも見たいじゃない。

五月：急に決まってた仕事断って、大丈夫なの？

愛：夕べのうちに急用ができたからって事務所へ連絡して、代わりの人手配してもらえたの。だから今日は夕方からのパーティーだけになったの。けど、本当は加津ちゃん、母さんに見に来てほしいのよ。何とか抜けられないの。

加津：お店の忙しい時に出かけたりしたら、周りがうるさいの。おばちゃんがかawaiiそうなんだよ。

真：おはよう。

加津：真兄ちゃん、早いじゃない。今日は文化の日で学校お休み、まだまだ寝てられるよ。寝ぼけて、時間を間違えてるんじゃないの。

真：今日俺は店手伝うの。

五月：へえ、珍しいわね。高校受験で忙しいからって、お店なんて見向きもしなかった人が。幸楽継ぐ気になったの。ここんところ、大学行くつもりもないから、高校行く必要ないって、塾だって辞めちゃったくせに。

真：今日一日、母さんの代わりに店手伝うだけだよ。俺が店へ出たら、母さん、加津の学芸会に行ってやれるじゃないか。俺が見に行ってもやるより、加津は母さんが来てくれる方が嬉しいんだろう。

加津：けど、真兄ちゃんにそんな無理してもらうことないよ。

真：俺は母さんを行かせてやりたいの。姉貴だって、俺だって、学芸会にも運動会にもおふくろには店があるから、来てはもらえなかった。俺たちも寂しい思いしたけど、おふくろはもっと辛かったと思う。ごめんねって泣きそうな顔してるおふくろをよく覚えてる。今度だって、加津を可愛がってるおふくろにはおんなじ気持ちなんだ。だったらさあ、今は俺がいるんだから。俺が店手伝うのなら、誰も文句ないだろう。いいね、それで。

五月：真。

愛：おぬし、結構格好いいことやるじゃん。母さんが行くのなら、あたしは行くことないだろうけどさ、たまには母さんと一緒に出かけるのも悪くないよね。久しぶり親子揃って人前が出るの。少しはおしゃれくらいしてよ。みっともないのはごめんだよ。

加津：どんな格好だっていいよ。見に来てくれたらそれで。わたしにだって、ちゃんと見に来てくれる人が二人もいるってみんなに自慢できる。万歳だよ。

キミ：今日さあ、ミカのピアノの発表会があるんだって。

真：へえ、ミカはピアノ習ってるのか。邦子叔母さんもビックだね。加津なんて野々下さんの本当の子供だっていうのに、習い事どころか、学校から帰ったら、うちの掃除したり、洗濯取り込んだり。後は一人ぼっちで勉強したり、テレビ見たり。おんなじ年頃の女の子だっていうのに、随分違うもんだね。

健治：近頃は親が子供をかまいすぎるんですよ。親の言いなりになってると、一人では何も考えることができなくて、自立できない子になったり、親から押し付けられて、自分のやりたいことができないとなると突然切れて親に反抗したり、親に問題があるんですよ。

邦子：ご無沙汰してます。

真：隆は？

邦子：ああ、塾で高校受験の模擬テストがあつて。ねえ、真ちゃんも隆とおんなじなのよ。店なんか手伝ってていいの？どこ受験するのか知らないけど、私立の進学校狙ってんだつたら、こんなことやってる場合じゃないんじゃないの？

真：人のことより邦子叔母さんは隆の心配したほうがいいんじゃないのか？おふくろに尻叩かれてると、ある時切れちゃうやつ結構多いからね。

邦子：それ、どういう意味よ。

キミ：もう余計なこと言わないの。あら、野々下さんは？

邦子：とうとう帰ってこなかったのよ、アメリカから。ひどいパパよね。今日はミカのピアノの発表会だって分かってんのにさあ。

ミカ：仕方ないよ。お仕事忙しいんだもん。

キミ：おかしいわね。あたしはミカのピアノの発表会に行ったんだとばかり思ってた。朝お前が電話掛けてきた後、すぐ家に寄ったんだよ、野々下さん。で、加津は出かけたって、そう言ったらさあ、すぐ帰っちゃった。

邦子：じゃ、やっぱり帰ってきてくれたんだ。でも、どこ行っちゃたんだらうね。

ミカ：発表会の会場が分からなかったんじゃないの。

邦子：ううん、ちゃんと話してある。きっと帰ってきて見てやってねって念を押したんだもん。やだ、交通事故にでも遭っちゃったのかなあ。だってさ、わざわざ間に合うように帰ってきてくれたのに、会場に来ないなんて。

加津：ただいま帰りました。真兄ちゃん、父さん学芸会に来てくれた。

五月：申し訳ありませんでした。あたしがお休みいただいて、加津ちゃんの学芸会に行って、野々下さんにはミカちゃんのほうに行っていたらよかったんですけど。けど、今日ミカちゃんのピアノの発表会があったなんて知らなかったもんですから。

野々下：わたしだってね、ミカちゃんのピアノの発表会には行ってやりたかったんだ。けど運悪く、加津の学芸会とぶつかっちゃって、ミカちゃんの方にはわたしが行かなくても、立派な母親の君がいる。でも、加津には父親のわたししかいないんだよ。まさか、店が忙しい五月姉さんが来てくれるとは思ってもみなかったからね。加津の側にはいてやれなくても、隆君やミカちゃんとは一緒に暮らしてる。加津には何もしてやれなくても、隆君やミカちゃんには君の思うとおりのことさしてやってるじゃないか。

真：そうだよ。ミカがピアノ習っているなんてびっくりしたよ。それだって、野々下さんのお陰だろう。隆は一流の高校目指して、金のかかる塾へ通ってる。邦子叔母さん一人だったら、とつても隆にそんな贅沢させてはやれないんだよ。加津の学芸会のほうへ行ったらで野々下さんに文句言ったら罰当たるよ。

邦子：あんた黙ってなさいよ。ガキのあなたにね、余計なことを言われる筋合いないわよ。

真：なんだよ。もっと加津や野々下さん大事にしろって言ってるんだ。おばあちゃんだって、お父さんだって、母さんだって、あんたに遠慮して肝心なことも言えないから、俺が言うんだ。

邦子：よくもあたしに向かってそんな失礼なこと言えるわね。五月さん、あんた一体真にどういう教育してんの。

真：母さんには関係ないだろう。俺は俺の言いたいこと言ってるだけなんだ。間違ったこと言ってるつもりもないからね。

邦子：まあ、母ちゃん、もう悔しい。

真：加津、お前カッコつけちゃって、あんなこと言っているのか？

加津：本当のことだもん。

五月：加津ちゃん、大丈夫？なんだ、もうおばちゃん泣いてるんじゃないかと思って、心配して損しちゃった。

文子：なにか美味しいものが食べたいなあ。あ、茶碗蒸がいい。茶碗蒸みたいな手のかかるもの、うちじゃこしらえなくなったものね。

大吉：夕飯どきに主婦がこんなとこにいていいのかい。

文子：亨はハワイへ行っちゃったし、望は今日ね、学芸会で音楽部の演奏でギター弾いたのね。そのメンバーのお母さんたちがお夕飯こしらえてくれて、ご馳走してくださるんですけど。望も食べないから、なんだかもう、作るの面倒んなっちゃって。いやと言って、女一人で食事に行くなんて惨めじゃない？ここだったら、平気だから。

大吉：望の仲間のお母さんたちの手伝いしなくていいのかね？

文子：うん、わたし望のクラスのお母さんたちとあまりお付き合いしてないの。だからこういう時もお誘いがなくて、いや、後でね、ちゃんとお礼に行くつもりなんだけれども、本当に学校で何があったかも話さない子なんだから。

大吉：だって、お前は旅行業者になれる資格取るとかってずっと受験勉強に忙しかったんじゃないか。望だってさ、話したくたって話せないんじゃないか。

文子：そうよね。PTAのお母さんたちともお付き合いする暇もなかったし、今夜仲間に入れてもらえなかったしね。いろんなものを犠牲にしてさあ、資格試験の準備したのに、合格しなかったら、泣くにも泣けやしない。

大吉：落っこったほうがいいんじゃないのかね。旅行代理店みたいなことでも始めたらさあ、家庭はめちゃくちゃになりかねないぞ。亨君も望もたまったもんじゃないよ。いい迷惑だ。本当に。

文子：それじゃ、何もしないで、一生ぼんやりしてろっていうの。それだけはごめんだわ。何でもいい、忙しいうちが華なのよ。

大吉：望はなあ、まだ中学二年だよ。母親として、してやらなきゃならないことだってあるんじゃないか。そろそろ難しい年頃だしさあ。

文子：もう中学二年。しっかり自分持っててね、自分の好きなことしてるのよ。親のいうことなんて聞きやしないもん。食事の支度して、洗濯して清潔なもの着せてやって、掃除なんてうっかりその辺のものに触ろう思うんならもう怒って、自分のことは自分でするからいいなんちゃって、させてもらえなかったりね。母親なんてただのお手伝いさんにすぎないのよ。いや、それだってさあ、いつかお役ごめの時が来る。今から母親以外の生きがいを見付けとかないとさあ。今だってね、お母さんと仲のいい望の同級生もたくさんいるのよ。うらやましいけど、望みみたいな子にしたのはあたしなのかもしれないわ。

あの子小さい時から、カギっ子だったでしょう。一人で生きていくことに慣らされちゃったのね。今頃、母親面されたって、迷惑よね。

大吉：ばかばかしい。今頃、何言ってんだい。お前たちだってなあ、いつも母さん悩ませて大きくなったんだよ。望のこと言えた義理かね。

文子：そうね。亨と結婚したいって言った時も、親一人子一人の一人息子のところに嫁に行くことがどんなに大変か、母さん、あんたが何考えてるか分からないって、情けなさそうな顔してた。親子ってそういうもんなのかもしれないわね。

日向：ただいま。ただいま帰りました。

文子：えっ、長子、英作さんの妹さんの結婚式で大阪に行ってるじゃなかったの？

長子：ただいま。

タキ：お帰りなさい。でも、お帰り明日じゃなかったんですか。

長子：明日の本間病院のオープニングセレモニーまでいるつもりだったんだけど、本間のお母さんが頭にきたから、さっさと帰ってきちゃった。

大吉：やっぱり何かあったのか。

長子：結婚式と披露宴に黒いスーツ着て出たのね。そしたら、人様の笑いものになるようなことようになってくれた。本間家に泥を塗ってくれた。本間のうちの長男の嫁としての資格がない。本間病院のオープニングには出てほしくないって怒鳴られたの、だから。

文子：黒いスーツって、長子、留袖持って行かなかったの。

長子：黒いスーツのどこが悪いの？

文子：本間家の長男の嫁なら、留袖ぐらい着るのは当たり前でしょう。そんなことも知らないなんて。

大吉：知っててやってんだよ。本間のお母さんにあれだけ言われてさあ、父さんだって、口酸っぱくして念押ししたんだよ。

長子：あたしにだって、意地くらいあるの。長男の嫁、長男の嫁って、英作はお母さんに長男を降ろされたのよ。由紀ちゃん夫婦が本間病院継ぐことになったら、英作は長男らしいことなんか何一つしてもらえないのよ。だからわざと黒いスーツ着てったの。

長子：由紀ちゃんたちの結婚式も終わった。新しい本間病院もオープンした。これで本間のお母さん大阪で忙しくなる。わたしたちは用なしになった。二度と東京に来ることはない。やっと嫁姑からも解放される。こんなに嬉しいことないよね。ビールも美味しいよ、本当。

大吉：そういう訳には行かないの。うちにはね、かわいい孫の日向がいるんだよ。顔を見に来ないでいられるわけがないだろう。

長子：孫なんて由紀ちゃんのところにだってすぐ生まれるわよ。今はね、大きくなった病院で由紀ちゃん夫婦と一緒に働くのが孫よりも楽しい人なの。憎らしい嫁の顔なんか見に来るわけじゃないの。うんと憎まれないと損だから、反抗して黒いスーツ着てやった。もうね、作戦は功を奏してもう大成功だったしね。たとえ日向に会いたくなかったって、大嫌いなあたしの顔を見なきゃならないと思ったら、来られやしないわよ。

タキ：なかなかプライトの高い方ですからね、本間のお母さん。でも、そんなに立派な病院になったんですか、本間医院は。

長子：うん、わたしたちはタベホテルに泊まったから、本間のうちには帰ってないのね。今日も披露宴会場からそのまま新幹線乗っちゃったから、あたしは見えないんだけど、今までお母さんたちが住んでたおうちとそれから病院を壊して、その敷地いっぱい四階建てのビル建てたっていうんだから。一階は診療室とそれから検査や処置のできる設備とそれに手術室、二、三階が入院の設備でしょう。ほいで、四階が由紀ちゃんとお母さんたちの住まいだっていうんだから、もう相当なもんじゃないの。

タキ：ようございましたね。いいお婿さんをお迎えになって、親子三人で産婦人科の先生なんて理想の病院じゃございませんか。

大吉：まあ、英作くんくんはね、脳外科医だから、本間病院に戻れなくて気の毒けども、まあ、英作くんは自分で選んだことだ、まあ諦めて。

長子：もうとっくに諦めてるわよ。自分で病院やるよりも、勤務医のほうがずっと気が楽だ

って。

タキ：でも、ご自分の目で立派な病院ご覧になったら、やっぱり少しは悔しい気持ちも、寂しい思いもおありなんじゃないんですか。長子さんがそのところ察しておあげにならないと。

長子：うちで大事にしてあげられたら。もう本間のお母さんに見限られちゃってさあ、ここにしかいることができない人なんだからね。

大吉：うちでって大事にするのはお前の方だろうが、英作くんの面倒みんなタキさんに押し付けて。

タキ：長子さんだってお仕事をお持ちなんです。あたくしにできることは何でもさせていただけますから。

常子：英作、あんた、まだこの本間医院に未練があるんか。

英作：冗談じゃないよ。俺は脳外科が専門だよ。産婦人科の病院なんて関係ないよ。～俺はただお母ちゃんのことを気になったから。本間医院は産婦人科だよ。お母ちゃんが助産婦で、産婦人科医の父さんと結婚して、本間医院は主にお産を手掛けてその道で信頼されてきたんだよ。けど、今日見せてもらった新しい病院は産科よりも婦人科のほうを優先した設備になってる。これじゃ、産科一筋に命を掛けてきたお母ちゃんの立場はどうなるんだよ。それが心配だったから、由紀夫婦は一体何を考えてるのかって聞いたかっただけだよ。

由紀：お産の病院ならいくらだってある。けど、不妊治療を専門にやってるところはまだ少ないの。新しい命が生まれる手助けをするのもすばらしいことだけど、あたしは赤ちゃんができないで悩んでいる人たちに新しい命を与えてあげる仕事はもっとやりがいがあると思ってる。伸彦さんは大学病院で婦人科の医者としてその腕を認められてきた人なの。個人病院でもその腕を生かすのが夢で、あたしも彼の夢を素晴らしいと思ったから結婚する気にもなったし、あたしたち夫婦でそれぞれの夢を果たせるように助け合っていきたいっていう気持ちになれたから、この病院も建ててもらったの。もちろん、母さんの専門のお産の患者さんだって扱うつもりよ。

伸彦：本間病院はお母さんの人柄で持ってるんです。お母さんの病院なんです。お母さんには今まで通り本間病院の院長として本間医院を支えてきたメインの産科を担当していただきます。どうぞご心配なく。お母さんが頼りなんです。よろしくお願いします。

由紀：銀行からの融資してもらった借金はわたしたちで返していく。お兄ちゃんには迷惑掛けない。お兄ちゃんは安心して自分のことだけ考えててくれたらいいの。

伸彦：一流病院の勤務医をしておられるほうがずっとのん気ですよ。個人病院を維持していくのは大変です。でも私が独立することになったら、優秀なスタッフが集まってくれました。いつか子宮ガンと卵巣ガンの早期発見と手術とで名の通る病院にして見せます。黙って、ご覧になっていてください。

英作：ただいま帰りました。

タキ：お帰りなさいまし、お疲れ様でした。

大吉：無事結婚式もお済みになって、おめでとうございました。

英作：何もかも終わりました。本間の長男としての責任も由紀夫婦に譲って、肩の荷を降ろしました。これからは長子と日向と三人でのん気にやっていきます。今までおふくろのことで

は随分お騒がせしましたが、もう二度とご迷惑をお掛けするようなこともなくなります。やれやれです。

大吉：由紀さんご夫婦とご一緒なら、長子みたいにできの悪い嫁をね、当てになさることおありにならないでしょう。本間のお母さんもほっとしておられますよ。

長子：ご苦労様でした。ね、お風呂に入るでしょう。そしたら、疲れもとれるわよ。あ、それともお昼ご飯先にする。お昼まだなんでしょう。夜はひさしぶりに日向と一緒に出かけようね。あたし、おいしいイタメシ屋さん教えてもらったの。原稿料入ったからあたしのご馳走する。

英作：長子どうかしたの。

長子：へ？

英作：いや、なんだか変だよ、気味悪いよ。

長子：失礼ね、大切な、大切な旦那様を優しく一生懸命してるのに。

英作：いや、それはありがたいけど、いつまで続きますかね。

大吉：これからはね、この岡倉が英作くんにとって居心地のいいうちになるように努力するんだってね、言ってますよ。今度は本気なんじゃないですか。

長子：そうよ、まじめに本気なんだから。本間のお母さんに邪魔されなかったら、私たちは一生仲のいい夫婦でいられるの。

五月：よかったじゃない。結婚式が盛大で。本間のお母さんもお喜びでしょう。はい、じゃ、英作さんによろしく。

加津：できました。

愛：ありがとう。

加津：私たち、愛姉ちゃんの帰り遅いと思って、お夕飯、真兄ちゃんと一緒に先食べちゃったの、ごめんね。

愛：今日はゼミの日だから、バイト取ってなかったの。なに？その人、芸能プロダクションのマネージャーだったの。加津ちゃんに何の用があるっていうの？

真：自分のプロダクションへ入ってくれて頼みに来たんだって。

愛：どういうこと？まさか加津ちゃんにタレントにでもなれっていうんじゃないでしょうね。

真：子役で売り出すつもりでいるんじゃないのか。

愛：うそ。子役のタレントならもっとかわいい子探すでしょう

真：そんな。加津傷つけるような言い方、加津に失礼だぞ。

愛：加津だって、かわいい。あたしたちはそう思ってる。けど、普通の人にはわからないかわいさなんだよね。だから、…。

加津：私だって、私みたいなブスをどうして？びっくりした。

真：ところが、加津みたいな子がほしいんだってさ。その芸能プロの人、加津とおんなじクラスに自分の娘もいてさ、この間の学芸会にも出てたんで、見に行って、そこで、赤頭巾ちゃんの狼役やってる加津を見て、いっぺん気に入ったらしいだ。今、テレビ局が準備中の連続ドラマに出演する子役を募集してるのにぴったりなんだそうだ。それで、ぜひオーディションを受けさせていって。

愛：なんだ、これからオーディションを受けるのか。

真：けど、オーディションを受けて合格したら加津はタレントになれるかもしれないんだぞ。すごいチャンスじゃないか。

愛：加津ちゃん、OKしたの？

加津：受けるだけなら、どうってことないし、月曜日放課後テレビ局に行くことにした。

愛：へえ、受かったら、加津ちゃん、テレビドラマに出るんだ。けど、信じられないね。そりゃ、赤頭巾ちゃんの狼役はなかなかのもんだった。でもさ、どう見たって、テレビドラマに出る顔じゃないもんね。

加津：私もそう思ってる。

キミ：まったく人騒がせだわよね。子役のテストを受けろって言うてくるほうも言うてくるほうだけど、それを真に受けてキリキリ舞いしてるほうもしてるほうだわよ。そんな馬鹿馬鹿しいことはやめろと言ったって、あたしの言うことなんか聞きゃしないんだから。

真：いいじゃないか。俺たち、何の刺激もなくて変わりばえのしない毎日を送ってるんだ。たまにわくわくして挑戦するようなことがあったってさ。オーディションを受けるからには、合格してみんなびっくりさせてやれよ。それで人生ガラッと変わるってあるんだ。それくらいのことないと、つまらないじゃないか。

五月：真。

キミ：もう、いいかげんにしてほしいわね。これ以上、あの加津ちゃんにひっかき回されるのは、もうたまないわよ。

野々下：申し訳ございません。

野々下：お姉さんには本当にご迷惑ばかりおかけして、でも、加津にはお姉さんだけが頼りなんです。よろしくお願いします。

五月：加津ちゃん、大人よりしっかりしてるし、やさしい子ですから、野々下さん悲しませるようなことしませんよ。だから、心配しないで。

野々下：ありがとうございます。

満枝：あたしはこの子もこの子の兄も姉も三人ともお産婆さんのお世話になって生んだんです。実家へお産に帰ってしまったら、畑やうちのこと何もできませんから、お姑さんのいるうちで、ギリギリまでいつものとおりに働いて、今のうちでお産したんです。それでも子供たちもあたしも病気一つしませんでしたし、あたしなんか産後十日もしないうちに畑へも出ました。そうしなきゃ、人手が足りなくて梨も畑も間に合わなかったんです。うちは、今でもその時と変わりはありません。ですから、あかりさんも実家にはお帰しませんでした。ただ、和夫がうちでお産するのには心配だからって反対しまして、病院に入院はさせましたけど、個室ですし、入院費もバカになりませんからね。

良：あの、入院費ぐらい、私どものほうで。

和夫：とんでもない。入院費はそのつもりで用意してありますから。

良：ええ、わかってます。けど、もし、うちに帰してもらってたら、お産の費用もさせてもらうつもりでしたから。

満枝：そうですか。うちみたいな小さな梨園なんて、苦勞ばかり多くて儲けなんてささやかな

ものなんです。ただご先祖さまが残してくださったものですから、なんとか守り続けたいってやっているだけで。和夫の水耕栽培だってまだ軌道に乗るところまでは行っておりませんし、こんな立派な病院に入院させるなんて私どもには分不相応なんでございます。

和夫：母さん。

満枝：ですから、無事にお産がすみましたら、すこしでも早くうちへ連れて帰りたいと思ったんですけど、一旦病院にお世話になりましたら、いろいろと検査がありますから、医者の方の責任として、すぐ退院させるわけにはいかないって言われまして、しかも初めてのお産ですから、最低五日せめて一週間は入院させて様子を見たいっておっしゃって。あっはっは。驚きましたわ。この子達のときなんか、お産した時には別にどうってことありませんでしたのにねえ。まあ、贅沢な世の中になってしまって。

和夫：30年前とは違うんだよ。医学が進んで、母親と赤ん坊の安全のためにはいろんな医療が必要だってことがわかってきたんだ。だから…。

満枝：お産にお金がかかるなんて母さん思ってもなかったもの。

良：ですから、私どものほうで

満枝：ありがとうございます。はっきり言って助かります。じゃ、お言葉に甘えまして。

和夫：母さん。

満枝：せっかくのご好意じゃないの。野田さんは、うちみたいな貧乏農家と違って、大きな会社の重役さんでいらっしゃるの。大事な娘さんを心配しておっしゃってくださってるんだから、遠慮なく。

和夫：申し訳ありません。

弥生：嫁に出してもね、娘には変わらないんです。当たり前のことですから。それから、あの、あとは、入院してる間は、あたしが面倒も見てやりますから。

満枝：まあ、お願いしてよろしいんですか。地獄に仏とはこのことすわ。あたくしども日中はどうしても畑仕事がありますし、この病院、うちからけっこう遠いんです。夜だけでも来てやりたいと思っても、なかなかねえ。野田のお母さんに付き添っていただけるなら、こんなにありがたいことはございません。あかりさんも心丈夫でしょう。それじゃ、よろしくお願ひします。

和夫：母さん。

満枝：あたしたちに何がしてやれるっていうの？いつも三人で手一杯だっていうのに、あかりさんが働けるまで、あんたと母さん二人でやらなきゃならないのよ。病院に来てる暇なんかないでしょう。夜は疲れてへトへトだし、野田さんをお願いするよりほかないじゃないの。ありがたきご好意をお受けして。

弥生：和夫さん、任せて頂戴。

満枝：それじゃ、あたしたちはこれで。くれぐれもどうぞよろしくお願ひいたします。

和夫：明日、また来ます。

満枝：あなたが来て何の役に立つの？野田さんのご両親にお任せして、一週間もしたら、あかりさんも赤ん坊もうちへ帰ってくるのよ。そうしたら、いやでも毎日顔を見ることが出来るの。病院に来る時間があつたら、すこし休めとかなきゃ。寝不足じゃ忙しい仕事はとつても間に合わないの。三人分を二人でやるんですからね。

勇：人に見られたらまずいもんなんて、いい年して、変なもん読むんじゃないよ。

五月：おかしな事言わないでよ。そんな変なもんじゃないわよ。

勇：だったら、なんだよ。人に隠れてこそこそ…。

五月：真がね、インターネットでネット仲間といろんなことを話し合ってるんだって。野々下さんが、インターネットを見て、それをコピーして、持ってきてくれたの。真、迷える子羊っていう名前で、見ず知らずの人たちと話し合ってるらしいわよ…。

勇：そんなもの、野々下さんにわかるのか。

五月：インターネットができて、真がインターネットで使っている名前がわかったら誰だって簡単に見られるんだって。

勇：そんなことして何になるんだよ。

五月：真、この間まで一流の大学入りたいてって、高校も一流の進学校行くなって、塾もそういう高校を目指してるところ自分できめて、けっこう真面目に通ってたでしょ。それを急にやめるって言い出して、理由聞いたって、自分のことは自分で決めるって言うだけで、学校から帰ってきたって、自分の部屋に閉じこもって、あたしたちは、お店があるから忙しくて全然わかんないし、真が何を考えてるか検討もつかないでしょう。加津ちゃんの話だと、真、インターネットにはまってるんだって。インターネットで何をしてるんだか、お父さんに調べてもらったらわかるだろうって、それで野々下さんに相談して、今朝これ持ってきてくれた。

勇：それ見たら、真の考えてることわかんのか？

五月：さあ。まだ読んでないから、わかんないけど

勇：貸せ、俺が読むから。

五月：あたしが頼んだのよ。

勇：俺は父親だぞ。

五月：誰にも内緒なのよ。殊に真に感づかれて警戒されたらおしまいなの。この分だけだって、真の今の気持ちが読めるかどうか。これからだって野々下さんにずっとおっかけてもらわなきゃなんないの。これしか今の真の気持ちを知る方法はないの。

勇：おはよう。

五月：おはようございます。

勇：おまえ、あれ読んだの。

五月：何よ、自分が読むって、取り上げといて。

勇：疲れてたんだよ。

五月：あたしも一行も読めなかった。どうも活字ってだめなのよね。母親失格だ。

勇：親やってくのも楽じゃないな。

五月：そんなこと言っていられないわよ。進学校を決めないとき、担任の先生との面談だって近づいてんだから。

勇：まさか高校へは行かないつもりじゃないだろうな。

五月：それ、真に聞いたって言わないから、インターネットで苦勞してんじゃない。

真：おはようございます。

親：おはよう。

真：お父さん、今朝は早いんだね。なんだよ、深刻な顔して。母さんと話してるなんて、珍しいじゃないか。何かあったの。

五月：ううん、別に。お父さん、ほら、真のこと心配してらした。

真：俺のこと？

五月：あ、うん、あの、塾やめたから。

真：俺のことなら、余計な心配しないでよ。

勇：心配するよ、お前。高校行くのか行かないのか、行くんだったら、どういう高校行くのかさ。

真：俺のことは俺が決める。自分の将来がかかっているんだ。ちゃんと考えてるよ。

五月：ちょうどお昼休みに来ていただいてよかった。

野々下：先日お渡ししたコピーのことも気になってましたし、またちょっとコピーとれたもんですから、それもお渡ししたくて、お昼休みなら、お話できるんじゃないかと。

五月：お忙しいのに、とんだことをお願いをして申し訳ありません。

真：加津が夜食の手伝いできるのも今夜かぎりかもしれないよな。あしたからテレビドラマ主演の特訓が始まるんだ。はやく寝る習慣つけないと、こんな大人たちに付き合ったら疲れて途中でダウンしちゃうぞ。

加津：平気だよ。学校終わってから、テレビ局へ行って夜の7時か8時ごろまでのお稽古だっていうんだもん。どうってことないよ。

真：特訓ってどんなことするのか知らないけど、うちでテレビ見たり漫画読んでのとはわけが違うぞ。今までのんびりしてたやつにはこたえるんじゃないのか。

加津：私、学校から帰ってきたからって、のんびりなんかしてないもん。方々の掃除したり、洗濯物取りこんだり畳んだり、アイロンかけだってやってるの。けっこう重労働なんだから。真兄ちゃん、前は塾へ行ってて、帰り遅かったし、今引きこもりになっちゃったから、私が何をしているかわからないだけ。

真：引きこもりなんて言うなよ。引きこもりっていうのは、学校へも行かずに、自分の部屋に閉じこもってるやつのこと言うんだ。俺はちゃんと学校へは行ってるんだからな。

加津：帰って来たからって、うちの人とほとんど口もきかないで、何考えてるのかわからないって、おばさん困らせてるのは引きこもりとおんなじなんじゃないの。

真：男はね、べらべらしゃべるもんじゃないんだ。加津と違うんだよ。

加津：しゃべらなきゃ、何にもわからないじゃない。

真：わかってもらおうなんて思っていないの。自分のことは自分で考えて、自分で決める。話したって仕方ないの。加津だって自分のことは自分で決めてるじゃないか。誰が反対したって、テレビドラマに出ること決めちゃってさ。

キミ：ほんとに人の言うことを聞かないで。あとで後悔したって遅いんだよ。

聖子：まだ間に合うのよ。加津ちゃんがテレビドラマの主演になんてなれるはずがないの。うまいこと言って稽古なんかさせて、授業料みたいなもの、高いこと吹きかけてくるのがそういう人たちの手口なの。まさかと思って、テレビに出してやるなんて、声かけられてごらんよ。親なんかうれしがっちゃって、いくらだってお金払うんだから

加津：私、お金なんてないもん。

聖子：加津ちゃんの父親が稼ぎがいいこと、ちゃんと調べてるのかもしれないね。

加津：私には、父さんなんていないもん。

聖子：そういうこと言っていると、結局幸楽に迷惑がかかるのよ。

愛：だまされてるかどうかかわからないでしょう。加津ちゃんの才能を見込んでくれたのよ、きっと。

聖子：だまされてるってわかってからじゃ遅いんですよ。うぬぼれてると付け込まれて、ひどい目に会うって言うてるの。

五月：加津ちゃんはその気になってんだから、いいんじゃないの。今の子供は何でも好きなことやればいいの。また、それがだまされてんだったら、またそれはそれで一つの勉強になるんだし、何をしていいかわからない子だとか、何もすることのない子供よりよっぽどましだよ。

キミ：ほら、そうやって加津甘やかしてたら、世話ないわ。しかしね、加津にお金を使うことはごめんだからね。加津にはね、何の義理もないの、うちは。

勇：いいかげんにしろよ。だまされてるかどうかわからないことで言いあたってしょうがないじゃないか。

聖子：じゃ、旦那は加津ちゃんみたいな子が本当にテレビドラマの主演に選ばれると思ってるんですか。

勇：美男美女だけがテレビドラマに出られるわけじゃないだろう。

真：そうだよ。美男美女じゃドラマだって、つまらないぞ。いろんな顔や個性のある俳優だって出てないとき。加津は自信もっていいぞ。一度見たら忘れないガッツのある顔してる。二人としない個性だ。それが加津の武器だからな。

キミ：ほら、そうやってまたたき付ける。

勇：加津ちゃんがそれだけ本気でやる気になってんならさ、その芸能プロのマネージャーとかいう男が本物かどうかぐらい調べりやすむことじゃないか。

五月：とてもうそをついてる人には思えないけどな。

キミ：とにかく、野々下さんはね、絶対許さないってね、いってるんだから、

愛：こんにちは。

ひな：あ、愛姉ちゃんだ。

長子：さては、お昼ご飯狙ってきたな。

愛：違うわよ。お昼はバイト先で出たの。次のバイトまでに時間あって、映画みるつもりだったんだけど、中途半端だったからやめて、おじいちゃんの顔見によったの。

大吉：ああ、そうかい。

愛：今なら、お昼休みだと思ったから。

長子：バイト、家庭教師だって言ってたけど、日曜なのに、一人で時間持て余してるようじゃ、ボーイフレンドもいないな。

愛：うちは女子大なのよ。ちゃんと学校へ行って、ゼミにも出て、その合間にバイトしてたら、ボーイフレンド見つける暇もないの。

大吉：バイトなんかすることないだろう。小遣いぐらい、おじいちゃんがちゃんと面倒みてやっていってるだろう。

愛：そんなことしてもらったのが、うちのおばあちゃんの耳へでもいったら、たちまち家庭争議だからね。

長子：そうよ。お父さん、まだ幸楽のこと、わかってないんだから。

愛：学費出してもらうんだって、母さんに肩身の狭い思いさせてるの。せめて自分のほしいものは自分で買えるようにしたいもの。おばあちゃんへの意地もあるの。

大吉：幸楽のばあさん、愛がかわいくないのかね、ほんとうに。

愛：孫も大きくなると、おばあちゃんの思うとおりににはならないからね。おばあちゃんは自分の言うこと聞く人だけが好きなの。仕方ないよね。女が高いお金使って大学へいくなんてこと、認めない人なんだから。

長子：時代遅れもいいとこだわ。

大吉：本当だ。

愛：もうあきらめてる。パパは？日曜なのに、お休みじゃないの。

ひな：病院。忙しいんだって。

長子：患者さんには、土曜も日曜もないのよ。うちは、母子家庭みたいなもんよ。

愛：よく言うわ。長子おばちゃんは最高よ。実家でのおんびり暮らして、お姑さんと同居じゃないんだもん。あたし、一生独身でもいい。お姑さんのいるところへだけは嫁にいきたくない。

タキ：こういう娘さんばかり増えたら、日本の将来どうなるんでしょう。

長子：大丈夫よ。本当に好きな人にめぐり合ったら、そんなこと忘れちゃうんだから。

文子：あ、あなた、今日帰ってくるなんて聞いてなかったわよ。

亨：急にこっちで人に会わなきゃならなくなって。

文子：じゃ、またすぐでかけるのね。

亨：いや、約束は明日の朝なんだ。今日は日曜だから、今夜はひさしぶりにうちでゆっくり夕飯食べようと思って。望もいるだろう。

文子：望？いると思うけど、自分の部屋じゃない。じゃ、望と一緒に外で食事してきてくれる？うちで食べるっていても何の支度もしてないの。

亨：今から買い物に行ったら十分間に合うだろう。

文子：そんな暇ないのよ。十月の二週目の日曜日なの、試験。あと一週間しかないの。あたしにとって今一分一秒が勝負の時なのよ。一間でも余計に例題の勉強しとかなないと…。帰ってくるなら、試験終わってからにしてほしかったなあ。

亨：文子、まだあきらめてなかったのか、あの試験受けるの。この前、俺が帰ってきた時さ、難しくととても見込みないから、もうあきらめるっていったんじゃなかったか。

文子：何度あきらめようと思ったか知れないわよ。けど、この国家試験、年に一度しかないのよ。今年はずしたら、来年までまたなきゃならないの。一年は長すぎる。今年取れるもんなら、とっちゃいたいじゃない。だめだったら、来年までのぼしてもしかたがないけど、もしかしたら、今年合格するかもしれないし、どうせだめもとなんだから。

亨：旅行業務取り扱い主任者の資格なんて、たかが半年間ぐらいの準備でとれるようななまやさしいもんじゃないよ。

文子：わかってる。それでもあたしが海外旅行の企画して、そういうツアーを仕事にできる旅行代理店、どうしてもやりたいのよ。それが今からのあたしの人生の夢なの。

亨：文子。

文子：ごめんなさい。どうしても今日中にこの例題集あげちゃいたい。お願いだから一人にしといて。

亨：甘えるのもいいかげんにしてくれよ。たまに帰ってきたっていうのにさ、亭主の飯のしたくもできないなんて、そんなバカな話あるかよ。

文子：だから、今度だけ大目に見てっていつてるの。食事なんて何も、あたしがこしらえなくた

って、どこでも食べられるでしょう。

亨：そういう問題じゃないだろう。それは、俺の収入で食べられないとでも言うなら、何が何でも資格とって稼がなきゃならないっていう気持ちになったって、仕方ないさ。けどね、ハワイの俺たちのホテルだってアメリカの好景気に支えられて今ところなんとか順調にいつてる。生活費だって、十分入れてるはずだ。肝心な主婦の役目も放り出して、試験だなんだって、大騒ぎされる覚えはないよ。旅行業者になりたいなんて、とんでもないよ。はやく夕飯の買い物行ってきてよ。

文子：お金がほしくて仕事がしたいんじゃないの。それは、この間ちゃんと話したはずでしょう。

亨：今更、生きがいがどうのこうのって。君はこの家の主婦なんだぞ。望の教育はどうしても日本でしてやりたいっていうから、俺はハワイで単身赴任みたいなことになってるんだ。それはそれで、望のためだと思うから、俺も納得してる。だったら、俺のいない留守を、望の母親として、この家を守っていくのが君の仕事だろう。それをどうだ。この部屋だって、ろくに片付けもしないで、もう。試験受けたいんだったら、受けたっていいさ。そのかわり、主婦として、母親として、することちゃんとしてからにしてくれ。それができないんだったら、試験受ける資格なんかありゃしない。あきらめろ。

文子：亨！

亨：俺が許さない。

文子：なによ。二言目には食べさしてやってる、不自由はさせてないって、偉そうに。女はそれで幸せだと思ってるんだから。亨には何にもわかっちゃいないのよ。

亨：これ以上、俺にどうしろってんだ。夫婦と一緒に暮らせないのは俺のせいじゃないんだから。寂しいなんか、言わせないからなあ。

文子：別居は、望を日本の大学出してやりたいからって、お互いにわりきったことだもの。それでいいと思ってる。でも、望のためにしかたなく、別居してるっていうのに、望にはもう自分の世界があって、母親なんて、いてもいなくなつて、どうってことない年になってんのよ。あんまり干渉すると、うるさがられるだけだし、そんな時、あたしもうひどく空しくって、「あたしって、いったい何のために生きてんだろう」って、情けなくなっちゃうの。あたしだって、母親でもない、女房でもない、一人の人間として、自分らしく生きられる世界があるんじゃないかって。

亨：君は一応ハワイのホテルの東京出張所としての仕事があるはずだ。退屈だとか、さびしいだとかって、言ってる場合じゃないだろう。

文子：そんなただの連絡係じゃない。誰にだってできる。あたしにはあたししかできない自分の仕事がしたいのよ。人が作ったプランの連絡係じゃなくて、自分でツアーを企画して、自分で売りたいの。それが夢なの。

亨：夢をみるのは勝手だよ。ただ、たとえその試験に合格して資格をとれたとしても、そういう業界は競争も厳しい。簡単にやれると思ったら大間違いだぞ。

文子：それぐらい承知してるわよ。それでも資格は取りたいじゃない。今、試験に向けて全力投球したいの。それだけでも私には今生きてるっていう気がしてるの。大事なものは、そういうことなのよ。お願いだから、あたしのわがまま通させて。

望：ただいま。やっぱりパパだった。玄関にパパの靴があったから。お帰りなさい。

文子：望、どっか出かけてたの。

望：岡倉のおじいちゃんのところでお料理もらってきた。これだったら食べられるだろう。

文子：ママに黙ってそんなこと。

望：だって、ママ一生懸命勉強してたから、声かけちゃいけないと思ってさ。すぐ帰るつもりだったし。

文子：母さんに断りもしないで、余計なことを。おじいちゃんに何て言ったの。おじいちゃん心配してたでしょう。母さん、試験受けること内緒にしてるし、暇もないから、ずっと行ってないんだから。

勇：うちの弁当どこ行っても評判いいよ。ロコミなのかな、注文も増えてるしさ。大変だろうけど、よろしく頼むね。

聖子：今に、弁当の幸楽になるように頑張るって、周ちゃん、張り切ってます。

周：そんなばかなこと。

真：いいかげんにしてほしいな。うるさくて勉強にも何もなりやしないよ。どうせ、またおばあちゃんにいびられたんだろう、お姉ちゃん。母さんいびるだけじゃ足りなくて孫までいびるようになったんじゃ、このうちもおしまいだよ。もっと平和に暮らせないのかね。

五月：あんたはだまってなさい。

五月：あたしは、愛にうそつかれてたのがショックだった。けど、考えてみたら、無理ないわよね。おばあちゃんに大学いくの反対されて、気兼ねして。すこしでも収入のいいバイトして、あたしたちに負担かけないようにって一念だったのよ。そんな愛の気持ち考えたら、なんだか不憫で。お母さんがもっと理解のある人だったら、何もバイトなんかしなくたって、私たちに甘えられたらろうに。

勇：おふくろが悪いって言うのか。

五月：おはよう。

愛：母さん、あたし、お願いがある。このうち出て、一人で暮らしたい。わがままなのはわかってる。けど、おばあちゃんの顔みるのも嫌になった。母さんだって、あたしがこのうちにいたら、おばあちゃんに嫌な思いばかりさせられる。そんな母さん見るのもつらいの。あたしたちのクラスには地方から来てて一人暮らししてる子、たくさんいるの。あたしだって、大丈夫。しっかりやってくから。

五月：愛。あんた、いつからそんな弱虫になったの。おばあちゃんが嫌だから、逃げ出すだなんて、そんな情けないことでどうすんの。第一、うちにはあんた一人暮らしにさせる余裕なんてあるはずないでしょう。

愛：費用ならバイト増やせば、何とかなる。本当は、黙ってうち出ることも考えたんだけど、母さんに心配かけるようなことだけはしたくなかったから。

五月：だったら、黙って出て行きなさい。

愛：夕べはお騒がせしました。でも、うそがばれてかえってよかった。これからはもうコソコソしないで、コンパニオンのバイトもできる、万歳だ。

キミ：五月、あんたはコンパニオンのバイトっての許したのかい。

五月：はい、別にやめさせなきゃいけないような悪い仕事じゃありませんし、家庭教師に行ってるなんて、うそをついたんだって、うそをつく事情があったんです。愛がしっかりしてれば、すむことですから。

キミ：また愛に丸め込まれて、「いいわ、いいわ」で、愛の言いなりになってたら、今にとんでもないことになっちゃうんだよ。なにかあってから、慌てたってね、遅いんだから、もう。

五月：そうですよね。あとでそれみたことかとおばあちゃんにしかられないように、ちゃんとやってちょうだいよ。母親の教育がなってないからって叱られるのは、母さんなんだから。

愛：はい、母さん裏切らないように頑張ります。おはようございます。

勇：おはよう。

愛：お父さん、ごめんなさい。母さんとよく話し合った。二度とお父さんや母さんに心配かけるようなことはしない。母さんはあたしのこと信じてくれた。うれしかった。

五月：お父さんだって、信じてくださってるわよね。

勇：あ、ああ。

愛：ありがとう。お父さん。お父さんと母さんに信じてもらえたら、誰になんと言われたって、平気。また頑張れる。バイトも一生懸命やってすこしでもお父さんや母さんに迷惑かけないようにするから。

勇：学費や小遣いぐらい、父さんなんともしてやるよ。無理なバイトなんかすることないんだぞ。そのために、父さんだって、母さんだって、働いてんだからさ。大船に乗った気でいろよ。

五月：お父さん、いいところあるわね。見直しました。

キミ：あきれた。夫婦で甘やかしてたら、世話ないわ。

亨：おい、文子。眠いんだったら、ちゃんとベッドで寝なさい。

文子：あ、いけない、寝ちゃった。亨、帰ってきてたんだ。

亨：徹夜したのか。

文子：朝方、ソファで3時間ぐらい寝た。

亨：いつもそんな暮らししてるのか。

文子：ベッドで寝ると、起きらんなくなっちゃうのよ。一日2時間余計に寝ると、十日で20時間のロスでしょう。のんびり寝てなんていられないよ。

亨：そんなことをしていると、体壊してしまうぞ。

文子：大丈夫よ。自分でやりたいことやってるんだもの。ひさしぶり毎日が充実してるの楽しいんだよ。病気になるてなるわけないでしょう。あ、コーヒー入れる。

五月：すいません、遅くなりました。

キミ：今、何時だと思ってんだよ。もうとっくにあんた健治さんなんか来て働いてんだよ。夜の店の準備までに帰ってくるって言っときながら、何をやってたの。

五月：野々下さんと加津ちゃんのこといろいろ話して、遅くなってすいませんでした。

聖子：買い物してきたんですか。それじゃ、遅くなるはずだわ。

キミ：店の準備に間に合わないのがわかって、よくのん気に、あんた、買い物なんかしてられるわね。何買ってきたの。

五月：買い物なんかしてる暇ありませんよ。野々下さんに加津ちゃんに渡すもん頼まれて、あの、野々下さんのつくったテレビゲームとか、それからあと着替えとかを。あ、すぐ着替えてきます。すいません。

五月：ごめんなさい。

キミ：花嫁のお色直しじゃあるまいし、着替えるのにそんなに時間かかるのかい。もう、この忙しいのに、もういいかげんにしてほしいわね。何もかも、あんた、人に押し付けちゃってさ。

五月：奥に入ると、いろいろあるんですよ。掃除だって加津ちゃんが学校から帰って、やってきてくれたから、ずいぶん助かったけど。これからは、放課後はテレビ局のお稽古に行っちゃうし、当てにはならないし。今までどれほど加津ちゃんがうちのことを手伝ってくれてたかよくわかりました。あの、玄関の部屋ね、聖子ちゃんのところとうちで使ってるから、両方で掃除をするっていうんで、当番をして交代にするって決めたでしょう。けど、聖子ちゃんはいくら言っても掃除してくれないし、加津ちゃんがだまって掃除してたの。聖子ちゃんの当番の時は、ちゃんとやって頂戴ね。

周：申し訳ありません。こいつにはいつもうるさく言ってるんですけど、時間がないとか、忙しいとか言ってやらないから、加津ちゃんがやってくれちゃうらしいんですよ。

聖子：加津ちゃんは居候なのよ。それくらいのことしたって、罰は当たらないのよ。あたしは幸楽のために働いてるんだから。

周：何をいってるんだ。俺たちだって家賃も払わないで、置いていただいているんだぞ。加津ちゃんができなくなったら、これからは当番だなんていわないで、うちでやればいいんだ。

聖子：うちの家賃は、邦子さんがただで貸せないっていうから、大きい女将さんが払ってくださってるの。旦那や五月さんのお世話になってるわけじゃないのよ。加津ちゃんの代わりまですることないでしょう。五月さんとこの当番ん時は五月さんここでやってもらうのが筋じゃないの。愛ちゃんだって、真ちゃんだっているんだし。ねえ、そうですよね、あたしの言ってること、間違ってます。

キミ：そうだよ。愛も真もすこしやらしたほうがいいわね。ほんとに愛も真もさ、自分のことしか考えてないんだから。親が甘やかしてるからね、勝手なことするようになってしまったの、あの二人は。すこしやかましく言ってね、うちのことやらせるほうが、子供たちのためなの。

聖子：店を継がないから、店のことは関係ないって、愛ちゃんも真ちゃんも知らん顔でしょう。そんなのおかしいですよ。幸楽のおかげで、何不自由なく暮らせて、学校へも行かせてもらってるんです。親なら、それくらいのこと言わなかったら。ねえ、女将さん。今の世の中、親がだらしなさすぎますよね。あたしの言ってること、間違ってます。

五月：聖子ちゃんが来てくれて、人手が足りてるから、手伝わせる必要がないの。うちの当番の時は、愛と真に手伝わせても、聖子ちゃんの仕事までさせることはないでしょう。

キミ：ああ、ばかばかしい、あんな狭い部屋。誰が掃除しようとしまいとね、手の空いたものがやればすむことじゃないの。

五月：一つ屋根の下に暮らしてるんです。小さいことにきちんと神経をつかわないとやっていけないんです。だから、言ってるんです。

周：よくわかってます。私からも聖子によく言って聞かせますから。

聖子：あ、そう。あんたわかるの。だったら、五月さんの言うとおりにすれば。掃除もね。私は

五月さんにああしろ、こうしろって言われる筋あいなんてないんだから。

勇：何をやってんだ、おまえ？はやく電気を消せよ。眠れないじゃないか。あれ、なんだ、それ、パソコンじゃないか。どうしたんだ、買ったのかよ。

五月：野々下さんがプレゼントしてくれたの。

勇：何、おまえに？何考えてんだ、野々下さん。

五月：これから覚えるの、インターネット。

勇：お前なんかで簡単にできることじゃねえんだぞ。

五月：真のホームページぐらい読めんだから。

勇：真がホームページなんか持ってんのか。

五月：どうやんだっけな、わかんなくなっちゃった。真のホームページを読んだら、すこしは真が今何を考えてるか分かるんじゃないかって、野々下さんに言われて。ほら、コピー頼んでたでしょう。それより自分で読むほうが面白って進められて。

勇：こんなことをやたらやったら、金かかんじゃないのか。おい、真のインターネット代ってどうなってんだよ。うちの電話代についてんのか。子供の遊びに親が高い金払わされたんじゃ、たまったもんじゃないからな。

五月：真は自分の電話もってんよ。前にインターネットで勉強したいつつたときに、そういうことに使うんだらって、あたしが費用出してやったの。うちの電話なんか使ったら、電話代かさんだら、お母さんに何いわれるかわかんないじゃない。だから、真の電話代も、私が払ってんの。これからはインターネット使えなかったら、時代に遅れるっていわれたら、いやって言えないもんね。インターネットを使うにもね、インターネットを扱ってる会社と契約しなきゃなんないらしいの。その費用はたいしたことないんだって。真の電話代だってそんなに高くないもの。このパソコンもね、どこでもつなげるようになって、携帯もくださったの。その手続きも費用も野々下さんが出してくださって。まあ、これからいくらかかるとはわかんないけど、母親には絶対必要だもんね。

五月：結局、真は大学いくの迷ってんのよね。今塾もやめちゃったから、行くつもりないんだと思うの。けど、急にやめるにはさ、それなりの理由があると思うのよ。それを知りたいのよ。それがわかんなかったら、大学行けなんて、どういう風に言って、説得したらいいかわかんないでしょう。こんなん、真の本心が読めんのかね。

勇：親がヤキモキしたって、どうにもなりやししないよ。親の言うことなんか聞く気ないんだからさ。ああしろ、こうしろって押し付けたら、かえって反発するしなあ。

五月：だから、ほっとくわけいかないでしょ。今子供が何を考えてるか、今、どんな気持ちでいるか、親だったらそれぐらい知っとかなきゃ。大学へ行くんだったら、行くで、今努力しなきゃなんないし、行かないんだったら、どうするか。親と一緒に考えてやんなきゃなんないし。

勇：自分で考えて、自分で決めるって言ってんだよ。

邦子：あたし、まさかあのオーディションに加津ちゃんが受けに行ってるなんか、ぜんぜん知らなかったのよ。うちのミカも知り合いの人に薦められて、受けに行ったのよ、あのオーディション。ミカちゃん、かわいいし、センスもいいから、絶対大丈夫なんていわれてさ。私とミカもさ、す

っかりその気になっちゃって、で、「局の人にお使い物しといたがいいわよ」なんて言うからさ。けっこう入れ込んでたのよ。

キミ：だまされたのかい？

邦子：信じたあたしがばかだった。見事オーディション落っこっちゃって、ミカは相当傷ついちゃったのよ。あたしが余計なことしたばかりに、ミカにかわいそうな思いさしちやって、あたしもショックだったの。でもさ、ま、それはそれでしかたがないじゃない。だから、ミカにもあきらめようねって言ったのよ。そしたら…。

キミ：加津が選ばれたってことがわかったんだね。

邦子：あたし、誰がオーディションの最後まで残ったかなんて、知りたくもなかったからさ。聞きもしなかったのよ。ところが、たまたま野々下の財布を見たら、デパートの子供服売り場で子供服を、あんだ、何着も買ってやってる、このカードの領収書が入ってたのよ。ああ、これはあたしに内緒で加津ちゃんに何か買ってやったなあ、あたしすぐぴんと来たからさ。野々下を問い詰めてやったの。そしたら、例のオーディション受けるときに、買ってやって、で、無事に合格したから、今は局で特訓を受けてる。みっともない真似もさせられないから、これからもできるだけのことはしてやるっていうのよ。まあ、あたしそれを聞いて、かあとしちやってさ。

キミ：だってしかたないだろう。野々下さんは父親なんだから、それくらいのことをしたって。隆やミカだってよくしてもらってるじゃないの。

邦子：私ね、何も洋服買ってやったのが悔しくて言ってるわけじゃないのよ。ミカが落っこったオーディションに加津ちゃんは残ったのよ。ミカがそのオーディションをうけてだめだったって事知ってて、それを黙っててさ、影では精一杯父親やってんだもん。そんなことってある？

キミ：ミカがだめだったのにさ、加津が合格してテレビにでられるようになったって聞いたらさ、もうミカだってお前だって、傷つくだろう。だから、だまってたんじゃないの、野々下さん。

邦子：ええ。傷ついてますよ。あたしもう絶対許せないわよ。ミカの気持ちを踏みにじるようなことして、だって同じ年頃の女の子同士なのよ。うちのミカが落っこって、自分の子が合格したからって、お金を使って応援するなんて、そんな無神経にもほどがあるわよ。

キミ：だったら、どうするっていうのよ。今度こそ、離婚するっていうの。もう母ちゃん、忙しいんだからさ、もうくどくどとお前の愚痴を聞いている暇なんかないの。

邦子：誰が離婚なんかするもんですか。野々下が別れてくれってゆったって、あたし絶対別れてなんかやらないわよ。野々下と別れたら、二度とこんな贅沢な暮らしさせてくれる人とめぐり合わないもんね。

キミ：だったら、あんたうちへきてさ、こぼすことなんかないだろう。

邦子：ねえ、五月さん、加津ちゃん、テレビ局の仕事辞めさせてよね。だって、ミカが落ちたの。ミカの気持ち考えたら、加津ちゃんに遠慮してもらうのがこの思いやりっていうものでしょう。ミカと加津ちゃんは兄弟なのよ。片方がよくて片方が悪いんじゃ、悪いほうがかわいそすぎるじゃない。ミカ、一生心に傷を残すことになるのよ。でも、加津ちゃんやめたって、どうってことないでしょう。加津ちゃんがやめてくれたら、ミカだって、救われるの。ねえ、なんとかお願い。

五月：加津ちゃん選ばれて、自分でやる気になって、毎日厳しい稽古に耐えてるんです。あたしからやめろなんて言えません。

邦子：じゃいいわよ。あたしから言うから。

五月：どうぞ。邦子さんにやめろなんて言われたら、加津ちゃんやめるどころか、かえってがん

ばっちやうんじゃないんですか。邦子さんに何か言われて、辞めなきゃいけない義理もないし、邦子さんにはさんざん嫌な思いさせられてますから。

邦子：ね、野々下。加津ちゃんのために局の人にいったいどれくらい金使ったのかしらね。だってさ、加津ちゃんよりいい子いっぱい来てたわよ。うちのミカだって加津ちゃんよりずっとかわいしいし、演技力だって負けないと思うのよね。それなのに、加津ちゃんが残るなんておかしいじゃない。野々下のやつ、うちのミカもオーディションうけることを知ってたって、それをだまってるよ。影では加津ちゃんのためにいろいろやってやってるんだ。

五月：いいかげんなこと言わないでください。加津ちゃんは自分の持っている個性と才能を認められて最後まで残ったんです。テレビ局だって、莫大なお金を使って、大事な作品を作る子役選ぶんですよ。お金や情実で決められる世界じゃないでしょう。加津ちゃんは学芸界の演技が芸能プロダクションのマネージャーさんの目に止まって局のオーディション受けたんです。そのとき、野々下さん、厳しく反対なさいました。オーディションに合格するために影でお金を使うなんてことするはずないじゃないですか。

邦子：じゃ、どうしても加津ちゃん辞めさせないっていうのね？

五月：私にはやめろっていう理由が納得できませんし、加津ちゃんにやめろなんていう資格も力もありませんから。

邦子：じゃ、母ちゃんから。

キミ：ごめんだよ、あんた、ばかばかしい。たかが子供が、あんた、テレビに出るか出ないかって、そんなことでさ、大の大人が青筋たてて大騒ぎすることじゃないだろう。テレビに出て、人生間違えることだってあるんだよ。ミカ、あんた出られなくてよかったかもしれないじゃないか。

邦子：同じオーディションを受けて、加津ちゃんは主役でテレビに出るのよ。ミカがそれを見てどんな気持ちすると思うのよ。母ちゃん、ミカのことかわいそうだと思うないんだ。

キミ：テレビにでるのが何がいいのよ。母ちゃんね、子供がテレビに出るのは反対なんだよ。出たい子は勝手に出りゃいいんだから。母ちゃん、もうね、何にも言うつもりはないからね。

邦子：みんな、冷たいんだから。ああ、もう、誰にも頼まないわよ。あたし、加津ちゃんに出られないようにしてやるわよ。きつとしてやるんだから。

由紀：何の用なのよ。手の離せない患者さんがいるっていうのに。何度も電話かけてきて。

常子：あのねえ、何時間夕飯待たせてよろしいね。

由紀：だから、いつも先に食べてって言うてるでしょう。信彦さんだって、まだ手が空かないの。入院患者がいる以上、患者次第で、医者の方にはならないってことぐらい、もう母さんだってわかってるでしょう。私もまだ様子みなきゃならない入院患者がいるの。それがすまないと、お夕飯なんて食べてはられないのよ。信彦さん私も勝手な時に食べるから、もう電話しないで。

常子：由紀、待ちなはれ。座んなはれ。座んなはれ。ほなね、わては何のために一緒に暮らしてますの。お母ちゃんな、あんたが結婚してから一度も一緒に食事したことおまへんやで。食事どころか、ゆっくりはなしたこともないがね。朝も早ようからもうちゃんと病院に降りて行くし、二人してなあ。ほんで、ま、朝ごはんに上がっても来いひんしな。病院出たら、出たで、信彦さんも由紀もそれぞれの患者さんにおうて、忙しいやろしな。顔あわしても口を聞く暇もない。そやから、せめて夕飯ぐらいは三人そろって食べようって、そないに思ってもこの始末。これが家族て言えまっか。

由紀：仕方ないでしょう。うちは三人とも医者なの。普通の家族とは違うんだから。

常子：あのね、今夜スキヤキにしようって、で、無理してでも時間作って、一緒に食べような
あて、朝言うたはずでっせ。信彦さんも知ってるやろ。

由紀：いいかげんにしてよね。信彦さんもあたしも遊んでるわけじゃないの。何も一緒に食事し
なくたって、家族は家族なの。

由紀：何か用？あたしたちは母さんとは違うのよ。診察時間が終わって、入院患者抱えてた
ら、お夕飯を食べる暇もないの。気安く呼びつけないでよね。

常子：そうかてな。黙ってたら、会うこともできへんし、お話することもできしまへんやろ。一
つの屋根の下に住んでいる人間が、顔合わすこともできへんて、そんなアホな話がありますか。

由紀：あたしたちだって、遊んでるわけじゃないの。最小限の医者と看護婦で、許す限りの患者
さんを診て、手術して、術後のケアしてるの。時間はいくらあっても足りないの。暇なのは母さ
んだけなんだから。

常子：へいへい、どうせ、あたしはな、この病院では役に立たん人間ですわ。

由紀：話って何なの。

常子：いや、あのな、クリスマスイブのことやけどな。今年は、お母ちゃんの誕生日兼ねて、で、
病院新しいしてくれはったときに世話になった方々を、まあ、お招きして、パーティーやろうと、
こないと思ってんやがな。何かにかこつけてやらんことにはな、何にもできへんやろ。

由紀：何が誕生祝いのパーティーよ。

常子：それはまあね、忙しいのはようわかってる。けど、一年に一度のことや。まして、クリス
マスやがな。病院も大きくなったことや、ま、それくらいことはな、まあ、あのな、暇作ろと思た
ら、つくれまっしゃろ。

由紀：暇がないだけじゃないの。ホテルでパーティーするような費用がどこにあるの。病院は大
きくなったら、なっただけで、経費もかかる。暇がないくらい働いたって、も、黒字になるよう
な経営は、も、なかなか難しいの。そんな無駄な贅沢してはいられないの。

常子：そんなアホな。お母ちゃんな、あんたらが夢かなえさしてあげたいと思て、でけん無理し
てお金作って、病院を大きしたんでっせ。それを、年に一度のパーティーもできんような経営や
ったらな、あほらしいから、やめなはれ。あ、昔のな産婦人科のほうがなんぼええかわからへん
わ。

由紀：ばかなことを言わないで。あたしたちには私たちの理想があるから。母さんはもう余計な
口出ししないで。経営の事だって、もうお母さんにはわからないの。いい年して、誕生日のお祝
いもないでしょう。どんなに病院が大変でも、母さんのお給料だけはちゃんと出します。母さん
はそれでのんびり遊んでくれてたらいいの。

由紀：帰ってきたんだ。看護婦が大先生がお帰りになりましたって言うから、まさかと思て、
来て見たの。ずっと東京いるつもりじゃなかったの。ここにいたって、母さんの患者さんは減る
ばかりで、することなんてないのよ。あたしもう大阪へは帰ってくる気はないと思てた。

常子：あのな、東京にいるゆうたかて、住むところもないの。どないして暮らしていけますねな。

由紀：お兄ちゃんところがあるじゃないの。お兄ちゃんと一緒に暮らしたいから、行ったんでし

よう。そういう話しなかったの、お兄ちゃん。

常子：あのな、英作は長子さんの実家にいてまんね。そこへ、あたしがそこまごり込むわけにはいけまへんやろう。

由紀：お兄ちゃんに別居してもらったらいじゃない。

常子：そんなお金がどこにありますねな。

由紀：お兄ちゃんは高いお給料をもらってるのよ。マンションくらい借りられるでしょう。お兄ちゃんだって、女房の実家に世話になってるのは嫌でしょう。母さんが一緒に暮らすんだったら、母さんも部屋代少し出すことにしてさ。お兄ちゃん、喜ぶんじゃないの。お兄ちゃん、マザコンだもん。

常子：あんた、アホか。お母ちゃんな、30万の月給しかもろうてしまへんやで。そこで、あんた、部屋代の一部を負担してやな。あとあんた、食べたり着たりどないしてできますね？

由紀：自分の母親を食べさせるのは、お兄ちゃんの責任じゃないの。大きい顔して同居したらいいのよ。

常：はあはあ、あたしはな、そんな惨めな思いすんのはごめんですわ。え、あんたらな、お母ちゃんが邪魔やから、はよう東京に行ってほしいと、こない思ってたはんのやろう。そうはいきまへんで。あてはな、今度新しい病院を建てなおすのに、お父ちゃんを残してくれはった預金や株、それをお母ちゃんがもってるものも、皆つぎ込んだんでっせ。骨とう品からそれから、宝石類、お金に替えるもの、皆はきだしてしもうた。今のお母ちゃん、もう丸裸や。なあ。そんな思いして作ったお金で、あんたの希望の、ちゃんと病院建て直ししてからに、それであんたらに継いでもろた。ま、それを考えたらな、病院長のこのあてが、30万の月給はおまへんやろ。せめてな、100万もろたらな、東京にもいてられるわ。あていつでも出ていきまっせ。へ。

由紀：よく言うわ。お兄ちゃんが本間の家を継ぐ気がないから、私に本間医院を頼むって頭下げたのは母さんなのよ。だから、あたしだって、仕方なく信彦さんと結婚して、今二人で本間病院やってるんじゃない。ただ、病院やるからには、信彦さんだって、あたしにだって、夢はあるの。継ぎたくて継いだじゃないのよ。丸裸になって、病院を新しくしたなんて、恩に着せられる覚えはないわね。継いだ以上は、信彦さんもあたしも、病院のために働いてるの。それでも病院の経営は厳しくて、信彦さんもあたしも大学病院で勤務医をやってるほうがずっとましだと思うような収益しかないの。母さんの30万のお給料だって無理してるんだから。それがやなら、お兄ちゃんそこへいくよりほかないでしょう。お兄ちゃんは本間病院から解放されて、のん気な身分なの。母さん見るくらいのことしたって、罰当たらないわよ。

常子：あんたな、本間医院継いだこと後悔してなはんのんか。

由紀：継ぐ以上は、せめて信彦さんと一緒に、大学病院ではやれない、あたしたちの理想の医療をやりたいと思ってる。儲かる医療とは縁がないけど、誰の顔色も見ないで、自分の思うとおりの医療ができれば、あたしたちそれでいいの。後悔はしてない。ただ、母さんにもそれは理解してもらわないと。あたしたちのすることが気に入らなくて、文句ばかり言われるんだったら、いてもらわないほうがありがたいし、母さんだってここにいたってつまらないでしょう。今になって、お産専門の病院やってるほうがどれだけ儲かるかわからないなんていわれたって、もう遅いの。母さんは、あたしたちに本間病院に継がせたんだから、あたしたちに任せてもらわないとね。うちにて、することなくて、退屈もてあましてるんだったら、病院の調理場でも手伝ったら。

光子：聖子さんは？

さっちゃん：お店やめちゃったんだって。

光子：え、まさか。そんなこと、聞いてませんでしたよ。でも、急にそんな。

キミ：みんな、あんたのせいなのよ。あんたが来てから、聖子おかしくなっちゃって。あんたにね、弁当屋追い出された。

勇：母ちゃん、そんな言いがかり、光子さんには関係ないことじゃないかよ。

光子：よくわかりました。今夜から私が夜のお店をお手伝いさせていただきます。

五月：いいのよ、愛も真もいるから、

さっちゃん：だって、愛さんも真ちゃんも今日から聖子さんがやめたってこと知らないんでしょう。お店に間に合うように帰ってくるかどうか、私夜も出たいんだけど、今日テストがあって、どうしても休めなくて。明日からなら、休んで夜もお店に出られるけど。

光子：さっちゃんは、お昼バイトしながら、夜間の専門学校通ってるのよ。休んじゃいけないわ。私なら、大丈夫だから。

五月：無理よ。夜お店手伝って、朝4時に起きて、お弁当の包装に出てるんでしょう。寝る時間ないじゃない。

光子：お店終わって、10時に帰れたら、5時間寝られます。十分です。若くて丈夫なのが取り柄ですから。

聖子：いやだ、そのインスタントラーメン。一つしか残ってないのよ、あたしが食べるつもりで帰ってきたのに。ほかに食べるものないんだからね。

周：何言ってるんだよ。どこふらふらしてたのか知らないが、夕飯の支度もしないで。

聖子：あたしがだましたわけじゃないのよ。そりゃあたし目当てに飲みにきてたのかもしれないけど。高井川だって承知しているはずよ。あたしだって、そういうところを勤めた以上、お客に愛想もよくするし、気分よく飲んでもらうために、殺し文句の一つや二つだっていうわよ。けど、それ本気にして何度か通ってきて、すぐにホテルへ誘ったりするからぶん殴ってやったの。そして、俺に気のあるようなことをして、高い金巻き上げといて、よくも騙してくれたな、金を返せって、あたしのことを付き回して。あいつから金とってたのお店のほうなのよ。あたしがもらってたわけじゃないの。

キミ：あんた、そんないかがわしいバーに勤めてたのかい。

資料4 日本語会話における跨拍上昇音のピッチ曲線の実例

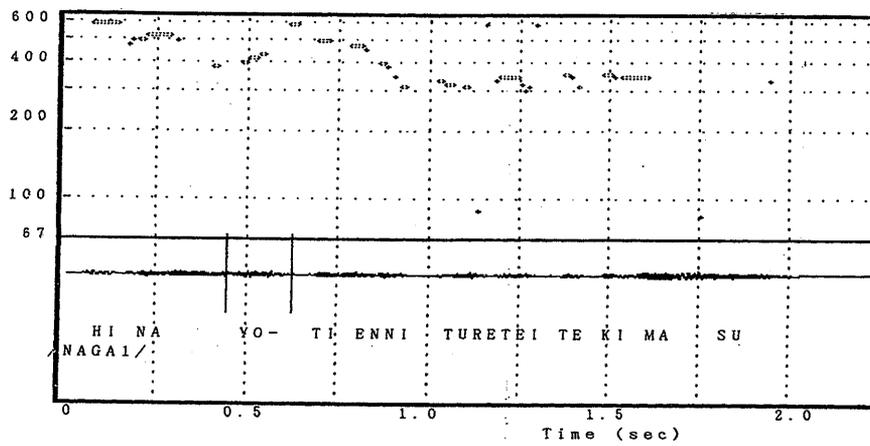


図1. 長子: 「日向幼稚園に連れて行ってきます」のピッチ曲線

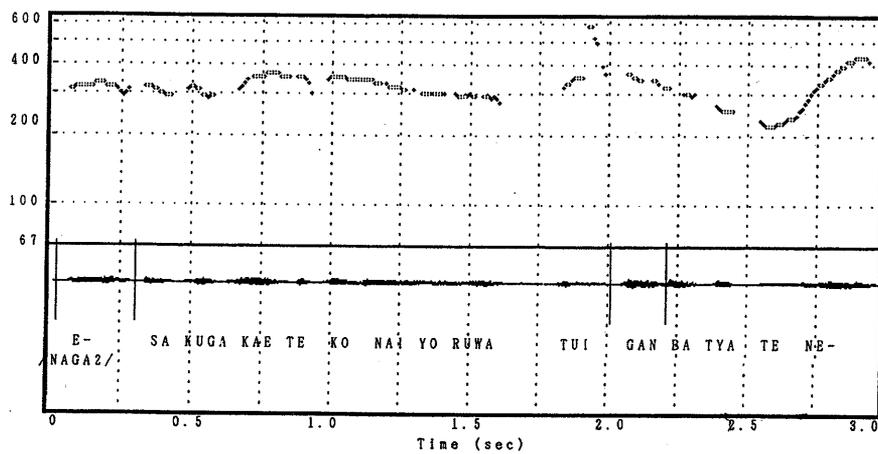


図2. 長子: 「英作が帰ってこない夜はつい頑張っちゃってね」のピッチ曲線

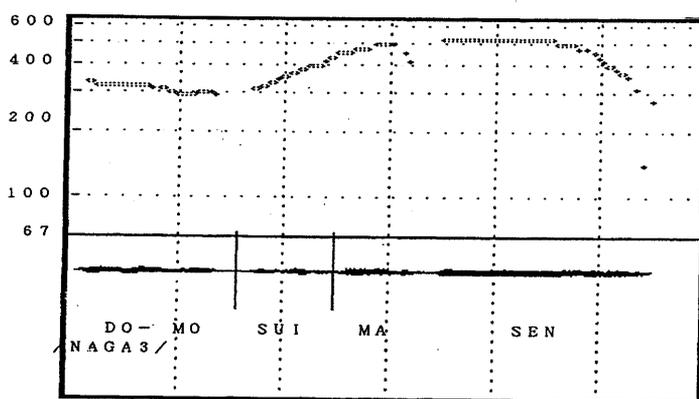


図3. 長子: 「どうもすみません」のピッチ曲線

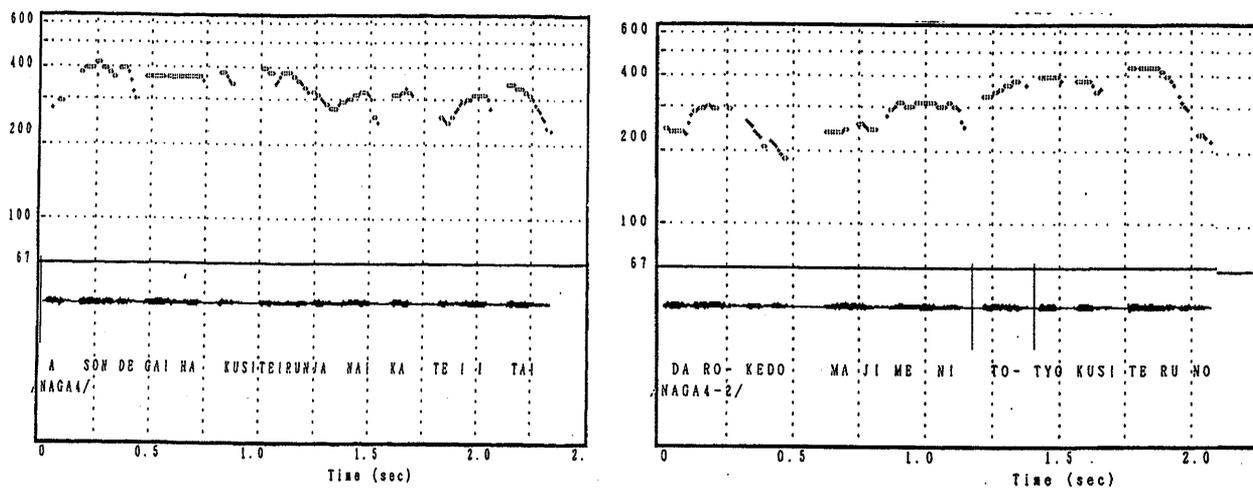


図4. 長子：「遊んで外泊しているんじゃないかって言いたいんだろうけど、まじめに当直してるの」のピッチ曲線

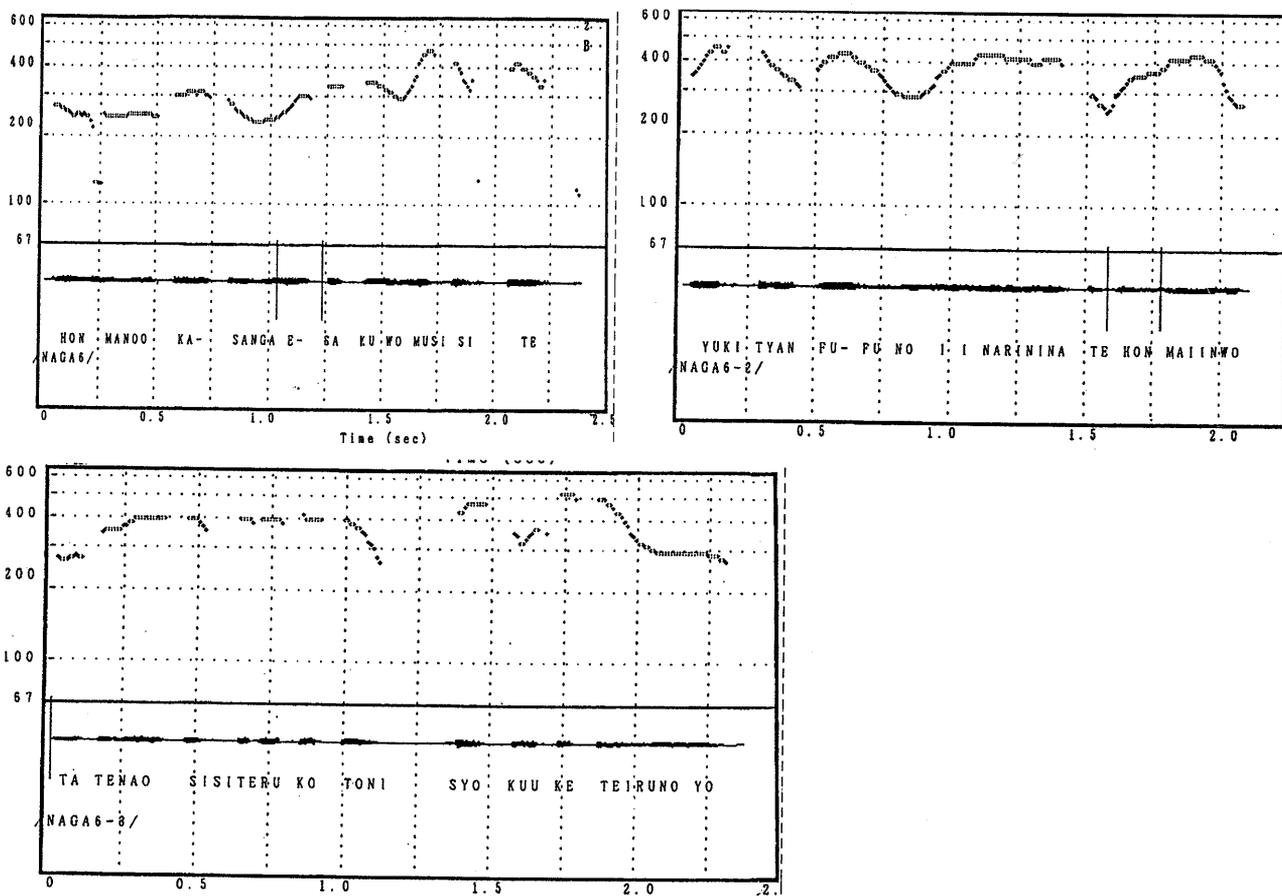


図5. 長子：「本間のお母さんが英作を無視して、由紀ちゃん夫婦の言いなりになって、本間医院を建て直していることにショックを受けているのよ」のピッチ曲線

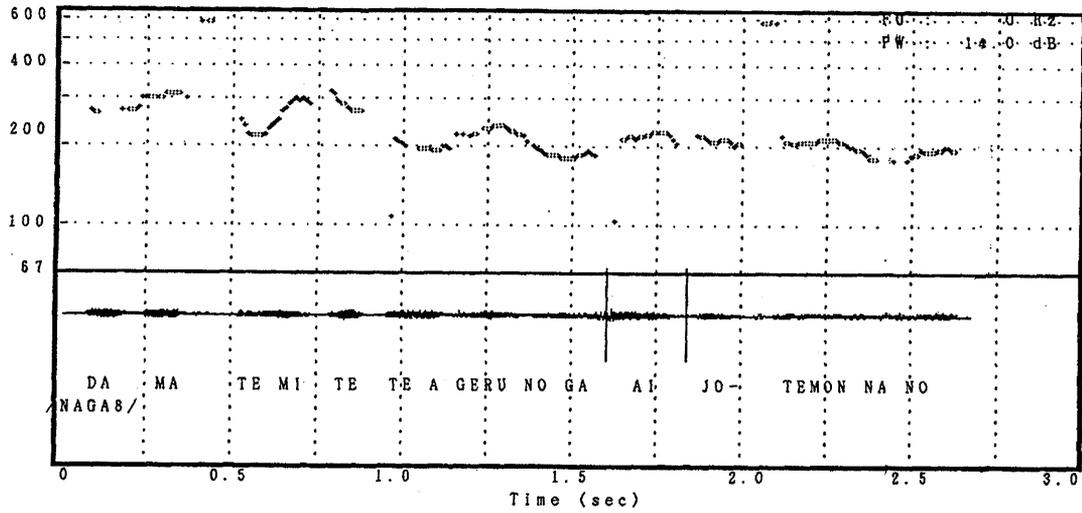


図6. 長子: 「黙って見ててあげるのは愛情ってもんなの」のピッチ曲線

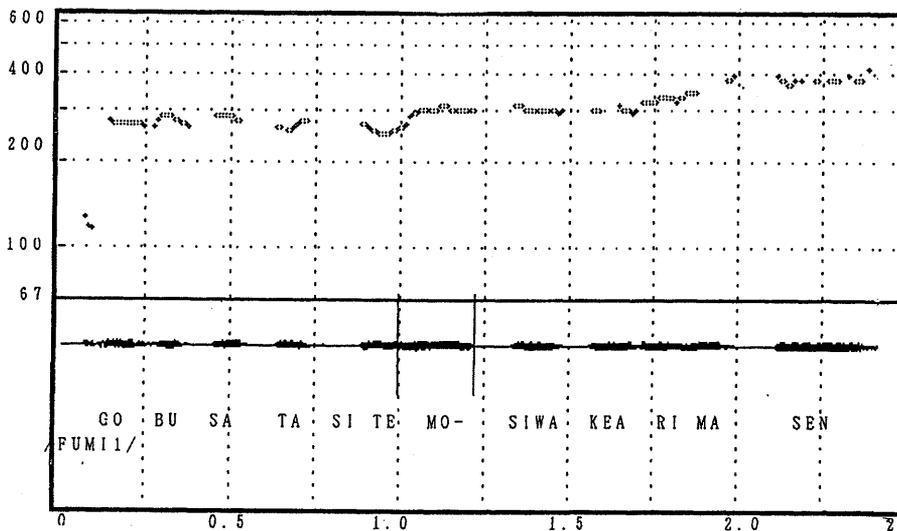


図7. 文子: 「ご無沙汰して申し訳ありません」のピッチ曲線

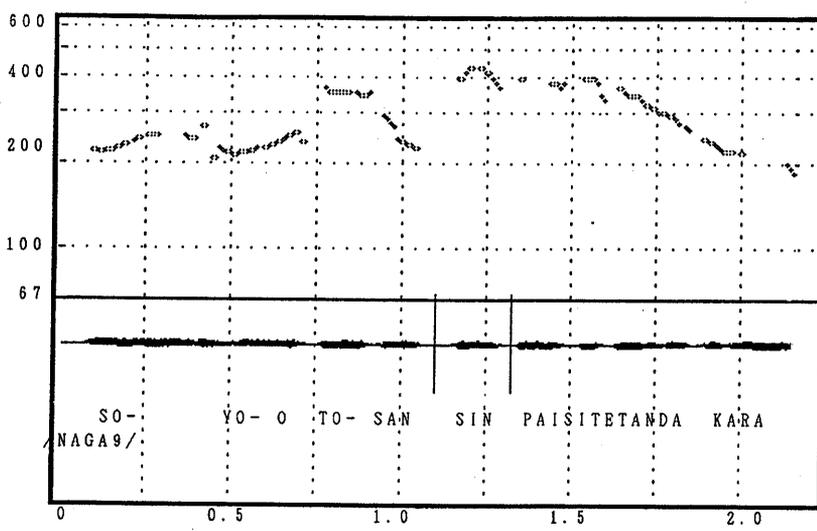


図8. 長子: 「そうよ。お父さん心配してたんだから」のピッチ曲線

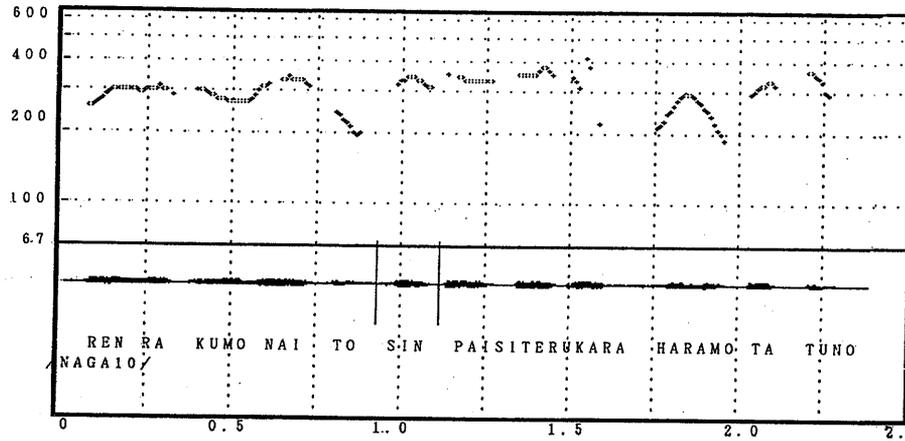


図9. 長子:「連絡もないと心配してるから、腹も立つの」のピッチ曲線

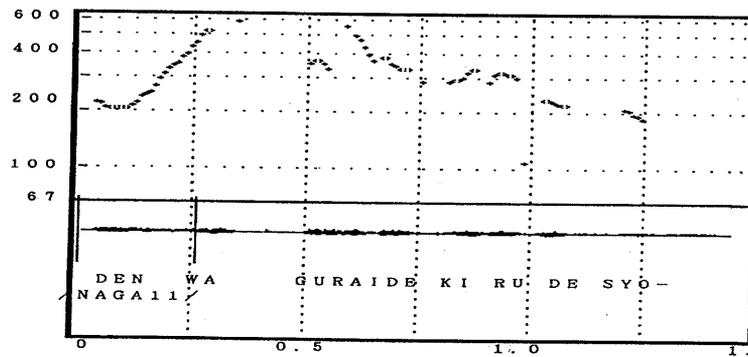


図10. 長子:「電話ぐらいできるでしょう」のピッチ曲線

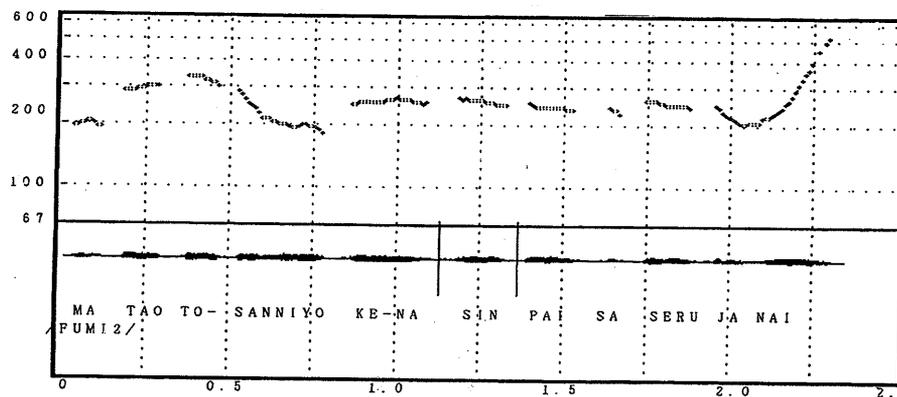


図11. 文子:「またお父さんに余計な心配をさせるじゃない」のピッチ曲線

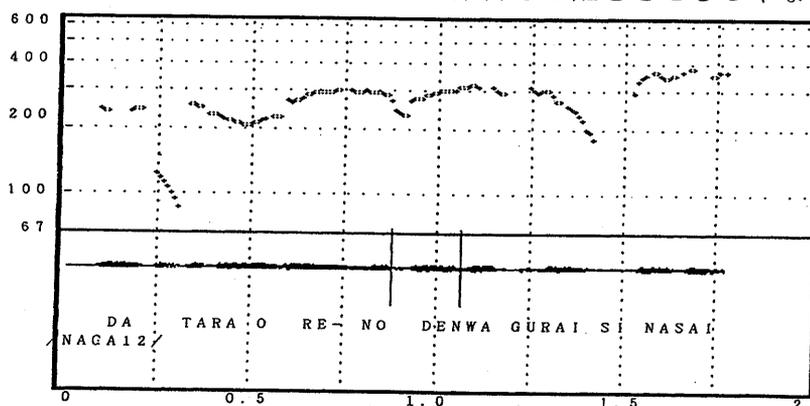


図12. 長子:「だったら、お礼の電話ぐらいしなさい」のピッチ曲線

資料5 会話文における跨拍上昇音の一覧資料

| 通し 番号 | 発話者 番号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱化 |
|----------|-----------|---------|------|-------|----|-----|---------|------|------|---|-----|------|--------|----------|----|----------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 1 | NAGA1 | 有声 | YO- | 幼稚園 | 名 | 斜昇/ | 36 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 2 | NAGA2 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 平ら- | 20 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 3 | NAGA2 | 有声 | GAN | 頑張 | 動名 | 平ら- | -55 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 4 | NAGA3 | 無声 | SUI | すいません | 副 | 斜昇/ | 83 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 5 | NAGA4 | 有声 | GAI | 外泊 | 動名 | 平ら- | 0 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 6 | NAGA5 | 無声 | TO- | 当直 | 動名 | 斜昇/ | 49 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 句中 | 高 | 強調 |
| 7 | NAGA6 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 平ら- | -31 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 弱化 |
| 8 | NAGA6 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 斜昇/ | 57 | 2 | 2 | 1 | 2 | | 2 | 句頭 | 低 | |
| 9 | NAGA6 | 有声 | I- | 言いなり | 名 | 抛昇/ | 109 | 単1全2 | 単1全2 | 1 | | 1 | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 10 | NAGA7 | 無声 | HON | 本間医院 | 名 | 抛昇/ | 126 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 11 | NAGA8 | 有声 | AI | 愛情 | 名 | 平ら- | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 12 | FUMI1 | 有声 | MO- | 申し訳 | 動名 | 抛昇/ | 57 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 13 | NAGA9 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 抛昇/ | 36 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 14 | NAGA10 | 有声 | REN | 連絡 | 名 | 抛昇/ | 45 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 15 | NAGA10 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 抛昇/ | 25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 16 | NAGA11 | 有声 | DEN | 電話 | 名 | 降昇/ | 191 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 17 | FUMI2 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 平ら- | -19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 18 | NAGA12 | 有声 | DEN | 電話 | 名 | 抛昇/ | 69 | 単1全2 | 単1全2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 句中 | 高 | |
| 19 | FUMI3 | 無声 | SIN | 心境 | 名 | 平ら- | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 20 | NAGA13 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 名 | 平ら- | 17 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 遅上 |
| 21 | NAGA14 | 有声 | AN | あんな | 連体 | 抛昇/ | 57 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 22 | NAGA15 | 有声 | ZEN | 全然 | 副 | 平ら- | 12 | 単1全2 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 23 | NAGA15 | 無声 | HON | 本気 | 形動 | 抛昇/ | 37 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 24 | KANA18 | 無声 | SIN | 信用 | 動名 | 平ら- | -19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 25 | KANA19 | 無声 | KE- | 警察 | 名 | 平ら- | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 26 | FUMI9 | 有声 | DEN | 電車 | 名 | 平ら- | 24 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 27 | FUMI9 | 無声 | TAI | 大変 | 副 | 抛昇/ | 32 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 28 | NAGA17 | 有声 | YU- | タベ | 名 | 低昇/ | 176 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 29 | NAGA17 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 低昇/ | 41 | 単1全2 | 単1全2 | 1 | 2 | 単1全2 | 単1・2全2 | 句頭 | 低 | |
| 30 | NAGA18 | 有声 | DO- | どうしても | 副 | 斜昇/ | 196 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 31 | NAGA19 | 有声 | MEN | 面倒 | 名 | 斜昇/ | 154 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 32 | NAGA20 | 有声 | DO- | 同居 | 動名 | 平ら- | 20 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 33 | NAGA21 | 無声 | TO- | 亭 | 名 | 平ら- | 26 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 34 | NAGA22 | 有声 | NON | のんびり | 副 | 低昇/ | 126 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 35 | NAGA24 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 斜昇/ | 64 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 36 | NAGA25 | 有声 | BIN | 貧乏症 | 名 | 抛昇/ | 22 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 37 | NAGA26 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 斜昇/ | 167 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 38 | NAGA27 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 平ら- | 17 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 39 | NAGA28 | 有声 | GEN | 原稿 | 名 | 抛昇/ | 37 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 40 | NAGA29 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 斜昇/ | 75 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 41 | NAGA30 | 無声 | SAI | 最高 | 名 | 斜昇/ | 85 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 42 | NAGA31 | 無声 | KON | こんな | 連体 | 平ら- | -52 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 43 | NAGA32 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 斜昇/ | 163 | 1・2 | 1・2 | 2 | 1・2 | 1 | 2 | 文頭 | | 強調 |
| 44 | NAGA32 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 斜昇/ | 146 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 45 | NAGA33 | 有声 | YU- | タベ | 名 | 斜昇/ | 154 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 46 | NAGA33 | 無声 | TO- | 当直 | 名 | 抛昇/ | 31 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 47 | NAGA34 | 無声 | TO- | 当直 | 名 | 抛昇/ | 33 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | |
| 48 | NAGA34 | 有声 | GAI | 外泊 | 動名 | 平ら- | 34 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 49 | NAGA35 | 有声 | ON | 女 | 名 | 降昇/ | 76 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 50 | NAGA36 | 無声 | TO- | 当直 | 名 | 平ら- | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱化 | |
|----------|-----------|---------|------|------|----|-----|---------|------|------|--------|---|------|------|----------|----|----------|----|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | | |
| 51 | NAGA37 | 有声 | I- | いい加減 | 形動 | 抛昇↗ | 31 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | |
| 52 | NAGA38 | 有声 | JO- | 冗談 | 名 | 平らー | 25 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 53 | NAGA39 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 斜昇↗ | 376 | | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 54 | NAGA39 | 無声 | HON | 本間医院 | 名 | 斜昇↗ | 201 | | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 55 | NAGA40 | 有声 | NO- | 脳外科 | 名 | 平らー | 32 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 56 | NAGA40 | 無声 | SEN | 専門医 | 名 | 低昇↘ | 32 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 57 | NAGA41 | 有声 | DAI | 大学病院 | 名 | 斜昇↗ | 102 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 58 | NAGA42 | 無声 | HON | 本間医院 | 名 | 抛昇↗ | 50 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 高 | |
| 59 | NAGA43 | 有声 | DO- | 同居 | 動名 | 平らー | 19 | 単1全2 | | 2 | 2 | 単1全2 | | 単1・2全2 | 句頭 | 低 | |
| 60 | NAGA45① | 無声 | TO- | 当直 | 名 | 平らー | 8 | 単1全2 | 単1全2 | | 1 | 単1全2 | 単1全2 | 単1全2 | 文頭 | | |
| 61 | NAGA45② | 無声 | TO- | 当直 | 名 | 平らー | 12 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 62 | NAGA45 | 有声 | DO- | 同情 | 動名 | 斜昇↗ | 186 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 63 | FUMI11 | 有声 | JU- | 十時半 | 名 | 平らー | 8 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 64 | FUMI11 | 有声 | JU- | 十一時 | 名 | 平らー | 8 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 65 | FUMI12 | 無声 | HAN | 半年 | 名 | 抛降↘ | -83 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 66 | FUMI13 | 無声 | HAN | 半年 | 名 | 平らー | 14 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 67 | KANA19 | 無声 | TU- | 通報 | 動名 | 平らー | -19 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 68 | FUMI14 | 無声 | TO- | 答案用紙 | 名 | 平らー | 11 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 69 | FUMI15 | 有声 | MON | 問題 | 名 | 平らー | 12 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 70 | FUMI16 | 無声 | HON | 本当に | 副 | 斜昇↗ | 314 | | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 71 | FUMI18 | 有声 | EN | 縁起 | 名 | 平らー | 7 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 72 | FUMI19 | 無声 | HAN | 半年間 | 名 | 微降↘ | -13 | | 1 | 単1・2全2 | 1 | | 単4全2 | 単4全2 | 文頭 | | |
| 73 | FUMI19 | 有声 | JU- | 充実 | 動名 | 抛昇↗ | 33 | | 1 | 2 | 1 | | 単4全2 | 2 | 句頭 | 高 | |
| 74 | FUMI20 | 無声 | KE- | 経験 | 名 | 平らー | -25 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 75 | FUMI21 | 有声 | JU- | 十分 | 副 | 斜昇↗ | 155 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 76 | FUMI21-2 | 有声 | JU- | 十二月 | 名 | 抛昇↗ | 52 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 77 | FUMI22 | 有声 | RYO- | 良妻賢母 | 名 | 平らー | 0 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 78 | FUMI22 | 無声 | TO- | 亭 | 名 | 平らー | -60 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 79 | FUMI23 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 平らー | -19 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 80 | FUMI24 | 有声 | RAI | 来年 | 名 | 抛昇↗ | 39 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 81 | FUMI24 | 有声 | BEN | 勉強 | 動名 | 抛昇↗ | 32 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 82 | FUMI24 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 抛昇↗ | 92 | | 1 | 1 | 1 | | | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 83 | NAGA46 | 無声 | KAI | 甲斐性 | 名 | 微昇↗ | 18 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 84 | NAGA47 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 平らー | 5 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 85 | NAGA47 | 無声 | KEN | 喧嘩 | 動名 | 平らー | 7 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 86 | NAGA49 | 有声 | MON | 問題 | 名 | 平らー | 18 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 87 | NAGA50 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 平らー | -37 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 88 | NAGA50 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 平らー | 6 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 89 | AI1 | 有声 | MIN | みんな | 名 | 抛昇↗ | 41 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | |
| 90 | AI1 | 有声 | MO- | もう少し | 副 | 抛昇↗ | 38 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 91 | SIN1 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平らー | 5 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 92 | AI2 | 有声 | BEN | 勉強 | 動名 | 平らー | 13 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 93 | SIN2 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平らー | 6 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 94 | SIN2 | 無声 | SEN | 先輩 | 名 | 平らー | 8 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 95 | SIN3 | 無声 | SON | 尊敬 | 動名 | 平らー | 9 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 96 | SIN3 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平らー | -14 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 97 | SIN4 | 無声 | KE- | 警察 | 名 | 低昇↘ | 51 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 98 | SIN5 | 有声 | REN | 連中 | 名 | 抛昇↗ | 10 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 99 | KANA20 | 無声 | SIN | 慎重 | 形動 | 平らー | 7 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 100 | SIN7 | 無声 | TAN | 単純 | 形動 | 斜昇↗ | 93 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱 |
|----------|-----------|---------|------|---------|----|----|---------|--------|--------|---|--------|------|--------|----------|----|---------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 101 | SIN7 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 平ら | 4 | 1 | 1 | 2 | 単1全2 | 単1全2 | 単1全2 | 句頭 | 低 | |
| 102 | SIN8 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 斜昇 | 15 | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 高 | 強調 |
| 103 | SIN8 | 無声 | HE- | 平気 | 名 | 斜昇 | 24 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 104 | SIN8 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平ら | -3 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 |
| 105 | SIN9 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 斜昇 | 43 | 単1・2全2 | 単1・2全2 | 1 | 単1・2全2 | 2 | 1 | 文頭 | | 強調 |
| 106 | SIN9 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 抛昇 | 29 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 107 | SIN9 | 有声 | BEN | 勉強 | 動名 | 平ら | 3 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 108 | SIN9 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平ら | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 109 | AI4 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 平ら | -14 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 110 | SIN10 | 無声 | SYO- | 小学校 | 名 | 斜昇 | 102 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 111 | SIN10 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平ら | -18 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 |
| 112 | SIN11 | 有声 | DAI | 大学 | 名 | 低昇 | 11 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | |
| 113 | SATU1 | 無声 | HON | 本番 | 名 | 抛昇 | 49 | 1 | 1 | 1 | | | 単2全1・2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 114 | SATU2 | 有声 | ZAN | 残念 | 形動 | 斜昇 | 49 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 115 | KANA20 | 無声 | KE- | 警察 | 名 | 平ら | 33 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | |
| 116 | SATU3 | 無声 | TAI | 大安 | 名 | 抛昇 | 35 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 117 | SATU3 | 無声 | KON | コンパニオン | 名 | 斜昇 | 37 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 118 | SATU3 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 平ら | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 |
| 119 | AI5 | 無声 | SAI | 最初 | 名 | 斜昇 | 55 | 単1・2全2 | 単1・2全2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 120 | SATU4 | 無声 | KYU- | 急に | 形動 | 斜昇 | 117 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 121 | SATU4 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 形動 | 低昇 | 104 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | 強調 |
| 122 | AI6 | 有声 | YU- | タベ | 名 | 抛昇 | 64 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 123 | AI6 | 無声 | KYU- | 急用 | 名 | 平ら | 25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 124 | AI6 | 有声 | REN | 連絡 | 動名 | 抛昇 | 21 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱 |
| 125 | AI6 | 有声 | YU- | 夕方 | 名 | 抛昇 | 91 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 126 | AI7 | 無声 | HON | 本当 | 形動 | 低昇 | 64 | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 127 | SATU5 | 無声 | KO- | 高校受験 | 名 | 平ら | 14 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 128 | SATU6 | 有声 | DAI | 大学 | 名 | 平ら | 11 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 129 | SATU6 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平ら | 16 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 130 | SIN12 | 有声 | UN | 運動会 | 名 | 抛昇 | 20 | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 句頭 | 低 | |
| 131 | SIN13 | 無声 | HON | 本当 | 形動 | 抛昇 | 45 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 132 | SIN13 | 無声 | SO- | 掃除 | 動名 | 平ら | -25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |
| 133 | SIN14 | 無声 | SEN | 洗濯 | 名 | 平ら | 4 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 134 | SIN14 | 有声 | BEN | 勉強 | 動名 | 平ら | -22 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 135 | KUNI1 | 無声 | KO- | 高校受験 | 名 | 抛昇 | 33 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 136 | KUNI2 | 無声 | 無声 | 進学校 | 名 | 抛昇 | 37 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 137 | YUKI13 | 無声 | SIN | 診察時間 | 名 | 平ら | 20 | 単1全2 | 2 | 2 | 2 | 単1全2 | 2 | 文頭 | | |
| 138 | SIN15 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 下降 | -28 | 4 | 4 | 4 | | | 単4全1 | 句中 | 低 | 弱 |
| 139 | KUNI4 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 平ら | 5 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 140 | YUKI13 | 有声 | NYU- | 入院患者 | 名 | 抛昇 | 51 | 1 | 2 | 1 | | 2 | 1 | 句頭 | 低 | |
| 141 | YUKI14 | 無声 | KAN | 看護婦 | 名 | 平ら | 11 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |
| 142 | KUNI7 | 無声 | KAI | 会場 | 名 | 抛昇 | 32 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 143 | SATU7 | 有声 | MO- | 申し訳 | 動名 | 平ら | 8 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 144 | SIN16 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平ら | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |
| 145 | SIN17 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 平ら | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 146 | SIN17 | 有声 | ZE- | 贅沢 | 形動 | 斜昇 | 72 | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 句頭 | 低 | |
| 147 | SIN18 | 有声 | DAI | 大事 | 形動 | 斜昇 | 101 | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 148 | SIN19 | 有声 | EN | 遠慮 | 動名 | 抛昇 | 41 | 1・2 | 1・2 | 1 | 1・2 | 2 | 単1全1・2 | 句頭 | 低 | |
| 149 | SIN19 | 無声 | KAN | 肝心 | 形動 | 斜昇 | 63 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | 強調 |
| 150 | KUNI8 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 平ら | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱化 |
|----------|-----------|---------|------|---------|----|------|---------|--------|--------|-----|--------|---|--------|----------|----|----------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 151 | SIN20 | 無声 | KAN | 関係ない | 名 | 斜昇↗ | 141 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 152 | SIN21 | 有声 | AN | あんな | 連体 | 斜昇↗ | 47 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 153 | SATU8 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 形動 | 抛昇↖ | 19 | 1 | 1 | 1 | | | 単4全1 | 句頭 | 低 | |
| 154 | SATU8 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 微斜昇↗ | 27 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 155 | YUKI14 | 無声 | KAN | 患者 | 名 | 平らー | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 156 | FUMI26 | 無声 | TO- | 亨 | 名 | 平らー | -44 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 157 | FUMI26 | 有声 | ON | 音楽部 | 名 | 平らー | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 158 | FUMI26 | 有声 | EN | 演奏 | 名 | 微昇↗ | 32 | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 159 | SEI10 | 有声 | IN | インストラメン | 名 | 平らー | 7 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 句中 | 高 | 弱化 |
| 160 | FUMI28 | 有声 | MEN | 面倒 | 形動 | 斜昇↗ | 169 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 161 | FUMI29 | 有声 | ON | 女 | 名 | 抛昇↖ | 30 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 162 | FUMI29 | 無声 | HE- | 平気 | 形動 | 平らー | 25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 163 | FUMI30 | 無声 | KO- | こういう | 連体 | 平らー | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 164 | FUMI31 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 下降↘ | -50 | 1・4 | 1 | 1・4 | | 1 | 単1全2 | 句中 | 高 | |
| 165 | FUMI32 | 無声 | HON | 本当 | 形動 | 抛降↘ | -140 | 1・4 | 1 | 4 | 1・4 | 4 | 単4全1 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 166 | FUMI34 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 平らー | 32 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 167 | YUKI15 | 無声 | TAN | 誕生祝 | 名 | 斜昇↗ | 161 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 168 | FUMI36 | 無声 | SEN | 洗濯 | 動名 | 下降↘ | -50 | 4 | 4 | 4 | | | | 句頭 | 低 | |
| 169 | FUMI36 | 無声 | SE- | 清潔 | 形動 | 微降↘ | -24 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 170 | FUMI36 | 無声 | SO- | 掃除 | 動名 | 微降昇↘ | 18 | 単1全1・2 | 単1全1・2 | 2 | 単1全1・2 | 2 | | 句頭 | 高 | |
| 171 | FUMI36 | 無声 | HEN | 辺 | 名 | 平らへ | 12 | 1 | 1 | 1・4 | 1 | 1 | 1 | 句中 | 高 | 弱化 |
| 172 | FUMI38 | 有声 | DO- | 同級生 | 名 | 平らー | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 173 | FUMI39 | 無声 | TO- | 亨 | 名 | 平らー | -169 | 1 | 1 | 1 | | | 単1全2 | 文頭 | | |
| 174 | FUMI40 | 無声 | TAI | 大変 | 形動 | 平らー | -20 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 175 | FUMI41 | 有声 | E- | 英作さん | 名 | 斜昇↗ | 168 | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 176 | FUMI41 | 有声 | O- | 大阪 | 名 | 抛昇↖ | 64 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 177 | YUKI16 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 降昇↘ | 19 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | |
| 178 | NAGA51 | 有声 | O- | オープニング | 名 | 斜昇↗ | 89 | 2 | 2 | 2 | | | 2 | 句頭 | 低 | 強調 |
| 179 | NAGA51 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 低昇↗ | 38 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 180 | NAGA52 | 無声 | HON | 本間家 | 名 | 低昇↗ | 50 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | |
| 181 | NAGA53 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 平らー | 19 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 182 | NAGA54 | 無声 | HON | 本間病院 | 名 | 平らー | 5 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 183 | NAGA54 | 有声 | O- | オープニング | 名 | 斜昇↗ | 68 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 184 | FUMI42 | 無声 | HON | 本間家 | 名 | 抛昇↖ | 101 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 185 | FUMI42 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 平らー | 34 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 186 | NAGA55 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 斜昇↗ | 107 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 187 | NAGA56 | 無声 | HON | 本間病院 | 名 | 抛昇↖ | 78 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 188 | NAGA56 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 斜昇↗ | 120 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 189 | NAGA56 | 無声 | TYO- | 長男らしい | 名 | 斜昇↗ | 84 | 単1・2全2 | 単1・2全2 | 2 | 単1・2全2 | 2 | 単1・2全1 | 句中 | 高 | 強調 |
| 190 | YUKI1 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 斜昇↗ | 69 | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 高 | 強調 |
| 191 | YUKI1 | 無声 | SEN | 専門 | 名 | 平らー | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 192 | YUKI2 | 有声 | DAI | 大学病院 | 名 | 抛昇↖ | 26 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 193 | YUKI3 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 抛昇↖ | 63 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 強調 |
| 194 | YUKI4 | 無声 | SEN | 専門 | 名 | 平らー | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 195 | YUKI4 | 無声 | KAN | 患者 | 名 | 平らー | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 196 | YUKI5 | 有声 | GIN | 銀行 | 名 | 抛昇↖ | 47 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 197 | YUKI6 | 有声 | AN | 安心 | 動名 | 斜昇↗ | 132 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 198 | YUKI6 | 無声 | KAN | 考えて | 動 | 平らー | 26 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | 弱化 |
| 199 | NAGA72 | 有声 | GEN | 原稿 | 名 | 平らー | 25 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 文頭 | | 強調 |
| 200 | NAGA72- | 無声 | TAI | 大切 | 形動 | 抛昇↖ | 109 | 単1・2全2 | 単1・2全2 | 1 | 単1・2全2 | 1 | | 文頭 | | 強調 |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱化 |
|----------|-----------|---------|------|---------|----|-----|---------|--------|--------|-----|---|------|---|----------|----|----------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 201 | NAGA72-2 | 無声 | TAI | 大切 | 形動 | 低昇↗ | 63 | 単1全2 | 単1全2 | 2 | | 2 | | 句中 | 高 | |
| 202 | NAGA72-2 | 有声 | DAN | 旦那様 | 名 | 斜昇↗ | 59 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 203 | NAGA73 | 無声 | HON | 本気 | 形動 | 抛昇↖ | 67 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 204 | NAGA73 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 平らー | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 205 | SATU9 | 無声 | SE- | 盛大 | 形動 | 平らー | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 206 | SATU10 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 斜昇↗ | 65 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | 強調 |
| 207 | SATU11 | 有声 | E- | 英作 | 名 | 低昇↗ | 32 | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 低 | |
| 208 | AI8-1 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 抛昇↖ | 83 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 209 | AI8 | 有声 | GE- | 芸能 | 名 | 斜昇↗ | 112 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 210 | SIN22 | 有声 | GE- | 芸能 | 名 | 斜昇↗ | 16 | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 高 | |
| 211 | SIN23 | 有声 | AI | 間 | 名 | 平らー | 31 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 212 | SIN24 | 有声 | O- | 狼役 | 名 | 斜昇↗ | 45 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 213 | SIN25 | 有声 | JUN | 準備中 | 名 | 低昇↗ | 43 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 214 | SIN25 | 有声 | REN | 連続 | 名 | 斜昇↗ | 49 | 単1・2全2 | 単1・2全2 | 2 | | 2 | | 句頭 | 高 | |
| 215 | SIN26 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 抛昇↖ | 40 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 216 | AI9 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 平らー | 0 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 217 | SIN27 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 斜昇↗ | 79 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 218 | SIN27 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 斜昇↗ | 32 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 219 | AI10 | 有声 | O- | 狼 | 名 | 抛昇↖ | 74 | 1 | 1 | 1・2 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 220 | SIN28 | 有声 | NAN | 何の | 連体 | 斜昇↗ | 41 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 221 | SIN28 | 無声 | TYO- | 挑戦 | 名 | 抛昇↖ | 22 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 222 | SIN29 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 斜昇↗ | 53 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | |
| 223 | SIN29 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 抛昇↖ | 24 | 単1・2全2 | 単1・2全2 | 2 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 224 | SIN29 | 有声 | MIN | みんな | 名 | 抛昇↖ | 87 | 1・2 | 1・2 | 1・2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 225 | SATU12 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 微降、 | -23 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 226 | MITUE1 | 無声 | SAN | 三人 | 名 | 平らー | 0 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 227 | MITUE1 | 有声 | UN | 生んだ | 動 | 抛昇↖ | 30 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 228 | MITUE2 | 有声 | BYO- | 病気 | 名 | 抛昇↖ | 61 | 1 | 1 | 2 | | 2 | | 句頭 | 高 | |
| 229 | MITUE2 | 無声 | SAN | 産後 | 名 | 平らー | 20 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 230 | MITUE2 | 無声 | TO- | 十日 | 名 | 平らー | 11 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 231 | MITUE3 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 平らー | 5 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 232 | MITUE3 | 無声 | HAN | 反対 | 動名 | 抛昇↖ | 33 | 単1全1・2 | 単1全1・2 | 1・2 | | 単4全2 | | 句頭 | 低 | |
| 233 | MITUE3 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 平らー | 12 | 単1全2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 234 | MITUE3 | 有声 | NYU- | 入院 | 動名 | 抛昇↖ | 28 | 1 | 1 | 1・2 | | 1 | | 句中 | 高 | |
| 235 | MITUE4 | 有声 | NYU- | 入院費 | 名 | 斜昇↗ | 49 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 236 | KZO1 | 無声 | TON | とんでもない | 副 | 平らー | 15 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 237 | KZO1 | 有声 | NYU- | 入院費 | 名 | 斜昇↗ | 45 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 238 | MIZUE5 | 有声 | MO- | 儲け | 名 | 平らー | 10 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 239 | MIZUE5 | 無声 | SUI | 水耕栽培 | 名 | 平らー | -13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 240 | MIZUE6 | 無声 | KON | こんな | 連体 | 平らー | 3 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 241 | MIZUE6 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 平らー | 17 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 242 | MIZUE6 | 有声 | NYU- | 入院 | 動名 | 平らー | 5 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 243 | MIZUE7 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 平らー | 19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 244 | MIZUE7 | 無声 | TAI | 退院 | 動名 | 抛昇↖ | 29 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 245 | MIZUE8 | 無声 | SAI | 最低 | 形動 | 平らー | 5 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 246 | MIZUE8 | 有声 | NYU- | 入院 | 名 | 平らー | -14 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | |
| 247 | MIZUE8 | 有声 | YO- | 様子 | 名 | 抛昇↖ | 29 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 248 | MIZUE10 | 有声 | ZE- | 贅沢 | 形動 | 平らー | -13 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 弱化 |
| 249 | KZO2 | 有声 | AN | 安全 | 名 | 平らー | 16 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 250 | MITUE11 | 有声 | BIN | 貧乏農家 | 名 | 抛昇↖ | 20 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱化 |
|----------|-----------|---------|------|---------|----|-----|---------|---|-----|-----|---|---|---|----------|----|----------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 251 | MITUE11 | 無声 | KAI | 会社 | 名 | 抛昇↗ | 21 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 252 | MITUE11 | 有声 | JU- | 重役 | 名 | 抛昇↗ | 38 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | 強調 |
| 253 | MITUE11 | 有声 | DAI | 大事 | 形動 | 平らー | 9 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 254 | MITUE11 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 微降↘ | -34 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 255 | MITUE11 | 有声 | EN | 遠慮 | 動名 | 抛昇↗ | 47 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 256 | KZO3 | 有声 | MO- | 申し訳 | 動名 | 平らー | -16 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 257 | MITUE12 | 有声 | DO- | どうしても | 副 | 平らー | 13 | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 高 | |
| 258 | MITUE12 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 抛昇↗ | 24 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 259 | MITUE12 | 無声 | TO- | 遠い | 形 | 斜昇↗ | 73 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 260 | MITUE13 | 無声 | SAN | 三人 | 名 | 抛昇↗ | 28 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 261 | MITUE14 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 抛昇↗ | 51 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 262 | SATU14 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 抛昇↗ | 16 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 263 | SATU15 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 斜昇↗ | 28 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 264 | SATU16① | 有声 | IN | インターネット | 名 | 抛昇↗ | 34 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 265 | SATU16② | 有声 | IN | インターネット | 名 | 抛昇↗ | 12 | 1 | 1 | 1・2 | | 1 | | 句頭 | 低 | |
| 266 | SATU16 | 無声 | KAN | 簡単 | 形動 | 平らー | 7 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 267 | SATU17 | 有声 | DAI | 大学 | 名 | 平らー | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 268 | SATU17 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平らー | -19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 269 | SATU17 | 無声 | SIN | 進学校 | 名 | 平らー | 11 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 270 | SATU17 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 平らー | 8 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 271 | SATU17 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 微降↘ | -24 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 272 | SATU18 | 無声 | KYU- | 急に | 形動 | 微降↘ | -13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 273 | SATU19 | 有声 | ZEN | 全然 | 副 | 斜昇↗ | 19 | 2 | 2 | 1 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 274 | SATU19 | 無声 | KAN | 考えて | 動 | 斜昇↗ | 47 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 275 | SATU19 | 無声 | KEN | 見当 | 名 | 抛昇↗ | 40 | 1 | 1・2 | 1 | | 2 | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 276 | SATU20 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 斜昇↗ | 21 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 277 | SATU21 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 平らー | 10 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 278 | SATU22 | 無声 | SO- | 相談 | 動名 | 平らー | 8 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 279 | SATU23 | 有声 | NAI | 内緒 | 名 | 平らー | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 280 | SATU23 | 有声 | KAN | 感づかれて | 動 | 抛昇↗ | 21 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 281 | SATU23 | 無声 | KE- | 警戒 | 動名 | 抛昇↗ | 20 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 282 | SATU24 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 低昇↘ | 65 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 283 | SATU25 | 無声 | SIN | 進学校 | 名 | 平らー | -6 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 284 | SATU25 | 無声 | TAN | 担任 | 名 | 抛昇↗ | 22 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 285 | SATU25 | 無声 | SEN | 先生 | 名 | 平らー | -21 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 286 | SATU25 | 有声 | MEN | 面談 | 名 | 平らー | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 287 | ISAM1 | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平らー | 9 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 288 | SATU26 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 平らー | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 289 | SIN30 | 無声 | SIN | 深刻 | 形動 | 微降↘ | -26 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 290 | SATU27 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 平らー | -6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 291 | SIN31 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 微降↘ | -26 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 292 | ISAM2① | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平らー | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 弱化 |
| 293 | YUKI19 | 無声 | KE- | 経営 | 動名 | 斜昇↗ | 37 | 2 | 2 | | | 2 | | 文頭 | | |
| 294 | ISAM2② | 無声 | KO- | 高校 | 名 | 平らー | 19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 295 | SIN32 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 斜昇↗ | 56 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 296 | SIN32 | 無声 | KAN | 考えて | 動 | 斜昇↗ | 113 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | 強調 |
| 297 | SATU28 | 無声 | TYO- | ちょうど | 副 | 斜昇↗ | 113 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 298 | SATU29 | 無声 | TON | とんだこと | 連体 | 斜昇↗ | 49 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 299 | SATU29 | 有声 | MO- | 申し訳 | 動名 | 斜昇↗ | 119 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 300 | SIN33 | 無声 | KON | こんな | 連体 | 低昇↘ | 41 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱化 |
|----------|-----------|---------|------|---------|----|-----|---------|---|---|---|---|---|---|----------|----|----------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 301 | SIN34 | 有声 | MAN | 漫画 | 名 | 斜昇↗ | 54 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 302 | SIN35 | 有声 | NON | のんびり | 副 | 斜昇↗ | 80 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 303 | SIN36 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 下降↘ | 49 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 304 | SIN37 | 無声 | HAN | 反対 | 動名 | 平らー | 9 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | 句頭 | 低 | |
| 305 | SEI1 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 平らー | -8 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 306 | SEI2 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 抛昇↖ | 45 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 307 | SEI3 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 斜昇↗ | 58 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 308 | AI11 | 無声 | SAI | 才能 | 名 | 平らー | 18 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 309 | SATU30 | 有声 | BEN | 勉強 | 動名 | 平らー | 11 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 310 | SEI4 | 有声 | DAN | 旦那 | 名 | 平らー | 8 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 311 | SEI4 | 無声 | HON | 本当に | 副 | 平らー | 14 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 312 | SIN38 | 無声 | HAI | 俳優 | 名 | 平らー | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 313 | ISAM3 | 無声 | HON | 本気 | 名 | 抛昇↖ | 31 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 314 | ISAM3 | 有声 | GE- | 芸能 | 名 | 斜昇↗ | 57 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | |
| 315 | ISAM3 | 無声 | HON | 本物 | 名 | 斜昇↗ | 29 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 316 | AI12 | 無声 | KON | こんにちは | 挨拶 | 抛昇↖ | 50 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 317 | AI13 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 斜昇↗ | 83 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 318 | AI14 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 平らー | -12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 319 | AI14 | 有声 | E- | 映画 | 名 | 抛昇↖ | 104 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 320 | AI14 | 無声 | TYU- | 中途半端 | 名 | 抛昇↖ | 25 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 321 | NAGA75 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 平らー | -3 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 弱化 |
| 322 | NAGA75 | 有声 | BO- | ボーイフレンド | 名 | 抛昇↖ | 26 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | 句頭 | 低 | |
| 323 | AI15 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 平らー | 19 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 324 | AI15 | 有声 | AI | 合間 | 名 | 抛昇↖ | 32 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 325 | AI15 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 平らー | 24 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 326 | AI15 | 有声 | BO- | ボーイフレンド | 名 | 斜昇↗ | 57 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 327 | AI16 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 低昇↙ | 211 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 328 | AI17 | 有声 | ON | 女 | 名 | 抛昇↖ | 37 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 329 | AI17 | 有声 | DAI | 大学 | 名 | 平らー | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 330 | NAGA76 | 無声 | KAN | 患者さん | 名 | 平らー | 18 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 331 | AI18 | 無声 | SAI | 最高 | 名 | 低昇↙ | 145 | 2 | 1 | 2 | | 2 | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 332 | AI19 | 有声 | NON | のんびり | 副 | 平らー | 44 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 333 | YUKI20 | 無声 | TAN | 誕生日 | 名 | 低昇↙ | 61 | 2 | 2 | | | 2 | | 句頭 | 高 | |
| 334 | NAGA77 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 形動 | 降昇↘ | 74 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 335 | NAGA77 | 無声 | HON | 本当 | 形動 | 斜昇↗ | 109 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 336 | NAGA77 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 低昇↙ | 37 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 337 | FUMI43-1 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 平らー | -6 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 338 | FUMI43 | 有声 | JU- | 十月 | 名 | 抛昇↖ | 95 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 339 | FUMI44 | 有声 | RE- | 例題 | 名 | 平らー | 25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 340 | FUMI44 | 有声 | BEN | 勉強 | 動名 | 平らー | -35 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 341 | FUMI45 | 有声 | RAI | 来年 | 名 | 低昇↙ | 53 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 342 | FUMI46 | 有声 | RAI | 来年 | 名 | 平らー | 18 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱化 |
| 343 | FUMI46 | 有声 | GO | 合格 | 動名 | 平らー | -13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 344 | FUMI46 | 有声 | DO- | どうせ | 副 | 低昇↙ | 32 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 345 | FUMI47 | 無声 | KAI | 海外旅行 | 名 | 平らー | 24 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 346 | FUMI47 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 平らー | 7 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 347 | FUMI47 | 有声 | DO- | どうしても | 副 | 平らー | 71 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | 強調 |
| 348 | FUMI48 | 有声 | DO- | どうしても | 副 | 平らー | 11 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 349 | FUMI48 | 有声 | RE- | 例題集 | 名 | 平らー | 38 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 350 | FUMI49 | 無声 | KON | 今度 | 副 | 抛昇↖ | 60 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱 化 |
|----------|-----------|---------|------|--------|----|-----|---------|---|---|---|---|---|---|----------|----|--------------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 351 | FUMI49 | 有声 | O- | 大目 | 名 | 平ら | 33 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 化 |
| 352 | FUMI50 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 低昇 | 43 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | |
| 353 | FUMI51 | 無声 | TO- | 亨 | 名 | 抛昇 | 128 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強 調 |
| 354 | FUMI53 | 有声 | DAI | 大学 | 名 | 平ら | -10 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 化 |
| 355 | FUMI56 | 有声 | NIN | 人間 | 名 | 抛昇 | 77 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 356 | FUMI57 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 抛昇 | 45 | 1 | 1 | 2 | | 2 | | 文頭 | | |
| 357 | FUMI57 | 有声 | REN | 連絡係 | 名 | 抛昇 | 125 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強 調 |
| 358 | FUMI58 | 有声 | REN | 連絡係 | 名 | 平ら | 7 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 化 |
| 359 | FUMI59 | 無声 | SYO- | 承知 | 動名 | 平ら | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | |
| 360 | FUMI60 | 有声 | ZEN | 全力 | 名 | 降昇 | 95 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | 強 調 |
| 361 | FUMI60 | 有声 | DAI | 大事 | 形動 | 抛昇 | 32 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 362 | FUMI60 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 抛昇 | 38 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 363 | FUMI61 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 抛昇 | 52 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 364 | FUMI62 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 抛昇 | 71 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強 調 |
| 365 | FUMI63 | 有声 | NAI | 内緒 | 名 | 平ら | 9 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 化 |
| 366 | ISAM4 | 有声 | BEN | 弁当 | 名 | 抛昇 | 23 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 化 |
| 367 | ISAM4 | 無声 | HYO- | 評判 | 名 | 抛昇 | 26 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 368 | ISAM4 | 無声 | TYU- | 注文 | 名 | 平ら | 11 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 369 | SEI5 | 有声 | BEN | 弁当 | 名 | 抛昇 | 64 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 370 | SEI5 | 有声 | GAN | 頑張る | 動 | 低昇 | 57 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強 調 |
| 371 | AI20 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 微斜昇 | 32 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 372 | AI20 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 形動 | 平ら | 19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 373 | SATU32 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 平ら | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 化 |
| 374 | AI21 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 抛昇 | 80 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 375 | AI21 | 無声 | HON | 本当 | 名 | 抛昇 | 62 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 376 | AI21 | 無声 | KAN | 考えた | 動 | 微斜昇 | 37 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 377 | AI21 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 平ら | 7 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 378 | AI22 | 有声 | YU- | タベ | 名 | 抛昇 | 81 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 379 | AI22 | 無声 | KON | コンパニオン | 名 | 抛昇 | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 380 | AI22 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 平ら | 17 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 381 | AI22 | 有声 | BAN | 万歳 | 名 | 低昇 | 67 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強 調 |
| 382 | SATU33 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 斜昇 | 64 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 383 | SATU33 | 無声 | TYO- | 頂戴 | 動名 | 抛昇 | 37 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 384 | AI23 | 有声 | GAN | 頑張 | 動 | 平ら | 26 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 385 | AI24 | 無声 | SIN | 心配 | 動名 | 平ら | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 386 | AI25 | 無声 | HE- | 平気 | 名 | 平ら | 25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 化 |
| 387 | AI25 | 有声 | GAN | 頑張 | 動 | 平ら | 25 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 化 |
| 388 | AI26 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 平ら | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 389 | ISAM6 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 斜昇 | 47 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強 調 |
| 390 | FUMI64 | 無声 | TO- | 十日 | 名 | 平ら | 18 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 391 | FUMI64 | 有声 | NON | のんびり | 副 | 平ら | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 392 | FUMI65 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 形動 | 降昇 | 109 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強 調 |
| 393 | FUMI66 | 有声 | JU- | 充実 | 動名 | 抛昇 | 43 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 394 | FUMI67 | 有声 | BYO- | 病気 | 名 | 平ら | 35 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 395 | FUMI67 | 無声 | KO- | コーヒー | 名 | 平ら | 35 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 396 | SEI6 | 無声 | KAI | 買い物 | 動名 | 平ら | 26 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 397 | SATU34 | 無声 | KAI | 買い物 | 動名 | 斜昇 | 130 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強 調 |
| 398 | SATU37 | 無声 | SO- | 掃除 | 動名 | 抛昇 | 69 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 399 | SATU38 | 無声 | HO- | 放課後 | 名 | 抛昇 | 38 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 400 | SATU39 | 有声 | RYO- | 両方 | 名 | 斜昇 | 101 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強 調 |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱化 |
|----------|-----------|---------|------|----------|----|----|---------|--------|--------|------|------|------|---|----------|----|----------|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | |
| 401 | SATU39 | 無声 | SO- | 掃除 | 動名 | 平ら | 19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 402 | SATU39 | 無声 | KO- | 交代 | 動名 | 平ら | 26 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 403 | SATU40① | 無声 | SO- | 掃除 | 動名 | 平ら | 11 | 単1全2 | 単1全2 | 1 | 単1全2 | 単1全2 | | 句頭 | 低 | |
| 404 | SATU40② | 無声 | SO- | 掃除 | 動名 | 抛昇 | 31 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 405 | SATU40 | 無声 | TYAN | ちゃんと | 副 | 抛昇 | 31 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 406 | SATU40 | 無声 | TYO- | 頂戴 | 動名 | 平ら | -12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 407 | SEI7 | 有声 | O- | 大きい | 形 | 斜昇 | 63 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 408 | SEI7 | 有声 | DAN | 旦那 | 名 | 微昇 | 31 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 409 | SEI8 | 無声 | KAN | 関係 | 名 | 微昇 | 38 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 410 | SEI8 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 低昇 | 39 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | |
| 411 | SATU41 | 無声 | TI- | 小さい | 形 | 抛昇 | 33 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 412 | SEI9 | 有声 | IU | 言う通り | 動 | 抛昇 | 70 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | |
| 413 | SEI9 | 無声 | SO- | 掃除 | 動名 | 平ら | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 414 | SEI9 | 有声 | A- | ああしろ | 副 | 平ら | 12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 415 | SEI9 | 無声 | KO- | こうしろ | 副 | 平ら | 18 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 416 | ISAM7 | 無声 | KAN | 簡単 | 形動 | 抛昇 | 36 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 417 | ISAM8 | 無声 | HO- | ホームページ | 名 | 抛昇 | 56 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 418 | ISAM9 | 有声 | IN | インターネット代 | 名 | 抛昇 | 15 | 1 | 1・2 | 1 | | 1 | | 句頭 | 低 | |
| 419 | SATU44 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 斜昇 | 19 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 420 | SATU44 | 有声 | BEN | 勉強 | 動名 | 抛昇 | 12 | 1 | 2 | 1 | | 1 | | 句頭 | 低 | |
| 421 | SATU45 | 有声 | DEN | 電話代 | 名 | 斜昇 | 44 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 422 | SATU46 | 有声 | IN | インターネット | 名 | 抛昇 | 17 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 423 | SATU47① | 有声 | IN | インターネット | 名 | 抛昇 | 23 | 1 | 1 | 2 | | 1 | | 文頭 | | |
| 424 | SATU47② | 有声 | IN | インターネット | 名 | 抛昇 | 29 | 単1全1・2 | 単1全1・2 | 単1全2 | | | | 句頭 | 高 | |
| 425 | SATU47 | 無声 | KAI | 会社 | 名 | 平ら | -10 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 426 | SATU47 | 無声 | KE- | 契約 | 名 | 平ら | 16 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | |
| 427 | SATU48 | 無声 | KE- | 携帯 | 名 | 抛昇 | 12 | 単1全2 | 1 | 単1全2 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 428 | KUNI9 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 平ら | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 429 | KUNI9 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 形動 | 平ら | -31 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 430 | KUNI10 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 抛昇 | 22 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 431 | KUNI10 | 無声 | SO- | 相当 | 形動 | 平ら | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 432 | KUNI11 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 抛昇 | 23 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 433 | KUNI12 | 無声 | SAI | 財布 | 名 | 平ら | -12 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 434 | KUNI12 | 有声 | RYO- | 領収書 | 名 | 抛昇 | 71 | 1 | 1・2 | 1 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 435 | KUNI13 | 有声 | NAI | 内緒 | 名 | 平ら | -7 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 436 | KUNI13 | 無声 | PIN | ぴんと | 副 | 下降 | -108 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 437 | KUNI14 | 無声 | SO- | そうしたら | 副 | 抛降 | 10 | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 438 | KUNI14 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 平ら | 18 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 439 | KUNI14 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 平ら | -21 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 440 | KUNI15 | 有声 | YO- | 洋服 | 名 | 斜昇 | 289 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 441 | KUNI16① | 有声 | O- | オーディション | 名 | 低昇 | 44 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 442 | KUNI16② | 有声 | O- | オーディション | 名 | 平ら | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 443 | KUNI16 | 無声 | SE- | 精一杯 | 副 | 降昇 | 31 | 2 | 2 | 1 | | 2 | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 444 | KUNI16 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 斜昇 | 141 | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 445 | KUNI17 | 有声 | ON | 女 | 名 | 斜昇 | 45 | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 高 | |
| 446 | KUNI17 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 平ら | 0 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱化 |
| 447 | KUNI18 | 有声 | O- | 応援 | 動名 | 平ら | 13 | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱化 |
| 448 | KUNI19 | 有声 | ZE- | 贅沢 | 形動 | 平ら | 19 | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 高 | 弱化 |
| 449 | KUNI20 | 有声 | EN | 遠慮 | 動名 | 斜昇 | 56 | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 450 | SATU54 | 有声 | GAN | 頑張 | 動 | 低昇 | 49 | 2 | 2 | 単1全2 | | 2 | | 句頭 | 低 | |

| 通し 番号 | 発話者番 号 | 最初 音 | 音 | 単語 | 品詞 | 形 | 高低 差 | 声 | | | | | | 文中 位置 | 前音 | 強調 弱 | |
|----------|-----------|---------|------|-----------|----|-----|---------|--------|--------|--------|------|---|---|----------|----|---------|----|
| | | | | | | | | W | H | R | N | M | Q | | | | |
| 451 | SATU55 | 無声 | SAN | さんざん | 副 | 平ら | 9 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 452 | KUNI22 | 有声 | EN | 演技力 | 名 | 抛昇 | 53 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 453 | KUNI23 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 抛昇 | 31 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 454 | SATU56 | 有声 | I- | いい加減 | 形動 | 斜昇 | 165 | | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 455 | SATU57 | 無声 | SAI | 才能 | 名 | 斜昇 | 48 | 単1・2全2 | | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 456 | SATU58 | 無声 | DAI | 大事 | 形動 | 降昇 | 25 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | |
| 457 | SATU59 | 有声 | JO- | 情実 | 名 | 低昇 | 57 | | 2 | 2 | 2 | | 2 | | 句頭 | 高 | |
| 458 | SATU60 | 有声 | GE- | 芸能プロダクション | 名 | 斜昇 | 37 | | 2 | 2 | 1 | 2 | | | 句頭 | 低 | |
| 459 | SATU60 | 有声 | O- | オーディション | 名 | 斜昇 | 43 | 1・2 | | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 460 | SATU61 | 無声 | HAN | 反対 | 動名 | 斜昇 | 54 | | 1 | 1 | 単1全2 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 461 | SATU62 | 有声 | GO- | 合格 | 動名 | 微斜昇 | 22 | 単1全2 | | 2 | 単1全2 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 462 | KUNI24 | 有声 | DO- | どうしても | 副 | 抛昇 | 140 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 463 | YUKI7 | 無声 | KAN | 患者 | 名 | 平ら | 12 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 低 | 弱 |
| 464 | YUKI8 | 有声 | NYU- | 入院 | 名 | 平ら | 26 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 465 | YUKI8 | 無声 | KAN | 患者 | 名 | 平ら | -19 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 466 | YUKI9 | 有声 | YO- | 様子 | 名 | 斜昇 | 73 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 467 | YUKI9 | 有声 | NYU- | 入院患者 | 名 | 斜昇 | 58 | 1・2 | | 1 | 1・2 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 468 | YUKI10 | 有声 | DEN | 電話 | 名 | 斜昇 | 154 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 469 | YUKI11 | 無声 | SAN | 三人とも | 名 | 斜昇 | 147 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | 強調 |
| 470 | YUKI12 | 有声 | I- | いい加減 | 形動 | 抛昇 | 91 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 471 | YUKI21 | 無声 | TO- | 東京 | 名 | 平ら | 14 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |
| 472 | YUKI22 | 無声 | KAN | 患者さん | 名 | 低昇 | 26 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 473 | YUKI23 | 有声 | O- | 大阪 | 名 | 斜昇 | 51 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 474 | YUKI24 | 有声 | MAN | マンションぐらい | 名 | 低昇 | 37 | | 2 | 2 | 2 | | | | 文頭 | | 強調 |
| 475 | YUKI25 | 有声 | O- | 大きい | 形 | 平ら | 23 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 476 | YUKI25 | 有声 | DO- | 同居 | 動名 | 低昇 | 81 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句中 | 高 | |
| 477 | YUKI26 | 無声 | HON | 本間 | 名 | 平ら | -24 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱 |
| 478 | YUKI26 | 無声 | HON | 本間医院 | 名 | 平ら | 7 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |
| 479 | YUKI27 | 無声 | HON | 本間病院 | 名 | 平ら | 6 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 480 | YUKI28 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 抛昇 | 99 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 481 | YUKI29 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 抛昇 | 14 | | 1 | 1・2 | 1 | | 2 | | 句頭 | 低 | |
| 482 | YUKI30 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 斜昇 | 30 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | |
| 483 | YUKI31 | 有声 | BYO- | 病院 | 名 | 平ら | 6 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 484 | YUKI31 | 無声 | KE- | 経営 | 動名 | 平ら | -1 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |
| 485 | YUKI31 | 有声 | DAI | 大学病院 | 名 | 低昇 | 22 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 高 | |
| 486 | YUKI31 | 無声 | KIN | 勤務医 | 名 | 低昇 | 16 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 487 | YUKI32 | 無声 | HON | 本間病院 | 名 | 平ら | 5 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 488 | YUKI32 | 無声 | KAI | 解放 | 動名 | 平ら | 5 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 489 | MITUK1 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 抛昇 | 34 | 1・2 | 単1全1・2 | 単1・2全2 | 1・2 | 2 | | | 文頭 | | |
| 490 | MITUK1 | 無声 | KYU- | 急に | 形動 | 平ら | 12 | 1・2 | 1・2 | 1 | 1・2 | 2 | | | 句頭 | 低 | |
| 491 | MITUK1 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 平ら | 13 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |
| 492 | ISAM12 | 無声 | SON | そんな | 連体 | 斜昇 | 65 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 493 | ISAM12 | 無声 | KAN | 関係ない | 名 | 斜昇 | 149 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | 強調 |
| 494 | MITUK2 | 有声 | BAI | バイト | 名 | 降昇 | 55 | | 2 | 2 | 2 | | | | 句頭 | 低 | |
| 495 | MITUK2 | 無声 | SEN | 専門学校 | 名 | 平ら | 8 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | 弱 |
| 496 | MITUK3 | 有声 | DAI | 大丈夫 | 形動 | 平ら | 13 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 497 | MITUK4 | 有声 | JU- | 十分 | 副 | 平ら | 5 | | 1 | 1 | 1 | | | | 文頭 | | |
| 498 | MITUK4 | 有声 | JO- | 丈夫 | 形動 | 平ら | 37 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 499 | SEI11 | 無声 | SO- | そういう | 連体 | 平ら | 5 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句頭 | 低 | |
| 500 | SEI11 | 有声 | AI | 愛想 | 名 | 平ら | 8 | | 1 | 1 | 1 | | | | 句中 | 高 | 弱 |

資料6 統制群のアクセント指導に使用したプリント

A. 従来のアクセント指導案、日本語版

日本語のアクセント

一、東京アクセントの規則：

1. 仮名1字の発音時間は1拍である。
2. 東京アクセントの音階は高音と低音の2種類に分かれている。
3. 同じ単語の中で、音の上昇は1回だけである。頭高型以外、単語の1拍目は低音である。

以下のような五つの仮名の単語があると仮定し、この単語に助詞の“が”を付けて東京アクセントの規則を説明する例として示す。

- 0 かきくけこが
- 1 かきくけこが
- 2 かきくけこが
- 3 かきくけこが
- 4 かきくけこが
- 5 かきくけこが

※数字の意味：頭高型以外、単語の1拍目は低音であるという前提で、音調は何個目の仮名まで高いかを表す。“0”は音調が助詞まで高いことを表す。

※仮名5つの単語の場合、“0”と“5”で表記されたアクセントの違いは、“5”で表記されたアクセントは単語の終わりに下降するので助詞が低音、“0”で表記されたアクセントは単語の終わりに音調が下降せず、助詞まで高い。

二、清音

| | | | | |
|--------|---------|---------|--------|---------|
| 1あお(青) | 2いえ(家) | 0うえ(上) | 1え(絵) | 0おか(丘) |
| 0かき(柿) | 1あき(秋) | 0きく(菊) | 0け(毛) | 1こえ(声) |
| 0さけ(酒) | 2あし(足) | 0いす(椅子) | 1あせ(汗) | 1きそ(基礎) |
| 0たけ(竹) | 0くち(口) | 0つくえ(机) | 1て(手) | 2おと(音) |
| 2なつ(夏) | 2にく(肉) | 2いぬ(犬) | 1ねこ(猫) | 2つの(角) |
| 2はな(花) | 1ひふ(皮膚) | 1ふね(船) | 0へそ(臍) | 1ほほ(頬) |
| 2まめ(豆) | 2みみ(耳) | 2むね(胸) | 1め(目) | 0もも(桃) |
| 2やま(山) | | 2ふゆ(冬) | | 0よこ(横) |
| 2はら(腹) | 0とり(鳥) | 1はる(春) | 2きれ(布) | 2いろ(色) |
| 2かわ(川) | | | | |

三、濁音、半濁音

| | | | | |
|-----------|----------|-----------|-----------|----------|
| 0がくれき(学歴) | 1ぎん(銀) | 1ぐんたい(軍隊) | 1げんかん(玄関) | 1ごえん(五円) |
| 1ざいさん(財産) | 0じかん(時間) | 1ちず(地図) | 0かぜ(風) | 1かぞく(家族) |
| 0だいがく(大学) | 0はなぢ(鼻血) | 2こづつみ(小包) | 0でんわ(電話) | 1まど(窓) |
| 0ばあい(場合) | 1びん(瓶) | 1ぶんか(文化) | 0とくべつ(特別) | 2おぼん(お盆) |
| 0ばちんこ | 0ぴかぴか | 1ぷりぷり | 0ぺこぺこ | 1ぼかぼか |

四、長音：もとの音は2拍の長さまで伸ばす。

あ段+あ 2おかあさん (お母さん) 2おばあさん
い段+い 0きいろ (黄色) 2おじいさん 2おにいさん (お兄さん)
3ちいさい (小さい)
う段+う 0ゆうびん (郵便) 1ふうふ (夫婦) 0すうじ (数字)
0くうこう (空港) 1くうき (空気) 1つうか (通貨)
え段+い/え 0とけい (時計) 3せんせい (先生) 0がくせい (学生)
0へいわ (平和) 2おねえさん (お姉さん)
お段+う/お 0こうえん (公園) 2おとうさん (お父さん) 0ぎんこう (銀行)
0こおり (氷) 3おおきい (大きい) 0とおい (遠い)

五、拗音：い段音+やゆよの場合、2つの仮名は1拍の長さで発音する。

0きゃくま (客間) 0ぎゅうにく (牛肉) 1きょう (今日)
0しゃしん (写真) 1じゅぎょう (授業) 0しょうめいしょ (証明書)
0ちゃわん (茶碗) 0ちゅうしゃ (注射) 0ちょきん (貯金)
1にゃあにゃあ 0にゅうがく (入学) 1にょうぼう (女房)
0ひゃくえん (百円) 1ひゅうひゅう 0びょういん (病院)
2みゃく (脈) 0りゅうこう (流行) 0りょこう (旅行)

六、促音：1拍発音しない。小さい“っ”で表す。

0あさり→3あっさり 0いつう (胃痛) →0いっつう (一通)
2おと (音) →0おっと (夫) 1かこ (過去) →1かっこ (括弧)
2さか (坂) →0さっか (作家) 0じしゅう (自習) →0じっしゅう (実習)
1せけん (世間) →0せっけん (石鹸) 1そと (外) →3そっと
0はけん (派遣) →0はっけん (発見) 0もと (元) →1もっと
0きっさてん (喫茶店) 0きって (切手) 0けっせき (欠席) 0ざっし (雑誌)
0につき (日記) 0ばっきん (罰金) 0ぶっか (物価) 3ゆっくり
0いっぱい (一杯) 1いっぶん (一分) 1いっぽん (一本)

B. 従来のアクセント指導案、中国語版

日語的語調

一、東京標準音的語調規則：

1. 每個字母的發音皆為1拍，長短相同。
2. 東京標準音的語調只分高音和低音兩種。
3. 同一單字中，音只能上升一次。而且除了1號音以外，單字的第一音皆為低音。假設有一個如下五個字母的單字，用此單字加上助詞“が”為例：

- 0 かきくけこが
 1 かきくけこが
 2 かきくけこが
 3 かきくけこが
 4 かきくけこが
 5 かきくけこが

※数字的意思表示：在除了1号音以外，单字的第一音皆为低音的前提下，音要高到第幾個音後下降。0号音則表示音要高到助詞不下降。

※在五個字的单字時、0号音和5号音的不同在於5号音後接的助詞音要下降，而0号音則不用。同理，二個字母的单字時，0号音和2号音的不同在於2号音後接的助詞音要下降，而0号音則不用。

二、清音

- | | | | | |
|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1 あお (青) | 2 いえ (家) | 0 うえ (上) | 1 え (絵) | 0 おか (丘) |
| 0 かき (柿) | 1 あき (秋) | 0 きく (菊) | 0 け (毛) | 1 こえ (声) |
| 0 さけ (酒) | 2 あし (足) | 0 いす (椅子) | 1 あせ (汗) | 1 きそ (基礎) |
| 0 たけ (竹) | 0 くち (口) | 0 つくえ (机) | 1 て (手) | 2 おと (音) |
| 2 なつ (夏) | 2 にく (肉) | 2 いぬ (犬) | 1 ねこ (猫) | 2 つの (角) |
| 2 はな (花) | 1 ひふ (皮膚) | 1 ふね (船) | 0 へそ (臍) | 1 ほほ (頬) |
| 2 まめ (豆) | 2 みみ (耳) | 2 むね (胸) | 1 め (目) | 0 もも (桃) |
| 2 やま (山) | | 2 ふゆ (冬) | | 0 よこ (横) |
| 2 はら (腹) | 0 とり (鳥) | 1 はる (春) | 2 きれ (布) | 2 いろ (色) |
| 2 かわ (川) | | | | |

三、濁音、半濁音

- 0 がくれき (学歴) 1 ぎん (銀) 1 ぐんたい (軍隊) 1 げんかん (玄関) 1 ごえん (五円)
 1 ざいさん (財産) 0 じかん (時間) 1 ちず (地図) 0 かぜ (風) 1 かぞく (家族)
 0 だいがく (大学) 0 はなぢ (鼻血) 2 こづつみ (小包) 0 でんわ (電話) 1 まど (窓)
 0 ばあい (場合) 1 びん (瓶) 1 ぶんか (文化) 0 とくべつ (特別) 2 おぼん (お盆)
 0 ぱちんこ 0 ぴかぴか 1 ぷりぷり 0 ぺこぺこ 1 ぼかぼか

四、長音：原音拉長至2拍

- あ段+あ 2 おかあさん (お母さん) 2 おばあさん
 い段+い 0 きいろ (黄色) 2 おじいさん 2 おにいさん (お兄さん)
 3 ちいさい (小さい)
 う段+う 0 ゆうびん (郵便) 1 ふうふ (夫婦) 0 すうじ (数字)
 0 こうこう (空港) 1 こうき (空気) 1 つうか (通貨)
 え段+い/え 0 とけい (時計) 3 せんせい (先生) 0 がくせい (学生)
 0 へいわ (平和) 2 おねえさん (お姉さん)
 お段+う/お 0 こうえん (公園) 2 おとうさん (お父さん) 0 ぎんこう (銀行)

0 こおり (氷)

3 おおきい (大きい)

0 とおい (遠い)

五、拗音：い段音+やゆよ的音在同1拍

| | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| 0 きゃくま (客間) | 0 ぎゅうにく (牛肉) | 1 きょう (今日) |
| 0 しゃしん (写真) | 1 じゅぎょう (授業) | 0 しょうめいしょ (証明書) |
| 0 ちゃわん (茶碗) | 0 ちゅうしゃ (注射) | 0 ちょきん (貯金) |
| 1 にゃあにゃあ | 0 にゅうがく (入学) | 1 にようぼう (女房) |
| 0 ひやくえん (百円) | 1 ひゅうひゅう | 0 びょういん (病院) |
| 2 みやく (脈) | 0 りゅうこう (流行) | 0 りょこう (旅行) |

六、促音：停頓1拍不発音，用小的つ表示

| | | | |
|--------------------------|----------------------------|-------------|------------|
| 0 あさり → 3 あっさり | 0 いつう (胃痛) → 0 いっつう (一通) | | |
| 2 おと (音) → 0 おっと (夫) | 1 かこ (過去) → 1 かっこ (括弧) | | |
| 2 さか (坂) → 0 さっか (作家) | 0 じしゅう (自習) → 0 じっしゅう (実習) | | |
| 1 せけん (世間) → 0 せっけん (石鹸) | 1 そと (外) → 3 そっと | | |
| 0 はけん (派遣) → 0 はっけん (発見) | 0 もと (元) → 1 もっと | | |
| 0 きっさてん (喫茶店) | 0 きって (切手) | 0 けっせき (欠席) | 0 ざっし (雑誌) |
| 0 につき (日記) | 0 ばっきん (罰金) | 0 ぶっか (物価) | 3 ゆっくり |
| 0 いっぱい (一杯) | 1 いっぶん (一分) | 1 いっぼん (一本) | |

資料7 実験群のアクセント指導に使用したプリント

A. 日本語版

日本語のアクセント

一、東京アクセントの規則：

1. 仮名1字の発音時間は1拍である。
2. 東京アクセントの音階は高音と低音の2種類に分かれている。
3. 同じ単語の中で、音の上昇は1回だけである。頭高型以外、単語の1拍目は低音である。

以下のような5つの仮名の単語があると仮定し、この単語に助詞の“が”を付けて東京アクセントの規則を説明する例として示す。

※日本語のアクセントの高音はほぼ中国語（の普通の速さと平静な気持ちで交わされた会話）の四声の第一声の音階に当たる。低音はほぼ四声の第三声の音階に相当する。

※数字の意味：頭高型以外、単語の1拍目は低音であるという前提で、音調は何個目の仮名まで高いかを表す。“0”は音調が助詞まで高いことを表す。

- 0 かきくけこが
- 1 かきくけこが
- 2 かきくけこが
- 3 かきくけこが
- 4 かきくけこが
- 5 かきくけこが

※仮名5つの単語の場合、“0”と“5”で表記されたアクセントの違いは、“5”で表記されたアクセントは単語の終わりに下降するので助詞が低音、“0”で表記されたアクセントは単語の終わりに音調が下降せず、助詞まで高い。

二、アクセント規則の練習（一）

- | | | | | |
|---------|---------|-------|--------|--------|
| 0あかきたなが | 0はまやらわが | 0あいかが | 0いいきいが | 0えんけんが |
| 1あかきたなが | 1はまやらわが | 1あいかが | 1いいきいが | 1えんけんが |
| 2あかきたなが | 2はまやらわが | 2あきかが | 2いしきいが | 2えせけんが |
| 3あかきたなが | 3はまやらわが | 3あいかが | 3いいきいが | 3えんけんが |
| 4あかきたなが | 4はまやらわが | | | |
| 5あかきたなが | 5はまやらわが | | | |

三、清音

- | | | | | |
|--------|---------|---------|--------|---------|
| 1あお（青） | 2いえ（家） | 0うえ（上） | 1え（絵） | 0おか（丘） |
| 0かき（柿） | 1あき（秋） | 0きく（菊） | 0け（毛） | 1こえ（声） |
| 0さけ（酒） | 2あし（足） | 0いす（椅子） | 1あせ（汗） | 1きそ（基礎） |
| 0たけ（竹） | 0くち（口） | 0つくえ（机） | 1て（手） | 2おと（音） |
| 2なつ（夏） | 2にく（肉） | 2いぬ（犬） | 1ねこ（猫） | 2つの（角） |
| 2はな（花） | 1ひふ（皮膚） | 1ふね（船） | 0へそ（臍） | 1ほほ（頬） |

| | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2まめ (豆) | 2みみ (耳) | 2むね (胸) | 1め (目) | 0もも (桃) |
| 2やま (山) | | 2ふゆ (冬) | | 0よこ (横) |
| 2はら (腹) | 0とり (鳥) | 1はる (春) | 2きれ (布) | 2いろ (色) |
| 2かわ (川) | | | | |

四、濁音、半濁音

0がくれき (学歴) 1ぎん (銀) 1ぐんたい (軍隊) 1げんかん (玄関) 1ごえん (五円)
 1ざいさん (財産) 0じかん (時間) 1ちず (地図) 0かぜ (風) 1かぞく (家族)
 0だいがく (大学) 0はなぢ (鼻血) 2こづつみ (小包) 0でんわ (電話) 1まど (窓)
 0ばあい (場合) 1びん (瓶) 1ぶんか (文化) 0とくべつ (特別) 2おぼん (お盆)
 0ぱちんこ 0ぴかぴか 1ぶりぶり 0ぺこぺこ 1ぼかぼか

五、長音：もとの音を2拍の長さまで伸ばす。

あ段+あ 2おかあさん (お母さん) 2おばあさん
 い段+い 0きいろ (黄色) 2おじいさん 2おにいさん (お兄さん)
 3ちいさい (小さい)
 う段+う 0ゆうびん (郵便) 1ふうふ (夫婦) 0すうじ (数字)
 0くうこう (空港) 1くうき (空気) 1つうか (通貨)
 え段+い/え 0とけい (時計) 3せんせい (先生) 0がくせい (学生)
 0へいわ (平和) 2おねえさん (お姉さん)
 お段+う/お 0こうえん (公園) 2おとうさん (お父さん) 0ぎんこう (銀行)
 0こおり (氷) 3おおきい (大きい) 0とおい (遠い)

六、拗音：い段音+やゆよの場合、2つの仮名は1拍の長さで発音する。

| | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 0きやくま (客間) | 0ぎゅうにく (牛肉) | 1きょう (今日) |
| 0しゃしん (写真) | 1じゅぎょう (授業) | 0しょうめいしょ (証明書) |
| 0ちやわん (茶碗) | 0ちゅうしゃ (注射) | 0ちょきん (貯金) |
| 1にやあにやあ | 0にゅうがく (入学) | 1にようぼう (女房) |
| 0ひやくえん (百円) | 1ひゅうひゅう | 0びょういん (病院) |
| 2みやく (脈) | 0りゅうこう (流行) | 0りょこう (旅行) |

七、促音：1拍発音しない。小さい“っ”で表す。

| | | | |
|-----------------------|-------------------------|------------|-----------|
| 0あさり→3あっさり | 0いつう (胃痛) →0いつつう (一通) | | |
| 2おと (音) →0おっと (夫) | 1かこ (過去) →1かっこ (括弧) | | |
| 2さか (坂) →0さっか (作家) | 0じしゅう (自習) →0じっしゅう (実習) | | |
| 1せけん (世間) →0せっけん (石鹸) | 1そと (外) →3そっと | | |
| 0はけん (派遣) →0はっけん (発見) | 0もと (元) →1もっと | | |
| 0きっさてん (喫茶店) | 0きって (切手) | 0けっせき (欠席) | 0ざっし (雑誌) |
| 0につき (日記) | 0ばっきん (罰金) | 0ぶっか (物価) | 3ゆっくり |
| 0いっぱい (一杯) | 1いっぶん (一分) | 1いっぽん (一本) | |

八、アクセント規則の練習 (二)

※注意事項：東京アクセントの音韻規則では高音と低音の転換は拍と拍の間に起こり、1拍の中では起こらない。従って、中国語の第二声と第四声のような上昇と下降の音調が聞えた時、それは跨拍の上昇音或は下降音であることに注意。

みゃん みゃん みゃん みゃん

りゅう りゅう りゅう りゅう

0ばであんは

1ばであんは

2ばであんは

3ばであんは

0やじいらが

1やじいらが

2やじいらが

4やじいらが

0ためりつくが

1ためりつくが

2ためりつくが

3ためりつくが

5ためりつくが

0あっちゃあるを

1あっちゃあるを

3あっちゃあるを

5あっちゃあるを

0ぎゅんぱるていは

1ぎゅんぱるていは

3ぎゅんぱるていは

4ぎゅんぱるていは

5ぎゅんぱるていは

0にゅいういきょうを

1にゅいういきょうを

3にゅいういきょうを

5にゅいういきょうを

B. 中国語版

日語的語調

一、東京標準音的語調規則：

1. 每個字母的發音皆為1拍，長短相同。

2. 東京標準音的語調記号只分高音和低音兩種，高低音的轉換在拍与拍之間。

3. 同一單字中，音只能上升一次。而且除了1号音以外，單字的第一音皆為低音。

※日語的高音相當於中文以平靜語調說話時，四声中一聲的音階、日語的低音相當於四声中三聲的音階。

※數字的意思表示：在除了1号音以外，單字的第一音皆為低音的前提下，音要高到第幾個音後下降。0号音則表示音要高到助詞不下降。

假設有一個如下五個字母的單字，用此單字加上助詞“が”為例：

0 かきくけこが

1 かきくけこが

2 かきくけこが

3 かきくけこが

4 かきくけこが

5 かきくけこが

※在五個字的單字時、0号音和5号音的不同在於5号音後接的助詞音要下降，而0号音則不用。

同理，二個字母的單字時，0号音和2号音的不同在於2号音後接的助詞音要下降，而0号音不用。

二、熟悉語調規則的練習（一）

| | | | | |
|----------|----------|---------|---------|---------|
| 0 あかきたなが | 0 はまやらわが | 0 あいかいが | 0 いいきいが | 0 えんけんが |
| 1 あかきたなが | 1 はまやらわが | 1 あいかいが | 1 いいきいが | 1 えんけんが |
| 2 あかきたなが | 2 はまやらわが | 2 あきかが | 2 いしきいが | 2 えせけんが |
| 3 あかきたなが | 3 はまやらわが | 3 あいかいが | 3 いいきいが | 3 えんけんが |
| 4 あかきたなが | 4 はまやらわが | | | |
| 5 あかきたなが | 5 はまやらわが | | | |

三、清音

| | | | | |
|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1 あお (青) | 2 いえ (家) | 0 うえ (上) | 1 え (絵) | 0 おか (丘) |
| 0 かき (柿) | 1 あき (秋) | 0 きく (菊) | 0 け (毛) | 1 こえ (声) |
| 0 さけ (酒) | 2 あし (足) | 0 いす (椅子) | 1 あせ (汗) | 1 きそ (基礎) |
| 0 たけ (竹) | 0 くち (口) | 0 つくえ (机) | 1 て (手) | 2 おと (音) |
| 2 なつ (夏) | 2 にく (肉) | 2 いぬ (犬) | 1 ねこ (猫) | 2 つの (角) |
| 2 はな (花) | 1 ひふ (皮膚) | 1 ふね (船) | 0 へそ (臍) | 1 ほほ (頬) |
| 2 まめ (豆) | 2 みみ (耳) | 2 むね (胸) | 1 め (目) | 0 もも (桃) |
| 2 やま (山) | | 2 ふゆ (冬) | | 0 よこ (横) |
| 2 はら (腹) | 0 とり (鳥) | 1 はる (春) | 2 きれ (布) | 2 いろ (色) |
| 2 かわ (川) | | | | |

四、濁音、半濁音

| | | | | |
|-------------|------------|-------------|-------------|------------|
| 0 がくれき (学歴) | 1 ぎん (銀) | 1 ぐんたい (軍隊) | 1 げんかん (玄関) | 1 ごえん (五円) |
| 1 ざいさん (財産) | 0 じかん (時間) | 1 ちず (地図) | 0 かぜ (風) | 1 かぞく (家族) |
| 0 だいがく (大学) | 0 はなぢ (鼻血) | 2 こづつみ (小包) | 0 でんわ (電話) | 1 まど (窓) |
| 0 ばあい (場合) | 1 びん (瓶) | 1 ぶんか (文化) | 0 とくべつ (特別) | 2 おぼん (お盆) |
| 0 ぱちんこ | 0 ぴかぴか | 1 ぷりぷり | 0 ぺこぺこ | 1 ぼかぼか |

五、長音：原音拉長至2拍

| | | | | | | |
|--------|----------------|----------------|----------------|--------------|----------------|------------|
| あ段+あ | 2 おかあさん (お母さん) | 2 おばあさん | | | | |
| い段+い | 0 きいろ (黄色) | 2 おじいさん | 2 おにいさん (お兄さん) | 3 ちいさい (小さい) | | |
| う段+う | 0 ゆうびん (郵便) | 1 ふうふ (夫婦) | 0 すうじ (数字) | 0 くうこう (空港) | 1 くうき (空気) | 1 つうか (通貨) |
| え段+い/え | 0 とけい (時計) | 3 せんせい (先生) | 0 がくせい (学生) | 0 へいわ (平和) | 2 おねえさん (お姉さん) | |
| お段+う/お | 0 こうえん (公園) | 2 おとうさん (お父さん) | 0 ぎんこう (銀行) | 0 こおり (氷) | 3 おおきい (大きい) | 0 とおい (遠い) |

六、拗音：い段音+やゆよ的音在同1拍

| | | |
|-------------|--------------|------------|
| 0 きやくま (客間) | 0 ぎゅうにく (牛肉) | 1 きょう (今日) |
|-------------|--------------|------------|

| | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 0しゃしん (写真) | 1じゅぎょう (授業) | 0しょうめいしょ (証明書) |
| 0ちやわん (茶碗) | 0ちゅうしゃ (注射) | 0ちょきん (貯金) |
| 1にやあにやあ | 0にゅうがく (入学) | 1にょうぼう (女房) |
| 0ひやくえん (百円) | 1ひゅうひゅう | 0びょういん (病院) |
| 2みやく (脈) | 0りゅうこう (流行) | 0りょこう (旅行) |

七、促音：停頓1拍不発音，用小的つ表示

| | | | |
|-----------------------|-------------------------|------------|-----------|
| 0あさり→3あっさり | 0いっつう (胃痛) →0いっつう (一通) | | |
| 2おと (音) →0おっと (夫) | 1かこ (過去) →1かっこ (括弧) | | |
| 2さか (坂) →0さっか (作家) | 0じしゅう (自習) →0じっしゅう (実習) | | |
| 1せけん (世間) →0せっけん (石鹸) | 1そと (外) →3そっと | | |
| 0はけん (派遣) →0はっけん (発見) | 0もと (元) →1もっと | | |
| 0きっさてん (喫茶店) | 0きって (切手) | 0けっせき (欠席) | 0ざっし (雑誌) |
| 0につき (日記) | 0ばっきん (罰金) | 0ぶっか (物価) | 3ゆっくり |
| 0いっぱい (一杯) | 1いっぶん (一分) | 1いっぽん (一本) | |

八、熟悉語調規則的練習 (二)

※注意：語調記号中高低音の轉換在拍与拍之間，而非在1拍之中。故若感覺有類似中文二声和四声的上昇或下降的音調時，注意那是跨拍的上昇或下降調，非在1拍之中。

| | | | | | |
|---------|----------|-----------|------------|--------|--------|
| みゃん | みゃん | みゃん | みゃん | 0ばであんは | 0やじいらが |
| りゅう | りゅう | りゅう | りゅう | 1ばであんは | 1やじいらが |
| | | | | 2ばであんは | 2やじいらが |
| | | | | 3ばであんは | 4やじいらが |
| 0ためりつくが | 0あっちゃあるを | 0ぎゅんぱるていは | 0にゅいういきょうを | | |
| 1ためりつくが | 1あっちゃあるを | 1ぎゅんぱるていは | 1にゅいういきょうを | | |
| 2ためりつくが | 3あっちゃあるを | 3ぎゅんぱるていは | 3にゅいういきょうを | | |
| 3ためりつくが | 5あっちゃあるを | 4ぎゅんぱるていは | 5にゅいういきょうを | | |
| 5ためりつくが | | 5ぎゅんぱるていは | | | |

資料8 アクセント指導法の効果テストの内容

テストの仕方：

三回連続に問題を聞かせた後、十分な時間をおいて、また同じ問題をもう一回聞かせる。そして、2秒ぐらいの時間をおいて、次の問題を聞かせる。例えば、アイデア、アイデア、アイデア、(pause 回答時間)、アイデア、(2秒)、かんする、かんする、かんする、(pause 回答時間)、かんする、(2秒)、……。

テストの内容：

※ 番号はアクセント記号です。参考のため、その単語の漢字を（ ）の中に入れてある。

一回目のテスト (ヒアリングテスト)

3 あいそう (愛想) 1 あさばん (朝晩) 3 いじわる (意地悪) 3 うなづく (頷く)
0 えいきゅう (永久) 2 おだやか (穏やか) 1 キャンデー 3 けんとう (見当) 1 サイレン
0 したまち (下町) 3 じゅうじろ (十字路) 3 すいとる (吸い取る) 2 てのひら (掌)
2 にるいしゅ (二墨手) 2 ふだんぎ (普段着) 1 マフラー 0 よつかど (四つ角)
0 れんごう (連合)

二回目のテスト (ヒアリングテスト)

1 アイデア 3 かんする (関する) 2 じょきょうじゅ (助教授) 3 こいなか (恋仲)
0 ちくせき (蓄積) 3 とけこむ (溶け込む) 0 なんべい (南米) 1 びんぼう (貧乏)
0 はつびょう (発病) 2 ぶきよう (不器用) 1 ポスター 3 マイカー 2 ぶさいく (不細工)
3 みおろす (見下ろす) 2 やじるし (矢印) 0 ゆうずう (融通) 3 ようけん (用件)
1 わがくに (我が国)

三回目のテスト (リーディングテスト)

0 うでまえ (腕前) 2 きくばり (気配り) 0 おちつき (落ち着き) 3 ぞんずる (存ずる)
1 ちゅうせい (中世) 3 ついやす (費やす) 2 なこうど (仲人) 3 つらぬく (貫く)
1 ニュアンス 3 ないめん (内面) 2 ひがいしゃ (被害者) 3 のみこむ (飲み込む)
1 ふじゅう (不自由) 0 へんけん (偏見) 1 ボクサー 0 めいちゅう (命中)
3 れいてん (零点) 2 わりざん (割り算)

アクセント指導法の効果テスト

(学生用のテスト用紙)

一回目のテスト

姓名： _____ 性別：男・女 年齢：10 幾歳・20 幾歳・30 幾歳・40 幾歳・
50 幾歳・60 歳以上

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. あいそう | 2. あさぼん | 3. いじわる |
| 4. うなずく | 5. えいきゅう | 6. おだやか |
| 7. きゃんでい | 8. けんとう | 9. さいれん |
| 10. したまち | 11. じゅうじろ | 12. すいとる |
| 13. てのひら | 14. にるいしゅ | 15. ふだんぎ |
| 16. まふらあ | 17. よつかど | 18. れんごう |

二回目のテスト

姓名： _____ 性別：男・女 年齢：10 幾歳・20 幾歳・30 幾歳・40 幾歳・
50 幾歳・60 歳以上

- | | | |
|----------|----------|------------|
| 1. あいであ | 2. かんする | 3. じょきょうじゅ |
| 4. こいなか | 5. ちくせき | 6. とけこむ |
| 7. なんべい | 8. びんぼう | 9. はつびょう |
| 10. ぶきよう | 11. ぽすたあ | 12. まいかあ |
| 13. ぶさいく | 14. みおろす | 15. やじるし |
| 16. ゆうずう | 17. ようけん | 18. わがくに |

三回目のテスト

請照下面的語調記号來唸。正式錄音前、請先說自己的姓名。

※0号音用“0”、1号音用“①”、2号音用“②”、3号音用“③”表示。

※低音底下画線、高音用不画線來表示。

- | | | |
|------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|
| 1. 0 <u>う</u> でまえ | 2. ② <u>きく</u> ば <u>り</u> | 3. 0 <u>おち</u> つき |
| 4. ③ <u>ぞん</u> ず <u>る</u> | 5. ① <u>ちゅ</u> う <u>せい</u> | 6. ③ <u>つ</u> いや <u>す</u> |
| 7. ② <u>な</u> こ <u>う</u> ど | 8. ③ <u>つ</u> らぬ <u>く</u> | 9. ①に <u>ゆ</u> あ <u>ん</u> す |
| 10. ③ <u>な</u> い <u>めん</u> | 11. ② <u>ひ</u> が <u>い</u> し <u>ゃ</u> | 12. ③ <u>の</u> み <u>こ</u> む |
| 13. ① <u>ふ</u> じ <u>ゅう</u> | 14. 0 <u>へ</u> ん <u>けん</u> | 15. ① <u>ぼ</u> く <u>さ</u> あ |
| 16. 0 <u>め</u> い <u>ちゅ</u> う | 17. ③ <u>れ</u> いて <u>ん</u> | 18. ② <u>わ</u> り <u>ざ</u> ん |

日語的語調

一、東京標準音的語調規則：

1. 每個字母的發音皆為1拍，長短相同。
2. 東京標準音的語調記号只分高音和低音兩種，高低音的轉換在拍与拍之間。
3. 日語的高音相當於中文以平靜語調快速說話時，四声中一声的音階、日語的低音相當於四声中三声的音階，但注意不要用鎖骨附近的氣管共鳴。
4. 同一單字中，音只能上升一次。而且除了1号音以外，單字的第一音皆為低音。
5. 日語不論是單字，文節，還是句子，整體音調呈“へ”字形，聲音音量前大後小，再長的單字，發音也一氣喝成不能中斷。

假設有一個如下五個字母的單字，用此單字加上助詞“が”為例：

※数字的意思表示：在除了1号音以外，單字的第一音皆為低音的前提下，音要高到第幾個音後下降。0号音則表示音要高到助詞不下降。

- 0 かきくけこが
- 1 かきくけこが
- 2 かきくけこが
- 3 かきくけこが
- 4 かきくけこが
- 5 かきくけこが

※在五個字的單字時、0号音和5号音的不同在於5号音後接的助詞音要下降，而0号音則不用。同理，二個字母的單字時，0号音和2号音的不同在於2号音後接的助詞音要下降，而0号音不用。

二、熟悉語調規則的練習（一）

- | | | | | |
|----------|----------|---------|---------|---------|
| 0 あかきたなが | 0 はまやらわが | 0 あいかいが | 0 いいきいが | 0 えんけんが |
| 1 あかきたなが | 1 はまやらわが | 1 あいかいが | 1 いいきいが | 1 えんけんが |
| 2 あかきたなが | 2 はまやらわが | 2 あきかが | 2 いしきいが | 2 えせけんが |
| 3 あかきたなが | 3 はまやらわが | 3 あいかいが | 3 いいきいが | 3 えんけんが |
| 4 あかきたなが | 4 はまやらわが | | | |
| 5 あかきたなが | 5 はまやらわが | | | |

三、清音

- | | | | | |
|---------|----------|----------|---------|----------|
| 1 あお（青） | 2 いえ（家） | 0 うえ（上） | 1 え（絵） | 0 おか（丘） |
| 0 かき（柿） | 1 あき（秋） | 0 きく（菊） | 0 け（毛） | 1 こえ（声） |
| 0 さけ（酒） | 2 あし（足） | 0 いす（椅子） | 1 あせ（汗） | 1 きそ（基礎） |
| 0 たけ（竹） | 0 くち（口） | 0 つくえ（机） | 1 て（手） | 2 おと（音） |
| 2 なつ（夏） | 2 にく（肉） | 2 いぬ（犬） | 1 ねこ（猫） | 2 つの（角） |
| 2 はな（花） | 1 ひふ（皮膚） | 1 ふね（船） | 0 へそ（臍） | 1 ほほ（頬） |

八、熟悉語調規則的練習 (二)

※注意：語調記号中高低音的轉換在拍与拍之間，而非在1拍之中。故若感覺有類似中文二声和四声的上昇或下降的音調時，注意那是跨拍的上昇或下降調，非在1拍之中。

補充說明：

1. 日語的跨拍上昇音節有三種主要的音高曲線“—”平坦型、“∩”拋昇型、“/”斜昇型。讀單字時，無声子音 (p、s、h、t、k) 起頭的跨拍上昇音多用“—”“∩”平坦型，有声音 (母音、n、m、y、r、w) 起頭的跨拍上昇音多用“∩”拋昇型，讀句子時，注意要用“へ”字形的句調來念。日常會話時，不強調時多用“—”平坦型，中程度強調時多用“∩”拋昇型，高程度強調時多用“/”斜昇型，但音高曲線並非絕對因素，聲音加高程度才是有無強調的第一要素。
2. 日語的跨拍下降音節多呈“∪”拋降型的音高曲線。

みゃん みゃん (∩) みゃん みゃん (∩) ちい ちい (—, ∩) ちい ちい (∩)

りゅう りゅう (∩) りゅう りゅう (∩) かん かん (—, ∩) かん かん (∩)

| | | |
|--------|--------|----------|
| 0ばであんは | 0やじいらが | 0にゆいきょうを |
| 1ばであんは | 1やじいらが | 1にゆいきょうを |
| 2ばであんは | 2やじいらが | 3にゆいきょうを |
| 3ばであんは | 4やじいらが | 5にゆいきょうを |

| | | | | |
|-------------------|------------|--------------|------------|-----------------|
| 3つああきやく (ツアー客) ああ | 0ふあん (不安) | あん | 0ばあい (場合) | あい |
| 3ああもんど (アーモンド) ああ | 0あんぜん (安全) | あん | 3あいそう (愛想) | あい |
| 1つああ (ツアー) | ああ | 1どりあん (ドリアン) | あん | 2ぼせいあい (母性愛) あい |
| 1ああと (アート) | ああ | 1あんこ | あん | 1あい (愛) あい |

| | | | |
|--------------|-----|----------------|-----|
| 0こうすい (香水) | すい | 0よきん (預金) | きん |
| 0すいせい (彗星) | すい | 0きんきゅう (緊急) | きん |
| 2ちかすい (地下水) | すい | 1ききん (基金) | きん |
| 2やすい (安い) | すい | 1きんか (金貨) | きん |
| 0らんおう (卵黄) | おう | 0えんげい (園芸) | げい |
| 0おうさま (王様) | おう | 0げいじゅつ (芸術) | げい |
| 2ふそうおう (不相応) | おう | 3しょくにんげい (職人芸) | げい |
| 2じょおう (女王) | おう | 1げい (芸) | げい |
| 0いちりゅう (一流) | りゅう | 5どんちゃんさわぎ (騒ぎ) | ちゃん |
| 0りゅうこう (流行) | りゅう | 0ちゃんと | ちゃん |
| 1ふうりゅう (風流) | りゅう | 1あかちゃん (赤ちゃん) | ちゃん |
| 1りゅうざん (流産) | りゅう | 1ちゃんす (チャンス) | ちゃん |

0 ためりつくが
1 ためりつくが
2 ためりつくが
3 ためりつくが
5 ためりつくが

0 あっちやあるを
1 あっちやあるを
3 あっちやあるを
5 あっちやあるを

0 きゅんぱるていは
1 きゅんぱるていは
3 きゅんぱるていは
4 きゅんぱるていは
5 きゅんぱるていは